

國東瀨波郡の東北部。中田町の南に接し東は射水郡に界す。庄川の一支流南北に貫流し、村内低き丘陵をなし西に傾斜して瀨波平野に續く。農業を主産業とし米を産す。副業として養蠶行はる。この地は和名抄、瀨波郡小野郷の内なるべく、中世は中田町・般若村・北般若村・南般若村・東般若村・梅檀野村・梅檀山村・柳瀬村及び大里村と共に般若野庄に屬す。天文以後は梅檀野と稱せり。般若野庄名は早く東鑑にも見え、承久の亂に北條朝時が兵を越後に集め、上京の途、此所に陣せしことあり。

飯能町 埼玉縣武蔵國入間郡の西部。名栗川に沿ふ。大部分山地にて北部に多峰主山(二七一米)あり。南境もまた約二〇〇米の山地にて南北より町内に傾斜し、町の中央はその都合にて名栗川東流す。東部に至りて川沿ひに稍平地開け、主要聚落はこの部分に發達す。農業行はれて米・麥を産するも、主なる産業は養蠶・織物業にして、繭及び絹織物・綿織物の産多し。縣道は町の東部より四方に通じ、社線武蔵野鐵道は東部を北走し、飯能驛(大正四年設置)・天覽山驛(昭和六年設置)を置く。また東南隣加治村に省線八高線の東飯能驛あり。飯能は一に列乃に作り、武蔵七黨の丹黨に列乃氏あり、同氏は高麗經家の第三子に出で此地に住せり。大字中山は丹黨中山氏の居住せし所にして智都寺はその氏寺なり。

なり。初め北條氏に仕へ、子孫徳川氏に仕へ、信吉の時水戸の藩附家老となり明治に至り。幕末の勤王家、小川香魚(贈從五位)は本町の人。明治十六年、明治天皇、近衛諸兵衛期小澤習天覽の爲め、能仁寺裏山に御野立あらせらる。(天覽山)本町にあり。海拔一九五米、松・杉・檜などの樹木鬱蒼として茂り、登路には鏡岩・獅子岩等の奇石あり、十六羅漢の石像を安置す。頂上に登れば背後に秩父の連山を控へ、前面は平野の眺望廣し。もと羅漢山と稱せしが、明治天皇特別演習を觀覽し給ひてより天覽山と改む。頂上にその記念碑あり。中腹の臺地には胸繫の松、手植の金松等あり。

伴波(國) 朝鮮國の古地名。書記羅體天皇の七年紀にその名見ゆ。蓋し任那の地にして、いま其地は慶尚南道柳津江の上流の左岸、百濟の國に接境せる地を稱せしなるべし。

番場 息郷村(滋賀縣)半原 愛川村(神奈川縣)板富面 朝鮮江原道原州郡の中央より稍南部、郡邑原州の南東に隣接す。東部に車嶺山脈に屬する南嶺(一一八二米)等が一大障壁を成して相連り、南境には白雲山(一〇八七米)聳えて漸次西北方に低下し、西北部は謂ゆる原州平野の一部を成し、地味肥沃にして農業行はる。産物には米・大豆・大小豆・蕎麥・明神・蕎麥等あり。道路は原州より

東南方堤川に通ずる三等道路面の略中部を斜走し、また原州より忠州への二等道路西北部を通じ乗合自動車の便あれども東南一帯は山岳地帯にして險峻にして交通不便を免がれず。聚落密度は極めて疎にして西北部低地に僅に散在するに過ぎず。堤川街道沿ひの丹邱里は面邑にしてまた文廟あり。

半邊川 朝鮮慶尙北道東北部を流るる河。洛東江支流。上流に二あり、一は英陽郡の北境に近き日月山(一一九米)に發源して南流して英陽・眞寶を過ぎ、二は青松郡の東南隅に發し北流して青松邑を過ぎ、此等反對の方向に流れる二川は青松・安東兩郡界にて合流、次で西方に蛇曲流し左より吉安川を入れ安東邑の南部に於て洛東江に合す。大白山脈南縁の山地を開析するを以て沿岸平地に乏しく、上流に西砵砵(七寶嶺)・金・高嶺等の嶺産ある外、著しき地産なし。毎夏雨季には沿岸屢々氾濫し交通の杜絶すること稀ならず。

反浦面 朝鮮忠清南道公州郡の東南部、郡邑公州の東方約一〇軒。東西南の三面は車嶺山脈を以て圍繞し、北部は錦江に臨みて稍廣き低地横はる。即ち東境には兩傘峯(五七四米)・道徳峯(五三三米)等相連り、西境には明徳山(三二七米)・鶴龍山(八二八米)、南境には冠岩山(五六二米)等聳えて南半部は山岳重疊し、殆んど低地無し。村民は農業を主と

し傍ら採薪業に従事し、また日傭稼者多し。産物は米・大豆・棉花・薪炭等なり。道路は公州・大田府間を結ぶ二等道路面の中部を横斷し定期乗合自動車の便あり。また北部は錦江に依る舟楫の便ありて交通・運輸一般に便なり。聚落は北部及び中部に多く分布す。鶴龍山の麓に古刹東鶴寺あり。

范浦 朝鮮咸鏡南道永興郡の東部にあり。仁興・鎮坪の兩面に跨り、周囲四・五軒、面積約一二〇ヘクタール。餘水は東南流して永興潭に注ぐ。總督府鐵道咸鏡本線は湖の北岸(仁興面内)を通り湖畔に范浦驛(昭和十年設置)あり。

坂北(郡) 坂井郡 漢夜月 朝鮮慶尙府鐵道東海中部線の一驛(大正六年設置)。慶尙北道慶山郡安心面にあり。

萬嶺山 朝鮮の中部、車嶺山脈中の山。忠清北道鐵川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

萬嶺庄 臺灣高雄州潮州郡の東北部。東は舊地に接し西北は東港溪上流を隔てて内埔庄・竹田庄と對し、西南は潮州庄・新埤庄に隣接す。地勢一般に平坦なれども東北方面は稍高燥にして灌溉の便を缺く。西南方面は土地肥沃、水利便にて米・芭蕉の産多し。領臺前本庄は鳳山縣の管轄に屬し港東上里下にあ

に際し、本堡中の七庄を採りて一庄を建て、番路庄とし、臺南州嘉義郡の管轄下に屬せしめたり。(紫雲寺) 半天岩山脈に在り。觀音佛を祀る。附近の眺望絶佳なり。

半路竹 路竹庄(臺灣) 半路店 集々庄(臺灣)

阪和電氣鐵道 社線。大阪

り。往昔はマカツタオ部族の居住する地なりしが、康熙中葉以後萬應州の粵人相次で渡來し、謂ゆる六堆部落の先鋒堆として發展せり。領臺後臺南縣・鳳山縣・阿緞廳等に屬せしが大正九年制度改正と共に高雄州潮州郡の管轄に編入され以て今日に及ぶ。産業は農業を宗とし米(一、二期の作付面積三千甲)七十萬圓、甘蔗三十萬圓、甘藷七萬圓、蔬菜類五萬圓、芭蕉十二萬圓、其他果實等、林産は竹材・薪等三萬圓、畜産は牛二十萬圓、豚十四萬圓、其他家禽類等、工産は精米・瓦・煉瓦等九萬圓なり。(萬金天主堂) 赤山字萬金にあり。咸豐九年(一八五九年)マニラより派遣されたる天主教ドミニコ派の宣教師サイナス(Fernando Sina)の開基(一八六二)せし地に係り、同治八年(一八六九)に至りコロメル師(Columer)によりて現在の會堂建設せられたり。爾來布教に従事せしを以て、附近熟番間に信徒極めて多し。

盤龍山 關東州旅

隨市の東北方の山。日露役の戦蹟として知らる。これに東堡壘・西堡壘・北堡壘あり、東堡壘は、明治三十七年八月二十一日我が第九師團及び後備歩兵第四旅團の一部隊を以てこれを攻撃し、翌二十二日占領せし處にて、西堡壘の戦ともにも、二百三高地戦に次ぐ激戦地なりき。西堡壘は同じく八月二十二日我が第九旅團の一部がこれを攻撃して同日占領し、北堡

壘は同じく八月二十二日我が第九旅團の一部がこれを攻撃して同日占領し、北堡

ハンリ——ハンワ

疊は鉢泰山と呼ばれ、饅頭形の山の中腹に懸崖があるため斯く呼ばれしものにて明治三十七年十月十六日第九師團の一部隊を以て攻撃し、二十六日にこれを占領せり。

番路庄 臺灣臺南州嘉義郡の東部山地に位置す。東部は臺南州下の蕃地にして、中央山脈の餘脈南北に連互し北は竹崎庄に、西は嘉義市、西南は中埔庄に、南は大埔庄に夫々隣接す。管内は柳山山地にして高山屹立し、平地は僅に管内を東より來りて西に中埔庄との境を流る、八掌溪(八掌溪)の沿邊に是を見るのみ。産業の主なるものは農業・畜産業・工業にして、農業は其の大宗を占め、米・甘蔗・甘藷を主産し、また鳳梨は此地の特産なり。工業に於ては、管内に豊富なる竹を利用する竹紙製造盛んなり。交通は地勢上、西部嘉義市に接する地方に發達するのみにして、概して不便なるを免れず。本庄名なる番路は、もと番仔路と稱し、往時此地方が阿里山蕃に通ずる要路に當りしを以て名付けしところなり。大字觸口の地は乾隆末年、漳州人の手により拓かれ、公田の地には蕃人通事の草寮を營む者ありしが、概して此地方は蕃人の外追と匪徒の内侵とにより永住の移民少なく、道光年間に入りて漸く永住する者出でたり。我が領臺後、清朝の遺制を襲用して本庄一帯の地は嘉義東堡に屬せしめしが、大正九年十月地方制度改正

に際し、本堡中の七庄を採りて一庄を建て、番路庄とし、臺南州嘉義郡の管轄下に屬せしめたり。(紫雲寺) 半天岩山脈に在り。觀音佛を祀る。附近の眺望絶佳なり。

半路竹 路竹庄(臺灣) 半路店 集々庄(臺灣)

阪和電氣鐵道 社線。大阪

に際し、本堡中の七庄を採りて一庄を建て、番路庄とし、臺南州嘉義郡の管轄下に屬せしめたり。(紫雲寺) 半天岩山脈に在り。觀音佛を祀る。附近の眺望絶佳なり。

市より和歌山市に至るを以て此名あり。大阪市天王寺區堀越町の省線關西本線天王寺驛に隣接する阪和天王寺驛より南西に向ひ和歌山市吉田の阪和東和歌山驛に至る六一・二軒を本線とし、大阪府泉北郡鳳町の鳳驛より堺市にある阪和濱寺驛まで一・六軒の支線あり。軌間一・〇六七米にて電氣・蒸氣動力運轉、省線とは連帶運輸をなす。この鐵道は社線南海鐵道と同様に大阪方面より和歌山並に社線の紀勢西線方面に行くに便宜にて、南海鐵道より一層山側を通る。紀州方面の交通が開發されるに従ひ、大阪地方より白濱方面及び勝浦地方に行くには南海鐵道と共に、今後この鐵道を利用する人も増加するものと思はる。現在にても天王寺・東和歌山間には數多の急行電車が運轉し、約一時間にて到着す。沿線の仁徳御陵前驛の西方一〇〇米ばかりには、仁徳天皇御陵があり、また濱寺は海水浴場として名高し。

ヒ

火國 書紀・神代紀の伊弉諾・伊弉冉の二尊の生みませる大八洲國の中に筑紫國あり。四面ありてその一を火の國といふ。火の國と稱する根拠につきては、景行天皇紀に、天皇葦北より八代海御渡航の時暗夜に火光を認めたまひしより起るといひ、或は肥前風土記により崇神天皇の朝八代郡白髮山に火空より降りて山を燒きしにより火國と名づくべしと仰せられしより起るといふも何れも火國の根本の解釋とすべからず。火國の名稱の起原は或は火山より来るにあらざるか。火國の地には古きは多良岳をばじめ温泉(雲仙)、阿蘇の如き現に活動せる火山あり、火山の國と云ふを妨げず。火國は國造本紀によれば崇神天皇朝に火國造を定められしが、大化改新の際これが前後の二國に分たれ、景行紀の火國の地は肥後國となりしものなるべし。

ヒ

日島

日島村(長崎縣)

ヒ

皮島

皮島(朝鮮)の別稱。

ヒ

洞沼

茨城縣水戸市の南約八軒、東茨城郡と鹿島郡に跨る。水面は東西に長く面積は二・七五〇方軒、湖岸線延長は二四・八〇軒を算し湖岸に砂濱或は蘆芽に掩はれたる部分多し。北部の下水

島は彎曲せる橋立狀の砂嘴が東方に延び米津鼻と稱し松樹枝を交へ此附近最も風景に勝る。湖の深度は中央部に於て東西に長き三・三米圍に圍まれたる區域ありて、その地點が最深點なるもの如く、また米津鼻より北に折れたる部分は概して淺きも其北端なる排水口より東湖岸に沿ひて稍南方に向ひ溝狀をなせる深き區域あり。注入河は西端に洞沼川ありて土砂の運搬多きため著しく此附近を埋没し大なる扇狀地を形成す。其他南北兩岸に細流の注入するものあり。排水川は北端にありて注入河と同じく洞沼川と稱し、曲折して磯濱町の西方より更に北東に流れて同町の北端にて那珂川に注ぎ直ちに海に入る。此川は嘗て其途中島田部落附近より東に引水して磯濱・大貫兩町を貫き海に注ぐ木御川なるものを作りしが、近年に至り堤塘を築きて閉塞し今は立派なる溝として存在す。此排水川は満潮時には海水の逆流するを以て洞沼は鹹水湖となり鹹水魚の漁獲多く曾ては鱈の大群が入り來りしことありといふ。而して海水の逆流は湖の水温にも變化を與へ大正十五年五月二十六日の觀測に依れば表面に低く、三米の湖底にて却つて高水温を見たり。これは鹽分の多き海水が比重の關係上底部を潜流せしことを物語るものなり。此時の水色はワレーの四五號位にて著しく濁りたりし、これは此前後日來降雨多し濁水を注入せしと、觀

測當時波浪高く、湖底まで攪拌せしとに因るものなり。

ヒ

樋島

朝鮮西部海岸、大同江口に位する島。黃海道殷栗郡二道面の北端コイス角と相距ること一軒なるも、行政上は平安南道龍岡郡新寧面に屬す。島とコイス角との間は避島水道と稱し、水深く鎮南浦港に入る汽船の常航路をなす。水道に臨み避島燈臺(明治四十一年設置)あり、燈質は四綠色にして毎三秒に一閃光を發す、光達距離九哩。

ヒ

ヒ

社 臺灣新竹州竹東郡にある蕃社。上坪溪の右岸支流ヒライ溪右岸尖筆山の南面に位し、約二百年前に形成されたる社にして、サイセツト族の上坪前山蕃に屬する高砂族の部落。

ヒ

飛鴉面

朝鮮全羅南道光山郡の北部に位置し、光州府の西北約一〇軒。光州平野の一部を成し土地低平にして地味肥え、榮山江による灌溉の便ありて重要農業地帯をなす。産物には米・大麥・大豆・小豆・棉花・麻等あり、殊に米は品質優良にして光州米として内地に移出せらる。其他燧成金・雲南金銀等ありて金・銀又は砂金を出す。總督府鐵道慶全西部線南部を通じて極樂江驛(大正十一年設置)あり、道路は東部を京城・木浦間一等道路貫し、また面政の中心飛鴉里を核として湖南線松行里驛・林谷驛及び潭陽邑に各三等道路を通じ、何れも道路に

して交通・運輸極めて便なり。聚落は普遍的に分布し、飛鴉里に市場あり。

ヒ

比安面

朝鮮慶尙北道義城郡の中西部、郡邑義城の西方約一五軒。一般に花崗岩の露巒による老年期の丘陵地帯を成し、渭川流域を除きては平地少きも、丘陵面及び傾斜面はよく開墾せらる。住民の多數は農業に従事し、副業として養蠶・養豚をなす。産物の主なるものは大豆・粟にして米及び大麥をも多少産す。其他棉花・煙草・莞草等の特用作物あり。道路は面邑比安を中心として四通八達し道路網極めて密なり。殊に東方義城、南方軍威、西方洛東等へは三等道路により連絡し交通比較的便なり。聚落は普遍的に分布し、渭川左岸に比安あり、大正三年まで比安郡廳ありし地にて、陰曆二・七の日に開く市場は附近稀に見る活況を呈す。

ヒ

肥伊

【肥伊】大和國(奈良縣)の古地名。日本後紀・延暦十八年に宇陀郡肥伊收を停むと見ゆ。その地いま宇陀郡内牧村大字檜收の地なるべし。

ヒ

肥伊

【肥伊】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に八代郡肥伊郷あり。その地今の八代郡野津村宮原町・有佐村・種山村等に當る。

ヒ

毗伊

筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡毗伊郷あり、その地今の福岡市の一部に當る。

ヒイ 斐伊

【斐伊川】島根縣の東北部、仁多・飯石・大原の三郡の水を集めて宍道湖の西部湖頭に注ぐ川。仁多郡の東部鳥取縣境の船通山(一四三米)の西側斜面の水を集めて横田盆地に入り、南方三國山の北側に發源する室原川を合す。これより西方に嵌入曲流して同郡三成村の中間盆地に入り、左岸に馬木川を入れて西北に流る。温泉村に來りて阿井川及び一小流を左岸に入れ、これより流路を轉じて北流し、大原・飯石二郡の境上を走り、左岸に三万屋川、右岸に赤川を入れ、西北に流路を轉じて飯川郡に入り間もなく飯川平野に出づ。ここにて同じく宍道湖に注ぐ新川を分派し、北に向ひ菟集村附近より東流しここに宍道湖を埋積して三洲沖積平地を形成し、宍道湖に入る。流程約七〇軒、流域面積約一五三〇方軒。新川は宍道・今市間の斷崖崖下に沿うて流れ、その北に二十間川・定川等の分流あり。この沖積地には米作の外に、大根・茄子等の蔬菜類、柿・梨・葡萄等の果樹の栽培、養蠶、製糸等の工業も行はる。川島より下流はもと西方杵築海岸に流出せしものなり。新川はその治水のため開鑿せしものにして、勇斷・馬木の巨石堰は河道の變更に備へしものなり。この川はもと日本書紀に飯川、古事記には肥河、風土記は斐伊川に作る。素戔鳴尊が朝鮮

より歸られ島上山に至りたまひしは蓋しこの川を洩りしものなり。

【斐伊村】

島根縣出雲國大原郡の西部。斐伊川東岸に沿ひ、南は木次町、北は加茂町、西は川を隔てて飯石郡三万屋町に圍まる。北部・南部は丘陵をなし、中部に東西に細長く低地開け、西境に沿ひて斐伊川北流す。中央にて對岸より三万屋川合す。米・麥・工業・林産・畜産あり。西北部に縣道通じて加茂町・三万屋町を連絡し中央の谷には省線木次線横走し西部にて南に折れ村内に木次驛(大正五年設置)あり。この地は和名抄、大原郡斐伊郷の地か。出雲風土記には「斐伊郷、屬那家、極速日子命坐此處、故云極、神龜三年改字斐伊」と見ゆ。また出雲風土記に「菟原野、那家正東、即屬那家」とある菟原野は本村の大字里方・山方附近の野を指せるもの如し。もと木次村に屬せしが明治廿四年獨立し、古への郷名に因み、斐伊村と名づく。(斐伊神社)大字里方に鎮座。郷社。祭神、須佐之男神外二柱。社記に須佐之男神命の川上に至り、八俣大蛇を斬り給ひしを、稻田比賣命と共に宮所を覓め給ひし時、此地に假の宮所を造り給ひしを以て、のち二神を此處に奉祀せりといふ。式内小社に列す。例祭、十月十日。

ヒイカワ 樋井川

福岡縣糸島郡にありし村。昭和四年、原村と共に廢し、その區域を福岡市に編入す。

より歸られ島上山に至りたまひしは蓋しこの川を洩りしものなり。

ヒイサキ 比井崎村

和歌山縣紀伊國日高郡の西岸に位する小鎮地。御坊町の西北三軒餘。紀伊水道の東南端に面し、東北方約三軒に由良港あり。全村山地をなし東境に東高坪山(二一八米、西山(三二九米)等聳ゆ。西岸は屈曲に當み西北部に方崎崎、中央に小浦崎・南西部に馳出ノ鼻等ありその間に比井港を抱く。灣心に中磯の島浮ぶ。南西端には三尾村に近く日ノ山(二〇二米)聳りて其先端は日ノ御崎となる。米・繭・柑橘等農産の外に林産・工業・畜産等あれど工業頗著し。中部には比井港より東走する縣道ありて御坊町へバス通ず。大字阿尾に神功皇后御上陸の時鐘を杖に突かせ給ひし所と傳ふる鐘突あり、大字産湯の産湯井は武内宿禰譽田皇子を守り此處にて産湯を上れりといふ。また村内に古墳穴多く、早くより文化の開けし處なるべし。日ノ御崎は日ノ山の謂にて王朝の盛時に烽火を置きし址なりといふ。中世は三尾莊に屬せる地なり。(王子神社)大字比井に鎮座。村社。祭神、天照大神・伊弉冉命外九柱。社寶の銅經筒一口は國寶。

ヒウ 日宇

長崎縣東彼杵郡にありし村。昭和二年佐世保市に編入さる。

ヒウカ 美深町

北海道天鹽國上川支廳中川郡の中部。天鹽川の上流に沿ひ南は智恵文村を経て名寄町に至る。東北はツアツツ山(九〇三米)を以て宗谷・網走兩支廳と界し、北は常盤村に接す。

面積六七・一五五方軒。中央を北に流る天鹽川の溪谷を除けば他は悉く山嶽に占められ、右岸に北見山脈、左岸に天鹽山脈南北に連互し山林繁茂せり。川沿ひに耕地聚落集り農工盛んなり。馬鈴薯・粟粉・大豆・甜菜・亞麻等の産多し。省線宗谷本線及び地方道略ぼ並行し河原低地を通じ美深・紋穂内・恩根内の三驛(共に明治四十四年設置)あり。本村はもと下名寄村と稱し、明治四十年上川郡上名寄村より分離して成れるもの。同四十五年中川村を、大正九年智恵文村を本村より分離し、大正十二年下名寄村を美深町と改稱す。

ヒウシナイ 緋牛内

北海道北見國常呂郡端野村の大字。省線網走本線の緋牛内驛(大正元年設置)を置く。

ヒウチ 燧

【燧】那須火山脈日光火山群の一峰。尾瀬沼の北岸、福島縣南會津郡檜枝岐村に屬す。標高二三四六米。この山の北麓は大杉山(一九二二米)を経て會津駒ヶ岳(二一三二米)に連り、西方は中ノ岳(二〇八五米)・越後駒ヶ岳(二〇〇三米)等利根川水源東岸の山々に續き、また東方は槍高山(一九三二米)・鬼怒沼山(二一四一米)に連り、南麓に尾瀬沼を湛へ、西方に尾瀬ヶ原を擴げ、植物量觀上見るべきもの多し。山は圓錐形をなし山頂は三峰に分れ、東峰に三角點及び小祠あり、この峰を俚人祖・嵩と稱す。南峰に五岩

黒々として舊火口あり。山麓及び山腹は原生林にて掩はれ、一九〇〇米附近より灌木帯をなし、その上部は岳樺・ミヤマハンノキ等多く生育す。山頂附近にはハヒマツ・シヤクナゲ・ツガザクラ・コケモモ・小イハカガミ等の高山植物を見る。山頂なる三峰間の爆裂火口よりは溢流流出し、北西流して只見川に注ぐ。頂上よりは南東方に日光白根山・奥日光の山々を望み、北方は會津駒ヶ岳より遠く磐梯山まで視野に入り、北西方は脚下に只見川の溪谷を見下し、その彼方に平ヶ岳を経て中ノ岳・越後駒ヶ岳・八海山等上越國境の山々を眺め、南西方は尾瀬湖を隔てて至佛山に對し、南方は脚下に尾瀬湖の銀盆を俯瞰す。この山は尾瀬探勝者の好んで登る所にして、登山路は上越線沼田驛より丸沼まで乗合自動車、それより三平峠(最高點一七六二米)を越えて長蔵小屋に至り、小屋より約五科、三時間以内にて登頂す。うち二科、沼尻川筋は平坦なる道なり、それよりナゲカホノ澤に沿ひて登高す。又西方尾瀬ヶ原温泉小屋方面よりは約四時間にて登頂す。冬季登山は長蔵小屋を根拠地として行はれ、山腹の林間に到る處スキーの滑走に適する斜面あり。

【火打岳】 鳥海火山脈の月山火山群の高峰。主峰月山(一九二四米)の北約一三科に當り、山形縣最上郡角川村と東田川郡立谷澤村との境界に跨る。標高約一〇〇〇米、山體火山岩より成る。南西方に虚空蔵岳(一〇九〇米)並發す。
【火打山】 富士火山帯妙高火山群の高峰。新潟縣西頸城郡上早川村と中頸城郡杉野村・關山村との境界に跨る。標高二四六二米。東南に妙高・赤倉山あり、西北には容雅山・不動山、北に空澤山・放山あり。西には焼山・書開山・金山・天狗原山等あり。輝石安山岩より成り、周圍には火山重疊せるを以て圓錐形をなさず。山頂の東北、矢代川の支流には急崖にて界されたる凹地あり、カヌエの如くに見ゆ。その南に高谷池・黒澤池の高原平地あり。山頂の北側にはガレー著しく、登山には危険にして、南の鍋倉谷、東の妙高山、西の焼山より峰傳ひに行くことを得るも、案内者を要す。
【火打山】 陸奥半島の東岸に近く、高知縣高岡郡上ノ加江町と久禮町との境界に跨る山。標高五九一米、山體白堊層より成る。南後に四道峠最高點(三八七米)連る。

【ヒウラ】 日浦村 廣島縣安藝國安佐郡の中部。太田川の右岸に沿ひ、廣島市の北方約六科。丘陵・山地に起る處に起伏し、東境に阿生山(五八六米)聳ゆ。中央は加東郡、東は多紀郡、東北は米上郡とそれぞれ界す。西光寺山(七三三米)東南境に聳え、これより山脈は東北及び西南に連りて東境より南境を限り、南部にてはその山地より山脚西方及び北方へ延びて擴がる。北境には約六〇〇米の山脈東北より西南に連りて村境を劃す。西境に佐治川ありて南流し西部中央に廣き低地を開く。米・麥・繭・果實等の農産の外に畜産・林産・水産及び水産養殖もあり、又工業類著しく木製品・針・刃物等あり、外に凍蕪の特産あり。西部に縣道及び社線播磨鐵道通じて北延驛(大正十三年設置)あり。播磨風土記にその名見え、應神天皇獵し給へりといふ伊夜丘は本村の邊ならんといふも詳かならず。(緯度標)大字上比延字若谷にあり。緯度標と通稱するも、實は緯度交叉標なり。石柵を繞らし、南面に入り口を設く。中央より北に偏して高さ三米餘の石標立ち、その表面即ち南面に東經百三十五度北緯三十五度交叉點海拔六十三米標識と刻まれ、左側面に爲學制頒布五十年記念、右側面に大正十二年十月多可郡教育會建

山間に小盆地あり。北境に沿ひて太田川東南流す。農業を主として産物に米・麥・用材・薪炭材等あり。又蘭草・墨表の特産あり。河谷に沿ひて縣道走り廣島市及び東方可部町にバス通ず。村名はこの地山間にありて日の裏、即ち日照る時の少きに依りかく名付けしものといふ。
【ヒエ】 日枝村 滋賀縣近江國愛知郡の西北部。愛知川村の東北に接し北は犬上郡と界す。全村地形低平にして西境に沿ひ河川西北流す。農業を主とし米・麥・穀肥用作物・繭・桑葉・菜種・桑苗等を産し水産・林野産物もあり。中山道中部を東北より西南に横斷し之と中央にて十字路をなす街道本村を貫く。社線近江鐵道中部を横斷して豊郷驛は東境に接して隣村にあり。この地は和名抄、愛智郡長野郷の内なるべし。大字高野瀬は中世六角氏の將高野瀬氏の居りし處。日枝はもと枝にも作る。(愛知神社)大字吉田に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命外二社。社傳に開化天皇の高惠智王の創祀なりといふ。例祭、四月十六日。(天稚彦神社)大字高瀬に鎮座。郷社。祭神、天稚彦命。延喜式の輕野社に擬せられ、光仁天皇の天應元年の創祀にかかる。例祭、四月十二日。

【ヒエー】 比叡 京都府東山区に當り略南北の方向に長き山脈の稱。東方は琵琶湖に面し、西方は高野川の構造谷を隔てて丹波高原に對し、その南方には京都市街發達す。北部は和邇川を以て比良山脈と界し、南方は大津・山科の丘陵性山地となり、甲賀の地塊に連る。之を全體的に見て一箇の地塊山地なり。即ち東部琵琶湖に面する斜面は複雑なる斷層崖にて、山地より流出する河川は大小の扇狀地を湖畔に發達せしむ。西部の高野川の河谷は略南北の直線的流路を有し、龍華峠を越えて北方は安曇川上流の南北性直線流路に連り、若狭湖沿岸に發達する構造系統と結ばる。なほ高野川南部は京都市の東邊を過ぎ、木津川の中流より奈良盆地の四近に發達する南北性の構造系統に連絡する。この地溝線は京都の地震に關係深く、殊に寛文二年の地震はこの線の活動にて市内の潰家数千戸に達し、伏見城等の崩壊を起せりといふ。貞元元年・文治元年・慶長元年等の地震も同様にこの地溝線の活動と稱せらる。比良山脈とは安曇川によりて分離せらるるが、本質的には同一系統の地塊山地にて、その地質を見れば、古生層とこれを貫く黒雲母花崗岩とより構成せられ、地塊の上部には浸蝕面殘留す。比叡山は山脈の中部に位置し標高八四八米、山頂に延曆寺あり。北方には三石岳(六七六米)・横高山(六九二米)・水井山(七九四米)、南方には大字山(四六六米)・如意ヶ嶽等あり。高野川に沿うては教習街道發達し湖畔には江若鐵道あり、比叡山には東西兩斜面より電

車及びケーブル等設けられ遊覽客の便を圖る。

【比叡山】 ↓京都市(二九五頁)
【比叡山鐵道】 社線鋼索。滋賀縣滋賀郡坂本村の坂本驛より同村の叡山中堂驛に至る二・〇科。所要時間十一分。比叡山登山者に利用さる。昭和二年營業開始。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸せず。

【ヒエー】 美瑛 北海道士狩國上川支廳上川郡の西南部。神樂村を隔てて北に旭川市と對し、南は上富良野村、西は空知支廳、東は十勝支廳と界す。面積六七・八五方科。オプタテツク山(二〇五二米)・十勝岳(二〇七七米)等の群峰東部を歴し、西境また千米に近き諸山連互す。村内概ね山嶽地帯をなすもやや西北に傾く。東部山中に發したる諸川は合して美瑛川となり北流す。流域に平坦地存し、耕地拵けて市街發達す。馬鈴薯・米・除蟲菊・甜菜・大豆・澱粉・煉乳等の産多く、また木材・牛・馬を産す。省線富良野線南北に貫通し、美瑛(大正十五年設置)・美馬牛(明治三十二年設置)の二驛を置く。本村は大雪山國立公園の内なり。

【美瑛岳】 十勝連峰オプタテツク山脈の高峰。北海道十勝支廳新得町と上川支廳美瑛村との境界に跨る山。標高二〇五二米。北境に續く一八八一米峰を美瑛富士といひ、南西段に十勝岳(二〇七七米)連る。これ等の間に縱走路通ず。山頂部に

は爆裂火口噴を有し、裾野を長く曳く。

【ヒエジマ】 稗島 大阪府西成郡にありし村。大正十一年町となり、同十四年大阪府西淀川區に編入す。

【ヒエシヨ】 比延庄村 兵庫縣播磨國多可郡の東南部。佐治川の東岸に沿ひ、川を隔てて西は西脇町にして南は加東郡、東は多紀郡、東北は米上郡とそれぞれ界す。西光寺山(七三三米)東南境に聳え、これより山脈は東北及び西南に連りて東境より南境を限り、南部にてはその山地より山脚西方及び北方へ延びて擴がる。北境には約六〇〇米の山脈東北より西南に連りて村境を劃す。西境に佐治川ありて南流し西部中央に廣き低地を開く。米・麥・繭・果實等の農産の外に畜産・林産・水産及び水産養殖もあり、又工業類著しく木製品・針・刃物等あり、外に凍蕪の特産あり。西部に縣道及び社線播磨鐵道通じて北延驛(大正十三年設置)あり。播磨風土記にその名見え、應神天皇獵し給へりといふ伊夜丘は本村の邊ならんといふも詳かならず。(緯度標)大字上比延字若谷にあり。緯度標と通稱するも、實は緯度交叉標なり。石柵を繞らし、南面に入り口を設く。中央より北に偏して高さ三米餘の石標立ち、その表面即ち南面に東經百三十五度北緯三十五度交叉點海拔六十三米標識と刻まれ、左側面に爲學制頒布五十年記念、右側面に大正十二年十月多可郡教育會建

之、裏面に測量者陸地測量手小野原次郎同大野幸太郎等の文字あり。緯度標の交叉を示せるものは、石標面に存する花崗岩柱の頂部に於ける十字形にして、この石柱の高さ約六〇科あり。石柵内の松・紅葉・木斛等の樹木は御成婚記念に植栽せられしものなり。石柵の外、入口に接近して自ペンキ塗木製の太き方柱の四面に、緯度標東經一三五度北緯三五度交叉點と黒字にて記し、正面に度の字の代りに〇を用ふ。この木柱は旅客の注意を惹くため播磨鐵道會社が大正十四年に建設せしものなり。東經百三十五度の測量は古く行はれ、今明石市の丸山山上に存する子午線通過地標識の示す緯度は誤差ありて同一のものにあらず。

【ヒエズクリ】 稗造村 石川縣能登國羽咋郡の北部。富來町の東北に隣り、北は鳳至郡に接す。鳳至山地の一部にして全村丘陵起伏し、北部に發源せる富來川略中央を西南に流れ、富來町にて日本海に注ぐ。西南部河岸に平地少しあり耕地開く。米を主産物とし、林業・養蠶を副業とす。谷沿に中央を貫通する縣道あり富來町・鳳至郡穴水町間バス往來す。この地は和名抄、羽咋郡荒木郷の内なるべく、もと稗造庄と稱せし地、村名は蓋し庄名の遺稱なるべし。

【ヒエタ】 稗田村 福岡縣豊前國京都市の中部。行橋町の西南部に接しやや南に細長し。南境には二〇〇—二五〇米

程度の丘陵東西に連り、西北部にも小丘陵あれど中部より東北部にかけては平野開け西北部丘陵の麓を繞りて峽川東北流す。米・麥を産す。南部には縣道東西に連りてバスの往來あり。省線田川線津驛へは東方一科餘を距つるのみ。この地は和名抄、京都府東山区の内なるべく、大字津積に御所谷なる古城あり、蓋し續日本紀に見ゆる大宰府所管の鎮城たる京都營地なるべし。京都營地とは景行天皇の行宮とせし所にして、いま石垣・礎石等存せりといふ。馬嶽に馬嶽城址あり、應永年間新田氏の一族此處にあり、三代の間王事に勤めしが後大内・大友・龍造寺諸氏の間に授受され、更に慶長五年細川氏の有に歸し元和年間廢城となる。(佛山堂)大字上稗田にあり。この地の儒者、村上潜藏(贈正五位)佛山と號し、私塾水鏡園を開きし舊蹟なり。學堂環境舊蹟を存するもの多し。(大分八幡神社)大字下稗田に鎮座。郷社。祭神、譽田別命外四柱。應永年中新田義氏馬ヶ嶽の城を築きし際、神託を蒙り、これを勸請すと傳ふ。例祭、五月十一日。

【ヒエタ】 稗田野村 京都府丹波國南桑田郡の西部。龜岡町の西方約一・五科にあり龜岡盆地の西部を占む。北・西南部に約四五〇米たらずの山地嶺り、中央東部に龜岡盆地の西部に屬する平野開け河川東流し吉川村に入りて大堰川支流の大例川に合す。田畑よく拓けて米・麥

の産多く外に林産・工産・畜産・水産・礦産あり。龜岡町と西方兵庫縣多紀郡篠山町とを結ぶ縣道は中央を横斷しバスの便あり。この地は和名抄、桑田郡佐伯郷の内にして大字に佐伯の名を存す。中世以降佐伯郷と稱す。式内藤田野神社あり、村名はこれより起る。大字太田は鎌倉上杉氏の家宰太田氏の出でし處といふ。〔藤田野村葉書石假品〕指定天然記念物。花崗岩と粘板岩が觸接して形成されたるものにして六角狀の三連品をなし、櫻石の名を與へらる。〔藤田野神社〕大字佐伯に鎮座。祭神、保食命外二柱。元明天皇和銅二年の創建に係る。式内小社に列し、後堀川天皇寛喜二年藤原貞家を勅使として菊御紋・大松明・辻榮龍を許さる。例祭、十月廿三日。〔神藏寺〕臨濟宗妙心寺派。本村佐伯院の芝にあり。本尊薬師如来坐像は國寶にして藤原末期の木像なり。

ヒエツ 日吉津村

鳥取縣西伯郡の北部海岸。日野川吐口右岸に位し美保灣に面す。南は巖村、東は大和村に接す。面積四・四七方軒。日野川吐口沖積平野上に位し全村地勢平坦、且つ水利に富み農業・養蠶盛んなり。米・繭の産大なり。海岸は出入に乏しく水産振はず。富吉・今吉の二字は共に農業聚落なり。東方省線山陰本線松江驛・西方米子驛にそれぞれバス通す。古くは神津(陰部太平記)にも作る。本村出身の歴史的人物に須山萬

あり、勤王の志を懐き京都に至りて長藩士と交はる。元治元年傳馬町の獄に斬らる。年二十三、贈正五位。〔蚊屋島神社〕大字日吉津に鎮座。祭神、天照皇大神・天照高比賣神。古來蚊屋莊の大社にして武門武將の崇敬厚かりき。例祭、四月十一日。

ヒエツキ 稗貫郡

岩手縣陸中國の中部。北は岩手郡・紫波郡、東北端は下閉伊郡、東南は上閉伊郡、南及び西は和賀郡に隣接す。面積六八八・二四方軒。地形東西に長く、東部は北上山地に屬し、西部は奥羽山脈の東斜面、中西部は盛岡斷層盆地に屬す。東部には、東北端に早池峯山(一九一四米)・藥師岳(一六四五米)、北端に中岳(六七九米)・鶴頭山(二四四五米)・笠森山(九八八米)・權現山(八二八米)、東端に白森山(一三三九米)・土倉山(一〇八四米)、南端に三郡塚山(五六八米)・鷹巢ノ山(四二七米)あり、中部にもまた山岳起伏して岳川は東北端に、小又川・八木巻川は東端に發源し合して稗貫川となり西流して盆地に出で北上川に合す。郡の西端には青ノ木森(八三一米)・小倉山(八五一米)・毒ヶ森(九一九米)・八方山(七七一米)あり、東方に傾斜し、豊澤川は西端に發源して東南に流れ盆地に出で北上川に合す。盛岡斷層盆地の東端には北上川蛇行しつつ南流す。一般に米・麥・大豆・馬鈴薯等を産し、東部・西部の山地には蕎麥を産

す。陸羽街道は盆地の中部を略南北に通じ、バスの便あり。盆地南部なる花巻町より東に釜石街道、西南に瀬畑街道分岐す。陸羽街道に並行して東北本線通じ石鳥谷・二枚橋・花巻等の驛あり。花巻驛より東方に釜石線、西方に花巻温泉電鐵分岐す。嵯峨天皇の弘仁二年初めて稗貫郡を置く。東鑑・文治五年の條には稗貫又は部貫に作り、拾芥抄は稗貫に作る。近世稗貫として今日に至る。

ヒエノツジ 比叡辻

↓坂本村(滋賀縣) 川郡の東南部。東南は飯石郡一宮村、南は同郡鶴山村に接す。西端に大袋山(三五九米)聳え、西北部・南部にも三百米餘の山地あり。神戸川の一小支は中部を北西流し沿岸に積廣き低地ありて耕地開け、なほ西部山地はよく開かれ、山頂近くまで耕地となる。米・繭の外に木炭を出す。街道は小川に沿って走りバスを通す。この地は和名抄、神門郡朝山郷の内なりといふ。出雲風土記に「土橋塚、神門郡家東南四里」とある土橋塚は、戸倉山を指せるものにして、ここに烽火臺あり、有事の際火を揚げて合圖せし處と傳ふ。〔火守神社〕大字宇那手に鎮座。郷社。祭神、櫛八玉命。祭神は水戸神の御子にして、大國主命御子にして、神等住山に鎮り給ひし時宇那手港にて火を鑽出し、朝山郷宇比多岐山にて火を焚上げ

て大神へ大御饗飲り給ひし神にして、火を鑽り給ひし處に即ち本社を勧請すといふ。例祭、十月二十日。

ヒオカ 氷丘

兵庫縣加古郡にありし村。昭和十二年加古川町に編入す。

ヒオキ 日置

〔日置〕安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に長狭郡日置郷あり、その地今の安房郡太海村の邊か。

〔日置〕越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に蒲原郡日置郷あり、その地今詳かならざるも中蒲原郡内なるべし。

〔日置〕伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に志志郡日置郷あり、比於木と訓す。その地今の一志郡戸木村・久居町の邊に當る。

〔日置村〕京都府丹波國與謝郡の中部。與謝半島東岸を占め宮津灣口に臨む。西部は西方に聳ゆる成相山(五六九米)の東麓山地をなす。東北端にも小山あり。他は概して平野にして數條の河川東南に流る。海岸は平直なり。田畑よく拓けて米・麥を産し山地は薪炭を供給し外に工業あり。海岸には縣道走り途中西北方へ走る縣道ありて世屋村に入る。宮津町へ巡航船あり。城址あり、日置氏の居りし處といふも詳ならず。〔金剛心院〕大字上寺腰にあり。眞言宗高野派。本尊受樂明王坐像は木造にて野子内に安置せられ鎌倉時代末期の作に係り國寶たり。〔禪海寺〕大字上にあり。臨濟宗妙心寺派。

江悟禪師の開創に係り、日置氏の菩提所たり。本尊の阿彌陀三尊及び千手觀音像は何れも木造にして國寶たり。

〔日置〕丹波國(京都府)の古地名。和名抄に與謝郡日置郷あり、その地今の與謝郡日置村の邊に當る。

〔日置村〕兵庫縣丹波國多紀郡の東南部。篠山川の上流に沿ひ篠山町の東方二軒餘にあり西南隅は有馬郡に接す。三國ヶ嶽(六四八米)西南端に聳えてそれより東方へ延ぶる山嶺は西境を限り、東方へ連る山脈は南境を劃す。東南部には彌十郎ヶ嶽(七一五米)一帯の山地聳る。東北端には約三〇〇米の丘陵ありて其西麓を南下し、村内に入り来る篠山川は西に折れ北境に沿ひて西流す。中央にて三國ヶ嶽に源流して東北流する支流を合す。川に沿ひて廣潤なる低地あり、田畑よく拓けて農産多く米・繭・大豆・粟・蕎麥・花苳・果實・食用農産・製茶・果樹苗・鶏卵等を出したる木製品・薬製品・醬油・瓦・刃物等の工業品あり。北部に縣道東西に走り篠山町へバスを通じ、また大阪府豊能郡池田町に至る縣道あり。此地は和名抄、多紀郡篠原郷の地にて日置郷にあらず。中世に宗部・椿原等を日置郷と呼びしより村制實施の際に日置村と改む。淀山城址は大字辻の北方にあり、元弘の頃波々伯部爲光の居りし所なり、子孫波多野氏に從ひ、明智氏の爲に滅さる。八上城は永正年中波多野秀忠此地に來り朝路山に築

ヒオキ——ヒオキ

きて城下を八上と稱す。幾多の變遷を経て慶長十三年松平康重封ぜられ、のち康重篠山に築くに及び城廢す。曾地は今、曾地口・曾地中・曾地奥に分れ共に大字名たり。建武三年正月廿九日足利尊氏京都の戦に敗れて落延びし地。〔日置村標〕指定天然記念物。八幡神社境内にあり、一株。果實は硬き内殻を缺き種子は多肉なる外殻のみに包まれる。學術上珍奇なるものとして重んぜらる。〔波々伯部神社〕大字波々伯部に鎮座。祭神、祭神素戔鳴命。天平五年の創建と傳ふ。天正十七年丹波領主豊臣秀勝その臣淺野和泉守をして社殿を再興せしむ。例祭八月五日。〔八幡神社〕村社。祭神、應神天皇外二柱。別稱、磯ノ宮。朱雀天皇承平三年山城國男山の分靈を勧請せるに創り當郡四箇庄の總社たり。古來國守領主の尊崇厚し。社寶の持國天・多聞天立像(木造)は共に國寶。例祭十月十五日。〔西光寺〕大字畑市にあり。曹洞宗。本尊薬師如来坐像及び寺寶の持國天・增長天・多聞天立像の四軀は何れも藤原時代の作として國寶たり。

〔日置〕丹波國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多紀郡日置郷あり、その地今の多紀郡篠山町・城北村の邊に當る。

〔日置〕但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に氣多郡日置郷あり、比於岐と訓す。その地今の城崎郡日高町の邊に當る。大字日置はその遺稱。

〔日置〕↓日高町(兵庫縣城崎郡)

〔日置村〕鳥取縣因幡國氣高郡の西部。東郷池の東岸を距る約九軒の東方に位置し、地形南北に長き山村なり。南は沿石峠を以て東伯郡と界し、北は日置谷村、東南は小笠河村、西は勝部村に接す。面積一三・八二方軒。二條の小山脈東西兩端を北に延び村内地勢高峻なるも北に低下す。日置川は兩山脈の間の谷を北流し北界附近に小平地を展く。耕地及び交通路は沿岸に開く。製材業最も盛んにして米・繭・木材之に次ぐ。省線山陰本線青谷驛へ約五軒、バスの便あり。本村は日置谷村と共に和名抄、氣多郡日置郷の地とす。〔利川神社〕大字早牛に鎮座。郷社。祭神、速開津比咩命外二神。延喜式の氣多郡利用神社は即ち當社にして、古くは大森明神とも稱し、當村の鎮守たり。古來領主の崇敬厚し。例祭、十月十九日。

〔日置〕出雲國(鳥根縣)の古地名。和名抄に神門郡日置郷あり、その地今の鏡川郡鹽治村に當る。

〔日置〕周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡日置郷あり、比於木と訓す。その地今の佐波郡八坂村の邊に當る。

〔日置郡〕鹿兒島縣十二郡の一。薩摩半島の西斜面に位し東支那海に臨む。東端には金峯山脈南北に連り、東北部に高くして三重嶽・花尾山(五四〇米)等あり。之より西に延ぶる山脈は北境を限り八重山(六七七米)・中岳・矢岳・東嶽・西嶽

【日置村】鹿兒島縣薩摩國日置郡の西部。伊集院町の西に接して東支那海に臨む。中部・東部は山地をなし東境中央に三〇五米の山地、中部に向江山(三〇四米)、西北部には城山(二三八米)あり。向江山と城山との間には大川ありて西南流し、西南境にて海に注ぐ。北境には東方より来る神之川ありて北隣下伊集院村にて海に入る。西岸に平野開け海岸線は極めて平直なり。米・蕎麥の農産多く工業之に次ぎ畜産・水産・林産あり。社線南隣鐵道の上日置驛(大正五年設置)・日置驛(大正三年設置)あり。建久園田帳に「日置北郷七十町、本郡司小藤多貞隆、又日置庄三十町、同北郷内彌勒寺、下司小野小太郎家綱」とあるは此地なるべし。大字日置と山田の境に松尾城あり、或は小野家綱の居りし處か。また本村の海邊は帆之浜と稱し、口碑に島津忠久が始めて下向の時乗船ここに着し、帆を下しける故にこの名ありと。

【日置鐵山】 ↓串木野町(鹿兒島縣日置郡) 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に薩摩郡日置郷あり、今の薩摩郡内ならんも詳かならず。

ヒオキタニ 日置谷村

鳥取縣因幡國氣高郡の西北部。北は青谷町を隔てて日本海に臨み、南は日置村に接す。東に逢坂村、西に中郷村隣接す。面積七・三三方軒。南隣日置村の地勢の延長に

て南北に伸び、東西兩境には小山脈北走し、中央の谷を日置川地形に沿うて北に貫流す。沿岸の平地下流に赴くにつれ大に展げて水田多し。米・蕎麥・木材・醬油・酒類・木炭・牛・馬等を産す。省線山陰本線青谷驛に近くバスの便あり。この地は和名抄、氣高郡日置郷の地なり。

ヒカケ 樋桶山

耶馬溪の西岸、大分縣下毛郡津民村と下郷村との境界に跨る山。標高八七六米。北麓を限りて南東流する山國川支流津民川は津民耶馬溪の稱あり、溪谷美を以て知らる。西方に中摩殿畑山(九九一米)續く。

ヒカール 島

鳥取縣日置郡の島。北緯一二度二〇分、東經一七〇度一〇分、北緯一二度二〇分に位し、行政上ヤマト支廳に屬す。

ヒカゲ 日影

↓矢立村(秋田縣) 阿武隈山脈南部の峰。福島縣田村郡飯豊村に屬す。標高八七九米、山體片麻岩より成る。夏井川上游は東麓を流して南東流す。

【日影村】 山梨縣甲斐國東八代郡の東北部。石和町の東約一二軒、東北は東山梨郡、東南は北郡留郡と界す。西南境に二一四米の山あり、また南境には笹子峠(二〇九六米)ありて何れも北方に傾斜し中部に北に開く低地を形成す。笛吹川の支流北境に沿ひて西北流し、この低地を流す。されど低地狭小なるため産業未だ入乏し。人口稀薄にして東落れ海岸近き縣道に沿ふ。省線山陰本線又海岸近き山地を東西に貫走するもトンネル多く地勢の險を知る。米・蕎麥・木材・蠶・蠟等の産あれど大ならず。岩峯驛に約四軒。バスの便あり。この地は和名抄、巨濃郡廣田郷の内なるべし。

【東村】 鳥取縣出雲國蘇我郡の東北部。宍道湖北岸に臨み、西南は平田町に接し東は八東郡と界す。北部には宍道山脈東西に連り數條の河川南下して宍道湖に注ぐ。山上に登りて四顧の風光を眺望すれば紺碧なる宍道湖、遙かなる出雲富士の雄姿を望み、更に北面すれば日本海の波濤、淡々雲霞の如く隱岐の諸島浮ぶ。西南部は湖水の西岸に開けたる鏡川平野の東北隅を占めて地味肥沃なる耕地をなす。米産多く工業・林産・畜産等あり、又宍道湖は漁獲の利あり。特産には墨表を出す。南部に東西に縣道走り、山頂の一畑薬師へは社線一畑電鐵の便ありて村内に布崎・岡・小境・一畑の四驛(大正四年設置)を置く。(佐香神社) 大字小境に鎮座。郷社。祭神、久斯神・大山咋命外二柱。佐香は酒の轉語にして、百八十神この地に酒を醸し給ひしり出づといふ。式内小社に列す。例祭、十月十三日。(一畑寺) 大字小境にあり。臨濟宗妙心寺派。醫王山。俗に一畑薬師の稱を以て著る。宇多天皇寛平六年佐香村宇赤浦の漁夫與市なる者、海中より得たる

見るべきものなく、僅に米・蕎麥・繭を出す。甲州街道東方より笹子峠を越えて北走し、更に西走して甲府市に通す。中央本線初鹿野驛(東山梨郡初鹿野村地内)に約二軒にして達す。本村はいま木賊村・田野村と共に組合村をなし、役場を本村に置く。甲州花崗岩を産す。明治十三年、明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際、この地に御小休あらせらる。

ヒカサ 日笠

【日笠浦】 萬葉集に見ゆる地名。その位置につきては諸説あり。書紀推古紀に舍人姫王が夫當麻王子に從ひて出征の途次赤石にて薙去、檜笠岡に昇るとある丘をいま兵庫縣印南郡曾根町と大鹽町との間の丘、日笠山とし、その南方の邊に之を求めんとする説有力なり。萬葉・七「印南野はゆきすきめらし天傳日笠の浦に浪立てる見ゆ」

【日笠村】 岡山縣備前國和氣郡の西北部。和氣町の東北に接し北は英田郡と界す。四周三・四百里の丘陵を繞らし、北境に發する吉井川支流の小河川中央を南流して南部流域にやや低地を見る。東北部にも僅少なる谷あり。米・蕎麥・繭・木炭を産し薄荷・梨の特産あり。また本村には明神(洞)・長盛(金・銀・銅)等の鐵山あれど振はず、ただ藏内日笠鐵山の精華重要鐵山に屬す。この鐵山は鐵區二十二萬餘坪、鐵種は金・銀・銅にて、昭和十年には金・銀・銅二七萬餘(價額二萬餘圓)を出す。

ヒカシ 東

【東街道】 陸前濱街道の舊名。

【東村】 埼玉縣武藏國北埼玉郡の東部。利根川の南岸にある小村にて、東南は北葛飾郡栗橋町と隣る。利根川は村の東北境にて渡良瀬川を合せ、全村平地にて堤防の内側は水田多し。農業行はれて米・蕎麥を産し蕎麥も行はる。縣道栗橋町に通じ自動車の便あり。栗橋町には省線東北本線の栗橋驛あり、また社線東武鐵道日光線は村内を北走すれども村内には驛なし。

【東村】 千葉縣上總國長生郡の南部。茂原町の南方約五・五軒にて、南は夷隅郡の一部と隣る。大部分丘陵地にて森林あり。中央を東流する一宮川支流の流域のみ狭き平地ありて米を主産し、他に蕎麥・蕎麥・蓮を産す。縣道は茂原町及び西北隣藤原町、東方一宮町に通じ茂原町へはバスの便あり。此地は西村と共に近世中原郷と稱せし地にして、大字地引は中古中原庄藤原郷に屬す。東鑑・建久四年の條に「上總小野田郷人、本權太國隆、伊豆島流部」とある本權太國隆は大字小

薬師如来像を當一畑山に安置し、出家して補然と號し、ここに一字を創建したるに始ると傳ふ。後醍醐天皇正中年間臨濟宗となり醫王山常徳寺と號す。のち靈元天皇延寶年中一畑寺と改め石雲これを再興す。これより先、寛正年間後花園天皇より天下疫病退散、國家安穩の新禱すべく勅書を賜る。薬師堂本尊薬師如来は眼病の靈驗著しとして一畑薬師と稱せられ、患者の參籠祈願するもの多く、毎月八日の縁日には通夜する者千人を超え、九月七、八日の大會式には詣者實に數萬に及ぶ。日本一畑の寺として全國に喧傳せらる。寺域は一畑山の中段にあり、眺望佳絶。

【東村】 廣島縣備後國世羅郡の東部。甲山町の北に接し、北東は甲奴郡に界す。村内著名なる山岳なしと雖も四境殆ど山を繞らし東北境に女鹿山・男鹿山(六三三米)、西北境には頭士山(六四八米)、南境に新山(六三五米)等聳ゆ。村内の水は西北部より播磨川、西南部より摺屋川流下して東部に會し三川村に入りて藤田川に入る。南部には東南流する赤屋川あり甲山町にて藤田川に注ぐ。河川沿岸やや耕地拓げたり。米・蕎麥・繭・林産・畜産あり。特産には清酒・松茸あり。縣道中央を縱斷して甲山町へ出づ。西北方は比婆郡庄原町に通ず。

【東村】 廣島縣備後國沼隈郡の西北部。東南は今津町に接して松永河に近く、西

北部は御調郡と界す。西北境は約二百軒の山地連りて東南方に傾斜す。南境にも小丘陵あれど南部は平野をなす。農・工・畜・林産あり。省線山陽線松永驛は東南約一軒半なり。

【東村】 大分縣速見郡にありし村。昭和十一年并築町に編入さる。

【東岳】 都城市の北東、約一五軒に當り宮崎縣北諸縣郡三股村と山之目村との境界に跨る山。標高約八四〇米。西麓部は東山官林となし、東方に鶴ノ塚山(一一一九米)を望む。

【東村】 沖繩縣琉球國頭郡の東部。名護町の東方約一五軒。地は東北より西南へ長く、面積六七方軒餘。南方一帯は海に臨む。城内概ね古生層より成る山地にて、特に北部は伊勢崎露岩、やや高峻なり。海岸は南部に曲突出しその東に川田灣、西に有銘灣を擁す。海岸平地を耕作して甘蔗・甘藷・米をつくり、また製糖行はるるも、城内の大部分は熱帯潤葉樹林より成る山林なり。道路は未だ改修進まず、また良泊を缺くを以て、交通は不便なり。人口は昭和十年三、二五〇人一方軒當り四八人にして、久志村と共に郡中最も稀薄なる地域に屬す。

ヒカシアイノナイ 東相ノ内 石北線の一驛(大正元年設置)。北海

ヒカシアカイシ 東赤石山 石鏡山脈北東支脈なる赤石山脈の峰。愛媛

縣宇摩郡別子山村と關川村との境界に跨る山。標高一七〇七米。西方には西赤石山(一六二六米)並ぶ。南西方は吉野川支流洞山の上流地にして南麓を洗ひて東流す。この山の附近一帯は名高き赤石鐵山をなし、格魯鐵礦を産す。また北東方には伊豫鐵山、北西方には別子銅山あり。

ヒカシアカタ 東英 石川縣河北郡にありし村。明治四十年種谷村と合し英田村を置く。

ヒカシアガノ 東吾野村 埼玉縣武藏國入間郡の西部。飯能町の西北隣にあり。全村山地にて北境に越上山(五〇〇米)あり。南境また約三〇〇米の山地にて何れも村内に傾斜し、南部はその都合にて高麗川東流す。山地一帯森林ありて林産多し。川沿ひに狭き耕地ありて米を産し、養蠶盛にて繭の産多し。縣道は川沿ひに飯能町に通じ、聚落はこれに沿ひて發達す。社線武藏野鐵道これに沿ひ東吾野驛(昭和四年設置)を置く。この地は古への吾野の内なり。吾野は吾那にも作り、中世の保名にして、今の本村及び吾野村・越生町・梅園村の地をも含みしもの如し。

ヒカシアケル 東秋留村 東京府武藏國西多摩郡の東南部。多摩川・秋川の合流點にあり。南は秋川を隔てて南多摩郡の一部と隣りす。東境を多摩川南流し村の東南隅にて秋川を合す。全村平地にして、地高燥なれども西方に傾斜し、西半は旭川盆地の沃野拓く。牛朱別川西流し山間に河谷低地をひらき、平地に出でては諸川を合し旭川市に注ぐ。村内耕地甚だ拓げ、米・馬鈴薯・除蟲菊・甜菜等の産額大なり。畜産また行はる。省線石北線西北を貫通し、東旭川・櫻岡驛(共に大正十一年設置)を置き、また社線旭川電氣軌道の數驛あり。(旭山公園)倉沼川の水面上一二一米に及ぶ丘陵にて、大樹鬱蒼、東方に旭岳を仰ぎ展望雄大、頂上には豊受稻荷を祀る社、八十八ヶ所の靈場あり。(旭川ゴルフ場)落葉松の林を點綴する九ホールは長さ二一四六米、傾斜コースにして、十月より四月までの降雪期には閉鎖さる。附近一帯は苹果・葡萄の名産地なり。

ヒカシアツ 東厚保村 山口縣長門國美禰郡の西南部。伊佐町の西南に接し、稍々東西に長くしてほぼ蝶の羽を擴げたる如き形をなし、東及び東南は厚狭郡に、西北隅は豊浦郡に界す。村内概ね山岳起伏し平坦地と稱すべきものなし。厚狭川は中央西偏を貫き南流す。地味豊沃、寒熱凌ぎ易く克く鬱松に適す。森林多く林業の利あり。河川に沿ひて縣道及び省線美禰線通じ後者の四郎ヶ原驛(明治三十八年設置)あり。西厚保村と共に舊は厚保又は厚と汎稱せし處。

ヒカシアマキ 東天城村 鹿兒島縣大隅國大島郡の村。徳之島の東北部に

ヒカシ——ヒカシ

にて、麥・米・園藝作物を産し、養蠶盛にて繭の産額多く、また織物の製造盛なり。府道は五日市町方面に通じ、また社線五日市鐵道は中央を西走して武藏多摩川(大正十五年設置)・東秋留(大正十四年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、多摩郡小川郷の内にして、大字野邊は横山黨野部氏の古城なり。

ヒカシアクイ 東阿久比 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、本村ほか二村を廢し阿久比村を置く。

ヒカシアゴ 東安居村 福井縣越前國足羽郡の西北隅。福井市の西に隣り、西は丹生郡の西安居村と境す。地東西に長く面積五・四五方科。西安居村との境に高取一〇〇—一五〇米の丘陵を隔て外は極めて低平、中部西偏を日野川北流し、南境を劃する足羽川を容れてその洪源原に地味肥沃なる耕地ひらく。農を主生業とし米・蔬菜の産多く、特に蔬菜は福井市民への供給地にして産額また大なり。福井市に起りて丹生郡宿堂に至る道路は東西に貫走しバスの便あり。昭和十年の人口二一五二人にして、一方科の密度三九五五人に達し、郡中第一の稠密度を示す。大字明里には屠牛場あり、此處に前福井市長竹内中將筆の歌碑あり。當村は丹生郡西安居村と共に阿久比(西安居村)の麓にて且つ阿久比王御名代の地として史蹟に富む。即ち村名も之に據り大字下市は足羽川下の市場の跡にて字名に町方等の

位し、東西約五科、南北一三科、面積五五方科餘。西部の天城村との境には南端の井之川岳(六七三米)を最高とし、美名田山・大和城山・馬ノ鞍岳・大城山・三方通岳・天城岳(五三三米)などの諸嶺南より北に連り東方に傾斜し、海岸には珊瑚石灰岩を載せたる數段の海成段丘ありて海に迫り、また裾越よく發達す。東岸の金間崎の北には山港の灣入ありて良泊をなす。河川は何れも短小なるもその沿岸と海岸臺地とに耕地よく拓げ米・麥の産や多く、養蠶は甚だ盛にして、縣立業試験場徳之島分場及び縣立業取締所出張所の設けあり。山地には林産多く、また大島楠・黒糖を出し、南部には銅を産す。聚落は多く段丘崖下に集村をなし、東岸に之等を結ぶ縣道走り、山港よりは名瀬へ定期船あり。昭和十年の人口は八〇三三人にて一方科に付一四六人に當り之を前回の國勢調査と比較するに、大正九年一〇、〇九〇人、同十四年八、五五七人、昭和五年八、三〇三人と逐年激減し、不況による南島の生活苦を如實に立證す。

ヒカシアリエ 東有家 長崎縣南高來郡にありし村。昭和二年有家町と改む。

ヒカシアリタ 東有田村 大分縣豊後國日田郡の東北部。日田町の東方約〇・五科にあり、東は玖珠郡に接し東北は下毛郡に界する山村。地形高峻にして

町名多く、丘陵龜山は俚俗龜山天皇の御陵と稱し、頂上の小高き處は石棺を埋めし箇所なりとて人跡の入るを恐る。小石祠あり。其の奥に村社龜山神社あり。龜山天皇を祀り奉る。字寺下には朝倉氏に關係深き弘善寺あり。同寺は應永元年朝倉廣景の再興せし所。龜山天皇の勸願所と傳ふ。此處に朝倉一門の墓石あり。大字金屋の字太閤寺は太閤陣の誤にて、秀吉が柴田勝家の北庄城(福井)を攻めし時本陣を置きし所。又同區には足羽七城の一なる安居城址あり。今は足羽河川改修の時滅亡せし大字大渡。小渡は太平記に有名なり。同區三味(火葬場)には朝倉一族の墓石數基あり。大字飯塚には飯塚觀音あり。二十五年毎の開扉には福井市よりの參詣特に多し。昭和六年に大字三越を福井市に編入す。

ヒカシアサイ 東淺井郡 滋賀縣(近江國)十二郡の一。縣の東北部に

位し、琵琶湖南岸を占め、東は伊吹山脈を以て岐阜縣美濃國に、西北は伊香郡に、南は坂田郡に接し、西南は琵琶湖に面す。面積二七・八六方科。東北半には伊吹山脈の諸峰連なり一〇〇〇米前後の山林帯にて姉川本支流を南へ源流す。西南部には姉川の沖積による平野開け、姉川本流は南境をなして西流し、支流高時川は北より入り合して湖に入る。其他西北部は余興川河口を扼す。平地には水田・桑園開け甚だ盛にして、山地は概ね

全體に東部に高く西部に低下す。東北境には壹尺八寸山(七〇七米)あり。中央には西南流する河川ありて村内の水を集めて流れ、西方約六科にて筑後川に合す。山林面積廣し。南部には縣道東西に走り日田町と東方玖珠郡森町とを結ぶ縣道ありてバス往來すれど、其他は概して交通不便なり。この地は和名抄、日高郡在田郷の内。(大藏城)豊後の舊族大藏氏の居城なりしが、文安中、永英の時亡ぶるに及び廢す。

ヒカシアワクラ 東栗倉村 岡山縣美作國英田郡の東北部。大原町の東北に接し、東及び南は兵庫縣栗原郡及び佐用郡に界する山村。東境に中國山地の一脈南北に連りて縣境を限り東南隅に日名倉山(一〇四七米)聳ゆ。この山脈より西南方へ延びる二條の山脈は南北兩村境を劃し中央に江見川發して西南流し約一科先に到りて吉野川に合す。東部及び北部は山上に耕地開く。米・麥・繭・木炭を産し生柿・蒟蒻の特産あり。河川に沿うて大原町に出づれば、バス南北に通ず。西栗倉村と共に栗倉と汎稱せし處なり。

ヒカシイクチ 東生口村 廣島縣安藝國豐田郡の東南端。生口島の東南部。北は名荷村、西は南生口村に接し、東は狹水道を距てて御調郡因ノ島に、南は愛媛縣岩城島に相對す。北境に龜山(四〇八米)の山嶺ありて南方に急傾斜し、南

林業に従事す。また平野には古くより糖業盛にて演繹糖を初めピロリド・コラーテン・ゴプラン糖等の産多く本郡の主産物をなす。其他、伊吹山の藥草、琵琶湖の淡水魚等の特産物あり。省線北陸本線は郡の西部を南北に貫き虎姫驛を置く。道路は略中央を東南に走る國道を幹に平野には縣道縱横に發達し、自動車の便よく、湖上には船便あり。郡内十二ヶ村を含む。本郡は明治十三年五月淺井郡を分ちて東西二郡に分けて置けるもの。明治二十九年四月西淺井郡は伊香郡に合併し東淺井郡のみ残る。

ヒカシアサバ 東淺羽村 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。袋井町の南方約五科。太田川左岸アルメの一部を占め、土地平低にして沃田開く。米を主産とし、畜産額・林産額に之に次ぎ、繭・茶の産も多少あり。東部を縣道貫通し、社線中遠鐵道淺羽驛に近し。この地は中世の淺羽莊の東部に當る。淺羽(八幡神社)大字梅山に靈座。村社。春日神社と境内を一にす。祭神、帶仲日子命・譽田別命。息長帯比賣命。江戸時代朱印領、八幡社。春日社は共に三十五石、合せて七十石を有せり。天正八年再建す。

ヒカシアサヒカワ 東旭川村 北海道石狩國上川支庁上川郡の西部。旭川市の東に接し、北は永山村・當麻村、南は東川村に接す。面積一六五・九一平方科。東部は大雪山の西斜面に

海岸に僅に海岸平地あり。牛糞牛糞にして米・麥・甘藷・粟・稗草・藁の外に、魚・鰻を産す。街道は海岸に沿うて通ずるも船による事多く、因ノ島及び岩城島にも渡船の便あり。

ヒカシイサハヤ 東諫早 長崎縣長門郡長門村にあり。

ヒカシイシグロ 東石黒村 富山縣越中國西礪波郡の東部。小矢部川左岸に沿ひ、西南方約二科に福光町あり。東は礪波郡に接し、東方約二科に福野町あり。礪波平野の一部を占め、土地平坦にして灌溉の便よく水田多し。農業を主とし、米の産多く、繭・柿等の副産物あり。省線中越線東南部を横切り福野・福光兩驛に近く、縣道にバスを通ず。此地は和名抄、礪波郡川上郷の内なるべく、近世は石黒郷と稱し、藤原北家、齋藤氏の族、石黒氏の發祥地なり。

き附近に散在する領地を管せし度。本村出身の歴史的人物には北浦義助あり、夙に皇陵の荒廢を憂ひ山陵史料を考證し、また勤王の志篤く國事に奔走す。贈從五位。〔白毫寺〕。眞言律宗。靈龜元年、勅命により志貴親王の山莊の舊址に開創す。鎌倉の初めに觀摩再興し、西大寺末となる。阿彌陀如来坐像・地藏菩薩立像・木彫群像等は國寶なり。〔中臣寺〕。其址は大宇藤原の東の地か。法光寺また藤原寺ともいひ、天武天皇の朝、中臣國足の建立に係る。寺號は、中臣氏の氏寺たりしによるか。

ヒカシイチエ 東市江 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年市改及び本村を廢し、その區域並に十四山村の大宇の一部を以て市江村を置く。

ヒカシイチキ 東市來町 鹿兒島縣薩摩國日置郡の北部。市來町の南に接して東支那海に臨み、約二軒南に伊集院町あり。地形東北より西南に低く、東北部に矢岳・中岳・重平山(五二三米)等聳え西南方へ次第に傾斜し海岸に丘陵又は臺地を以て終る。中央には西流する淡川ありて河口近くにて西北に向ひ市來町に入る。沿岸に湯之元温泉あり。南部には江口川西流して海入り山間流域にやや平野あり。農産額首位を占めて米・麥・繭等多く、工業額次に次ぎ林産第三位を占め畜産及び水産もあり。西部に縣道通過し東南方鹿兒島市へパスを通じ、省線鹿

兒島線また此地を走りて湯之元驛・東市來驛(共に大正二年設置)あり。此地は和名抄、日置郡合良郷の内なるべく、中世は市來院と稱せし地。昭和十二年町制を布く。大字伊作田の海岸は江口濱と稱しここに伊作田城ありしといふも沿革詳ならず。大字長里には鶴丸城址あり、建武四年、市來太郎左衛門時家、官軍に應じ當城に據る。島津孫三郎頼久、兵を率ゐて當城を攻む。のち寛正三年、市來久家當城に據り、島津立久に攻められ亡ぶ。〔やつこさう發生地〕 指定天然記念物。大字湯田にあり。やつこさうは形の似たるを以て斯く名づけられ、茶褐色にて高さ僅に三種に過ぎざる小植物なり。樹の根に寄生し上端に花を開き奇態を呈す。〔市來温泉〕 泉質、食鹽含有硫酸。一に湯之元温泉ともいひ、二百數十年前、西市來金鐘寺の僧が露天に浴槽を設けて一般に入浴せしめしに始り、坊主湯の名これに起る。明治維新前は藩の直營たり。近年盛に新湯掘鑿せられ、鹿兒島・川内人士の歡樂場として榮ゆ。

ヒカシイチノミヤ 東一宮村 岡山縣美作郡苦田郡の南部。津山市の北に接す。地形北部に高くして約五〇〇米を呈し、南部は東に稍丘陵あれども地勢概して平坦なり。米・繭・麥を産し生棉の特産あり。津山市にパス通す。東宮田村と共に和名抄、苦東郡苦田郷の地なり。一宮村の東に位するより此名あり。

路は東西に大なるものを通じ、中北部に今泉街道、中南部に氣仙沼街道あり。西方東北本線一開闢より分岐せる大船渡線は郡の中部を屈曲しつつ東西に通す。本郡は明治十三年五月、磐井郡を東西二部に分ちて置けるもの。※磐井(郡)

光町方面に至る。久保より祖谷川上流へ林用軌道を通す。池田及び貞光より本村へのパスの便あれども道程の半ばに過ぎず。↓祖谷溪〔劍神社〕郷社。祭神、大山祇命・安徳天皇・素戔鳴命。創祀年代詳ならずも祖谷山を開きし時、大山祇命を鎮祭せしものなりといふ。のち安徳天皇の御遺物を納めて天皇を合祀す。例祭、七月十七日。

ヒカシイワイ 東磐井郡 岩手縣陸中國の南部。東北は氣仙郡、東南及び南は宮城縣、西は北上川を隔て西磐井郡・膽澤郡、北は江刺郡に隣接す。面積七九・七六方軒。北上山地の西斜面に屬し、東境に北より原臺山(八九五米)・黒森山(六〇二米)・君ヶ鼻山(六七二米)・大田山(六八六米)・大森山(七五六米)・長崎山(三五二米)、西境には東より高城山(二六九米)・葛岡山(四一八米)、北境には鷹ノ巣山(七九二米)・阿原山(七八二米)・蓬萊山(七八八米)・大鉢森山(六三四米)あり。中央部また山岳起伏して全都概ね山地をなし、北上川は西境を略南流す。その南半部は先行谷をなして宮城縣に入る。砂鐵川は北境に發源して略南流し北上川に合す。その南部に千厩川及び黃海川各々東部に發源して西流し北上川に合す。郡の西北部なる北上川沿岸及び諸支流の下流には耕地拓く。本郡は山村多くして林産に富み、また米・麥・大豆・小豆・粟・稗・馬鈴薯等の農産及び畜産あり。道

東南に細長くその形中央は南方へ彎曲してやや馬蹄型をなす。北境には西北隅に聳ゆる鹿嵐山(七五八米)の山肢が馬蹄型の内輪に沿うて東に連りて村境を劃す。鹿嵐山より南方にのび更に東方に連る山脈は西境より南境西部を限る。南境東半にも丘陵東北より西南に連り、東部には中央を貫きて驛館川支流玉名川東北流し沿岸には低地開く。東部低地は田畑頗る開け米・麥の産多し。東部を縣道縱斷し東北境に近く社線豊川鐵道の二日市驛あり。院内とは中世安心院内の謂にして、近世に至り院内・東院内・南院内の三村に分る。

ヒカシイワセ 東山嶺町 富山縣越中國上新川郡の西北隅。神通川河口の右岸。富山市の北方約六軒にあり同市の門港をなす。神通川を隔てて西は婦負郡に接す。土地平坦にして地味肥え農作に適し、海岸は砂濱をなし、漁業及び夏季は海水浴場として賑はふ。岩瀬港は神通川河口を利用し水産物・木材の集散盛にして指定港たり。また絹織物・賣藥等の工産物あり近時化学工業も起る。富山市より社線富岩鐵道來り、越中岩瀬・岩瀬港の二驛(大正十三年設置)を置く。また東岩瀬驛(明治四十一年設置)は隣村豊田村の地域にあり。縣道また四通し、富山市よりパスの便もあり。この地は和名抄、新川郡石勢郷の内にして、近世は廣田郷に屬す。町内に古城址あり、赤江出雲守久次の居城にして、永正二年、長尾爲景に攻められ、大敗す。〔諏訪神社〕大字東岩瀬に鎮座。郷社。祭神、建御名方神。富山城主、松原氏の崇敬社たり。例祭、五月十二日。

東南に細長くその形中央は南方へ彎曲してやや馬蹄型をなす。北境には西北隅に聳ゆる鹿嵐山(七五八米)の山肢が馬蹄型の内輪に沿うて東に連りて村境を劃す。鹿嵐山より南方にのび更に東方に連る山脈は西境より南境西部を限る。南境東半にも丘陵東北より西南に連り、東部には中央を貫きて驛館川支流玉名川東北流し沿岸には低地開く。東部低地は田畑頗る開け米・麥の産多し。東部を縣道縱斷し東北境に近く社線豊川鐵道の二日市驛あり。院内とは中世安心院内の謂にして、近世に至り院内・東院内・南院内の三村に分る。

ヒカシイバラキ 東茨城郡 茨城縣十四郡の一。常陸國の中部。北は那珂郡、西は西茨城郡・新治郡、南は行方郡と隣し、東南は鹿島郡に續き、東北部は鹿島灘に臨む。北境を那珂川東南に流れ鹿島郡との境には洞沼あり。西北部は八溝山脈の一部をなすも他は低き臺地をなす所多く畑地をなし、那珂川流域を初め東流する洞沼川・巴川等の流域は低地をなして水田・沼田あり。一般に農業盛にて米・麥を産し、所により煙草・果實・蔬菜等の特産あり。東部の海に面する地方は磯濱町を中心として漁港發達し、水産物多し。また海水浴場としても有名な。陸前濱街道は郡の中央を東北に走りその他にも縣道よく發達す。省線當磐線は西南部をかすめて北走し再び郡の中部に入りて東走し、水戸市に通す。本郡は明治十三年茨城郡を分ちて東西二郡として置けるもの。明治二十二年、水戸市は本郡より獨立す。※茨城

高知縣香美郡及び長岡郡に接す。面積二七・二八方軒に及ぶ大村なり。地勢急峻にて山岳重疊起伏し、高峰を以て四周を圍繞す。北部には四國山脈に屬する寒峰・烏帽子山・風呂塔・石堂山・矢筈山(一八四九米)・黒笠山等村境を圍みて屹立し、南部は劍山脈に屬する山地にて綱附森・天狗塚・三嶺・白髮山・丸石・ジロギュー・丸笹山等の峻嶺連続せるも、殊に最も高きは東南境に聳立する劍山なり。劍山は實に四國第一の峻嶺にて海拔一九五五米に及び、祖谷川の水源また之に發し本村の中央を西に向つて貫流し、西祖谷山村を過ぎ三好郡に入りて吉野川に合流す。沿岸西隣の西祖谷山村と共に祖谷溪をなし川を狭みし兩岸の絶壁恰も屏風を連れたるが如く到るところ奇景あり。この絶壁に架せられたる釣橋は蔓を編みて造られたるものなりしも今は木橋に代り。農産物には葉煙草・三稜・米・麥等あり。村民は多く樵と獵を業とす。山地は木炭を供する程度なるも、豊富なる森林資源を蔽す。岩魚・岩茸・山葵等を特産とす。村内廣漠なるも土地傾斜にして、而も山勢急なるため隣村との交通頗る困難にして周圍町村と隔絶し、殊に冬季にありては積雪數尺に及び人馬の交通杜絶する事多し。人家は多く祖谷川兩岸に散在し人口密度二九人に過ぎず。祖谷川に沿ひ西北方池田町より入り来る縣道久保まで來りて村道と連絡し、東北方直

ヒカシイマシユク 東今宿 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村を六箇村を廢し甚目寺村を置く。

東南に細長くその形中央は南方へ彎曲してやや馬蹄型をなす。北境には西北隅に聳ゆる鹿嵐山(七五八米)の山肢が馬蹄型の内輪に沿うて東に連りて村境を劃す。鹿嵐山より南方にのび更に東方に連る山脈は西境より南境西部を限る。南境東半にも丘陵東北より西南に連り、東部には中央を貫きて驛館川支流玉名川東北流し沿岸には低地開く。東部低地は田畑頗る開け米・麥の産多し。東部を縣道縱斷し東北境に近く社線豊川鐵道の二日市驛あり。院内とは中世安心院内の謂にして、近世に至り院内・東院内・南院内の三村に分る。

東南に細長くその形中央は南方へ彎曲してやや馬蹄型をなす。北境には西北隅に聳ゆる鹿嵐山(七五八米)の山肢が馬蹄型の内輪に沿うて東に連りて村境を劃す。鹿嵐山より南方にのび更に東方に連る山脈は西境より南境西部を限る。南境東半にも丘陵東北より西南に連り、東部には中央を貫きて驛館川支流玉名川東北流し沿岸には低地開く。東部低地は田畑頗る開け米・麥の産多し。東部を縣道縱斷し東北境に近く社線豊川鐵道の二日市驛あり。院内とは中世安心院内の謂にして、近世に至り院内・東院内・南院内の三村に分る。

ヒカシウエタ 東植田村 香川縣讚岐國木田郡の西南部。川島町の南に接點し高松市の東南約九軒にあり。南は香川郡に接し南北に細長し。南部及び中部は讃岐山脈の北方傾斜地を占め山岳重なり北部に平野開けて湖沼多し。米・麥の産多く籐の特産物あり。北部は交通やや便なり。西植田村と共に和名抄、山田郡植田郷の地なり。

東南に細長くその形中央は南方へ彎曲してやや馬蹄型をなす。北境には西北隅に聳ゆる鹿嵐山(七五八米)の山肢が馬蹄型の内輪に沿うて東に連りて村境を劃す。鹿嵐山より南方にのび更に東方に連る山脈は西境より南境西部を限る。南境東半にも丘陵東北より西南に連り、東部には中央を貫きて驛館川支流玉名川東北流し沿岸には低地開く。東部低地は田畑頗る開け米・麥の産多し。東部を縣道縱斷し東北境に近く社線豊川鐵道の二日市驛あり。院内とは中世安心院内の謂にして、近世に至り院内・東院内・南院内の三村に分る。

りて附近に数多の島嶼浮ぶ。農産・林産・水産あり。郡内西部の横峰山より銅の産出多し。郡内富島町・門川町の二町外十ヶ村を含み、人口密度は六九人なり。東部に日向街道及び省線日豊本線南走し、南部の富高驛よりは東方細島に支線を出す。延岡市より五箇瀬川の谷を西に貫き、西北方熊本縣阿蘇郡高森町方面に至る縣道あり。本郡は明治十七年一月日杵郡を東西二郡に分けて置けるもの。昭和八年延岡市本郡の中より獨立す。※臼杵

ヒガシウチ

東内村 長野縣信濃國小縣郡の中。丸子町の西に接し、依田川の一支出内村川に沿ふ。東西に長く、南北に千米前後の山地連なり、略中央を内村川東北に貫流す。流域に狭き谷平野開け米・麥・蕎麥の耕作行はれ、養蠶盛なり。従つて製糸業また發展し、生糸は村の主産物、次いで繭・米の産多し。内村川左岸に沿ひ縣道貫流し、丸子町よりバスあり。本村は辰ノ口村・和子村・萩窪村の舊三箇村を合併せるものにして新屋の築師堂前に東内村杖重復あり、幹園目通五尺二寸に及び、いま指定天然記念物たり。普通種の化生せるものにして一新變種をなし、學術上珍奇なる植物なり。〔法住寺〕天台宗。嘉祥年中、慈覺大師の開創と傳へ、貞享年間、堂宇を修築して寺觀を改む。虚空藏堂は國寶。

ヒガシウチハラ

東内原村 和歌山縣紀伊國日高郡の西北部。山良村の東

ヒガシウラ

東浦

〔東浦村〕福井縣越前國敦賀郡の東北端。敦賀市に隣接し、西は敦賀灣に臨む。南北に長く一軒なるも、東西は二二三・五軒に過ぎず、面積二五方軒餘。東境に山脈長く連なり中央に鉢伏山(七六二米)あり、その北段は特に峻しく、山中峠(三八九米)の險を經て、海に至る。山脈は西に急斜するを以て村内平地に乏しく、海岸は北部の横濱附近を除きては海崖をなし、岡崎・松ヶ崎の岬角著はるも良泊に乏し。産物は米・繭の外、林産に阿曾杉あり良材を以て聞え、水産に鯛・鰻等あり、製鹽また行はる。其他北部の山麓に蜜柑を、南部よりは石灰・木炭・瓦等を出す。省線北陸本線は東北部山中を數箇の隧道を穿ちて通じ杉津驛(明治二十

九年設置)あり、同驛北の山中隧道は延長三軒を越ゆ。また國道北陸道は敦賀市より來り海岸線に沿うて南條郡に入りバスの便あるも、地形の制約を受け交通不便にして、標高約一八〇米の杉津驛より海岸の主邑杉津まで二軒の道路の如きも車馬の往來に危険を感ず。鉢伏山頂には朝倉の臣印牧能信等の據りし鉢伏山城址あり。大字杉津及び阿曾には天正三年越前一揆の舊蹟を存す。杉津海水浴場は岡崎の奇勝を控え、敦賀一帯の風光を收め附近は北陸線隨一の好展望を有す。人口は昭和十年二九八一人にして一方軒一九九人に當り、之が累年比較は大正九年三〇五三人、同十四年三〇八五人、昭和五年三〇五六人にして、飽和による過減の傾向を認む。この地は和名抄、敦賀郡神戶郷の内なるべく、大字田結は萬葉集第三卷に「越の海の 角鹿の濱ゆ大船に」：我が榜ぎ行けば 丈夫の 手結か浦の」：とある手結浦の地、大字五軒は萬葉集第十八卷に「可波流廻の道行かむ日は五軒の坂に袖振れ吾をしおほはば」とある地。大字杉津は一に水津にも作り、源平盛衰記に「西は海路新道水津浦……」とあるは此地にして、東鑑・養和元年九月の條に「木曾冠者、廻北陸道、而先陣根井太郎至越前水津、與道盛朝臣、已始合戦」とあるも此地なり。

〔東浦村〕愛知縣尾張國知多郡の東北部。知多半島頸部の東面に位し知多灣の北澳

衣ヶ浦の北隅に面す。西部は百米以下の丘陵起伏し、東岸に平野開けて數條の小河東流す。東境の北半は南下する鏡川の河川をへだてて對岸陸に續き、南半は衣ヶ浦の北澳に臨むも約一軒の海水をへだてて陸を望む。米・麥の農産及び蕎麥の産あり。東部に縣道及び省線武豊線南下し尾張森岡驛(昭和八年設置)・緒川驛(明治三十三年設置)・尾張生駒(昭和八年設置)・藤江(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、知多郡英比郷の内なるべく、明治三十九年、藤江村・生駒村・石濱村・緒川村・森岡村を廢して本村を新置す。大字生駒は延喜式に「尾張國、調、生道鹽一斛六斗、又東寺料、生道鹽、日別五合七勺」とあり、古來より生道鹽の産地たり。緒川は一に小川に作り、水久記の宇治河合戦の條に三浦駿河次郎奉村の乳母の子、小川太郎經村、京方の精誠の體着てかね黒につけたる人の首をとりて、高名せしよしを載す、これ此地に在名を稱せしものなるべし。〔入海神社〕大字緒川に鎮座。郷社。祭神、弟橘比賣命。奉唱國內神名帳に「愛知郡坐名神、天神、從三位入江天神」と見ゆ。例祭、八月九日。

ヒガシウレシノ

東嬉野 佐賀縣

藤津郡にありし村。昭和八年嬉野町に編入さる。

ヒガシウワ

東宇和郡 愛媛縣(伊豫國)十二郡の一。縣の西南部に位し飯

川上流の地を占め、東西に細長く、西南は豊後水道に臨み、東は高知縣界に及びて高岡郡と界し、西北部は僅かに八幡濱市と接す。郡は殆ど山岳に圍まれ西南岸と雖も低地を見ず。北部には雞形山脈は西に連なり北境中央に御在所山、西北境に大野山(七九七米)、東北境には南包山(一一二米)聳ゆ。南包山より連嶺南へ續きて高知縣界を劃し、南境には宇和山地に屬する山脈が東西に延び東南境にて九九五米の高さを有し南境中央に御在所山(九〇八米)屹立す。北境及び南境の山地は西部にて西南方へ海中に突出して岬となり法花津灣を拓く。沿岸屈曲多く幾多の岬・小灣出入す。飯川は大野山西北麓に發する宇和川となり西を繞りて南下し海岸に小分水嶺ある爲め海岸とは反對の方向に流れ郡内の水を中央を東北流し、中部東偏にて鏡形に西北折し附近にて東北方より來る松戸川を入れ雞形山脈を切りて喜多郡に出づ。沿岸に極めて僅少なる低地の開くる所もあり。米・麥・繭を産し、山林多く天然資源豊かなり。郡内は宇和町・野村町の二町外十八ヶ村を含む、人口密度は一方軒約一三〇人なり。西部には宇和町を貫きて縣道南北に通じ南方吉田町・宇和島市方面と、北方は數條に分岐して一は八幡濱市、一は平野村、一は大洲町方面とを結び、その中八幡濱市及び平野村よりは吉田・宇和島方面へ愛媛自動車會社のバス通過するも

未だ鐵道開通せず交通不便を免がれず。本郡は明治十三年五月宇和郡を東西南北の四郡に分けて置けるもの。↓宇和(郡)ヒガシウワウラ 東上浦村 〔ヒガシウワウラ〕大分縣豊後國南海部郡の東北部。崎戸岬の南半を占め、豊後海峡に突出して佐伯灣を擁す。北は北海部郡に接して東西に細長く、北境に山地連り海岸に急斜して景勝の地多し。山地は薪炭を出し、海岸は水産漁獲物あり。村内に饒嵐タタル工場・河本織工場等あり。西部には半島頸部を通過する省線日豊本線走りて淺海井驛(大正五年設置)あり。對岸の各町村との連絡は渡船・發動機船の便による外なし。この地は和名抄、海部郡穗門郷の内なるべく、風土記にある穗門郷も此邊なるべし。

ヒガシエ

東江村

〔東江村〕岐阜縣美濃國海津郡の東部。木曾川の右岸に沿ひ、西は高須町に界す。地形極めて平坦にして東境に南流する大河木曾川の川幅大部は當村所屬なり。米の産多く外に麥・繭も出す。北部には高須町に至る縣道及び西北方今尾町方面に出づる縣道ありて自動車の便あり。木曾川は渡船の便あり。八幡神社)大字立野に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。例祭、九月二十日。(若宮八幡神社)大字草場に鎮座。郷社。祭神、仁徳天皇。社傳によれば、草創は長享二年と傳ふ。例祭、八月十六日。

ヒガシエハラ

東江原

岡山縣後

月郡にありし村。明治三十四年神代村と合併して在原村を建つ。

ヒガシオーアシ

東大蘆村

〔東大蘆村〕栃木縣下野國上都賀郡の東南部。鹿沼町の西隣にて、西北より東南に細長く、大蘆川に沿ふ。足尾山塊一支脈の東部を占め、東境・西境共に五百米前後の山地連り、村の中央はその掘合にて大蘆川南流す。山地一帯森林ありて用材を産し、川沿ひの平地には農業行はれて米・麥・大麻を産す。縣道は川沿ひに鹿沼町に通じバスの便あり。近世大蘆郷と稱せし處。

ヒガシオーイタ

東大分村

〔東大分村〕大分縣豊後國大分郡の東北部。大分市の東に接して別府灣に臨む。東南部に小丘陵ある外は地形平坦にて、西南方より流れ來る大分川は西部を北流して別府灣に入り、中部には西南隅にて之より分れて東北に本村を貫きて海に入る裏川あり。洋々たる豊後灣に面する北岸一帯は砂濱連りて河口には砂洲發達す。水利の便に富み米・麥・蔬菜・七島等の農産多く農表を産出す。中央には大分市より東方鶴崎町及び佐賀關町に通ずる縣道あり。南部には省線日豊線横斷して、大分驛(西方約二軒)と高城驛(東方約一軒)に近く共にバスを通ず。本村の大字萩原は元和年中、越前參議忠直の配流されし地。

ヒガシオーウラ

東大浦村

〔東大浦村〕京都府丹後國加佐郡の東北部。東舞鶴市の東北約四軒にありて若狭灣に臨む。西

ヒガシオーサイ

東大在

〔東大在〕大分縣北海部郡にありし村。明治四十年本村ほか一村と合し大在村を置く。

ヒガシオーサキ

東大崎村

〔東大崎村〕宮城縣陸前國玉造郡の東南端。古川町の西北約四軒。東北は栗原郡、東南及び西南は志田郡に隣接す。陸前平野に屬し、土地概ね平坦にして荒蕪川は東部を西北より東南に流る。米・麥・繭を産す。道路は村の略中部を西北より東南に通じ、陸羽東線陸前古川驛へはバスの便あり。

この地は和名抄、玉造郡府見郷の地なるべく、西大崎村と共に往時より大崎村と稱せしが、明治二十九年東西の二村に分裂す。大字新田には平城あり、大崎家の臣、新井田氏の世々居りし所。大字大崎は清和源氏、斯波氏の族、大崎氏の居城せし地、大崎氏は天正十八年滅亡す。

ヒカシオータ

東大田村 廣島縣備後國世羅郡の南部。甲山町の西に接し南は御調郡に界す。北部及び南部は丘陵地をなし東南境に宇根山(六九〇米)そびえ、東境中央には新山(六三五米)あり。中央南偏に西方より来る蘆田川上流東に貫流し流域に稍々廣潤な低地開く。農業を主生業とし米・麥・材木・松茸・石材・マツチ(箱)・茶等を産す。東境は蘆田川に沿へる甲山町市街地に接し、之より西北に走る縣道は北部を縦斷して雙三郡三次町に達し、東南方に至れば尾道市に出づ。また南部を西南に通過し南方三原市に出づる縣道ありて同市へ定期自動車日に數回の往復あり。西大田村と共に、和名抄、世羅郡大田郷の地なり。↓大田「和理比賣神社」大字本郷に鎮座。郷社。祭神、備名田比賣神。藝藩通誌に祭神を伊非丹尊とすれど詳かならず。式内小社に列し、舊藩主淺野氏累代の崇敬社。例祭、十一月三日・四日。

ヒカシオータ

東大館 省線花輪線の一驛(大正三年設置)。秋田縣北秋田郡大館町にあり。

ヒカシオート

東大野 大分縣大野郡にありし村。明治四十年、大野村・田中村・中井田村・土師村・養老村を廢し本村を置き、昭和八年、大野町と改稱。ヒカシオイトマ 東置賜郡 山形縣羽前國の東南部。東は宮城縣・福島縣・南は南置賜郡・米澤市、西及び西北は西置賜郡、東北は南村山郡に隣接す。面積四七五・五二方軒。東境には奥羽山脈に屬する仙翁嶽(九二二米)・由ヶ岳(六六一米)等の山頂連りて西方に傾斜し、北境には白鷹山(九八六米)そびえ、それより東南に鳥

ヒカシオート

東大野 大分縣大野郡にありし村。明治四十年、大野村・田中村・中井田村・土師村・養老村を廢し本村を置き、昭和八年、大野町と改稱。ヒカシオイトマ 東置賜郡 山形縣羽前國の東南部。東は宮城縣・福島縣・南は南置賜郡・米澤市、西及び西北は西置賜郡、東北は南村山郡に隣接す。面積四七五・五二方軒。東境には奥羽山脈に屬する仙翁嶽(九二二米)・由ヶ岳(六六一米)等の山頂連りて西方に傾斜し、北境には白鷹山(九八六米)そびえ、それより東南に鳥

ヒカシオート

帽子山(六二七米)・黒森山(八一米)、西南に鷹戸屋山・松葉澤山・金井神山等連り、郡の西境には鹿山・高戸屋山(三六八米)等あり。中央部は、米澤盆地の北部にして、松川はその中央部を東南より西北に流れ、西南方より黒川、南方より鬼面川・天王川、東境より和田川、北境より吉野川を合して西北に流る。一般に米・蕎麥を産し、北部には薪炭、盆地周縁には牛、諸處に果實の産あり。又各地に製絲業盛なり。羽州街道は郡の中央部を南北に通じバスの便あり。又これより分岐して郡の中央部を略東西に通じ、東方宮城縣、西北方長井町に至るものあり。羽州街道に並行して奥羽本線通じ中川・赤湯・糠野目等の驛あり。赤湯驛より西方に長井線を分岐し、宮内町・梨郷・大塚等の驛あり。また糠野目驛より東方に高島鐵道を分岐す。本郡は明治十三年、置賜郡を三分して東西西南の置賜郡として置けるもの(※置賜郡)

ヒカシオクニ

東小國村 山形縣羽前國最上郡の東部。東は宮城縣、西南は北村山郡に隣接す。面積二〇〇・〇三方軒の大村。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境には北より軍澤山(一九四米)、大嶺山(一一二〇米)・小嶺山(一二六二米)・小柴山(一〇五六米)・奥羽山(七六六米)あり、西方に傾斜し、小國川は東南境に發源して西北に流れ、東境及び東北境より支流を合して西流す。村の西部に

ヒカシカスガイ

東春日井郡 愛知縣十八郡の一。尾張國の東北部。庄内川に沿ひ、東北は岐阜縣美濃國に、東南は三河國西加茂郡に、南は愛知郡に、西南は名古屋市の西に西春日井郡に、北は丹羽郡に接す。面積二六八・五七平方軒。東北半は木曾山脈の末端をなす花崗岩質の丘陵西南に延び、略中央を庄内川東北—西南に貫流し、南部を西流する矢田川を合す。平地は兩河の流域より西部に開け尾張平野の一部をなす。東部丘陵は良質の陶土地帯にて窯業盛に、瀬戸市はその中心たり。西部平地は肥沃なる農

ヒカシカスミ

東加積村 富山縣越中國中新川郡の北部。早月川の左岸。沿川町の東南方約五軒の地。東は早月川を境に下新川郡に接す。東部より二〇〇米餘の丘陵中央に傾斜し、西部には平野開けたり。全村田地に富み米の産多し。冬季は薫工品の副業盛なり。物産は沿川町に集散する。沿川町・魚津町・上市町へ縣道通じバスの便あり。

ヒカシカタ

東方 鹿兒島縣大島郡にありし村。昭和十一年に古仁屋町と改稱せらる。

ヒカシオザワ

東小澤村 茨城縣常陸國久慈郡の南部。久慈川下流の北岸にある小村にて、太田町の東南約五軒にあり。南は川を隔てて那珂郡の一部と相對す。全村平地にて農業・養蠶行は

ヒカシ

れ、米・麥・蕎麥を産す。陸前濱街道は西部を北走し、縣道これより分れて太田町に通ず。北隣坂本村には社縣常北電氣鐵道の大橋驛(昭和四年設置)あり、同驛へ國道通ず。

ヒカシオシタテ

東押立村 滋賀縣近江國愛知郡の中部。愛知川町の東南約三軒。東部には鈴鹿山脈西麓の山地を主とし米・麥・菜種・蕎麥・桑葉・茶・桑苗等を産し、外に林産・水産あり。縣道東西南北に走り愛知川町へバスの便あり。本村も西押立村と共に押立荘と呼べり。〔南花澤及北花澤の木自生地〕指定天然記念物。大字北花澤の島地に一株の雄木あり、根元の周囲五米、高さ一七・五米、目通周囲二・五米。約三米の高處にて六本の太き枝に分かる。また附近南花澤の村社八幡神社境内に一株の雄木あり、目通周囲三・五米、上部は二本の太き枝に分かる。〔春日神社〕大字小八木に鎮座。村社。祭神、天兒屋根命。貞觀年間創建と傳ふ。殿宇中、本殿は室町中期の神社建築中、有数の遺構として現に國寶。例祭、四月十七日。

ヒカシオヒ

東飯肥 省線油津線の一驛(大正二年設置)。宮崎縣南那賀郡吾田村にあり。

ヒカシオマタ

東尾岐村 福島縣岩代國大沼郡の東南部。高田町の西南約九軒。南は南會津郡に隣接す。南境

ヒカシカスガイ

東春日井郡 愛知縣十八郡の一。尾張國の東北部。庄内川に沿ひ、東北は岐阜縣美濃國に、東南は三河國西加茂郡に、南は愛知郡に、西南は名古屋市の西に西春日井郡に、北は丹羽郡に接す。面積二六八・五七平方軒。東北半は木曾山脈の末端をなす花崗岩質の丘陵西南に延び、略中央を庄内川東北—西南に貫流し、南部を西流する矢田川を合す。平地は兩河の流域より西部に開け尾張平野の一部をなす。東部丘陵は良質の陶土地帯にて窯業盛に、瀬戸市はその中心たり。西部平地は肥沃なる農

ヒカシカスミ

東加積村 富山縣越中國中新川郡の北部。早月川の左岸。沿川町の東南方約五軒の地。東は早月川を境に下新川郡に接す。東部より二〇〇米餘の丘陵中央に傾斜し、西部には平野開けたり。全村田地に富み米の産多し。冬季は薫工品の副業盛なり。物産は沿川町に集散する。沿川町・魚津町・上市町へ縣道通じバスの便あり。

ヒカシカタ

東方 鹿兒島縣大島郡にありし村。昭和十一年に古仁屋町と改稱せらる。

シガシカツシカ 東葛飾郡 千葉

縣十二郡の一。下總國の西部。北境を利根川東南に流れ、西境を江戸川南流し南は東京灣に臨む。東部には手賀沼あり。郡の中央部及び手賀沼北岸には低き丘陵地ありて森林あり。その他は平地開け利根川流域には沼澤地多く、江戸川流域は沼田をなす所多し。一般に農業盛にて米を産し、養蠶・養鶏も行はれ、所によりては果實の栽培も盛なり。また醸造業盛にて醤油・味噌等の産多く、江戸川畔の野田町・流山町は殊に有名なり。東京灣に面する地方にては魚類・貝類の産多し。陸前濱街道は中央を東北に走り、また千葉街道は南部を東走す。その他にも縣道よく發達す。省線常磐線は濱街道に沿ひて東北に走り、我孫子町にて省線成田線を分ち、柏町にて社線武蔵鐵道と交叉す。成田線は我孫子町より手賀沼の北岸を東走して印旛郡に入り、總武鐵道は南部の船橋市より北走し柏町を経、更に野田町を経て埼玉縣に入り大宮町に通じまた常磐線馬橋驛より分岐する流山鐵道は北走して流山町に通ず。南部は千葉街道に沿ひて省線總武本線及び社線京成電氣軌道東走し、省線船橋驛にて總武鐵道と連絡す。利根川・江戸川共に水運の便良く、中部には兩者を連絡する利根運河ありて水運を助く。明治十三年五月千葉縣管下の葛飾郡を改め東葛飾郡(茨城縣管下の葛飾郡は西葛飾郡と稱す)と稱せしが、明治三十年四月南相馬郡と合併し三十二年四月茨城縣との間に國境境界に若干の更定をなし今日に至る。〔葛飾郡〕

ヒガシカツラ 東葛飾郡

【東葛飾郡】 東葛飾郡は利根川北流に接す。南に長く周囲を御正體山・杵子山等千数百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支南より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産とし、米・麥・野菜・繭を主産とし他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押軌道通ず。この地は和名抄、都留郡賀美郷の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる鹿留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。〔出力一六、八〇〇キロワット〕あり。

ヒガシカツラギ 東葛飾郡

【東葛飾郡】 東葛飾郡は利根川北流に接す。南に長く周囲を御正體山・杵子山等千数百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支南より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産とし、米・麥・野菜・繭を主産とし他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押軌道通ず。この地は和名抄、都留郡賀美郷の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる鹿留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

汎稻を以て呼ばれる。本村より西葛城村に互る葛城山の北面地帯にはアナ林見事に發達し、いま和泉葛城山アナ林として指定天然記念物たり。

ヒガシカナカワ 東神奈川

【東神奈川】 東神奈川は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカナザワ 東金子

【東金子】 東金子は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカナコ 東金子村

【東金子村】 東金子村は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカマクラ 東鎌倉

【東鎌倉】 東鎌倉は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカミヤマ 東上山

【東上山】 東上山は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカモ 東加茂

【東加茂】 東加茂は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカワ

【ヒガシカワ】 東加茂は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカワ

【ヒガシカワ】 東加茂は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカワ

【ヒガシカワ】 東加茂は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカワ

【ヒガシカワ】 東加茂は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

因美線走りて美作加茂驛(昭和三年設置)と知和驛(昭和六年設置)あり。この地は和名抄、苦東郡知和郷にしていま大字に知和の名存す。賀茂郷の上にあたるより上加茂村と名づく。知和に矢筈山城址あり、天正八年羽柴秀吉因幡に進軍せる時作州の諸士こゝを扼して其後を斷たんとせし處なりといふ。

ヒガシカロリン 群馬

【群馬】 群馬は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカワ 東川

【東川】 東川は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカワ

【ヒガシカワ】 東加茂は東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ありて農産年額約八萬圓あり。次に移と主とし桐を副として林業盛んに行はれ年産約六萬六千圓、其他には養蠶に依る約四千圓の年收の外、見るべきものなし。字中山に以仁王の石祠と稱するものあり。正史に王は平等院の戦に流矢により葬じ給ふとあるも、實は當地に逸れ給ひ美和元年四月、會津瀝日寺の僧勝塔に櫻はれ自盡し給ふと傳ふ。

ヒガシカワ

【東川村】 高知縣土佐國安藝郡の西北部。安藝町の東北約三村にある山村。面積一六一・五五方尺。北部は香美郡に、東北隅は徳島縣海部郡に界し、東北より西南に細長し。略々東北より西南に連る山脈四周を圍繞し、東境には鳥帽子ヶ森(一三二〇米)、寶藏山、神尾屋山、綾木森・柴ノ木山等屹立し、北境には久々場山(一四〇四米)外、諸峰聳立す。東北隅に源流する伊尾木川は中央を峡谷を造りて西南方へ貫流し西南三村餘、安藝川となりて土佐灣に注ぐ。木炭・三椏・米・繭等を産し養蠶行はる。河沿ひに南部入河内まで縣道通じて安藝町へ連絡するも交通不便なり。土佐灣岸より河川に沿ひて走る林用軌道は西北部日浦に及ぶ。本村出身の歴史的人物に小川官次及び岡松憲之助あり、共に幕末の勤王家にて武市瑞山の説を達せんと清國道之助等と野根山に屯集し、罪せられて奈半利河原に斬らる。のち共に従五位を贈らる。(天満宮)大字奈比賀に鎮座。郷社。養原遺蹟。

ヒガシカワ

【東川村】 高知縣土佐國香美郡の東南部。岸本町の東北約四村に位し、東半は稍々南北に長く、其の東及び南は安藝郡に圍まれ、西部の中央より西南方へ村城嶺が略々東北より西南に長方形をなす。西部は略々西南より東北に走る二條の山脈が東西兩境を限り河川その中央を西南流す。東境を限るものは更に東北方へびて本村の中央を横切り北境に出て尙も東北方へ連りて東半の北村境を劃す。東半北部に聳る山地は、東南方より西南方へ彎曲して延び東境を限り、東南部に南流する赤野川あり。山岳深くして耕地面積乏しきも米・繭・甘藷・麥・三椏等を産し山地は林産多くして工産もあり。西部河谷には岸本町より東北方へ走る縣道通過し中部には山嶺を走る縣道ありて西南方夜須村に於て、兩村間にバスの便あり。

ヒガシカワ

【東川村】 高知縣土佐國香美郡の東南部。岸本町の東北約四村に位し、東半は稍々南北に長く、其の東及び南は安藝郡に圍まれ、西部の中央より西南方へ村城嶺が略々東北より西南に長方形をなす。西部は略々西南より東北に走る二條の山脈が東西兩境を限り河川その中央を西南流す。東境を限るものは更に東北方へびて本村の中央を横切り北境に出て尙も東北方へ連りて東半の北村境を劃す。東半北部に聳る山地は、東南方より西南方へ彎曲して延び東境を限り、東南部に南流する赤野川あり。山岳深くして耕地面積乏しきも米・繭・甘藷・麥・三椏等を産し山地は林産多くして工産もあり。西部河谷には岸本町より東北方へ走る縣道通過し中部には山嶺を走る縣道ありて西南方夜須村に於て、兩村間にバスの便あり。

(字大島所在)を挟んで分流早津江川あり。北境に沿ひ佐賀市より流れ来る漆葉ありて屈曲しつつ東流し筑後川に入る。米の産多く黍・蕎麦の産もあり。中央には縣道南北に貫通してバスの便あり、河川には蒸気船の往來するあり。

ヒガシカワツ 東川津 （はつし） 島根縣八東郡にありし村。明治三十六年西川津村と合併して川津村を建つ。

ヒガシカワテ 東川手村 （はつし） 長野縣信濃國東筑摩郡の北部。厚川の右岸にて、會田川との合流點を占め、穂高町の東北約四軒。筑摩山脈の餘波を受け土地部として高燥にして山林に富み、平地は西部河岸に僅に開く。木材・薪炭・米・蕎麦を産す。省線篠ノ井線中央を東北—西南に貫通し明科驛に近し。

ヒガシカワネ 東川根村 （はつし） 靜岡縣駿河國志太郡の北部。大井川の右岸にて、東北より東へかけて赤石の一分脈を境に安倍郡、西は大井川を境に遠江國榛原郡に接す。村内に七ツ峰（一五三三米）を始め智若山（一〇九二米）などの山岳重疊し、西境を南へ曲流する大井川の谷へ急傾斜をなして迫り、接阻峽の一部なる斷崖絶壁の急流をなす。平地に乏しきも山間の聚落は概ね林業・蕎麦または茶の栽培を主生業とし、川根茶を産す。其他、木工品の産あり。西南部對岸には社線大井川鐵道の崎平・千頭（共に昭和六年設置）の二驛あり、之より東南方靜岡市に至る縣道を通す。

岡市へ至る縣道を通す。

ヒガシカワノボリ 東川登町 （はつし） 佐賀縣肥前國杵島郡の西南部。武雄町の南に接し南は藤津郡に界す。南部より東南部にかけては約三〇〇米程度の山地の北斜面をなし、西部より西北部にかけては二—三〇〇米程度の丘陵連なりて中央へ傾斜し、北境には約一〇〇米の低き丘陵あり。六角川、之に發して中央を西南より東北に貫きて流れ沿岸に稍々廣潤なる低地を開く。米・蕎麦等を産す。河谷に沿ひて國道走り武雄町と西南方大村海岸の長崎縣東彼杵郡彼杵村方面とを結びてバス往來す。省線佐世保線武雄驛は北方約二—五軒の地點にあり。此地は和名抄、杵島郡鳥見郷の内。〔貴船神社〕大字袴野に鎮座。郷社。祭神、玉依姫命、高麗神。後醍醐天皇元亨元年に早害ありし時、神託により山城國貴船神社を勸請せしに始る。例祭、四月十五日。

ヒガシカネキ 東神吉村 （はつし） 兵庫縣播磨國印南郡の南部。東北は西神吉村に西南は米田町に接し、南は加古川を距てて加古郡加古川町に相對す。東北部に百米内外の丘陵連なるも他の大部分は加古川により構成する沖積地にして、播磨平野の中心部をなす。米・蕎麦（大蕎麦・小蕎麦・裸蕎麦）、食用農産物・葉煙草の外に蔬菜及び花卉・果實・菓製品・鶏卵を産す。街道は加古川に沿うて走り米田町にバスを通す。西神吉村と共に和名抄、印南郡含藝

郷の地なり。天正中、別所氏の一族たる頼治、本村の地に要害を構へて羽柴秀吉を防ぎしといふ。

ヒガシカタンタニ 東蟹谷村 （はつし） 富山縣越中國西礪波郡の中部。津澤町の西約一軒、西は北蟹谷村、西南は南蟹谷村に接す。善王山塊の末端部に當り、南部にて二百餘米の高度を示すも北部に緩傾斜し、北部は平地にして礪波平野の西縁をなす。小矢部川の支流澁江川は北部を東流し、南部山地より北流し來る澁流を合せ、灌溉の便よく、米を多産す。街道は北部平地を東西に貫通し津澤町にバス通す。この地は南蟹谷村、北蟹谷村と共に蟹谷と稱せし地にして、源平盛衰記の礪波山合戦の條に越中國住人、蟹谷次郎とあるは此地に住せし人なるべし。

ヒガシカンバラ 東蒲原郡 （はつし） 新潟縣十六郡の一。越後國の東南部。東より南へかけては越後山脈を以て福島縣岩代國に界し、北は北蒲原郡に、西は中蒲原郡に、西南隅は南蒲原郡に接す。面積九五・八方軒。阿賀野川流域を占め、村境はいづれも越後山脈に屬する一千米前後の山岳重疊し、村内土地高燥にして山岳重疊す。阿賀野川は中央部を東西に貫流し北より貫川・新谷川を、南より小川・柴倉川・室谷川等の水を兼ねたる常浪川及び谷澤川等の支流を合す。之等本支流の谷合は或は峽谷をなし、或は狭き平地開け、聚落これに沿ひて散在す。山地は森林

繁茂し、木材・薪炭等の林産物多く、谷沿の耕地には米・蕎麦・大豆等の農産物或ひは副産の蕎麦・菓子等を産す。首邑津川町は郡の略中央に位置し、郡内を東西に貫走する若松街道に沿ふ。省線磐越西線は阿賀野川に沿ひて村を横斷し豊實・五十島間に六驛を置く。其他は概ね縣道により交通便ならず。明治十三年蒲原郡を新潟區及び東西中南北の五郡に分けて置けるもの。本部の地はもと會津領なりしが、明治以後若松縣、明治九年以後福島縣の管下となり、明治十九年以後は新潟縣の管下に移る。

ヒガシキ 東城井 （はつし） 大分縣下毛郡にありし村。大正十五年東耶馬溪村と改稱す。

ヒガシキシ 東貴志村 （はつし） 和歌山縣紀伊國那賀郡の西部。岩出町の南約三軒にて西は西貴志村との間に中貴志村を挟む。東部に二百米以下の山地あり、西境を北流する貴志川は南境を西流する小川を合す。貴志川沿岸に低地あり、東部山中に池沼ありて灌溉の便よく田畑開く。米・蕎麦・蒭・柑橘を産す。縣道は西南部を掠め貴志川上を架橋し岩出町に出で、別に貴志川に沿ふ街道あり、岩出町にバス通す。今の中貴志村、西貴志村と共にとは貴志莊と呼ばし處。

西北部には低き丘陵起伏し、東北部に日ノ山（四六米）の孤立丘陵ありて月崎の小突出となり、東南部の丸尾崎と共に丸尾港を擁す。東部・南部は廣き海岸平地にして、耕地よく開け、米・蕎麦・大根・甘藷・葉煙草の外に蕎麦も盛なり。瓦・煉瓦の製出もあり、魚魚も多し。社線宇部鐵道通じ、岐波驛・丸尾驛（共に大正十三年設置）を置き、縣道これに沿うて走りバスを通す。海岸は遠淺にして月崎海水浴場は知らる。西岐波村と共に岐波の汎稱を以て呼ばれし處。

ヒガシクサノ 東草野村 （はつし） 滋賀縣近江國東淺井郡の東部。伊吹山脈の西斜面を占め、姉川の水源をなす。北より東へかけて伊吹山脈連互し岐阜縣美濃國掛妻郡に界し、西北隅の島越峠より出づる一分脈南へ走り西境をなす。姉川は北部に發し西部を南流す。谷沿に聚落散在し多少の耕地開かるも村内概ね森林繁茂す。米・蕎麦・稗等の農耕或は養蠶の外、林業に従事し、多く木材・薪炭を出す。また西南部には發電所あり。谷沿に南北に貫通する一條の里道あり、南へは縣道となりて北國脇街道に通じ、北は島越峠より美濃國揖斐川上流に至る。本村は上草野村・下草野村と共に中世、草野莊と呼ばれし處。↓草野

ヒガシクシヨ 東九條 （はつし） 京都府紀伊郡にありし村。大正六年京都市に編入す。

ヒガシクシラ 東串良町 （はつし） 鹿兒島縣大隅國肝屬郡の東部。肝屬川河口の北岸に位置し、東は有明灣西岸に臨み、西は串良町に、北は嶺崎郡に界す。西北部の平坦なる臺地を除く外は全村平野にて西境に沿ひ串良川南流し、南境を東流して有明灣に注ぐ肝屬川に合す。東岸は平直なる砂濱をなし、砂丘よく發達し松林をなす。耕作の便よく農耕に適し米産多くまた蕎麦・蒭等も出し、臺地は牧畜行はれ外に水産・林産あり。工産物も多し。西北部には縣道東西に走りて東北方志布志町及び串良町へバスの便あり。省線古江線もこのを横切つて、東串良驛（昭和十年設置）あり。此地はもと串良町と共に串良郷と稱せしが、明治二十二年町制施行の際東西に二分し、以て西串良は串良町となる。〔唐仁古墳群〕指定史蹟。大塚と呼ぶ前方後圓墳を中心とする大小百數十基の古墳群にて、大塚古墳の上には大塚神社の社殿あり、拜殿と本殿との間の渡廊の下に割石積の石室存し、天井石露出す。石室内には割抜石棺あり、棺外には發掘の際鐵甲が安置せられたりと云ふ。附近に役所塚・福留塚その他の圓墳・小形前方後圓墳・圓墳約三十基あり方格丁字鏡・直刀等を出す。宮崎附近の西郡原古墳群と南北相對照して顯著なる群集地をなし、且つ上代古墳分布のほぼ南限をなす。

ヒガシクツチャン 東倶知安村 （はつし） 北海道後志國後志支庁虻田郡の東北隅。倶知安町の東に接し、羊蹄山（蝦夷富士）の東北麓に位置す。面積二二〇・五二平方軒。東境は美比内山（一〇六三米）・無意根山（一四六一米）等の諸嶽南北に連互して石狩國札幌郡に界し、村内東半部は極めて高燥なり。西南境にコニテ火山羊蹄山麓えその放射狀斜面の裾と東部山地の裾との間に平地あり。尻別川は東部山地中に發したる諸川を集めつ、此間を西北流し俱知安町を過ぐ。省線京極線また此の平地を買き京極（大正八年設置）、脇方（大正九年設置）の二驛を置き、社線膽振鐵道京極驛より分岐、南走して、東俱知安（昭和六年設置）川上温泉（昭和三年設置）の二驛あり。京極線、脇方驛附近の山中には三井經營の鐵山あり。農業また盛んにして、米・馬鈴薯・甜菜・燕麥・亞麻等を産す。明治四十三年に、俱知安村の大字東俱知安村を割きて本村を置く。〔俱知安鐵山〕本村内に鐵區一四四萬餘坪を有する鐵山にて重要鐵山に屬す。本鐵山は東俱知安村の市街地の東方約八軒の地點、即ち尻別川の支流なるロッパカマサップ川の中流地帯にて、鐵區は傾斜緩漫なる丘陵地又は波狀臺地をなす。地質は主に輝輝石安山岩及び洪積層より成り、ほゞ黄褐色の赤土・砂礫層・沼鐵鐵・

ヒガシクシロ 東釧路 （はつし） 省線根室

粘土砂礫岩・火成岩盤の順序を以て累層をなす。鐵床は含鐵冷泉起因にする化學的沈澱鐵床にして鐵石は沼鐵鐵に屬す。昭和十年には鐵鐵一四七、〇一八噸（價額六三萬餘圓）を出し、同年六月末の使役鐵夫は九四人にして現在、輪西鐵山會社の經營とす。なほ鐵石は室蘭市にある日本製鐵所の輪西製鐵所に送致して合併製鐵せらる。

ヒガシクニサキ 東國東郡 （はつし） 大分縣十二郡の一。豊後國の東北部。國東半島の東半を占め半島中央に聳ゆる兩子山諸峯の東半面と東北海上の鵜島を含む。西境中央に兩子山（七二二米）聳えて、四方へ放射谷をつくりて圓錐形に傾斜し、山頂附近に伊美山・黒木山・文珠山・千燈山（以上北方）・小門山・大岳山（以上東方）等群立す。河川は凡て、兩子山の諸峯に發し北に伊美川、東に田深川、東南部に武藏川・安岐川等をはじめて數多の河川流下して海に注ぐ。低地は放射谷に沿ひて僅に開け、また東部には沿岸低地積々發達す。兩子山頂を中心として圓周狀に連る海岸は概して屈曲乏しく、北部に竹田津、南部に守江港ある外は良鍬地を見ず。低地は田畑よく拓けて米・蕎麦の外、七島産の産多し。海岸は水産に富む。郡内は竹田津町・來浦町・富來町・國東町・武藏町・西安岐町・安岐町の七町ほか十二ヶ村より成る。人口密度は平均一七八人にて最大は安岐町の四九四人、最小は

上伊美村の七六八なり。海岸に沿ひて縣道繞り中央を西に横斷する縣道あり。社線國東鐵道は西南方梓築驛にて省線日豊本線より分れ海岸に沿ひて本郡南部より東部を走り國東驛まで通ず。本郡は明治十三年五月國東郡を東西二郡に分けて置けるもの。◎國東(郡)

ヒカシクヒキ 東頸城郡 新潟縣

十六郡の一。越後國の西南部。南は一〇〇米餘の鍋倉山連峰を境に長野縣下水内郡に、東は中魚沼郡に、東北は刈羽郡に、西北より西へかけては中頸城郡に接す。面積四二九・七八平方町。全村丘陵性山地帯に屬し、南部山地は澁海川・鮎石川を東北に、保倉川・飯田川を西北に源流す。聚落は概ね之等諸川の谷に散在し乏しき平地に米麥等を耕作す。傾斜地は森林に富み木材・薪炭を産し、西部には頸城油田ありて石油を産す。社線頸城鐵道は西北部蒲原まで來るのみ、他は縣道・里道により東西に貫通するバスの便ある外、交通餘り便ならず。郡内に町はなく、十四ヶ村を含む。本郡は明治十三年頸城郡を東・西・中の三郡に分けて置けるもの。

ヒカシクリス 東栗栖村 兵庫縣

播磨國揖保郡の西北部。新宮町の西に接し、西南部は赤穂郡に界す。四周五百米以下の山地を繞らし中央に西北より東南方に通ずる細き谷開け、東方を南流する揖保川の支谷をなす。田畑よく拓げ米・

ヒカシゴイ 東五位村 富山縣

越中中國西礪波郡の東北部。小矢部川の右岸。高岡市の西南に接す。土地平坦にして灌漑の利に富み耕地多し。米を主産物とし薬品の特産あり。東南部を國道と省線北陸本線貫通し、高岡市・福岡町へバスの便あり。この地は和名抄、礪波郡意悲郷の中か。近世は五位庄に屬せり。

ヒカシゴカノシヨ 東五箇莊 滋賀縣

滋賀縣神崎郡にありし村。明治二十三年旭村と改む。

ヒガシコクワ 東國分村 鹿兒島縣

大隅國始良郡の東南部。隼人町の東に接し西南は一軒餘にて鹿兒島灣岸に出で東北方の山地に本村飛地ありて東北部の僅か一點にて接し、飛地の東は嶮嶮郡に界す。地形東部に高く西部に低く西部には南流する檢校川ありて西南部流域は鹿兒島灣岸平野の一部なり。米・麥の産の

小麦・裸麥・繭・食用農産・蔬菜・花卉・果實等の農産及び鴨卵の外、醬油・薬品等あり。播州街道及び省線新橋中央を横切り千本驛(昭和九年設置)あり。西栗栖村と共に和名抄、揖保郡栗栖郷の地なり。大字千本は天正五年羽柴秀吉が上月城攻めの時、宿泊せる處と傳ふ。

ヒカシクレハ 東吳羽 富山縣

負郡にありし村。大正十五年本村を廢し富山市に編入。

ヒガシクローダ 東黒田村 滋賀縣

近江國坂田郡の中部。長濱町の東南方約六町。天野川上流に沿ふ。東部に二三百米の丘陵ありその麓を天野川南流し、中部及び南部にも南北に走る丘陵ありて中に小平野を抱く。従つて聚落は東西二つの谷に分れ、西部に比較的多し。主に農業に従ひ米・麥・菜種・茶等を産し、養蠶を副業とす。省線東海道本線は天野川に沿ひ東部の谷を南北に走り、近江長岡驛(明治二十二年設置)を置き、各部落を結ぶ縣道四通しバスの便もあり。本村は西黒田村と共に中世、黒田莊と呼ばし處。大字本郷に鎌刃(鎌刃)城址あり、堀氏代々の居城なり。

ヒガシクロヘ 東黒部村 三重縣

伊勢國多氣郡の東北部。松阪市の東約三町にありて北は伊勢海に面す。西及び南は飯南郡に圍まる。全村地形平坦にて海岸は砂灘連る。農業を主産業とし米・菜種・繭・麥等を産し尙ほ蠶卵・工業・畜産・外、業種草の産多く、外に工業・木産・畜産及び林産あり。隼人町へバスを通ず。村内に薩摩洞山あり。鐵道約四萬八千坪を有し準重要鐵道に屬す。昭和十年には銅鑛六五五(價額二萬三千餘圓)を出し同年六月末の使役鐵夫は九四人とす。この地は和名抄、桑原郡桑原郷の内なるべく近世は國分郷に屬せり。〔大穴持神社〕大字小に鎮座。縣社。祭神、大穴持命外二神。社記に據れば創建は天平年間と傳ふ。式内小社に列し、舊藩時代、島津氏累代の崇敬厚し。例祭、二月十三日・九月二十九日。〔韓國宇豆蜂神社〕大字上井に鎮座。縣社。祭神、五十猛命外三神。式内の古社。例祭、三月九日。

ヒガシコタマ 東兒玉村 埼玉縣

武蔵國兒玉郡の東部。兒玉町の東北隣にて、東は大里郡の一部と隣す。全村平地にて西部を小山川北流し、農業行はれて米・麥を産し、養蠶も盛にて繭を多産す。兒玉町及び北方本庄町の縣道を通じ何れもバスの便あり、兒玉町の省線八高線兒玉驛、本庄町の同高崎線本庄驛に出づるに便なり。此地は近世、若泉庄と稱せし地にて、大字小茂田は兒玉黨の一なる藤田氏の起りし所。〔水殿瓦窯跡〕指定史蹟。略方形の窯と箕形の火竈とより成り、火口は南面す。窯の底面に三個の造付臺あり、短冊形をなし平行す。各臺の間及び左右は通火溝の用をなす。窯の内部より鎌倉時代と認めらるる劍頭唐草瓦及び

水産あり。松阪市へバスの便あり。此地は和名抄、多氣郡流田郷に當る。黒部は或は吳部の轉訛にて往時吳郡連の居りし處なるべし。いま大字大境内に、服部機殿と稱する神宮の御衣調進處あり。古く形浦と云ふは本村の海濱を云ひしものにて和歌の名所たり。もと海濱にありしと思はるる式内麻刀方神社は地形の變遷により今は海を距る十數丁の地に鎮座す。萬葉・一ツ丈夫が得物矢たばきみ立ち向ひ射るの形は見るけ清けし 舍人娘子(群馬縣)

ヒガシクローダ 東郷 群馬縣

〔東郷村〕山形縣羽前國西田川郡の北部。鶴岡市の北方約七町。東は赤川を隔て東田川郡に接す。庄内平野の西部に位し、赤川は東境を北流し村の北境に於て西境をなして北流する大山川を合す。全村平坦なり。米・蠶糸・繭等を産す。南方羽越本線鶴岡驛(約六町)自動車の便あり。〔東郷村〕山形縣羽前國北村山郡の南部。東根町の東と接し、東南端は宮城縣に接す。地形東北と東南に伸びたるくしの字形をなし、東北境に黒伏山(一二七米)、東南境に面白山(一二六四米)あり、いづれも西南及び西北に傾斜し、東北境より白木川發源して西南に流れ、東南境より白木川發源して西北に流れ、中部を野川西流す。中部は三川の扇狀地にして耕地拓く。米・繭・業種草・麥等を産す。道

ヒガシサイカワ 東犀川 福岡縣

〔東郷村〕山形縣羽前國北村山郡の南部。東根町の東と接し、東南端は宮城縣に接す。地形東北と東南に伸びたるくしの字形をなし、東北境に黒伏山(一二七米)、東南境に面白山(一二六四米)あり、いづれも西南及び西北に傾斜し、東北境より白木川發源して西南に流れ、東南境より白木川發源して西北に流れ、中部を野川西流す。中部は三川の扇狀地にして耕地拓く。米・繭・業種草・麥等を産す。道

ヒガシサカイ 東境 愛知縣

〔東郷村〕山形縣羽前國北村山郡の南部。東根町の東と接し、東南端は宮城縣に接す。地形東北と東南に伸びたるくしの字形をなし、東北境に黒伏山(一二七米)、東南境に面白山(一二六四米)あり、いづれも西南及び西北に傾斜し、東北境より白木川發源して西南に流れ、東南境より白木川發源して西北に流れ、中部を野川西流す。中部は三川の扇狀地にして耕地拓く。米・繭・業種草・麥等を産す。道

ヒガシサクラジマ 東櫻島村 鹿兒島縣

鹿兒島縣大隅國鹿兒島郡、櫻島半島の東南半を占む。櫻島火山の東南斜面を占め、東南は櫻島半島頭部の地峡によりて肝屬郡と接す。西境中央に聳ゆる南岳(一〇六〇米)及び御岳(一一八米)は略々圓錐型に裾野廣がりて海に達し、東北部海岸にはスズエ鼻・大燃崎、西南部には燃崎・觀音崎等突出し、東南部には其の昔爆發に際して流出せし夥しき熔岩の爲に海峽閉塞せられ、熔岩海中にのびて瀬戸崎・有村崎・柱鼻等をつくる。東北海上に新島・硫黃島等の小島浮び西南部海中には沖小島あり。村内處々に温泉湧出す。本村は有名なる櫻島大根をばじめ、烏蜜・枇杷・水蜜桃の名産美味ならざるはなく、また島民の大半は漁民なる爲め極めて安價に鮮魚を得らる。産額の最も多きは農産にして次は工産額、林産は第三位を占め、次いで水産並びに畜産もあり。南部海岸に沿ひて道路通じ西櫻島村に至る。此地は和名抄大隅國嶮嶮郡志摩郷の内。大字有村に有村温泉あり、波打際には

奈良市の東部に接し、西北部は京都府相樂郡に界す。全村山地傾斜地をなし、総じて南部に高く北部に緩く傾斜し、木津川の一支流北部を東北流して狭川村に入る。米・麥・蕎麦を産す。南部に月ヶ瀬街道もあり、省線關西線笠置驛（東北方約四軒）及び奈良市へバスを通ず。この地は和名抄、添上郡楊生郷の内なりといふ。

ヒカシサワ 東澤村

羽前国南村山郡の東北部。山形市の東南に隣り、北は東村山郡、東は宮城県に接す。面積七一・八五方軒。奥羽山脈の西斜面に属し、東南境に蔵王山（一八四一米）、東境に雁山（一四八五米）、南境には瀧山（一三六四米）あり、西北方に傾斜し、馬見ヶ崎川は東南境に發源し、村の中部を西北に流る。西北部は山形盆地に屬して一部平坦なり。米・麥・蕎麦・木炭・白菜等を産し、また編羊飼育せらる。笹谷街道は村の北部を東西に通じ、西方奥羽本線山形驛へバスの便あり。東方は笹谷峠を越えて仙臺市に至る。大字關澤は藩政の時番所のありし所にして、關根とも稱せり。この笹谷峠は一に有也無也の關址なりといふ。※有也無也關（天滿神社）大字小白川に鎮座。郷社。祭神、日本武尊・菅原道眞。最上氏は社領二百七十石を寄せ、代々の祈願所となす。例祭四月二十五日。

ヒカシサンジョー 東三條

信越本線の一驛（明治三十年設置）にして彌彦線の終點。新潟縣三條市田島町にあり。和歌山縣紀伊國海草郡の東部。西北部は和歌山市東隅との間に僅かに約一・五軒を隔て、西南約二軒には海南市あり、東は那賀郡に界す。四周二五〇米程度の緩傾斜の低き山地を繞らし、中央は盆地をなして、東南部に發する河川西北流し西部中央にて西折し、約六軒先にて和歌山川に注ぐ。低地は田畑よく拓けて米・蕎麦を出し山麓斜面は柑橘の産多く、外に林産・工業・産産及び水産あり。本村と和佐村とに跨りて彌彦山あり、準重要鐵山にして、昭和十年には鋼鐵四三七噸を出す（和佐村参照）。縣道縱横に通じてバスの往來あり。西山東村と共に中世は山東莊と云ひし處。

ヒカシサンボンキ 東三本木

京都市上京区の町名。賀茂川の西岸にして丸太町通の北に南北に通ず。その西の西三本木に對する稱。晩年頼山陽ここに住む。その書齋の山紫水明處は舊態を存しいま指定史蹟たり。往時は此の邊は旗亭軒を連ねし所なり。

ヒカシシ 東志 鳥取縣東伯郡

りし村。大正六年西志村・福米村と合併して高城村を建つ。

ヒカシシオタ 東鹽田村

長野縣信濃國埴科郡の東北部。松代町の東に接し、東の一部は上高井郡に隣りす。東部に奇妙山（一〇〇〇米）ありて西部に傾斜す。平地は西部に僅かあるのみ。村内桑園に富み養蠶業最も盛なり。蕎麦は概ね松代町に集集され生絲となる。其他に米・麥及び南斜面の茶果等の産あり。松代町に近く交通便なり。この地は和名抄、埴科郡多郷の内にして、東鑑・文治二年の條に「東條庄、八條院御領」とあるは此地なり。天正年間、東條左衛門尉の安堵せし地。「玉依比賣命神社」郷社。祭神、玉依比賣命。崇神天皇の御宇、科野國造の祖、武五百健命の創祀なりといふ。延喜式内の古社にして、當村の産土神たり。例祭、十月七日。

シガシシヨ—ナイ 東庄内村

大分縣豊後國大分郡の西南部。大分川の南岸に沿ひ、南は直入郡と大野郡に接する山村。西南部に鳥帽子嶽（七六一米）屹立して北及び東に傾斜し、其東麓には東部丘陵との間に大分川支流北流し北境を東流する大分川に合す。西北境には境界に沿ひて東北流する河川ありて大分川に合す。平地乏しきも北岸の山麓傾斜地に耕地よく拓け米・麥等を産す。東部には南北に走る縣道あり。省線久大本線小野屋驛・天神山驛へ共に北方約〇・五軒を隔つ。この地は和名抄、大分郡阿南

ヒカシシラカワ 東白川

福島縣警備隊國の南部。東は石城郡、北は石川郡、西は西白河郡、南は茨城縣に隣接す。面積七八二・九四方軒。郡はその中西部を南北に走る久慈川地溝帯によりて東西兩山地に分けられ、その東部は阿武隈山地にして東境には北より芝山（八一九米）・大黒山（七八七米）・三株山（八四二米）・朝日山（七九七米）等あり。その西には鰻川上流の谷を隔て、北より入道山（六八七米）・藁地石山（五八〇米）・鰻山（六三〇米）・弓張堂山（六五八米）・茶峯山（七七二米）あり、その西斜面は階層崖をなして久慈川及びその支流用上川の谷に傾斜す。鰻川は兩山地の間に發源して北流し、北部に於て流路を變じ東南に流る。郡の西南境には八溝山（一〇二二米）あり、東及び東北方久慈川に傾斜す。久慈川は八溝山の北に發源し東北に流れ、郡の北部に於て流路を變じて南流す。沿岸に耕地拓く。久慈川の沿岸には米・蕎麦を産し、東部阿武隈山地には木炭・馬等の産多し。棚倉町は久慈川地溝帯の門戶にして又その中心地をなす。茨城街道は久慈川に沿ひて南北に通

ヒカシシマ 東島村

石川縣能登國鹿島郡の北部。能登島の東部を占む。西部が中乃島村に續く外いづれも海に面し、北は大口瀬戸を以て風至郡に、南は小日瀬戸により鹿島中島に對し、東は外海に面す。村内概ね丘陵にて河川・平野等見るべきものなし。聚落は海岸に散在し概ね漁業に従ふ。鰯の産多し。其他、農耕・養蠶も行はれ米を産し、山林は狩獵地として名あり。七尾港より五瀬、定期船の便あり。道路は海岸を一巡する里道と中央を東西に橫斷する縣道とあり。

ヒカシシママキ 東島牧村

北海縣陸奥國陸奥郡の東部。後志支

接す。西南隅に獨結山（一二六六米）屹立して南へ傾斜地をなし、東部に七〇〇米餘の丘陵連なりして上田市と界す。この兩山地に挟まれ略々中央部に平地開け、千曲川の一支を源流す。中央部の平原及び山麓には水田、桑園多く、農蠶を主生業とす。米・麥・蕎麦の産あり。縣道東西に走り別所温泉へバス通ず。この地は和名抄、小縣郡安宅郷の内にして、中世は鹽田庄に屬す。東鑑・文治三年の條に鹽田庄、最勝光院領」とあるはこれなり。此地は天文年間、武田信晴と村上氏の合戦せし所。「生島足島神社」大字下之郷に鎮座。國幣中社。祭神、生島大神・足島大神。神武天皇御即位の砌り、神籬を建てて生島大神を祀り給ふ。式内大社に列し、歴史の御祭崇厚かりしかば、後世、地頭領家また深くこれを崇敬し、祭祀料として神田若干を寄せ、社殿を造修改修す。例祭、九月十九日。「安曾神社」大字古安曾守石神に鎮座。郷社。祭神、大己貴命外二神。創立年次を詳にせざるも古來本村の産土神たり。

ヒカシシズナイ 東静内

北海道日高郡静内郡静内町の大字。日高線の東静内驛（昭和八年設置）あり。

ヒカシシマシ 東志布志

鹿兒島縣鹿兒郡にありし村。明治二十四年志布志村を東志布志村・西志布志村・月野村に分けしが、大正二年合併して志布志町と改む。

ヒカシシマ 東島村

石川縣能登國鹿島郡の北部。能登島の東部を占む。西部が中乃島村に續く外いづれも海に面し、北は大口瀬戸を以て風至郡に、南は小日瀬戸により鹿島中島に對し、東は外海に面す。村内概ね丘陵にて河川・平野等見るべきものなし。聚落は海岸に散在し概ね漁業に従ふ。鰯の産多し。其他、農耕・養蠶も行はれ米を産し、山林は狩獵地として名あり。七尾港より五瀬、定期船の便あり。道路は海岸を一巡する里道と中央を東西に橫斷する縣道とあり。

ヒカシシママキ 東島牧村

北海縣陸奥國陸奥郡の東部。後志支

じバスの便あり。これに並行して水郡線通じ、北より磐城棚倉・近津・磐城塙・磐城石井・東前・矢祭山等の驛あり。棚倉町より西方へ白棚鐵道通じ、白河驛に至り、金澤内線あり。本郡は明治十三年白川郡を東白川郡と改めて今日に至る。↓白河（郡）

ヒカシシマ 東島村

石川縣能登國鹿島郡の北部。能登島の東部を占む。西部が中乃島村に續く外いづれも海に面し、北は大口瀬戸を以て風至郡に、南は小日瀬戸により鹿島中島に對し、東は外海に面す。村内概ね丘陵にて河川・平野等見るべきものなし。聚落は海岸に散在し概ね漁業に従ふ。鰯の産多し。其他、農耕・養蠶も行はれ米を産し、山林は狩獵地として名あり。七尾港より五瀬、定期船の便あり。道路は海岸を一巡する里道と中央を東西に橫斷する縣道とあり。

ヒカシシママキ 東島牧村

北海縣陸奥國陸奥郡の東部。後志支

ヒカシ—ヒカシ

地あり。農産最も多く養蠶を副業とし工...

ヒカシシヤチ 東信達村 大阪

府和泉國泉南郡の南部。佐野町の南方約...

ヒカシスサ 東須佐村 鳥根縣出雲

られて、従て低地乏しく大部分は海に面す...

ヒカシソノキ 東彼杵郡 長崎縣

九郡の一。肥前國の中部。佐世保市の南...

ヒカシソノヤマ 東襲山 鹿兒島...

ヒカシ—ヒカシ

國飯石郡の北部。今市町の南方一〇軒餘...

ヒカシセタナ 東瀬棚村 北海道

後志國檜山支庁瀬棚郡の西部。利別川下...

てて、復讐な海岸線を有する針尾島横に...

ヒカシソノヤマ 東襲山 鹿兒島

北アルプス常念山脈北部の一峰にて、燕...

ヒカシタイハラ 東臺原山 日本...

鈴養・木材・澱粉・牛・馬・鮭・鯉の産あれど...

ヒカシセアリ 東脊振村 佐賀縣

肥前國神埼郡の東北部。脊振山塊東南部...

ヒカシセントイ 東仙臺 東北本

線の一驛(昭和七年設置)。宮城縣仙臺市...

名東澤岳とも云ひ、平村高瀬入固有林地...

ヒカシタカ 東多賀 宮城縣名取郡

にありし村。昭和三年閉上町と改稱。

ヒカシタカス 東鷹栖村 北海道

石狩國上川支庁上川郡の西北部。旭川市...

ヒカシタカツキ 東高月 岡山縣

約四軒、西北は北仙道村に接す。概ね三...

ヒカシソオ 東贈嶽 鹿兒島縣

佐宮よりの勸請に係り、往古は勸使の下...

ヒカシソトウミ 東外海村 愛媛

縣伊豫國南宇和郡の南部。縣の最西南端...

ヒカシタカヤ 東高屋村 廣島縣...

ヒカシタガワ 東田川郡 山形縣

山形縣羽前國の西北部。山形縣十一郡の...

約四百米の山地交互し平地に乏しき...

山岳重疊せるも、西北部は庄内平野に屬して平坦なり。最上川は北境を西北方に流れ日本海に注ぐ。南境よりは大鳥川・梵字川等發源し峡谷をなして北流し、合して赤川となり庄内平野に出て郡の西北境をなして北流し、最上川に合す。立谷澤川は東境に發源して西北に流れ、流路を變じて北流し最上川に合す。立谷澤溪谷と庄内平野との間には、羽黒山(四一九米)をはじめ丘陵、南北に横ばる。西北部庄内平野には米の産多く、庄内米の名あり。余目町は本郡産出米の集散地として著名なり。また各地に繭を産し、南部及び東部の山地は木炭の産多し。道路には郡の西部を南北に通ずるもの、東南部より東部之に合するもの、及び北部を西北に向ひ之に合するもの等あり。省線羽越本線は西方鶴岡市より來り、庄内平野の中央部を北上し、余目驛に於て東南方より來る省線陸羽西線を合す。前者に藤島・余目等の驛あり。また陸羽西線には狩川・清川の兩驛あり。本郡は明治十三年五月田川郡を東西二部に分けて新置せるもの。※田川(郡)

ヒガシタケサワ 東多久村

り。道路は西北部を西北方に通じ、矢鳥町へはバスの便あり。省線矢鳥線の前驛(大正十一年設置)を置く。もと瀧澤郷と稱せし地の東部に當る。(「日枝神社」大字前郷に鎮座。祭神、大山咋神。慶長十四年に、領主瀧澤政能再興すといふ。例祭、陰曆四月十八日。)

ヒガシタテ 東館

後川口驛へ何れも十軒餘、交通便ならず。【東館村】秋田縣羽後國北秋田郡の東部。扇田町の東南に隣る。東境に合宿山(五六三米)あり、西南境は海拔約九百米、東南境は海拔約六百米にして西北方に傾斜し、原川は村の中央部を西北に流る。西北部は大館盆地に屬し平坦なり。米・繭を産す。奥羽本線大館驛へは西北約一・二軒、秋田鐵道扇田驛へは約四軒、各自動車の便あり。村内に淺利館址あり。淺利實業が天文中に居りし所なりといふ。【東館】福島縣東白川郡豊里村の大字。水郡線の東館驛(昭和五年設置)を置く。

ヒガシタニ 東谷

【東谷村】富山縣越中國中新川郡の中部。五百石町の東南方約四軒。白岩川上流に沿ひ、立山連峰の西北山裾を占む。東部・南部に一〇〇〇米前後の山岳あり、西北部に傾斜す。白岩川は東南大辻山(一三六一米)に發源し、幾多の支流を合して西北に流る。聚落この谷に沿ひ林業・養蠶・農耕に従事す。谷沿に南北に貫通する里道ありて險峻なり。五百石町へは縣道通す。

ヒガシタキサワ 東瀧澤村

ヒガシタキサワ 東瀧澤村

秋田縣羽後國由利郡の中部。矢鳥町の東北に接す。村の北部には檜葉山(三三〇米)、中南部には柴倉山(三二二米)聳え、東部は山地をなすも西北部は平坦なり。子古川は西境を西北に流れ、東境に發源して西流す。支流を合す。米・繭の産あり。

ヒガシタケサワ 東竹澤村

ヒガシタケサワ 東竹澤村

新潟縣越後國古志郡の南部。小千谷町の東約九軒。東及び南は北魚沼郡に界す。東山丘陵の一部を占めて、土地一般に高燥、西方芋川の谷へ傾斜す。山林地帯多く耕地に乏しく米・麥の耕作、養蠶等行はる。米産額多からず。其他、蕎麥を産す。里道により省線上越線小千谷驛・越

ヒガシタニ 東谷

【東谷村】兵庫縣津津川邊部の東北部。能勢川に沿り、北及び東は大阪府豊能郡に圍まれ、東南隅は池田町の北隅に接す。村内到る所山地起伏し東北隅には妙見山(六六二米)聳す。東境中央には高代寺山(四八九米)あり。總じて地形東北に

ヒガシタニ 東谷

【東谷村】福岡縣豐前國全救郡の南部。小倉市の南約六軒にあり、西南は田川郡に、南と東西は京都郡に圍まる。東部は一帶に山地にて東境に貫山、南境に龍ヶ鼻等あり。西境にも正隆連り、中央西偏に東谷川北流して南北に延長する谷間

北部に廣し。米・麥・蕎麥を出す。西部河谷に小倉市より南方田川郡香春町に通ずる縣道走り之と交叉しつゝ、社線小倉鐵道南走して母原(昭和八年設置)・石原町(大正四年設置)・木下(昭和八年設置)・下呼野(昭和八年設置)・呼野(大正四年設置)・上呼野(昭和十二年設置)の六驛を有す。【東大野八幡神社】大字母原に鎮座。郷社。祭神、息長足姫命外七神。舊記に寛文七年の創建と傳ふ。例祭、十一月十日。【千佛窟】指定天然記念物。平尾臺の東方崖角にあり、最も整ひたる模範的鐘乳洞なり。洞には多数の鐘乳石垂下し鏡かに出入し得るも、洞内は廣潤にして石壁優麗、鐘乳石・石筍が完備し損傷せず。【平尾臺】大字新道寺にあり。全救郡第一の高峰、貫山に連りて南走する一脈の高原を平尾臺と云ひ東西二軒、南北四軒、全體石灰岩の一大堆積にして樹木殆どなし。南部は平坦にして陸軍演習地をなすも、北部は風化によりて圭角消磨せし露出石灰岩累積し、起伏隨所により、怪奇の形狀を呈し壯觀なり。(龍ヶ鼻)平尾臺の高原の南端を云ひ、奇岩怪石累々として聳立し、百餘の巖崖をなす。蒼蒼たる樹林に覆はれ、新緑、紅葉の季は特に佳し。

一分脈を受け、千米前後の山地西北に向ひ傾斜す。信濃川の支流刈谷田川はこの山地に發源し、村内を西北へ貫流し、流域に多少の平地開かる。農耕・養蠶を主とし、米・繭の産多し、また木材・蕎麥等の林産物あり。西部を南北に貫走する縣道あり。この村はもと板垣と稱し、明應六年越後檢地帳の中に「飯沼遠江守分、高波保泉、飯沼正分、高波保赤谷、金澤五郎次郎代官」とありしは此地なり。江戸時代の勤業家、植村角左衛門(贈從五位)は本村の人。

【東谷村】大分縣豐前國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に接す。面積二一・五方軒。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿嵐山(七五八米)や著る。中部に盆地を形成し、山國川支流跡田川これを灌漑して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を通ぜず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲鐵兼、大友家に叛き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

【東谷村】大分縣豐前國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に接す。面積二一・五方軒。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿嵐山(七五八米)や著る。中部に盆地を形成し、山國川支流跡田川これを灌漑して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を通ぜず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲鐵兼、大友家に叛き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタニ 東谷

ヒガシタニ 東谷

【東谷村】新潟縣越後國後古志郡の東部。栃尾町の東南に接し、東は南蒲原郡に、南は北魚沼郡に界す。東南部は越後山脈の

ヒガシタニオク 東谷奥村

ヒガシタニオク 東谷奥村

【東谷村】新潟縣越後國後古志郡の東部。栃尾町の東南に接し、東は南蒲原郡に、南は北魚沼郡に界す。東南部は越後山脈の

ヒガシタニ 東谷

ヒガシタニ 東谷

【東谷村】新潟縣越後國後古志郡の東部。栃尾町の東南に接し、東は南蒲原郡に、南は北魚沼郡に界す。東南部は越後山脈の

ヒガシタニ 東谷

ヒガシタニ 東谷

【東谷村】新潟縣越後國後古志郡の東部。栃尾町の東南に接し、東は南蒲原郡に、南は北魚沼郡に界す。東南部は越後山脈の

ヒカシ——ヒカシ

に出で山麓を迂回して再び三州街道に沿ひ南へ至る。また省線笹ノ井線は東北より来り犀川に沿ひて南下し松本を経て鹽尻驛に到り中央本線に會す。其他、松本市より西北に至る省線大糸線、西南に至る社線筑摩電線の便あり。縣道は松本市を中心として四通し、南北に貫通する西街道、梓川に沿ひ飛騨に至る野麥街道、東部を穿ぬる中山道、鹽尻を経て三河に出づる三州街道等は主要なるものなり。郡内鹽尻町ほか三十五箇村を含む。郡名は一ヒガシツカマとも訓む。明治十三年五月、筑摩郡を東西二郡に分けて置けるもの。↓筑摩

ヒガシチヨークイ 東鳥海山

須川村と三關村との境上に位す。標高七七七米、山體火山岩より成る。鳥海山(二二三〇米)の東方(約四〇軒)に位する故に山名出づ。山頂に小祠あり、五穀の神として近隣農民の信仰厚し。西麓は北流する雄物川、南麓は北西流する高松川に限らる。

ヒガシチヨークセン 東朝鮮灣

北朝鮮の日本海斜面上に於ける一大灣入。朝鮮の東海岸は朝鮮沿岸中最も屈曲の乏しき地方なるが、東朝鮮灣は本海岸唯一の大灣にて、北は咸鏡北道の舞水端より、南は江原道高城の水潭端を結ぶ二五〇軒を底邊とし、元山を頂點とする三角形の大灣入り。灣岸には咸鏡北

ヒガシツチタ 東土田村

能登國羽咋郡の東部。高濱町の東北方凡そ四軒。東は鹿島郡に接す。眉上山脈の一部なる丘陵南部・東部に連なり北へ傾斜し、神代川の上流米町川は本村北部に發源し西へ流る。流域やや平坦にて小盆地を形成す。此處に水田開け米を産す。副業として主に養蠶を行ふ。縣道により高濱町へ約六軒、バスの便あり。此地は和名抄、羽咋郡知郷の内に於て、村内に徳田館址あり、この館は得田佐渡守盛章の居址にして、盛章の十四祖、得田次郎章通、得田保地頭職に補せられ、是より代々羽咋郡土田・得田の領主となり得田に居城せり。天正年間、謙信の亂入の時、成章及び嫡男伯耆盛芳と共に戦死し絶家となる。また羽咋郡の豪族、土田氏の出でし所にして、文治の頃、土田彈正忠度なるものあり。

ヒガシツノ 東津野村

佐國高岡郡の西北部。須崎町の西方約一五軒に位する山村にして北隅は愛媛縣上浮名郡に界す。四面山を繞らして地形峻險、嶺部の平地をも見す。東境に鶴松森(一一〇〇米)、南境に鈴ヶ森・一斗山、北方に正木ノ森、中央東北部に不入山(一三三六米)等の高峯處々に聳立す。不入山北麓に發する四萬十川上流の一支流北川は其の西麓を圍りて中央を南下し西南部より隣村樺原村に出づ。東部には南下

ヒカシ——ヒカシ

道の南部、咸鏡南道及び江原道の一部が臨み、海岸線延長約七〇〇軒に達し、比較的肢節に富む。即ち灣頭の水興灣の支灣なる松田・徳源の二灣を始め、以北には咸興灣・退潮灣・新昌灣・遮湖灣・利原泊地・臨海灣等の支灣が相連り、南部には長嶺灣あり。島嶼として馬養島最も顯はれ、其他、水興灣口の麗島・新島・茅島・熊島等をその主なるものとす。灣の深度は灣頭に於ては凡そ四〇軒の幅を持つ陸棚を有するも、灣頭部を南北に違さるに從ひ其幅漸次減少し、北は端川、南は高城附近に於ては陸棚を失ひ急に二〇〇米以上の深海に下る。而して二〇〇米の等深海が舌状に本灣頭に向つて突出せるは、西朝鮮灣と比して著しき相違なり。潮汐干満の差は、元山附近に於て〇・五米にて朝鮮海岸に於ける最小地域なり。灣岸には元山港を始め、西湖津・遮湖・城津・長嶺等の良港あり。水産物には明太魚・鱈・蟹など最も多く、其他、鮎・鮪・鯛・鱒・鱈及及び天草・若布・貝類等あり。

ヒガシチヨーフ 東調布

京府荏原郡にありし町。昭和七年東京市に入り、本町ほか四町と合して大森區を編成す。

ヒガシツガル 東津輕郡

陸奥國の中郡。青森灣を圍める津輕半島の東半、八甲田山北麓及び夏泊半島等を含める地域を占め、西に北津輕郡、西南

する松葉川あり。林産の他、繭・米・麥の農産及び工業・水産・畜産を出し、また名産「めいらん」あり。北川に沿ふ中央の新田部落は小市街をなし交通の要衝に當り縣道須崎・樺原線に須崎よりバスの便あり。また村内の重要部落間を連絡する路線も、こゝを起點として各方面に延ぶ。

〔河内五社神社〕大字北川に鎮座。郷社。祭神、大山祇神。社傳に寛政二十年の勸請なりと傳ふ。例祭、七月二十五日、十月二十五日。〔無野神社〕大字芳生野に鎮座。郷社。祭神、伊弉册命。建武年中、領主藤原朝臣長山信濃守信安、神託に感じて紀伊熊野より勸請創祀せしものといふ。例祭七月六日・十一月一日。

ヒガシツヤマ 東津山

因美線の一驛(昭和三年設置)にして姫津線の接續點。岡山縣津山市川崎にあり。

ヒガシテンジョー 東天井岳

日本北アルプス常念山脈の一峯。長野縣南安曇郡有明村と安曇村との境上に跨がる。標高二八一一米。南麓は横通岳(二七六七米)を経て、常念岳(二六六二米)に續き、北西麓は大天井岳(二九二二米)に連る。北西斜面に二ノ俣小屋場あり以前には小屋ありしが今は腐朽し果つ。横通と常念との中間鞍部には常念小屋あり、宿泊可能なり。南斜面には南流する梓川支流一ノ俣谷溪水あり、東斜面には北東流して中房川に合する糖川谷溪水の上源地をなす。大天井・東天井・常念岳間

は南津輕郡、東南は北郡に隣接し、青森市を抱く。面積一三七四・八六方軒。西北端に龍飛崎あり。それより東南に矢形石山・四ッ淵山(六七〇米)・袴腰山(六二八米)・大倉岳(六七七米)・馬神山(五四九米)等の山嶺連りて東方に傾斜し、蟹田川を始め幾多の河川東流して青森灣に注ぐ。龍飛崎の東方には三股灣の彎入ありて津輕海峽に面し、今別川は南方より入り、三股灣に注ぐ。東南境に八甲田山(一五八五米)・楢ヶ峯(一五一七米)あり、西方に傾斜し、駒込川・荒川はこれより發して西北に流れ合して堤川となり青森灣に注ぐ。東境に鳥帽子嶽(七二〇米)・三角嶽(七四八米)等そびえ、夏泊半島には海拔二三百米の低山起伏して海岸に迫り岩石海岸をなし、東は野邊地灣に面す。青森灣の南及び西南には青森平野折れ、米・林輸を産す。津輕半島には羅漢柏の密林ありて用材に富み、また牧馬行はる。海岸には漁業行はれ遠く出稼をなす者も少からず。陸羽街道は東北方より、羽州街道は西方より來り各青森市に至る。又海岸に沿ひて道路通ぜり。陸羽街道に沿ひて東北本線、羽州街道に沿ひて奥羽本線通じ、前者には東より狩場澤・清水川・小湊・浅島・野内・浪打浦野等の驛あり、後者には西より鶴ヶ坂・津輕新城等の驛あり。青森驛より東方に淺蟲行、南方に十和田湖行の省營バス通す。本郡は明治十三年津輕郡を東西中南北の五郡に

ヒガシトリーキ 東陶器村

大阪府和泉國泉北郡の東部。西方福泉町との間に西陶器村を挟み、東は南河内郡に界し、西北より東南に稍々細長く、東南部は〇・三軒程の幅に細長く南方へ延ぶ。西北約四軒には堺市あり。和泉山脈北麓の臺地を占め地形略々平坦なり。工業・農産・畜産・林産・水産あり。東北部に西高野街道通じて堺市及び南河内郡へバスを通す。西陶器村と共に中世の陶器産にして、古への陶器あり。和名抄に大鳥郡大村郷と云ふも之に同じ。↓陶器(産)

ヒガシトリー 東通村

青森縣陸奥國下北郡の東部。南は上北郡の東北に接し、西は田名部町に隣り、北は津輕海峽に面し、東は太平洋に臨む。面積二九六平方軒。大部分は第三紀層、東北端部に古生層より成り、概ね高度二百一三百米を有する臺地性山地にして森林・原野あり。分水界は東偏して南北に延び青平川・大川共に東南部に發し西北流して田名部町に出で、相合して田名部川となり、その流域に沖積地あり耕地拓く。北岸は弧狀の砂濱、東岸はその北部尻屋崎に近く藤石崎・ツキドウノ崎等の小突出と岩礁の散在するも其他は平坦直線の砂濱をなす。米作・牧馬行はれ

四八六

分ちて置けるもの。明治三十一年四月、青森市が本郡中より獨立し以て今日に至る。※津輕(郡)

ヒガシツゲ 東柘植村

賀國河内郡の東北隅。鈴鹿山脈の西斜面に位し伊賀川上流の源流地を占む。東は鈴鹿郡加太村に接し、北は滋賀縣甲賀郡に界す。東境には鈴鹿山脈連り、東北隅には油日嶽(六九四米)聳ゆ。中央の加太越より以南の連嶺を特に布引山脈といふ。山脈西に傾斜して加太越に發する柘植川中央を貫きて西南流し、西柘植村に入り西南部に平野開く。沃野廣く農業を主産業とし全戸數の六割は之に従事し、他は木工・雜業を營む。主産物は米・繭・雞卵・筍にて石灰・耕の糞漬の特産物あり。東方鈴鹿郡關町と西南方上野町とを結ぶ街道の通過地に當り、加太越を過ぎて中央を横斷し途中より西北に向ひ滋賀縣に入る縣道あり。省線關西本線と省線草津線の分岐點に當り中央にその柘植驛(明治二十三年設置)あり。西柘植村と共に和名抄、阿拜郡柘植郷の地なり。垂仁天皇の御代、倭姫命の八咫鏡を奉祀されし宮址あり、敢都美惠宮と稱す。この都美惠より柘植の名起りしといふも詳ならず。誰哉藤と呼ぶ藤あり、もとは風森と云ひ、源義經京都へ攻上る時、伊賀路に懸り、此處に宿りしといふ(源平盛衰記)。夫木・雞四つらみしな風の森なるさくら花さこあたる色に吹くと

ヒガシトキタ 東外城田村

三重縣伊勢國度會郡の北部。宇治山田市の西部より約四軒西にあり。西は多氣郡に界す。南半には東西に連る約三〇〇米の山脈あり、西南隅には國東山(三三五米)聳ゆ。北部は臺地あれども一般に低平なり。村内處々に湖沼あり。田畑よく折け米の産多く、外に繭・麥・工業・畜産・林産・鐵産あり。和歌山街道北部を横斷し、東部に南方熊野灘沿岸に出づる街道あり。省線參宮線の田丸驛は東北約〇・五軒にしてバスを通す。この地は和名抄、度會郡田郷郷に屬す。古の城田郷の外に當るを以て今の下外城田村と共に中世は外城田郷と呼べり。〔津布良神社〕皇大神宮末社。祭神、津布良比古命・津布良比賣命。〔觀音寺〕大字田宮寺にあり。曹洞宗。寺寶中、十一面觀音立像(木造)二軀は弘仁期の作にして國寶。

ヒガシトコ 東都甲村

分縣豊後國西國東郡の東部。兩子山の西斜面に位し、東は東國東郡に界す。東境には兩子山(七二二米)聳えて、それより延びる山嶺は北境・南境を限り、北境中央には屋山(八八四米、五四三米)を起す。

四八六

中央には河川西に流れて沿岸耕地あり。米、麥の産あり、牧畜も行はれ、山地は薪炭を供給す。縣道中央を東西に貫き西方高田町と國東半島東岸の國東町に通ず。此地は都甲郷と稱せられし地にて都甲氏の發祥地なり。都甲氏は大神姓にして、國田氏に「都甲郷漆拾町、宇佐宮彌勒寺領、地頭御家人、都甲左衛門入道西迎勝」と見ゆ。〔長安寺〕天台宗。寺寶中、銅板法華經十九枚は藤原時代の製作に係り國寶たり。

ヒカシトツカワ 東十津川 奈良縣吉野郡にありし村。明治二十三年本村ほか五箇村を廢しその地域を以て十津川村を置く。

ヒカシトリ 東島取村 大阪府和泉國泉南郡の西南部。大阪府の西南部を占め、北方は約一軒屋を以て大阪灣岸に出で、南は和泉山脈山嶺を距てて和歌山縣海草郡に界す。南境に和泉山脈東西に連り四石山(三三四米)・雪山峯・釜法ヶ嶽・須石山等屹つ。北部は平野開く。東部に和歌山縣より流れ来る菟砥川支流北流し、東北部にて西南境に發して東北流する支流を合す。米・麥・玉葱・葉蔥・西瓜・キャベツ等の農産物多く、林産・蠶産・畜産・水産もあり。工業も盛にて綿織物の産多し。東部を大阪街道通過し、また社線阪和鐵道同じく東部を走りて山中溪(昭和五年設置)あり。西北部には社線南海電車線あり、尾崎驛・西島取驛に

共に西北境に近くバスを通ず。西南部は紀淡海峽寒地帯の一部に屬す。この地は和名抄、日根郡島取郷の内なり。垂仁天皇の皇子五十瓊敷入彦命の居り給へる菟砥川上宮のありし處にして今その宮址を傳ふ。↓菟砥(波太神社) 大字石田に鎮座。府社。祭神、角瀨命・品陀別命。垂仁天皇の御宇、天湯河坂事その祖、角瀨命を祀りて創建すと傳ふ。式内小社に列す。例祭、四月十五日。

ヒカシトナミ 東磯波郡 富山縣(越中國)八郡の一。南北に長く南は白山山脈の一支部を境に岐阜縣飛騨郡に、西南の一部は石川郡加賀國に、西は西磯波郡に、北は射水郡に、東は婦負郡に界す。面積六二八・三五方町。南西部は山岳重疊し、飛騨高原に發源せる庄川路中央を北流し利賀川を合し、東部の水は石川となり東北流し神通川に入る。北西部は東境に低き丘陵連互し神通川と庄川との分水嶺をなす外は肥沃なる磯波平野開け、庄川の水は數條の灌溉路によりこの沃野を潤はし、本縣の主要なる米産地をなす。北部平野の諸村は模式的なる散村にして特殊なる景觀を呈す。農業を主産業とし米作を主とするも出町附近一帯には園藝盛にて花卉・果實を産し、城端・井波・福野・出町・中田の各町は製業盛にして各町村には製業行商に出づる者多し。また出町・中田町等は近時織物業盛となり地方的中心地なるのみならず工業

産及び林産あり。中央河谷に沿ひて縣道走り、吉野川對岸を通過する國道には高知市及び香川縣・徳島縣へのバス通ふ。吉野川に沿ひて省線土讃線走り、土佐岩原驛(昭和十年設置)・豊水驛(昭和九年設置)あり。本村は西豊水村と共に、もと豊永と汎稱せし處。

ヒガシントダ 東富田村

和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西部。紀伊水道に臨み日置町の北に接す。全村山地をなし東境に鹽津山(五一七米)聳え、地形東部に高く西部に低し。西北部には小河西南流し西北境海岸にて富田川河口に合し、附近僅に耕地開く。西岸小屈曲多く黒崎・峰火ノ鼻・番所崎・佛崎等の突出あり。米・繭・柑橘等の農産の外、水産・林産・畜産あり。工業も著し。西岸に沿ひて熊野街道走り省線紀勢西線は西部に數多トネルを穿ちて走り、紀伊橋驛(昭和十年設置)あり。村名はこの地、舊富田郷の東部に當るより此の名あり。大字富田は熊野街道大邊路の宿驛たり。大字朝來は橋鐵泉あり、硫化水素泉にして、加熱浴用。〔日神社〕大字十九淵に鎮座。郷社。祭神、皇大神。六條天皇の御宇、仁安二年吉田少將範秀なるもの自らの山林を開きて社殿を新築し、皇大神の分影を勸請奉齋し、初め若一王子の宮と稱せりと。例祭、十一月一日。

ヒガシナカ 東那珂村

茨城縣常陸國西茨城郡の西部。岩瀬町の東隣にて

地として勃興しつつあり。井波町・城端町は背後山地を受け、薪炭・繭等山地の物産と農産物・雜貨等の交換商業地なり。庄川上流は小牧・祖山等の發電所あり本邦主要の發電地帯に屬す。高岡市より分岐せる省線中越線は西部を走りて城端町に終り、石動町より来る社線加越鐵道は東西に横切りて庄川に沿ふ青島に來る。北部平野には縣道四通し、バスの便もよく、城端町より庄川上流に至る白川街道は飛越を結ぶ主要な路なり。本郡は明治二十九年磯波郡を東西二郡に分けて置けるもの。↓磯波(郡)

ヒガシトマタ 東苦田村

美作國吉田郡の南部。津山市の北に接し村内臺地狀の丘陵をなし、西部及び中部にやや低地あり。米・繭・麥・木炭を産し生柿・蒟蒻の特産あり。津山市に到る縣道あり。東一宮村と共に和名抄、苦東郡苦田郷の地なり。

ヒガシトモチ 東砥用村

熊本縣肥後國下益城郡の東部。線川上流に跨り砥用町の東に接し、北及び東は上益城郡に界し、東北約三軒に濱町、西方約二軒に甲佐町あり。全村山地にして、東南部は東南境に聳ゆる日丸山(一三四一米)・京ノ丈(一四七三米)等の西北斜面をなす。北境にも山脈東西に連なり、萬坂山(六六四米)・甲佐岳(七五三米)等あり。中央には線川の西流するありて東半は中央を貫き、西半は南境に沿ひて西北流す。全村

ヒガシナカウラ 東中浦村

大分縣豊後國南海部郡の東部。豊後水道の西南縁に細長く東方へ突出する半島尖端の北斜面を占めて佐伯灣に臨み、東西に細長く、北方海上には大島横たはる。地形山勝ちにて山麓海に迫り、東端は鶴見崎の尖端をなし北岸中央には地藏崎・女郎崎等あり。地藏崎の北は之ノ間海峽を隔てて大島横たはり、同島は周囲突出多しとして岬を以て圍まる。附近數多の小島嶼浮ぶあり。村民水産業を主とす。佐伯町へ發動機船の便あり。

ヒガシナカシマ 東中島村

愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。海上にある郡那七島の最大島中島の東半を占む。西中島村に界する西北部を除き他の三面は齊灘に臨み、東南部は關戸海峽を距てて陸月島に對す。全村丘陵にして東岸北部に大浦港の灣入あり、ヨウ崎突出して南岸を圍み、灣頭に稍々平地あり。こゝに市街地發達す。大浦港は良港を以て有名なり。南部は稍々弓形の海岸をなし、處々に低地點在して部落をつくり、西南には赤崎突出す。柑橘・玉葱・甘藷・生薑の産あり。三津濱へ發動汽船毎日往復す。

ヒガシナガシマ 東長島村

鹿兒島縣薩摩國出水郡の西北海上に浮ぶ長島の東半及びその東北方に横たはる諸浦島・伊唐島・獅子島等を始め附近多數の島嶼を含み、西北に熊本縣天草郡天草下島を

數の三分二は農家にて米を産し、副業には養蠶行はれ繭を出す。林業は三分一にして其他に商業・漁業等を行ふもの若干あり。中央を縣道東西に貫き西方の社線熊延鐵道終點砥用驛へバスの便あり。この地はもと砥用郷と稱せしが、いまは東西の兩部に分る。(靈臺橋) 砥用町との村界の線川に架せる石橋にして、長さ一四一・五米、幅五・五米、高さ二八・五米、嘉永元年の竣工に係り、この附近に多き石造橋中最大なるものなり。當時稀有の大工事にて、現今の架橋技術より見ても、その技巧に驚くべきものあり。〔福城寺〕 大字甲佐平にあり。天台宗。魚甲山。推古天皇御宇、淡西の草創に係り、小松内府平重盛の再興と傳ふ。釋迦如來立像(木造)一軀は國寶。

ヒガシトヨナガ 東豊水村

高知縣土佐國長岡郡の東北部。西部劍山脈中の山村にて、吉野川右岸に沿ふ。南部・東南部は香美郡に接し東北部は徳島縣美馬郡に界す。南境より東境にかけては峻險なる高峰西南より東北に連り東北隅に一五二五米の山地あり。夫より西北方へ延びる山脈は北境を劃す。南東・南境の山脈は西北方へ幾多の山脈を延ばし、其一是西南境を限りて根ヶ森(四〇〇米)等を起す。東北隅に源流する河川はそれ等の山麓を西南方へ流れて中央を貫流し西北境に沿ひて東北流する吉野川溪谷に合す。繭・米・麥・和紙、その他の工

業あり、長島の東南端は黒ノ瀬戸を距てて出水郡三笠村に對す。長島中央には行人岳(三九四米)・矢嶽(四〇二米)等聳えて本村は其の東斜面を占め、海岸は山地迫りて中央に鯖ノ口鼻・先ノ山鼻・市來崎等突出す。其南に加世堂灣あり。北部は屈曲多し三船浦・浦底浦等の灣あり。獅子島は長島に次ぎて大きく中央に七郎山(三九三米)ありて山麓海に迫り、四角嶺を成る岩石海岸をなす。其他長島北部と獅子島との間に横たはる無数の島々は山地をなすもの多し。米・繭・麥等の農産多く工業之に次ぎ畜産・水産・林産あり。海上に汽船の便あり。この地はもと天草郡に屬し天草越前の領内なりしが、永祿年中、島津實久が攻め取りて出水郡に屬せしめたりと。(南方神社) 大字山門野に鎮座。郷社。祭神、建御名方命外二神。舊俗、諏訪大明神。社記に島津貞久の勳請に係ると傳ふ。例祭、七月廿八日。

ヒガシナカシ 東中筋村

高知縣土佐國幡多郡の中部。四方十川下流に合流する中筋川に跨り、中筋町の西南約一・五軒にあり。南北兩部は中央へ傾斜する山地をなし、西北隅に大塔山(三八三米)あり。東南隅には四七八米の山地あり。中央には中筋川東へ貫流して約一・五軒東にて四方十川に合し、沿岸に廣き低地開く。米・繭・麥等の農産及び林産多く、外に畜産・工業あり。中筋川の谷に縣道通じ中筋町より西方宿毛町へバス通

ヒカシ——ヒカシ

ふ。途中より一遡分れて西南方へ向ふ。
【五社神社】 大字江ノ村に鎮座。郷社。
祭神、苗鹿神外四神。古来富村の鎮護神
にして、もと五社大明神と稱せり。例祭、
七月二十八日・十月二十九日。

ヒガシナガタ

伯耆國西伯郡の西南部。上長田村の東に
接し東境は日野郡に界す。北に賀野・法
勝寺二村接す。面積二二・〇四平方軒。
全村山地に蔽はれ殊に東境日野郡界は南
北に渉る四八〇——六六六米の小山脈あ
りて高し。人口本郡内に於ける最も稀薄
なる地にして、中央里道の附近に小敷の
桑落あり。木材・木炭・米・馬・牛等を産
す。北隣法勝寺村へは自動車のあるも
一般に交通不便なる山村なり。本村は上
長田村と共に、中世は長田荘と呼ばれし
處とす。

ヒガシナカノ

【東中野】 省線中央
本線の一驛(明治三十九年設置)。東京市
中野區水川町にあり。
【ヒガシナスノ】 東那須野村 栃木
縣下野國那須郡の西部。黒磯町の西南隣
にして、西は鹽谷郡に隣接す。那須野ヶ
原の中央にありて、北部に戸屋山(三六
七米)、南部に稻荷山(二九八米)あり。
那珂川の支流村内を流れ開拓すみて農
業行はれ、米・麥を産し養蠶も行はる。
陸羽街道は東南部を東北に走り、省線東
北本線また之に沿ひ東那須野驛(明治三
十一年設置)あり。此地は謂ゆる那須野

ヒガシナラウ

【東成郡】 攝津國(大
阪府)の古郡名。古の難波國又は難波郡と
稱せしもの。書記、欽明紀・孝徳紀に難
波大郡と稱するもこれなり。のち大郡は
東生郡となり、難波小郡は西生郡となり
しものなるべし。生は即ちナマにして難
波の轉訛なり。和名抄は東生に作り比牟
我之奈里と註し、古市・郡家・酒人・味
原の四郷餘戸を一を管す。その生をナリと
調するは何れの頃よりなるか詳かなら
ず。のち東成に作り明治二十九年四月住
吉郡を併せ、大正十四年大阪市に入りて
東成・住吉二區に分れしが、近く東成區
より旭區を分ち以て今日に至る。

ヒガシナリハ

【東成羽】 岡山縣川
上郡にありし村。明治三十四年成羽町と
改む。
【ヒガシナルセ】 東成瀬村 秋田縣
羽後國雄勝郡の東部。平鹿郡増田町の東
南約九軒。東は岩手縣に接す。面積二〇
四・八四平方軒。奥羽山脈の西斜面に屬し
東境には北より蟻巣山(一一五五米)・三
界山(一三八一米)・大森山(一一五〇米)・
東山(一一一七米)・桑原岳(一一二七米)・
大崎山(一一六六米)、東南方に栗駒山(一
六二八米)あり。西方に急斜し、西南境に

ヒガシナリハ

【東野村】 廣島縣安藝國豐田郡の西南、
大崎上島の東北部。木ノ江町の北に隣り
北は生野島に對し、東は愛媛縣大三島を
望む。概ね二百米内外の丘陵連なり平地
に乏しきも、緩傾斜地はよく拓かれて耕
地となる。東北には餘崎の突出ありて
神廟に燈臺あり、佐組島との間は好耕地
をなす。果樹栽培盛にして、柑橘類を産
し、養蠶も行はる。餘崎は好漁港をなす
を以て水産も多く北海岸に鹽田あり。餘
崎燈臺は不動白光にて光達距離一一哩、
二四六度より二七五度迄は紅光を以て東
方の神島島浮標より同島南端迄の危険界
を示す。但し看守員は常置せず。

ヒガシノガミ

【東野上町】 和歌山
縣紀伊國那賀郡の西南部。長峯山脈北斜
面の山地を占め貴志川に跨る。南隅は五
〇九米の山嶺を距て僅かに有田郡に界
す。全村山地をなし西南境に長峯山脈北
斜面に位する經塚山(二九一米)あり。東
方より延び来る梨ノ木山脈は中部より
北部を占めて蟻り、東境に丸山(三六四
米)あり。貴志川は兩山地の間を西に流
れ約一軒西方にて東北折し北方岩出町に
て紀ノ川に合す。米・藁・柑橘等の産多
く工産・畜産・林産及び水産もあり。縣道

ヒガシノセ

【東能勢村】 大阪府攝
津國豐能郡の中部。池田町の東北約四軒
にあり、東及び南は三島郡に圍まれ、北
は京都府南桑田郡に界す。周圍山地を繞
らし四週より中央に向つて傾斜す。西部
に妙見山(六六二米)・山尻山(六四〇米)
等あり。林産最も多く工産之に次ぎ農産
類は第三位を占む。外に畜産・礦産・水産
あり。縣道中央より四方に走り西南池田

ヒガシノセ

【東能勢村】 大阪府攝
津國豐能郡の中部。池田町の東北約四軒
にあり、東及び南は三島郡に圍まれ、北
は京都府南桑田郡に界す。周圍山地を繞
らし四週より中央に向つて傾斜す。西部
に妙見山(六六二米)・山尻山(六四〇米)
等あり。林産最も多く工産之に次ぎ農産
類は第三位を占む。外に畜産・礦産・水産
あり。縣道中央より四方に走り西南池田

ヒガシノセ

【東能勢村】 大阪府攝
津國豐能郡の中部。池田町の東北約四軒
にあり、東及び南は三島郡に圍まれ、北
は京都府南桑田郡に界す。周圍山地を繞
らし四週より中央に向つて傾斜す。西部
に妙見山(六六二米)・山尻山(六四〇米)
等あり。林産最も多く工産之に次ぎ農産
類は第三位を占む。外に畜産・礦産・水産
あり。縣道中央より四方に走り西南池田

ヒガシノセ

【東能勢村】 大阪府攝
津國豐能郡の中部。池田町の東北約四軒
にあり、東及び南は三島郡に圍まれ、北
は京都府南桑田郡に界す。周圍山地を繞
らし四週より中央に向つて傾斜す。西部
に妙見山(六六二米)・山尻山(六四〇米)
等あり。林産最も多く工産之に次ぎ農産
類は第三位を占む。外に畜産・礦産・水産
あり。縣道中央より四方に走り西南池田

ヒカシ——ヒカシ

四六五

ヶ原の一部にして明治十三年開拓して一
村をなせり。
【ヒガシナラウ】 東成岩 省線
武豊線の驛(昭和八年設置)。愛知縣牛
田市にあり。
【ヒガシナリ】 東成(郡) 攝津國(大
阪府)の古郡名。古の難波國又は難波郡と
稱せしもの。書記、欽明紀・孝徳紀に難
波大郡と稱するもこれなり。のち大郡は
東生郡となり、難波小郡は西生郡となり
しものなるべし。生は即ちナマにして難
波の轉訛なり。和名抄は東生に作り比牟
我之奈里と註し、古市・郡家・酒人・味
原の四郷餘戸を一を管す。その生をナリと
調するは何れの頃よりなるか詳かなら
ず。のち東成に作り明治二十九年四月住
吉郡を併せ、大正十四年大阪市に入りて
東成・住吉二區に分れしが、近く東成區
より旭區を分ち以て今日に至る。

四六五

四方に通じて和歌山市・海南市・岩出町に
バスを通じ、また省線紀勢西線日高線に
起る社線野上電氣鐵道の終點に當り、八
幡馬場驛・紀伊野上驛(共に大正五年設
置)及び動木・龍光寺前・下佐々・生石
口の四驛(昭和三年設置)を置く。中野
上村・北野上村・南野上村と共に中世は
野上莊の内なり。昭和二年町制を布く。
【八幡神社】 大字小畑に鎮座。縣社。祭
神、品田和氣命外二神。欽明天皇十三年
の創建に係る。永延二年石清水本社格
に準ぜられ、神官以下皆男山より補任し
て祭事等に異なれりといふ。中島頭太
刀一口は國寶。例祭、十月十六日。
【ヒガシノジリ】 東野尻村 富山縣
越中國東礪波郡の西部。出町の南に接し
西北は西礪波郡に界す。土地廣潤にして
耕地開け農業盛なり。米を主産とし、花
卉・苺等の園藝も亦盛なり。村を略南北
に貫通する縣道及び省線中越線あり高儀
驛に近し。此地は和名抄、礪波郡高楊郷
の内にして、中世は野尻郷と稱せし地。

ヒカシ——ヒカシ

西南方海上には大島を望む。東北方には岩城島を望み、この間の瀬戸は安藝國忠海より備後灘に赴くもの通路なり。更に東北方に生名島・弓削島・因ノ島、北方には生目島等大小無數の小島嶼散在し多島海の觀を呈す。本村主産業は農業にて閑期には酒造出稼・鹽田稼等に出づ。尙船乗業者も多けれど多くは若き者船に乗り老人が家に居りて農をなす。主要作物は鹽(五萬圓)・葉煙草(五萬七千圓)・麥(五萬九千圓)・除蟲菊(四萬七千圓)・甘藷(三萬五千圓)・米(三萬四千圓)・柑橘(一萬八千圓)・工業藥品(二萬八千圓)——苦汁よりの製鹽等なり。今治市へ定期船の便あり。此地は西伯方村と共に北島と汎稱せし處。

ヒカシハキ

東萩 山陰本線の驛(大正十四年設置)山口縣萩市橋東にあり。

ヒカシハシサキ

東猪崎 省線姫新線の驛(昭和六年設置)兵庫縣猪崎郡神岡村にあり。

ヒカシハズ

東幡豆 愛知縣幡豆郡にありし町。明治三十九年本町と幡豆村とを廢し幡豆町を置く。

ヒカシバタ

東端 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外六箇村を廢し明治村を置く。

ヒカシハタノ

東奈野村 神奈川縣相模國中郡の西部。奈野町の北隣にあり。北は愛甲郡の一部と隣す。大山(兩降山一四四六米)の南斜面を占め森林多

摩郡人吉町にあり。

ヒカシヒラタ

東平田村 山形縣羽後國飽海郡の西南部。酒田市の東方約七軒。東境に鷲尾山(三五二米)あり、西方に傾斜し、村の東半部は山地をなすも西部は庄内平野に屬して平坦なり。米産多く、また藪・奇産あり。道路は中部を南北に通す。西方羽越本線酒田驛、西方同線砂越驛へは各バスの便あり。

ヒカシヒラナイ

東平内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。東は上北郡野邊地町、西は小湊町に接し、北は野邊地町に面す。面積八〇・七九方軒。南境に三角嶽(七四八米)・大毛無山(七三七米)・東境に鳥嶺子嶽(七二〇米)・西北境に銅森山(二四一米)聳え、村の東・南・西の三境には山頂連りて北方に傾斜し、全村概ね山地をなす。清水川は南境に發源して西部を北流し、野邊地灣に注ぐ。沿岸に耕地拓く。海岸には山地迫りてその先は砂濱をなせり。米・木材・木炭を産す。道路は北部を略東西に通じ、自動車の便あり。東北本線猪苗代驛(明治二十七年設置)・清水川驛(昭和十一年設置)を置く。この附近は戊辰の役に激戦のありし地。明治九年、明治天皇、奥羽御巡幸の際この地に御小休あらせらる。

ヒカシヒラノ

東平野 大阪府東成郡にありし町。明治三十年大阪市東區に編入す。

ヒカシフサモト

東總元 省線木

ヒカシ

ヒカシ

南部は秦野盆地の一部をなして農業行はれ、麥・甘藷・粟等を産し、養蠶も盛なり。縣道秦野町に通じ、バスの便あり。また東北隣大山町にもバスを通す。村内に専賣局秦野試験場あり。此地は和名抄、餘綾郡幡多郷の内なり。篤農家の安居院庄七(贈從五位)は本村の人なり。〔金剛寺〕大字東田原にあり。臨濟宗建長寺派。大聖山。承久元年源實朝、公曉に討たれし時、その臣某實朝の首級を持参して當地に葬り、退耕行勇を開山として本寺を創すといふ。村内に實朝の墓と稱する五輪塔あり。

ヒカシハマ

東濱 兵庫縣美作郡にありし村。明治二十四年濱坂町と改む。

ヒカシハマナ

東濱名村 靜岡縣遠江國引佐郡の西南部。東は氣賀町に隣り、東南は濱名灣に臨み、西南部に大崎の突出ありて、西方に其支灣猪鼻湖を抱く。北境に三七六米の山ありて南方に傾斜し、また東南境に二三六米の山ありて西方に傾斜す。其兩山間に西方に開く盆地狀の低地を形成す。主産業は農にして米・藪を出し、若干水産業に従事する者あり。姫街道氣賀町より來りて西方に走りバスの便あり。また省線二俣西線走りて都筑・佐久末の二驛(共に昭和十三年設置)を置く。この地は和名抄、濱名

ヒカシハタノ

東藤島村 福井縣越前國吉田郡のほぼ中央。福井市の東北約五軒。面積九方軒餘。東南境に百米内外の小丘陵あり、北境を流るる九頭龍川の氾濫原に屬し、地低平にして地味肥沃、田畑廣く連なる。米・麥・粟・大豆等の農産多く、近時織物業勃興して絹織・羽二重・人絹織物等の工場生産著はれ、其他名産に鮎・鮎・木葉鮮等あり。社線越前電鐵は中部を東西に貫き道分口(大正四年設置)・東藤島(大正三年設置)・越前島橋(大正八年設置)の各驛ありて福井市・松岡町に達し、勝山街道これと並走し、交通運輸ともに便なり。人口は昭和十年三三五一一人にして、一方軒三六九人に當り稍々稠密なり。之を前年と比較するに大正九年三六二〇人、同十四年三五二八人、昭和五年三四七五人にして、遷徙の傾向にあり。此地は和名抄足羽郡中野郷の地なるべく、乃ち藤島保と稱せられし地。藤島保の本據は本村大字藤島にして太平記に藤島城とあるも此處なり。藤島城は往時、林六郎太夫光明の築きしにより林が城ともいふ。のち波多野出雲守居り、朝倉家の時に土肥左馬の居りし所なりと。

ヒカシフジハラ

東藤原村 三重縣伊勢國員辨郡の西部。鈴鹿山脈藤原嶽の東山麓に位し、東は阿下喜町に接

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

四書

郡大神郷の内、もと濱名郡の管下なりしが明治二十九年、引佐郡の管下となる。ヒカシハラ 東原 廣島縣安佐郡にありし村。大正九年西原村と合併して原村を建つ。

ヒカシハルチカ

東春近村 長野縣信濃國上伊那郡の中部。天龍川の右岸にして伊那町の南に接す。天龍川西境を南流し東より西へ河岸段丘發達し、一面に桑園開く。養蠶を主産業とし、米・麥の農耕次いで盛なり。縣道東西に貫通し、對岸を走る社線伊那電鐵澤渡驛へ近し。この地は中世、春近庄と稱せし地にして、いま殿島村・田原村の舊二箇村を含む春近村を置く。村内に本城址あり。江戸時代の地方開拓者、伊藤傳兵衛(贈從五位)は本村の人。

ヒカシハンタ

東飯田村 大分縣豊後國玖珠郡の中部。玖珠川上流の右岸に沿ひ森町の南に接す。その形東北より西南に細長く略々正方形をなす。東境には平家山(一〇二三米)そびえ、それより西南方へ續く山嶺は南境を限りて西南境に青野山を起し、これ等山地は全體に西北方へ傾斜す。西北境には寶山(八一六米)そびゆ。北部には北隅に發して西南流する河川ありて西境を西北流する玖珠川に合す。西部に稍々廣き平野ありて田畑よく拓く。其他山林地廣し。酒の特産あり。北部河谷に沿ひて縣道通じ西南部には久留米市及び大分市を結ぶ縣道

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

ヒカシ

四書

ヒカシ——ヒカシ

四書

ヒカシ

四書

ヒカシ

四書

は平坦となり、水田拓け農業盛なり。米を主産物とし、繭・菓工品等の副産物あり。西部を貫通し福光町に至る縣道及び之より分岐し城端町へ至る道路あり、省線中越線福光驛へは三軒餘。

ヒカシヘイ 東閉伊(郡) 岩手縣

陸中國の舊郡名。明治十三年五月閉伊郡を東西中南北の五郡に分けし時新置。更に同二十九年四月に至り東・中・北の三郡を合して下閉伊郡となし以て今日に至る(閉伊(郡))

ヒカシベツイン 東別院村

京都府丹波國南桑田郡の南部。東北部は龜岡町の西南部に接し、南は大坂府三島郡に界す。四周山地を繞らし北隅には龍ヶ尾(四・三米)、東北境には黒岩嶽(五・二四米)、西南部には湯ヶ谷嶽(六・二二米)等屹つ。南方にて神崎川に注ぐ茨木川は西隣西別院村に發して本村の西南部山地の北を繞りて南流し、三島郡見山村に出づ。耕地乏し。工産額最も多く林産これに次ぎ、米・麥等の農産第三位を占む。茨木街道南北に横斷し龜岡町へバスを通ず。西別院村と共に中世は別院莊と呼びし處。大字東掛は江戸時代心學通話の祖石田梅庵の生地なり。

ヒカシベツ 東別府 省線日豊

本線の一驛(明治四十四年設置)。大分縣別府市にあり。

ヒカシホ 東保 石川縣風至郡にありし村。明治四十一年、穴水町・鶴崎村との

の議起しが、たま／＼大正十一年海軍軍備縮少の令あり、舞鶴鎮守府は舞鶴要港となり、海軍工廠は一轉して海軍工作部と改められ、その他の施設これに伴ひて縮少され、甚大なる打撃を蒙りしもの後海軍施設は次第に擴充せられ、海軍工作部は舞鶴海軍工廠となり、その他海軍機關學校、海軍火藥廠藥部の移設、航空隊の新設等あり、將來益々充實されんとする傾向にあり、殊に海軍々縮條約滿期後は我が軍備の一層充實されんとするに乘じ、再び市制を布くの議起し、遂に三町三箇村の結成を見るに至り。本市の將來を約束せる新舞鶴港はもと白絲濱と呼ばれし漁港に過ぎざりしが、明治三十四年舞鶴軍港の設置以來、一般船舶の出入を禁止せしむ、大正十一年の軍備に伴ふ町是の革新と、海軍當局の船舶出入禁止の撤廢とにより再び商港として復活し、こゝに西の舞鶴港と併立するに至れり。爾來臨港鐵道を敷設し岩壁の修築、海底の浚深、倉庫・荷揚場の設置等、港としての設備を完成するに努めたり。爾來本港は内本邦商工業の中心地たる大阪・神戸・京都の三大都市を背後に控へ、東は北陸沿岸の諸港を經て北海道・樺太に臨み、西は物資の豐富なる北朝鮮・北滿洲を控へ、外は浦鹽港に對し航路頗る近捷なるを以て、夙に朝鮮郵船・神戸島谷汽船・大阪商船・北陸汽船等の諸社は

大正十二年以來北海道・朝鮮等の各地と

共と廢せられ、新に穴水町を置く。

ヒカシホーヘン 東風岡山

中國山脈の一峯。山口市の北西嶺。北斜面は阿武郡佐々井村に延ぶ。標高七三四米、山體石英粗面岩より成る。南西稜に西風岡山(七四二米)並發す。

ヒカシホタカ 東穂高

長野縣南安曇郡にありし村。大正十年穂高町と改稱す。

ヒカシホロナイ 東幌内炭礦

北海道石狩國支庁空知郡栗澤村にある準重要鐵山。鐵區一四八萬餘坪あり。昭和十年には塊炭一七、四六六噸、粉炭二三、六二四噸、切込炭七五五噸、粗炭五、九九五噸、この總價約二五萬圓を出し同年六月末の使役鐵夫二〇六人、現在東幌内炭礦會社の經營とす。

ヒカシホネメ 東本梅村

京都府丹波國船井郡の南部。八木町の西に隣り北約二村に岡部町あり。南は南桑田郡に界す。東北より西南に稍々細長し。東北部・西南部は山地をなし西南境には七七四米の牛岡山發し、中部は低地開け岡部川西北に貫きて流る。低地は米・麥・繭の農産を出し山地は林産豊かにまた松茸も多く出し外に鐵産及び砥石の産あり。東南方龜山町と西方篠山町とを結ぶ縣道中央を横斷しバスの便あり。和名抄に船井郡野口郷と云ふは本村及び西本梅村を指せるもの如し。(普濟寺) 曹洞宗。延文年中足利貞氏の女傳心を正尼の開基。

計		東部	西部
面積	60.022方軒	45.020方軒	15.002方軒
人口	37,055人	7,069人	29,986人
農産	424,588圓	362,684圓	61,904圓
畜産	44,876	24,513	20,363
林産	39,187	35,685	3,502
礦産	9,550	9,150	400
水産	1,245	—	1,245
合計	749,602	73,314	676,288
	1,269,048	505,346	763,702

定期航路を開き貨物の集散頗る活潑となり、殊に昭和五年には遂に内務省より乙種重要港灣に指定せらる。こゝに於て府營工事を以て鐵筋コンクリート橋樑を架設し、こゝに一萬噸級の大船を横付けにする事を得るに至れり。尙商港として特筆すべきは、海軍當局の諒解により淨水の防護及び船舶修理の恩恵ある事なり。また陸上に於ても小濱線により山陰・北陸兩線の連絡成り、京阪・北陸・山陰地方との交通極めて便利にして、臨港線も昭和五年より省線となり新舞鶴港を開設し貨物の取扱を開始したるが如きは本市發展の將來に好影響を與ふるものなり。本市は元來軍港を主とせる都邑なりしを以て、市の市街部は海軍に直接間接關係あるもの多く、從つて産業として見るべきものなかりしも、大正十二年以來諸種

寛永年間曾天外、中興す。佛殿は國寶。

ヒカシマイズル 東舞鶴市

京都府四市の一。本市は昭和十三年八月加佐郡新舞鶴町・中舞鶴町・倉梯村・與保呂村・志樂村の二町三箇村を以て建てたる新市にして、西隣の舞鶴市に對して東舞鶴市と稱す。面積六〇・〇二方軒。人口三七、〇五五人(昭和十年國勢調査)。市は丹波國加佐郡の東部に人字型に滲入せる舞鶴東海の南部を占め、舞鶴要港の所在地たり。東部は青葉山より三國山に互る一帯の山地によりて若狭國大飯郡に隣り、南は丹波高原に連なり、西南は低き丘陵を以て舞鶴市に接し、北東の一部は朝來村に隣り、西北は舞鶴灣に臨む。中部に低地展開し與保呂川・志樂川これに灌漑す。新舞鶴灣は今昔海軍要港のほかに内地航路船舶の出入する乙種重要港灣たり。若狭街道東方の吉坂峠を越えて來り、本市を横斷して舞鶴市に向ふ。省線舞鶴線はその終點を本市の中心なる新舞鶴所在の新舞鶴驛(明治三十七年設置)に置き、此處より西に中舞鶴間に支線を出し、東門驛・中舞鶴驛(共に大正八年設置)を置き、更に臨港線を出して新舞鶴港(昭和五年設置)に至る。省線小濱線は敦賀方面より來りて新舞鶴驛を終點とし市内に松尾寺驛(大正十一年設置)を置き、海陸の交通極めて便なり。市内の交通機關としては三舞鶴バスありて舞鶴市の舞鶴驛を起點とし中舞鶴・新舞鶴の間

を運轉して本市の重要交通機關をなす。本市の主要繁華は舊新舞鶴町・中舞鶴町にして要港部を中間として東西に並び、新市街のこととて何れも街衢廣闊整然たり。殊に新舞鶴の地は京都に倣ひ、基盤の目の如く、東西に通ずる大門通を中心としてこれと直角に一條通より九條通までを置き、その他縦横の通りには富士・八島・敷島・朝日・朝瀨・三笠等軍艦の名稱を附したるは如何にも軍港町たるに相應しき觀あり。本市の起原は、明治二十二年五月この地に舞鶴軍港設置の件を公布せられ、同三十四年十月舞鶴軍港の開闢あり、海軍中將東郷平八郎を以て初代の司令長官とし、同時に軍港市街を倉梯村大字濱を中心とし市街計畫を立てたるに始まり、同三十五年十一月基盤型市街を完成、三十九年に倉梯村及び志樂村の一部を以て町制を布き之を新舞鶴と稱し、一方要港司令部・舞鶴工廠所在地たる中舞鶴は、はじめ餘内村の一部なりしが、軍港設置と共に人口頗る増加せるを以て遂に明治三十五年五月分離して餘部町と稱し、大正八年十月中舞鶴町と改稱し、この二町は軍港の隆替とその盛衰を共にせり。爾後海軍施設の擴張に伴ひ兩町の人口著しく増加し、また省線山陰・北陸兩線の連絡成りて益々發展の途を通り、大正十年には、二町の人口を合算すればまさに三萬に達するに至り。こゝに於て隣接せる村落をも合併して市制施行

米		東部	西部
計	八・一六五	六・一七〇	一・九九五
	六三三	七四三	七四三
	七、四一七		

の工業起り、將來はこの方面にも發展せんとしつづあるは慶すべきも、何れも小工業の範圍を出でず、未だ大工場建設を見るに至らず。上掲の表は舊新舞鶴・中舞鶴等の市街部を西部とし、農村型態を維持する舊倉梯・與保呂・志樂の三村を東部とし、その生産の状態を比較せしものなり(昭和十年調査)。次にこれに對し、市の東部即ち農村部に於ては與保呂川・志樂川の沿岸に水田よく發達し、丘陵地には桑園多く收穫少からず、次表は生業の對立を示す好資料なり。(金剛院) 志樂の鹿原にあり。眞言宗東寺派。鹿原

山と號し、天長六年眞如法親王の草創に係る。天安年中、文徳天皇水田五百五十町を賜ふ。爾來歷朝の崇信極めて厚かりき。いま寺境西南の山頂に眞如法親王の遺骨を埋むといふ據あり。堂宇中三重塔は三間三層、檜皮葺、室町時代の建立と推せられ現に國寶たり。寺寶中、藥師如来坐像(木造、藤原期作)・藥師十二神將像(鎌倉期作)外五點また何れも國寶たり。(興禪寺) 大字多聞院にあり。臨濟宗天龍寺派。護國山。俗稱、毘沙門堂。もと眞言宗を奉じ、七堂伽藍を具備せしむ。

ヒカシマキ 東益津村

靜岡縣駿河國志太郡の東部。靜岡市の西南に接し、西北は岡部町に、西南は瀬戸川河口を扼して焼津町に隣り、東は駿河灣に面す。北部・東北部は赤石山系の末端部高草山(五〇一米)等の山地あり。西南南部に瀬戸川の沖積平地あり。平野には水田多く米を産し、南面の傾斜地には茶の産多くまた石垣葛・蜜柑・枇杷等の栽培行はれ、海岸繁華は焼津町と共に主要なる漁業地にして製節の製造盛なり。その

ヒカシ—ヒカシ

他工業・畜産・林産等あり。海沿に一條の縣道あり、省線東海道本線また之と並走し、燒津驛に近くバスの便あり。村内に燒津航空燈臺あり。此地は和名抄、益頭郡物部郷の内なるべし。大字花澤は永祿年中、今川の被官小原肥前守鎮實の據りし所、元龜元年、武田氏に攻落さる。

ヒカシマスホ 東益穂村

能登國羽咋郡の北部。和名抄、羽咋郡荒木郷の内。富來町の北に接し、西南は日本海に面し、北は鳳至郡に界す。北部・東部は鳳至山地の一部百餘の丘陵起伏し西南に傾斜す。西南部に小河ありて多少の平地開け農耕行はれ、富來町との境にはまた低き丘陵あり。農業を主生業とし漁業、林業、養蠶等を副業とす。南北に貫通する縣道、東西に走りて海岸に沿ふ縣道あり富來町へバス通ず。〔富木八幡神社〕大字八幡に鎮座。神社、祭神、譽田別命外二神。社傳に天平勝寶二年の草創と傳ふるも詳ならず。例祭、十月十五日。

ヒカシマタ 東又村

高岡郡の南部。窪川町の東に接して東は土佐灣に臨む。北は上ノ加江町に界す。四周山地・丘陵起伏し南東境に六川山(五〇八米)そびゆ。中部には平地開け、河川西流して西方約二五軒にて四万十川の支流松葉川に合す。東境には山地迫りて岩石海岸をなし、東南部に冠岬突出し東北には中岬ありて、その南にある志和は漁港なり。水田よく拓けて米を産し、藪、

麥も多く胡瓜の産もあり、海岸は水産多し。縣道縱横に貫通し、海岸には土佐沿岸汽船寄港す。

ヒカシマツウラ 東松浦

〔東松浦郡〕佐賀縣八郡の一。肥前國の北部。松浦川の流域と東松浦半島及び沿海の島々を含み、北は唐津灣及び壹岐海峡に臨む。ほぼ中央に南北に長く連る唐津市々域によりて東西兩部に中斷さる。概ね丘陵性山地にて東南部一帯は山岳重疊し椿山(八六〇米)・作禮山(八八七米)・天山(一〇四六米)・三方山等群衆し之等山地の北に唐津灣に注ぐ玉島川の谷を隔てて羽金山(九〇〇米)・女嶽・浮岳山・十坊山等の脊振山脈東西に連りて東北境を限り、西部は唐津灣に迫る。東松浦半島は北方へ突出し其東に、脊振山脈との間に唐津灣を抱き、灣頭は東西の砂濱となりて松林多く松浦湯と言ひ、沿岸廣き平野開けて其西部に南方より流下し来る松浦川は郡内中部の水を集めて海に注ぎ、河口に唐津市發達して市街地をなす。松浦湯の東部には玉島川河口ありて、そこに濱崎町市街地あり。半島部は丘陵山地到るところ起伏して其間處々に平野盆地をつくる。海岸屈曲極めて複雑にして、東部に唐津灣ありて南部は唐津港をなし(唐津市の北部)其北に相賀崎突出し、北部には土器崎・友崎・波戸崎等あり、波戸崎の東に名古屋浦の南方へ深く切りこめる灣入あり。北岸に呼子港あり。西北部

には值賀崎・池崎・大崎等のびて假屋灣あり。附近島嶼多く北方に加唐島・松島・小川島・加部島、西北方に馬渡島、東部に神集島、唐津灣心に高島・大島等散在するをばじめ大小多数の島々散在す。平野は田畑よく發達し米、麥、繭等の農産多く山地は林産を出した竹林多く、海岸は水産業發達す。郡内炭礦に富み石炭を多く産出す。郡内は濱崎町・相知町・呼子町・佐志町の四町外十四ヶ村を含み人口密度は平均二〇一人なり。縣道四方へ走りて道路よく發達し、海岸を走りて東方福岡市へ向ふもの、東方小城市に入るもの、東南方小城市小町方面へ走るもの、西松浦郡伊萬里町へ走るもの、南方杵島郡武雄町へ延びるもの等ありて唐津市へ集中し、それより半島西北端呼子町へ出る縣道あり。省線唐津線は小城市より來りて中央を西北に走り松浦川に沿ひて唐津市に至り、途中山本驛より省線筑肥線を分ち北松浦湯湯に出でて之に沿ひ東方福岡市に至る。また山本驛より北松浦湯湯に向ふ支線ありて岸嶽に至る。本郡は明治十三年五月松浦郡を東西南北の四郡に分ちし時新設す。うち東西の松浦郡は佐賀縣に屬す。〔松浦(郡)〕

【東松浦半島】佐賀縣の北部より玄海灘に突出せる半島。西方は伊萬里灣・福島・豊島等によりて北松浦半島(長崎縣)と隔て、北方は玄海灘より玄崎島に對す。半島内は概ね丘陵性の山地にして、一定の系統をなしたる山脈は認め難し。主として淺海に發達したる第三紀層よりなるも、その後に於ける火山岩の噴出頻繁に繰返され、多くは地表に溢流して謂ゆる熔岩臺地を形成す。従つて平地は極めて少なし。またその第三紀層中には石炭を含み謂ゆる唐津炭田の名を以て知られ、殊に半島の東南部に於て著し。海岸は頗る屈曲に富み唐津港・呼子港等幾多の港湾を數ふ。産業中その最も盛大なるは漁業にして實に縣下第一とす。農産物として米・麥・大豆・甘藷等の最も知らるゝところにして、漁業・蠶業と共にその生産の主要部をなす。陸上交通は比較的不便にして僅に東南部に迂回する縣道通するに過ぎず。

ヒカシマツシマ 東松島炭礦

↓松島村(長崎縣)

ヒカシマツモト 東松本 奈良眞

宇智郡にありし村。大正四年本村ほか七箇村と合併して大正村を建つ。

ヒカシミズハシ 東水橋町

富山縣越中郡新川郡の西北部。上市川と白岩川の河口に扼され北は富山灣に面す。土地平坦肥沃にして水田開け海岸は砂濱をなす。しかし白岩川の河口を利用し對岸西水橋町と相俣つて縣内主要の港なり。海陸の交通便なれば商工業發達し富山市に亞ぐ實業製造地たり。その他清酒・製材・乾乾等の産あり。次いで漁業榮え、農産・蠶産また多少あり。北陸道に

沿ひ、縣道四通し富山驛へはバスの便あり。省線北陸本線は南部を貫通し水橋驛に近し。本町は北陸道の名驛にて、延喜兵部省式に既にその名見え水橋の驛路として交通上重要な地を占めたり。永祿年間、上杉謙信この地に出兵の際、水橋將監ここに城塞を築きしがのち上杉氏の領有となり、越後の兵水橋城に屯し守備す。豊臣氏の時に前田氏の所領となりしことあり。明治天皇、明治十一年、北陸東海御巡幸の際、此地に御小休あらせらる。〔水橋神社〕大字水橋東に鎮座。郷社。祭神、大山咋命。創建年次詳かならざるも、代々領主の崇敬淺からず、古來當郷の總社たり。例祭、六月四日。

ヒカシミスヒキ 東水引

鹿兒島縣薩摩郡にありし村。明治二十四年に水引村を東西に分けて置きしもの。昭和四年、東水引村ほか二村と合し川内町を置く。

ヒガシシミメ 東見初炭礦

山口縣宇部市の東南端部にあり。鎮區は登錄上五區に別れ總面積六五四萬餘坪、鎮區の地質は秩父古生層・第三紀層・第四紀層より成り、炭層は秩父古生層上に成れる第三紀中新統に屬する夾炭層とす。而して炭層は多数あるも大派を以て最厚とす。炭質は不粘結性にして灰分並に油煙、少し。昭和十年には塊炭一七〇、三九九噸、粉炭二二三、三三〇三噸、切込炭五四、三二四噸、粗炭二二九、四二六噸を出し

ヒガシシナト 東湊村

石川縣能登國鹿島郡の東部。和名抄、能登郡加島郷の内。七尾灣南側に臨み、七尾町の東に接す。東部・南部に二百米前後の丘陵連り西北北は邑知湯地帯の東北端に當り廣潤なる耕地開く。農業・養蠶を主とし米、繭を産し、海岸の聚落は主に漁業に従事す。七尾町より海岸に沿ひ縣道通す。省線七尾線七尾驛へ一軒餘。(白池温泉)皮膚病に特効あり。地は南に七尾城址のある城山を負ひ、北は七尾灣に接して風光よし。弘法大師の發見と傳へらる。(萬行神社) 大字萬行に鎮座。村社。祭神、息長足姫命・譽田別命・比咩大神等八柱。創立年代詳かならす。

ヒガシシナマタ 東水俣

省線山野西線の一驛(昭和九年設置)。熊本縣鹿兒島縣川邊郡にありし村。大正十二年枕崎町と改稱。

ヒガシシナミカタ 東南方

鹿兒島縣薩摩郡にありし村。大正十二年枕崎町と改稱。

ヒガシシノワ 東箕輪村

長野縣信濃國上伊那郡の北部。天龍川左岸に沿ひ、東北は諏訪郡に接す。東部・北部に

ヒガシミヤシタ 東宮下

埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年本村外六箇村を廢し、七里村を置く。

ヒガシミヤナガ 東宮水村

福岡縣筑後國山門郡の西部。柳河町の南に接し鹽原川の西岸に位して南は約二軒を距りて有明海あり。全村地形低平にして水田多し。道路四方へ通じ柳河町に接する爲交通便なり。

ヒガシムゲ 東武藝村

岐阜縣美濃國武儀郡の西部。武儀川に沿ふ。關町の西北方約八軒の地。北半部は五〇〇米前後の山岳起伏し、南境に低き丘陵横はり武儀川は南部を東南に貫流し、沿岸に狭き平地あり。山手は林業に、平地は米作・養蠶に精出し、和紙製造最も盛なる地方なり。東西・南北に通ずる縣道あり、省線越前線美濃町驛(約十二軒)。

ヒガシムラ 東村

肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に球磨郡東村郷あり、その地今の球磨郡免田町・上村・深田村の邊に當る。

ヒガシムラサキ 東紫

福岡縣企

救郡にありし村。明治四十年本村と城野村とを合し企救村を置き、大正六年町制施行、昭和十二年小倉市に編入す。

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕山形縣羽前國の東部。東は宮城縣、北は北村山郡、西は西村山郡、南は南村山郡及び山形市に隣接す。面積三二四・二五方軒。東境には北より面白山(一六四米)・南面白山(一一二五米)・小東嶽(一一三〇米)・湖ノ原山(一一八二米)あり西方に傾斜し、西部には島海山(五三二米)・東黒森山(七六六米)・白雲山(九八六米)あり東方に傾斜す。中央部は山形盆地にして、その西縁及び東縁は斷崖崖をなす。須川は盆地の西部を北流し、最上川に合す。山寺川は東境に發源し西流して須川に合す。その山地を占める部分は扇狀地をなす。最上川は西北境を北流し、東方より汎川・會津川等を合す。盆地一般に米の産多く村山米の名あり。東部扇狀地及び最上川沿岸には桑園ありて繭を産す。また麥・果實を産し、盆地の北部には草履表の製造行はれ、西部の長崎町・山邊町等には機械行はる。また天童町は將藹駒の産地として有名なり。羽州街道は郡の中央部を南北に通じバスの便あり。また天童町より東南に分岐し、山形市より東北に向ふものを合し二日峠を越えて宮城縣に入るもの、山形市より西北に分岐して郡の西部を西北に通ずるもの、郡の西部を南北に通ずるも

ヒカシ—ヒカシ

の等あり。羽州街道に並行して省線奥羽本線通じ天童・漆山等の驛あり。省線左澤線は山形市より西北に分岐し、羽前山邊・羽前長崎等の驛あり。本郡は明治十三年村山郡を東西南北の四郡に分けて新置、以て今日に至る。※村山(郡)

【東村山村】 東京府武蔵國北多摩郡の北部。狭山丘陵の東南麓を占め、北は埼玉縣入間郡に隣接す。西境に村山貯水池あり。西部は狭山丘陵の東端をなすも、他は武蔵野臺地の一部にして畑地多く、甘藷・小麦・大麦・米を産し、また養蠶盛にて繭の産多し。府道よく發達し、社線西武鐵道は東南より入り、中央を北走して久米用(昭和二年設置)・東村山(明治二十八年設置)の二驛を置き、村山貯水池へ支線を分ちて、村山貯水池前驛(昭和五年設置)を置く。また東村山驛より南走して省線中央總國分寺驛に至る同社線ありて、汽車の他にバスの便もあり。其他社線武蔵野鐵道は東北隅を掠めて西北に走り、秋津驛(大正六年設置)を置く。社線多摩湖鐵道の萩山驛(昭和三年設置)・武藏大和驛・村山貯水池驛(共に昭和十一年設置)あり。本村は近世、村山郷山口領の東偏たり。往時は武蔵七黨の一なる村山黨の根據地なり。明治十六年、明治天皇、飯能行幸の際この地に御野立あらせらる。大字久米用は上野より府中を経て鎌倉に通ずる街道に當る。元弘三年五月新田義貞鎌倉打入り時、十四日

鎌倉勢と入間川に戦つて克ち翌日またこの地に戦つてこれを破る(大平記)。今、久米用と野口の間に將軍塚と稱するものあり。往時の血戦場と傳ふ。(徳藏寺) 大字野口にあり。臨濟宗大徳寺派。福壽山と號す。東京市赤坂區福徳寺末。寛永年中、僧巖英及び方充、もとの寶經寺並に無量寺の遺址を再興して本寺及び永春庵を建つと傳へらる。板碑(石造)一基は國寶たり。(正福寺) 大字野口にあり。臨濟宗建長寺派。金剛山と號す。開山は心月禪師にして、開基は北條時頼なり。近世朱印十石を寄せらる。地藏堂は國寶たり。

ヒカシモノ 東牟婁郡 和歌山縣

(紀伊國) 七郡の一。縣の東南部。熊野川西岸に位して東南部は新宮市に接し、南は熊野灘に臨む。東は川を隔てて三重縣南牟婁郡なり。北は奈良縣吉野郡に界す。本郡は謂ゆる奥熊野地方にて山高く、窟深く殊に北部の奈良縣界及び西部西牟婁郡界は群峯連立して殆ど平地を見ず。即ち西北部は果無山脈の東部に屬する山地にして柘尾森山(九二五米)・百前森山・要書ノ森山等聳ゆ。中央部一帯は那智山脈廣く踏み西境に屹立つる最高峯大塔山(二二三二米)をばはじめ郷山・赤倉岳・大倉畑山・高尾山・大森山・笠置山・那智山・大雲取山・小雲取山一帶の山地等の高峯峻嶺聳立す。東北方より来る北山用は東境に沿ひて南下し、奈良縣より來

ヒカシモノ 東八代郡 山梨縣

る十津川は北部中央を約八軒南流し、それより東流して東北境に出て北山川と合流して熊野川となり、和田川初め略々東北流する幾多の支流を集めて郡境に沿ひ東南に流れ下流は新宮市東境より熊野灘に注ぐ。西南部には古座川ありて南下し中流以下は東流し南下する支流を集めて南部古座町にて海に入る。熊野川・古座川の間には東南流する那智川・太田川等あり。東北方には北山川の右岸に沿ひ當郡に有名な遊八丁の勝地あり、その西南部河岸に有名な遊八丁の勝地あり、海沿は風曲多く胸ヶ崎・笹ノ栗崎・燈明崎・梶取崎(燈臺あり)・耳ノ鼻・蕨戸崎等の突出ありて勝浦・古座等の好勝地あり。西南方海上には大島浮かびて西方西牟婁郡の湖岬と對す。大島の東岸に、熊野崎の燈臺あり。海岸所々に鐵泉あり。農産・水産等あれど謂ゆる木ノ國にして林産最著し。國有林もあり。郡内は那智町・勝浦町・下里町・太地町・古座町・西向町・高池町の七町外二十一箇村を含む、人口密度は平均六〇人にて最低は小川村の一四人多きを算す。海岸に沿ひ熊野街道通じ、西南部には古座川に沿ひて走る古座街道あり。西北部には熊野街道中邊路ありて田邊町方面に通じ、北方奈良縣に至る縣道もあり。東南部には那智登山路あり。省線紀勢中線海岸に沿ひて通過す。牟婁郡は明治の始め頃より分して東部は三

ヒカシモノ 東門前 埼玉縣

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

ヒカシモノ 東八代郡 山梨縣

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

る十津川は北部中央を約八軒南流し、それより東流して東北境に出て北山川と合流して熊野川となり、和田川初め略々東北流する幾多の支流を集めて郡境に沿ひ東南に流れ下流は新宮市東境より熊野灘に注ぐ。西南部には古座川ありて南下し中流以下は東流し南下する支流を集めて南部古座町にて海に入る。熊野川・古座川の間には東南流する那智川・太田川等あり。東北方には北山川の右岸に沿ひ當郡に有名な遊八丁の勝地あり、その西南部河岸に有名な遊八丁の勝地あり、海沿は風曲多く胸ヶ崎・笹ノ栗崎・燈明崎・梶取崎(燈臺あり)・耳ノ鼻・蕨戸崎等の突出ありて勝浦・古座等の好勝地あり。西南方海上には大島浮かびて西方西牟婁郡の湖岬と對す。大島の東岸に、熊野崎の燈臺あり。海岸所々に鐵泉あり。農産・水産等あれど謂ゆる木ノ國にして林産最著し。國有林もあり。郡内は那智町・勝浦町・下里町・太地町・古座町・西向町・高池町の七町外二十一箇村を含む、人口密度は平均六〇人にて最低は小川村の一四人多きを算す。海岸に沿ひ熊野街道通じ、西南部には古座川に沿ひて走る古座街道あり。西北部には熊野街道中邊路ありて田邊町方面に通じ、北方奈良縣に至る縣道もあり。東南部には那智登山路あり。省線紀勢中線海岸に沿ひて通過す。牟婁郡は明治の始め頃より分して東部は三

ヒカシモノ 東室蘭 室蘭本

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

ヒカシモノ 東山梨郡 山梨縣

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

ヒカシモノ 東八代郡 山梨縣

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

ヒカシモノ 東八代郡 山梨縣

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

ヒカシモノ 東八代郡 山梨縣

に於て利根川の北岸にあり。南は川を隔てて千葉縣印旛郡の一部と相對す。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に大豆および小麦を産す。縣道は布用町及び北方稻敷郡龍ヶ崎町に通じ、龍ヶ崎町へはバスの便あり。この地は近世文間庄に屬す。※文間村

ヒカシモノ 東八代郡 山梨縣

(六九五米)屹立す。中央には東南隅に發する形ありて西北流し、山國川に合す。川に沿ひて稍々耕地發達す。農産最も多く、米・麥・蔬菜・花卉・果實等を出し畜産之に次ぎ工産・水産もあり。山國川に沿ひて縣道走り中津市へバスの便あり。同じく北部には社線耶馬溪鐵道通過して洞門驛(大正二年設置)・羅漢寺驛(大正三年設置)あり。この地古くは和名抄、下毛郡山國郷の内にして、もと東城井村と稱せしが、大正十五年東耶馬溪村と改稱す。

ヒガシヤマバセ 東八橋 省線山陰本線の一驛。鳥取縣東伯郡八橋町大字徳萬にあり。昭和十三年八月舊八橋驛を現名に改む。

ヒガシヤマ 東山

【東山村】 福島縣岩代國北會津郡の中部若松市の東南に隣り、南は岩瀬郡に接す。地形西北より東南に長く約一八軒あり。南境に安藤峠(一〇二七米)、東境には北より羽黒山(六四六米)・脊中岬山・大高山(八〇八米)、西境には吹矢山(八二〇米)・菅野山(八七六米)・高嶺山(九三三米)あり、湯川は南境に發源し、村の路中央部を西北に流る。村の西北部には平坦地あり。東山温泉は湯川に沿ひて村の北部にあり。米・葉煙草・蕎麥等を産す。道路は村の西部を南北に通じ、若松市へはバスの便あり。往昔、黒川(若松城)の東方の山嶺を東山と呼べるより

【東山村】 徳島縣阿波國麻植郡の東北部。川島町の南に接し、南及び東は名西郡に界す。北・東・南の三面山嶺を以て圍まれ、東部に發する河川中央を西流するも沿岸低地を見ず。麥・蕎麥を産し、米の僅少な産あり。東北部は東山嶺山の鐵礦の一部にして、含銅硫化鐵礦を出す。谷によりて西方に出づる道路あれど、交通概して不便なり。

【東山村】 徳島縣麻植郡東山村・西尾村・森山村・名西郡阿野村に跨る重要鐵山。鐵區八〇萬餘坪にて鐵種は銅・硫化鐵なり。鐵區は徳島本線阿波川島驛の南方約四軒、東山に存して標高約三三〇米の地點とす。地質は綠泥片岩・石墨片岩・絹雲母片岩・紅簾片岩の五層より成り、鐵床は綠泥片岩中に介する二條の含銅硫化鐵床を主とし、母岩とその層位を同じうす、而してうち一條は紅簾片岩の上層數尺に、他の一條は下層數尺の所に存す。随伴鐵物としては石英最も多く折々磁鐵礦を伴ふ。昭和十年には含銅硫化鐵五、九四五噸、銅鐵三、三二二噸、沈澱銅六七噸を出し、同年六月末の使役鐵夫二七二人とす。なほ銅鐵及び含銅硫化鐵中の銅分は、佐賀關製鐵所に送附して合併製鍊す。本鐵山はもと太郎鐵山・五郎鐵山の二に分れ居り、何れも元祿年

村名となりしもの。(東山温泉)湯川に臨みて湧出。泉質、無色透明鹽類泉。いまより約一千二百年前修行基の發見と傳ふ。四面殆ど翠巒に圍繞され、西の一方のみ纔に開き湯川の溪流湯本の中央を貫流し、風光の美を恣にする。古來有名なる温泉にして、羽前の湯野濱・上ノ山と共に奥羽三樂郷の一として著名なり。(湯上神社) 郷社。祭神、倉稻魂命。別稱、湯上羽黒神社。例祭、九月三日。

【東山村】 新潟縣越後國古志郡の西南部。長岡市の南約一二軒、西南は北魚沼郡に境す。北境に金倉山(五八一米)および南部に四三四米の山あり。その他村内諸處に二百―四百米の山起りて概ね山地をなす。芋川東端を南流して信濃川に入り、北部にまた小流西流して信濃川に合す。耕地はこの兩川沿岸及び諸處に點在せる谷合に發達するも、産物見るべきものなく、僅に米・蕎麥を出す。省線山越線越後川口驛(北魚沼郡川口村)に出づるを最も便とす。

【東山油田】 越後(新潟)油田五區域中の一。新潟縣古志郡にありて凡そ荷頃・山本・柄吉・竹澤・上北谷・北谷の諸村に跨る。長岡市を去る東方約八軒、南北に縱走する謂ゆる東山(標高約三〇〇米)にある油田にして、地質構造は南北に近き一條背斜綫にて、西翼の傾斜は頗る急、東翼は反對に頗る緩なり、而して出油區域は此軸に沿うて發展す。地質は背斜軸間の發見に係り、神領鐵山と共に阿波の三大鐵山として盛大なりしものとす。明治維新前後には廢坑となりしが明治初期再び事業を開始し、現在は日本鐵業會社の經營たり。

【東山村】 高知縣土佐國幡多郡の中央東偏。中村町の東北に接し、東南は約二軒餘にて土佐灣岸に出づ。東北境に石見寺山(四一〇米)ありて中部及び北部は其傾斜地をなす。東南部にも小丘陵あり。西境に沿ひて北方より來る渡川南下し、中央にて西北方より來る岩田川を入れて中村町との間を東南流し、南隅に於て中村町の南境を東南流する四方十川に合す。沿岸に低地發達す。米・蕎麥の産あり。河岸に縣道走り、四方より縣道集中せる中村町に接して交通の便よく、南部より東北方へ向ふ縣道もあり。村内に岩本鐵泉あり、泉質炭酸泉、加熱浴用。大字安並は一條家の家老安並氏の居りし處。

【東山村】 福岡縣筑後國山門郡の東北隅。筑後川の南岸に沿ひ瀬高町の東に接し北及び東は八女郡に界す。東南境に清水山(三五一米)聳え東南部は其斜面地をなすも其他は筑紫平野の一部に屬する平坦地にて北境に沿ひて筑後川西流す。水田よく拓け米産多く麥・蕎麥の産もあり。中央を東西に貫く縣道あり。西南部に社線九州肥筑鐵道通過して本吉驛(大正九年設置)あり。西方約〇・五軒たらずに省線鹿兒島本線矢部川驛あり。(女山神社)石

の中心に椎谷層露出し、周圍に牛ヶ首層露出す。本油帯の背斜層の主要部分を構成する地質は砂岩と頁岩との互層なるが油層は椎谷層中の砂岩にして、油井の深度は五〇―六〇〇米なり。(沿革) 古へ此地方にては草生水(臭水の意)の名を以て稱ばれ地上に洩出し居たりき、今の山本村大字浦瀬の字に腐澤あり、これ等も石油に緣ある名とす。越後七不思議の隨一なりし燃ゆる水は勿論石油にして、燃ゆる土と云はればアスファルトなるべく、天然瓦斯も出て竹管などにより導きて燃料に利用されたるが明治維新前後より採油を試むるもの出でたり。されど企業的になりしは明治二十一年今の山本村大字浦瀬字腐澤の地に手掘井より多量の出油を見たる以後のこととす。次で同二十六年今の山本村大字加津保澤の地にて之も手掘井より日産數百石といふ噴油を見るに及び愈々急速の發展を遂げたるが、同四十年頃を以て最盛時とすべし。(なほ茲に特筆すべきは、本邦に於て最も多くの手掘井を見たるは本油田にして手掘井は現在なほ多く存す) 其後本油田は一帶に非常に發達したれども諸鐵山中の東山鐵山のみは今も重要鐵山に屬し、昭和十年には原油一二、一六五軒、瓦斯一、一〇二軒、粗製揮發油二七二軒を出し、この總價額五一萬餘圓とす。なほ同年六月末の使役鐵夫一八三人にして、精製は桶時製油所にて行ふ。この東山鐵山

清水寺の西北にあり。石疊が清水山女山の西麓より上りて山頂に掛けて繞り、平面菱形を呈し、四箇の谷を過りて水門四箇所に存す。雷山・高良山等のものと同様に、上代の一種の城砦の址なるべし。

【諏訪神社】 大字本吉に鎮座。郷社。祭神武御名方神。神功皇后、當郡大塚里に土蜘蛛田津津姫征伐の時諏訪神を祀り、守護を請ひ給へるに起るといふ。領主立花氏崇事す。例祭二月四日・八月廿四日。

【清水寺】 大字本吉にあり。天台宗。本吉山。九州西國三十三所第十六番札所たり。大同元年最澄の開創と傳ふ。のち圓仁來りて堂塔伽藍を増築し、其規模洛東の清水寺に擬す。天正中兵火に罹りしを、寶永三年柳川城主立花左近將監伽藍を再建し、寺領三百六十石を附して祈願所となす。寺域清水山の麓にありて風致に富み二十有餘の堂宇輪奐の美を競ふ。

【清水寺本坊庭園】 指定名勝。元祿年間の作といひ、築造年代明かならざるも、明治初年多少の廢損ありしのみにて舊態を存す。三方岡陵を以て包まれ、後方は臺地の下に池を設け、右方遙に瀨瀑を望み、左方近く直瀑あり。池畔の島嶼に石を配し松樹・楓樹あり、山に倚りて清涼なる泉水庭をなす。

【東山】 阿里山嶺の一驛(昭和七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡番地東山にあり。

【ヒガシヤマカ】 東山香村 大分縣豐後國遠見郡の東北部、杵築町の西約七

は日本石油會社の經營なるも、東山油田に於ける其他多くの石油鐵山も日本石油の經營なり。東山鐵山の外に宮路・北嶺・日勝・乙吉・竹澤などの諸鐵山あれど何れも振はす。

【東山村】 靜岡縣遠江國小笠郡の東北部。掛川町の東北約八軒、東は藤原郡金谷町に接す。北境に粟ヶ岳(無間山)聳えて南方に傾斜し、村内概ね山地を成す。逆川は北部山地に發源して南流し、その沿岸に部落及び耕地發達す。地形上産業見るべきものなきも茶の産最も多く、米・麥の産これに次ぐ。南隣日坂村に出づれば縣道走り金谷町及び掛川町にバスの便あり。この地は和名抄、佐野郡日根郷の内にして、中世は小高御厨に屬せし地なり。

【東山】 愛知縣愛知郡にありし村。大正十年名古屋市中に編入さる。

【東山】 ↓京都市(二一九五頁)

【東山村】 奈良縣大和國添上郡の東部。奈良市の東方約四軒にて南は山邊郡に界す。全村山地をなし東南境に神野山(六一九米)あり。西南境は六五二米の高さを有する山地なり。中部には南方より來る布日川村を北に貫きて流水約一軒北方にて木津川に合す。米・蕎麥の農産を主とし林産之に次ぎ外に工産あり。東部を笠置街道縱走し、之より分れて西方奈良市へ向ふ道路もあり、各バスの便あり。この地は和名抄、語上郡櫻生郷の内

【ヒガシヤマグチ】 東山口村 靜岡縣遠江國小笠郡の東部。逆川に沿ひ、掛川町の東方約三軒。北部及び東南部に二〇〇米臺の丘陵連りて村内に傾斜し略中央を逆川西南に貫流し、沿岸に多少の平地あり。農業を主生業とし、米・茶を産する外、牧畜・養蠶・工業等多少行はる。谷沿の國道は東海道の一部にして聚落は街村をなし、掛川町へバス通す。この地に和名抄、佐野郡山口郷の内にして、中世

ヒカシ—ヒカシ

には小高御厨に屬せしものなり。明治天皇、明治元年東京行幸の際及び同二年東京御再行の際、この地に御小休あらせらる。〔八幡神社〕大字八坂に鎮座。縣社。祭神、息長足姫姫外二神。社記に大同二年、或は延暦二年に、坂上田村麿勅を奉じて再興すと見ゆ。式内小社。例祭、九月十五日。

ヒガシヤマシロ 東山代村

佐賀縣肥前國西松浦郡の西部。伊萬里灣西岸を占め對岸は伊萬里町なり。北は山代町に接し、西は北松浦郡に界す。南境に國見山をめぐりて南部一帯に山麓がかり山腹に鳥帽子山・大通山等あり。西北部にも約五〇〇米餘の連山、西北より東南に連る。兩山地の間には西北部に西北流する志佐川ありて北松浦郡に出づ。東部伊萬里灣岸には平野開け米・麥・藁等の農産物を産す。東岸に縣道及び省線伊萬里線走りて東山代驛(明治三十一年設置)あり。又バスの便あり。この地に松浦黨の一家居り山代氏を稱し山代又三郎榮、弘安家古の役に、壹岐に出戰す。(大久保炭礦)東山代村と山代町とに跨る重要鐵山。鐵礦三五萬餘坪にして昭和十年には塊炭五、〇一二〇、粗炭一六、三五六〇(の總價約十二萬圓)を出し、同年六月末の使役鐵夫二一人とす。鐵山名は東山代村の大字大久保・東山代保、山代町の大字西大久保を含む汎稱大久保に因めしものとす。

ヒガシヤマナシ 東山梨郡

山梨縣南部の北部。山梨縣九郡の一。北は關東山脈の諸峰を境に埼玉縣武蔵國秩父郡・長野縣信濃國南佐久郡に接し、東は大菩薩嶺・小金澤山等を以て北都留郡・南は信吹川の一支部川により東八代郡、西は中野郡・山梨縣南都及び甲府市に界す。面積五三七・一三方町。東・北・西の三境界は何れも一〇〇米より二五〇〇米に及ぶ山脈連なり、略中央を南流する信吹川の谷を抱き、南部日川との合成による扇狀地開け甲府盆地の一部をなす。山地は概ね森林繁茂し、木材・薪炭等の林産物に富む外、東部山地よりは花崗岩・石灰岩等の石材を出し、鹽山町は其中心地なり。また南斜面・西斜面をなす山裾の一帶は葡萄栽培に適し、甲州葡萄の大部分は本郡に産す。勝沼町はその積出地なり。南部の扇狀地帯は桑園多く蠶桑・製糸業盛にして、日下部・加納岩・鹽山の各町はいづれもその中心地をなす。その他米・麥の農産物あり、信吹川・日川の上流は主要なる發電地帯をなす。省線中央本線は南部低地の周邊を山麓に沿うて通じ、東南隅飯子隧道を経て北都留郡に入る。石和・初鹿野間五驛を置く。主要縣道は信吹川に沿ふ秩父往還を初め、日川に沿ふ縣道、鹽山町より重川に沿ひて北上し多摩川の上流に通ずる青梅街道の一部等その他平地部に縱横に走り、バスの便よし。郡内日下部・勝沼・加納岩・

鹽山町外二十五箇村を含む。本郡は明治十三年五月、新置せるもの。

ヒガシヤマミ 東山見村

富山縣越中國東礪波郡の東部。庄川に沿ふ。井波町の東に接し西は山脈を境に婦負郡に界す。村内山林に富み、南より来る庄川村内にて西へ曲流し西北に流る。西北部河岸に耕地あり米作行はる。ほぼ中央に東洋に誇る小牧の大ダムあり、上流祖山へ舟楫の便あり。ダムに近く湯山の温泉も湧出す。山村は養蠶・林業に従事し西北部には、農耕を主生業とするものあり。青島町・井波町へは社線加越鐵道の便あり、之より小牧坂までは貨物線により交通し、バスの便もあり。(湯谷温泉)庄川の急流に臨む。泉質、無色透明の鹽化土類含有泉。(鳥越鐵泉)泉質は遊離半結合及び結合炭酸。

ヒガシユキ 東結城

水戸縣の驛名。結城驛・川島驛の間に位置し茨城縣結城郡結城町大字結城にあり。昭和十二年十二月一日設置。

ヒガシユノ 東湯野村

福島縣代國伊達郡の西部。南は信夫郡に接し、瀬上町の西北二町。面積二・六七方町。地勢西北部に高き外概ね平坦にして福島盆地に屬す。南境を摺上川東流す。米・藁の産あり。道路は北部を東西に通じ、西方飯坂町へはバスの便あり。社線福島電鐵東湯野驛を置く。本村は明治三十四年湯野村より分立せるもの。

ヒガシヨカ 東與賀村

佐賀縣肥前國佐賀郡の南部。佐賀市の南方約二軒にあり有明海北岸に臨む。地形極めて低平にて周圍河川を以て繞らされ、東境に南流するは八田江にて、之より東北境にて分水及び西北境を流れて海に注ぐ分岐あり。地形平坦肥沃なる爲水田廣く米の産多し。外に麥・藁の産もあり。佐賀市へバスの便あり。この地は和名抄、佐賀郡城崎郷の内なるべく、近世は與賀庄に屬し、寛正年間に今川伊豫守胤秋の地を領せり。大字飯盛に龍造寺氏の館址あり、鎮西要略に文明十四年、少貳政資肥前與賀城を築くとあり、これも飯盛の館のことなるべし。

ヒガシヨコノ 東横野村

群馬縣上野國碓氷郡の東南部。和名抄碓氷郡郷の内。磯部町の南隣にて南は北甘樂郡の一部と隣す。全村低き山地をなし、北方に傾斜し山裾に耕地ありて米・麥を産し、養蠶盛にして藁の産多し。縣道は磯部町及び東北岡安中町に通じ、磯部町の省線信越鐵道磯部驛、安中町の同線安中驛に達からず。

ヒガシヨコヤマ 東横山

大阪府泉北郡にありし村。明治三十六年西横山村と合併して横山村を立つ。

ヒガシヨシトミ 東吉富村

福岡縣豐前國築上郡の東部。山國川を挟みて中津市の西に隣り周防灘に臨む。中津平野の一部なる爲地形極めて平坦にして東

境に山國川、西部には佐井川それぞれ北流して海に入る。地味肥沃にして米の産多し。日向街道及び省線日豊線中部を横斷し中津驛は東方約一・六軒にてバスの便よく交通は凡て中津市による。また水運の便よし。本村は中世、吉富郷と稱せし地にして、海岸は古來吹出濱と稱し歌枕の名所なり。夫木・二五・秋の夜はさそ妻からし浦風の吹出の濱の千鳥鳴くなり 鷹司院師 大字廣津に城址あり。天慶年間源經基この國の守護たりし時築きし三城の一といふ。大字小丸丸は天正年中、中津城主黒田長政、城井城主宇都宮礦房を誘殺せし處とす。(八幡古表神社)大字小丸丸に鎮座。縣社。祭神、息長帶姫命・虚空津比賣命。欽明天皇御宇の創建といひ、初め息長大神宮と稱す。國寶女神騎牛像(木造)一軀。例祭、九月二十一日。(鈴熊寺)大字鈴熊にあり。古義眞言宗。高野山金剛峯寺直末、天平六年行基の開創に係り、中古七堂伽藍完備し塔頭六坊ありしも、天正中大夫宗麟の兵火に罹りてより寺勢頓に衰ふ。國寶、本尊薬師如来坐像(木造)一軀。

ヒガシヨシシ 東吉見村

埼玉縣武蔵國比企郡の東部。松山町の東方約五軒にて荒川の西岸にあり。東は川を隔てて北足立郡と相對す。全村平地にして米麥を産し、また養蠶盛にして藁の産額大なり。松山町及び北足立郡鴻巣町に縣道を通じ何れも自動車便あり。鴻巣

町には省線高崎線鴻巣驛、松山町には社線東武鐵道東上線武州松山驛を置く。此地は和名抄、横見郡餘戶郷の内なりと稱せられ、東鑑に寛喜二年、横見庄内新野新開とあるも此地なるべし。

ヒガシロクゴ 東六郷

大阪府中河内郡にありし村。昭和六年西六郷村・北江村と合併して府津村を立つ。

ヒガシワカ 東和賀

石川縣珠洲郡にありし村。明治四十一年西若山村と合し若山村をなす。

ヒガシワカヤマ 東和歌山

省線紀勢西線の一驛(大正十三年設置)にして社線と歌山鐵道に接せし。和歌山市太田にあり。

ヒガシワサタ 東植田村

大分縣豊後國大分郡の中部。北部は大分川を距てて大分市に接す。南大半は山地をなし北方は傾斜地なり。西南部に雲山(五九六米)聳ゆ。西北境に沿ひて河川東北流し、北境を東北流する大分川に合す。沿岸低地廣くして田畑よく拓く。米・麥の産あり、山地は薪炭を供す。東部を日向街道縱斷しまた省線日豊本線走りて瀧尾驛へは東北約一・五軒、中判田驛へは東南約二軒なり。此地は和名抄、大分郡植田郷の内にて、弘安國田帳に「植田庄三百三十五町三段、領家大納言二位御局」とある地なり。(西塞多神社) 大字塞田に鎮座。國幣中社。祭神、西塞多神。社

ヒガシツツカ 東和東村

京都府山城國相樂郡の北部。布宮川の上流に跨り、東南隅は笠置町の北隅との間に約〇・五軒を隔つ。西北は綴喜郡に界す。東南・西北兩部は山地をなし、東南境には三ヶ岳(六一八米)、西北境には鷲峰山(六八五米)聳え、それぞれ中央へ傾斜面をなす。中部には布宮川西南流し約五軒西南方にて木津川に合す。沿岸は低地開く。米・麥・茶の産多くまた食用農産もあり、山地は林産物豊かなり。河谷に沿ひて縣道

傳に應神天皇九年武内宿禰筑紫下向の御勅に依りて西塞多山上に社祠を營みしをその創祀となす。式内名神大社に列し豊後五社の首班として當國一の宮たり。社頭輪奐の美積年に備はりその景観國內に冠たり。例祭、四月十五日。(高瀬石佛)指定史蹟。大字高瀬にあり。七瀬川の南岸に臨む凝灰岩の低き丘陵端に、水面より約三米の所に、高さ約二米、幅四米の龜洞を開き、中央に圓形に近き手法にて刻り出せし大日如來坐像あり。向つて右側に如意輪觀音、次に馬頭觀音の各坐像を、また向つて左側に大成徳明王坐像および深沙大將立像を、いづれも高彫におよび深沙大將立像を、いづれも高彫に近き半肉彫にて表はす。この龜の右方三米に長方形の小龕ありて、古式造像の形式を示せる一椀三尊の蓮座上に三尊佛を浮彫せしものあり。石佛は仁聞菩薩の作と傳ふるも、平安時代の造像ならん。なほ附近に横穴存す。

ヒガシツツカ 東和東村

京都府山城國相樂郡の北部。布宮川の上流に跨り、東南隅は笠置町の北隅との間に約〇・五軒を隔つ。西北は綴喜郡に界す。東南・西北兩部は山地をなし、東南境には三ヶ岳(六一八米)、西北境には鷲峰山(六八五米)聳え、それぞれ中央へ傾斜面をなす。中部には布宮川西南流し約五軒西南方にて木津川に合す。沿岸は低地開く。米・麥・茶の産多くまた食用農産もあり、山地は林産物豊かなり。河谷に沿ひて縣道

ヒガシツツカ 東和東村

京都府山城國相樂郡の北部。布宮川の上流に跨り、東南隅は笠置町の北隅との間に約〇・五軒を隔つ。西北は綴喜郡に界す。東南・西北兩部は山地をなし、東南境には三ヶ岳(六一八米)、西北境には鷲峰山(六八五米)聳え、それぞれ中央へ傾斜面をなす。中部には布宮川西南流し約五軒西南方にて木津川に合す。沿岸は低地開く。米・麥・茶の産多くまた食用農産もあり、山地は林産物豊かなり。河谷に沿ひて縣道

通するも交通不便なり。中和東村・西和東村と共に中世は和東莊と呼びし處。鷲峰山の金胎寺は後醍醐天皇の聖蹟あるを以て名高し。(天満宮) 大字園に鎮座。郷社。祭神、菅原道眞。創立年代詳かならず。例祭、十一月二十八日。(金胎寺境内) 指定史蹟。寺は白鳳年間役小角の開創に係り、泰澄再び修造を開きて講堂を建立せりと稱し修造道の靈場たり。元弘元年八月二十六日、後醍醐天皇奈良より此地に潜幸ありしが、山深く里遠くして大兵を蓄むるに不便なるを以て、翌日更に笠置山に向はせられたり。

ヒガタ 干潟

徳武本線の一驛(明治三十一年設置)。千葉縣海上郡旭町にあり。附近は干潟八萬石と稱して寛文年間椿湖を干拓して得たる新田。 ※椿新田

ヒカタ 日方

和歌山縣海草郡にありし町。昭和九年黒江町・内海町及び大野村と共に海南市を立つ。

ヒカタ 日方

筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に御原郡日方郷あり、その地今の三井郡立石村・三國村の邊に當る。

ヒカタ 日形村

岩手縣陸中國西磐井郡の東端、一關町の東南約一五軒に位置し、東境を劃する北上川を距てて東勢井郡黄海村と相對す。村は不規則なる倒三角形をなし、面積一二・五方町。西境に最高一四〇〇米の丘陵長く連り、北部にも五〇一〇〇米の丘陵起伏し、中部に稍

ヒカシ—ヒカタ

廣き氾濫原あり、なほ北境には北上川の... 小支瀨脇川東流す。耕地は主として前記... 氾濫原に發達するも雨期には屢々河水浸... 入す。農業・養蠶業行はれ、米(三千石)...

ヒカタニ

日ヶ谷村 京都府丹後國

與謝郡の北部。與謝半島の東北部を占め... 東は一軒餘にて日本海岸に出づ。全村低... き山地をなし中部に小河南流し麓老村を...

ヒカタマチ

日方町 省線紀勢西線

の一驛(大正十三年設置)にして社稷野上... 電鐵に接続す。和歌山縣海南市日方町名... 高にあり。

ヒカチ

日勝村 埼玉郡武蔵國南埼玉郡

玉郡の中部。久喜町の南方にて岩槻町と... の中間にあり。全村平地にて農業行はれ...

ヒカワ

氷川 東京府武蔵國西多摩郡

【氷川村】 東京府武蔵國西多摩郡の西北... 部。多摩川上流に沿ふ大村。北は埼玉縣... 秩父郡大瀧・中川・浦山の三村に隣す。關...

便なり。此地はもと栗原筋に屬し。上栗... 原・下栗原はその遺稱なるべし。明治十... 三年、明治天皇山梨三重及び京都行幸の...

米・麥・蕎を産す。縣道は久喜町・岩槻... 町及び東方北葛飾郡杉戸町に通じ、また... 西隣篠津村には省線東北本線白岡驛あり...

ヒガナ

氷鉈 信濃國(長野縣)の古地名

和名抄に更級郡氷鉈郷あり、比加奈... と訓す。その地今の更級郡青木島村・川...

ヒガネ

日金山 十國峠(静岡縣)

【氷上郡】 兵庫縣二十五郡の一。丹波國... の東部。福知山市の南に接して佐治川上...

ヒカミ

氷上 兵庫縣

ありて之に合す。篠山川の南は老坂山脈... 西端の山地に屬し南境に白雲嶽(七二二... 米)聳ゆ。東中の竹田川は東境中央に發...

ヒキ

日岐 廣津村(長野縣北安曇郡)

え沿岸は水淺く干潟地にして船舶の出入... 不便なるも開拓して鹽田となし或は干拓... に適する所少からず。住民は農業を主と...

ヒキ

日置 石川縣

【日置】 石川縣珠洲郡にありし村。明治... 四十年本村外二村を廢し西海岸を置く。...

ヒキ

日置 和歌山縣

【日置町】 和歌山縣紀伊國西牟婁郡の南... 西部海岸。日置川河口に跨り東は周參見...

にて良港たるを得ず、低地乏しく河岸僅... に平地を見る。米・蕎・柑橘等の農産の外... 水産・畜産・工業等あれど山地廣き爲林産...

ヒキ

比木村 静岡縣

【日置川】 和歌山縣西牟婁郡の東部にあ... る川。奈良縣境果無山脈の南側斜面に發...

は茶園よく拓けて茶の産多し。此地は聖名抄、城河郡朝夷郡の内にして、中世は比較庄と稱し上賀茂領たりし由、東寺書に見ゆ。幣岐君の裔孫の居住せし地か。

ヒキ 比企郡 埼玉縣九郡の一。武蔵國の中部。荒川の西岸にて、東は北足立郡、北は大里郡、西は秩父郡、南は入間郡と隣す。西部は關東山脈に續き低き山地をなし、森林多く林産あり。中部より東部にかけては平地開け、東境を荒川南流し、南境を東流する越邊川は郡の東南隅にて荒川に合流す。その他にも支流多く中部は畑地、東部は水田をなし、農業盛にして米麥の産多し、また一般に養蠶盛にして繭の産多く其他生糸・絹織物の製造も盛なり。縣道よく發達し、また社線東武鐵道東上線は南方入間郡より來り、郡の中央の松山町より西折して走り、省線八高線また西部を北走す。郡内に松山、小川の二町外二十六箇村を含む。和名抄は比岐と註し郡家・渭後・都家・鹹瀬の四郷を管す。名稱は低地の意ならんといふ。明治二十九年四月一部を入間郡に移し、横見郡を併せて今日に至る。

ヒキ 箕箕島 關東州普蘭店民政署管下老爺廟會の一屬島。北岸を去る約一軒に浮び、南北約二軒、東西一軒内外を有す。最高處は五八米にして東西に巾狭き低地あるも定住者なし。

ヒキウマ 引馬峠 那須火山帶帝釋山脈を南北に縱斷する交通路の一。栃木山地よりは楮・山葵を出す。街道はほぼ匹見川に沿ひ益田町にパス通ず。匹見上村と共にとも匹見と呼ばれし處。

ヒキメ——ヒクマ

縣邊谷郡栗山村より福島縣南會津郡檜枝岐村に越し、最高點一八九六米を算す。北東稜に臺倉高山(二〇六七米)・帝釋山(二〇六〇米)連り、南西稜に孫兵衛山(二〇六四米)・黒岩山(二一六三米)續く。南東路は降つて鬼怒川の畔、川俣温泉の下流に至り、北西路は檜枝岐川上支に沿ひて降り、ついで麒麟手下流なる本流との合流點に達す。

ヒキエ 日置江村 岐阜縣美濃國稻葉郡の西南部。長良川左岸に沿ひ岐阜市の西南方凡四軒。西は川を隔て、安八郡黒保町及び本巢郡に接す。土地平坦にして肥沃なる水田開く。農業を主生業とし米を産す。岐阜市より大垣市へ至る國道村内を貫通し、笠松町へは縣道を分岐しパスの便あり、岐阜・大垣へもバス・自動車(のり)あり。(日置江神社)大字日置江に鎮座。郷社。祭神、火雷神・豊受大神。社傳に往古山城國乙訓郡にまず火雷神社を分靈勧請すと云ふ。例祭、十月十七日。

ヒキタ 匹太 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に邑樂郡匹太郷あり、比支太と訓す。その地いま邑樂郡海老瀬川の邊に當る。

ヒキタ 曳田 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に八上郡曳田郷あり、その地面積三四・七平方軒、西端に二五五米、東端に一六四米の山麓ゆる他は概して平坦にして、西南岸及び東北岸の一部を除き他は砂濱海岸をなす。耕地能く發達し米・大麥・豆類・棉花等を産し、また北岸には鹽田ひろく。道路は發達極めて後れ、島輪に並走せる三等道路のほかは若しきものなく、南端の水大里に渡船場ありて都草島と連絡す。西方海上の七發島には燈臺ありて航海上の好標識を爲す。七發島

ヒキン 淡金面 朝鮮京畿道楊州郡の東南部に位置し、郡邑議政府の東南方約二五軒、京城府の東方僅に一五軒にあり。東境に天摩山(八一二米)・栢峰(六九〇米)等聳立し東部は山地を成せども、西南部は漢江の洪涌地にして地味肥え、耕地よく發達す。農産物の主なるものは米・小麥・大豆・粟等にして副業として養蠶・飼畜による繭及び牛皮、林産物には木炭・薪・栗等あり。また京城の郊村として蔬菜の栽培盛にてトラックにより京城に移出す。道路は垣々たる二等道路春川街道を京城より通じ交通・運輸頗る便なり。聚落は中部以南に多く分布し、略中央の金谷里と主邑をなし、定期に開く市場及び金融組合等あり。

ヒキンニ——島 Bikiu I. 南洋群島のマーシャル群島北部の島。ナルト支廳に屬し、ナルト島の西北方にし

今八頭郡八上村・西郷村に當る。

ヒキタ 疋田 愛發村(福井縣)の古地名。和名抄に長上郡嶺沼郷あり、比木奴萬と訓す。その地今の濱名郡内ならんも詳かならず。

ヒキノ 引野村 廣島縣備後國深安郡の南部。福山市の東に隣接し、南は瀬戸内海に臨む。東部・南部に丘陵性山地あり、南部の海岸地帯最も高し。西部・中部は土地低平にして蘆田川の構成する沖積低地に續く。一般に農業盛にて米・麥・繭を産し、西南海岸に沖津の漁業聚落あり。また沖津は好海水浴場として知らる。省線山陽本線は中部を東西に貫通し、縣道また之に沿つて走り福山市に交通便なり。

ヒキノシヨ 日置庄村 大阪府河内國南河内郡の西北部。富田林町の西北方約六軒にあり、西は泉北郡に界す。南部にやや臺地ある外は地形平坦にして西部には灌漑用池あり。農産・工業・畜産あり。東北部に富田林街道通じ、中央には社線南海線道高野線西北より東南に横切つて萩原天神(大正元年設置)・西村(明治卅一年設置)の二驛あり。この地は和名抄に丹比郡土師郷とある地なり。

ヒキミカミ 匹見上村 鳥根縣石見國美濃郡の南端。西北に匹見下村に、西南に鹿足郡日原村・七日市村に、南に

て、大約東經一六五度三〇分、北緯一一度四〇分。標式的環礁をなし、カナカ族居住し、農漁に従ふ。

ヒクサ 乾草沼 千葉縣夷環郡の西部にある沼。東北より西南に狭長なり。長さ約三・二軒、幅約〇・二軒。須賀・東陽二村に跨る。

【樋口村】 埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。荒川の北岸にして、北は兒玉郡と隣す。北境には不動山(五四九米)・陣見山(五三一米)等連り、何れも村内に傾斜す。南部はその山裾にして、南境を荒川東流し、流域の狭き平地には米・麥・産し、養蠶盛にして繭の産多く、生糸・絹織物をも産す。山地には林産あり。縣道は川沿ひに通じ、社線秩父鐵道また之に沿ひ中央部に樋口驛(明治四十四年設置)を置

鹿足郡蔵木村及び一部は山口縣玖珂郡高根村に、東は廣島縣佐伯郡吉和村に各隣接す。面積は一三・〇九方軒にて本郡第一の大村。東境に五里山・冠山(一三三九米)、西南境に蕪嶽(一〇七九米)・安藏寺山(二六三米)聳立す。北部にも一千米に及ぶ山嶺ありて高山地の隔絶村をなすも、山地の諸水を集め西北部より流出する匹見川によりて漸く他村に通ず。匹見川溪流には盆地狀の小低地ありて耕地よく拓げ、米・繭の外に木材・木炭を出し、匹見川には水力電氣を發電す。山地には楮を植み、紙を製し石見牛紙として古くより知られ、山間溪流に山葵を産す。街道は匹見川に沿つて五里山の鞍部(九六四米)を越えて廣島縣に至り、西北方益田町にパス通ず。匹見下村と共にとも匹見と汎稱せし處。(八幡宮)大字匹見に鎮座。郷社。祭神、譽田別命外二神。日碑に據れば往昔前近江丸なるもの國家鎮護祈禱降伏のために勧請すと傳ふ。例祭、九月二十五日。

ヒクニ 美國 北海道後志支廳管下四郡の一たる美國郡の町。一郡一町。後志國の北端積丹半島の北東部に位し、小樽灣に面す。東南は古平町に、西北は積丹郡に隣接す。面積九五・五五平方軒。北東を除く三方は山脈に圍繞せられ、西南境珠に高くゴアンネアンチン山(一一四三米)・積丹岳(二五五米)等聳立し、郡内地勢稍々東北に傾く。美國川山間を東北流し中流以下に平地を展く。河口に市街地發達し美國港を有す。近海發達汽船の備地なり。海岸は一般に山地迫りて險崖をなし良港灣なく、河口東部にのみ漁業聚落集るを見る。鰯・鰯・帆立貝・柔魚の産あり。また馬鈴薯・大豆・木材・牛・馬等を産す。地方道を以て余市町にパス通じ、海上航行の便もあり。此地は幕末には美國領または美國場所と稱せし所。(美國神社)大字船岡村に鎮座。郷社。祭神、保食神。享保十年郡中の住民京都伏見の稻荷神社より分祀し、一部の崇敬社とせしに始まるといふ。もと稻荷神社と云へり。例祭、七月十七日。

ヒクマ 日隈山 大分縣日田市日田町にある山。一に龜嶺山、また龜山。三限川に臨み、輝石安山岩より成る水蝕殘丘にて、文祿・寛水の頃の城址あり、水郷日田はこの丘陵を中心として發達す。地

はい、日隈公園となる。

ヒクマ 曳馬 静岡縣濱名郡にありし町。この町はもと曳馬下村と稱せしが、明治二十四年に曳馬村と改め、大正五年その一部を濱松市に編入、昭和八年野口町・元濱町・中深町の各一部を曳馬村に編入、昭和九年町制を布き、同十一年本町を廢し濱松市に編入す。曳馬は古驛名にして東鑑には引馬と見ゆ。徳川家康ここに引馬の名を減じたり。萬葉・一「引馬野にはほふ藤原入り亂り衣にほほせ旅のしるしに 長忌寸典麻呂」

ヒクラ 日倉山 越後山系朝日山塊西端部の一峰。新潟縣岩船郡高根村に屬す。一に高根山と云ふ。標高九五三米。山麓秩父古生層より成る如し。西麓を三河川支流高原川南流し、北麓高原川の枝深に鈴ヶ瀧あり。

ヒケタ

【日暮里】 新堀を轉じて日暮里に作り、更にこれを調讀せしものか。堀は城の規模の小なるもの、砦の類なり。日暮里は東京府北豊島郡の町なりしが、昭和七年東京市に入り荒川區の町名となる。世説新語茶「笠森稻荷の兒手拍におせんが面を忍ぶ、見はてぬ夢は感應寺の見得となり、きのふもけふも日暮の里にうかれて又入相の上野の鐘に云々」

八阪村と袖野村との境上に峙つ。標高六九四米、山體玄武岩より成る如し。西麓を佐波川上流南流す。南東斜面に袖野村宇日暮あり。

ヒケタ 引田町 香川縣讚岐國大川郡の東部。和名抄、大内郡引田郷の地。東北は播磨灘に面し、白鳥本町の東に接す。全村所々に小丘陵起伏し、其間に平地あり。海岸北部に安戸港あり。中部には小半島突出して、その先端に女郎島浮ぶ。半島南に引田町市街地發達し附近海岸は平直なり。古來漁港として知られ生魚の收穫多く、水産製造物も豊かなり。外に米・菓子・メリヤス・漁具等を産し醬油・清酒の特産あり。國道市街地を貫きて中央を走りて自動車往來し、省線高德線また此地を通過して引田驛（昭和三年設置）あり。阪神方面へは便船あり。明治四十二年町制を布く。引田城址あり、永正年中寒川氏の將、四宮右近こを守る。元龜年間寒川氏、三好氏の爲に追はれ爾後三好氏の將矢野三武これを守る。天正九年長曾我部氏これを隔る。天正十一年仙石秀久、同十五年尾藤甚右衛門を経て生駒正規此國に封じられ初めは此城に居りしが後、宇多津城に移り城廢す。城址を今は城山公園と呼ぶ。

ヒコ 彦島 下關海峽の西の入口に横はる島。また引島と書く。東西約六軒、南北約五軒、周圍約二四軒。北は約五〇米の小瀬戸を以て下關市に對す。西南岸に福浦港あり。島内には造船所・鐵工所の他化學工場等多し。彦島は北方海上なる六連島と共に彦島町と稱せしが、昭和八年三月下關市に合併す。※引島

肥後

【肥後國】 西海道十二箇國の一。九州國の中部にあり。今は國內を熊本市及び飽託・宇土・玉名・鹿本・菊池・阿蘇・上益城・下益城・八代・葦北・球磨・天草の一市十二郡に分ち、全部熊本縣の管轄に屬す。この國は上世火國と稱し書紀景行紀には、天皇葦北より船を發して火國に至りたまふ記事あり、國造本紀によれば火國及び阿蘇國ありて崇神天皇の朝に早く國造を定め給ひ、また景行天皇の朝には葦北の國造を、成務天皇の朝には天草國造を夫々置き給ひしが、これ等は國郡制定の時いづれも火國に統一せられて肥國と稱し、これを前後二國に分けて肥前・肥後とせられたるもの如し。肥後國府は最初託摩郡内にありしが、のち飽田郡に移りしがその址は何れも今熊本市の城内に當る。史を按ずるに、續日本紀文武天皇の二年に大宰府に命じて修治せしめし筑紫の三城の中に鞠智城あり。後三條天皇の延久二年大宰權帥たりし藤原隆家五世の孫則隆が菊池郡を賜はり、菊池城に居り菊池氏を稱す。則隆六世の孫の隆直の時平氏を援け肥後守に任ぜしがのち平氏と絶つ。その子隆定後鳥羽天

皇に仕へ、爾後三傳して武房に至れば、蒙古入寇の事あり、武功を以て國守となる。その孫武時は元弘年中後醍醐天皇のため勤王の師を起し、北條英時と戦つて戰死す。その子武重國守にして守護を兼れ、出でて隈部城（後の隈府）に居る。足利尊氏の叛くや、九州の諸豪概れこれに屬せしが、ひとりと武重はこれに従はず、尊氏方の少貳頼尚等と拮抗す。征西將軍懷良親王の薩摩よりこの國に來りたまふや、これを八代に奉じて弟武光と共に大いに少貳・大友二氏を破り、九州の北部を備へなほ日向をも攻略し官軍の威大いに九州に振ふ。ここに於て足利氏は今川貞世・大内義弘を九州探題としてこれに對せしめ爾後官方の勢漸く振はず。元年中武光の孫武朝に至りなほ日本國を領せしむ。後七世を経て武包の時には州人服せず遂に州人のために逐はれ、出でて肥前に走る。州人すなはち豊後の大友義隆の弟義武を迎へて菊池氏を嗣がしむ。天文年間に至り大友義隆は義武を誘殺してその地を併すに及び、赤尾親家を隈府に置きて州内を鎮せしむ。この時阿蘇大宮司は自立して阿蘇郡を領し、龍造寺氏は北方より來り、島津氏は北上していづれも肥後國を平定せんとせしが、天正の初め頃に至れば國の全部殆んど島津氏の領有するところとなる。天正十五年豊臣秀吉の九州を征伐するや、島津氏の侵地を收め、阿蘇氏の邑を没し、佐々成政にこ

の國を與へて隈本（後、熊本に改む）に居らしむ。ついで成政の罪を得て誅せらるるに及び、秀吉は加藤清正を熊本二十五萬石に、小西行長を宇土二十萬石に封す。既にして秀吉死して慶長五年關ヶ原役起るや行長は西軍に屬せしを以て、役後行長の封地を加藤清正に加へ、行長の領地の中なる天草は別にこれを寺澤廣高に與ふ。寛永年間、天草に天主教徒の亂あり爾後幕領となる。寛永九年清正の子忠廣罪あり出羽に移され、細川忠利代りて熊本に封ぜられ、弟立孝を宇土に分封す。ついで忠利の孫綱利の時、弟利重を新田三萬五千石に分封し高瀬に陣屋を置く。これより先球磨郡には鎌倉時代より相良氏あり、累代人吉に居る。明治維新の際には熊本（細川氏五十四萬石）・宇土（細川氏三萬石）・高瀬（細川氏三萬五千石）・人吉（相良氏二萬二千石）の四藩ありしが明治三年九月、熊本・宇土・高瀬の三藩は封土を奉還す。同四年七月に至り一般廢藩置縣の際には熊本・人吉の二縣が置かれ、人吉縣は十一月には八代に移りて八代縣と稱し、肥後の南部六郡を管し、熊本縣は肥後の北部九郡を管す。同五年六月、熊本縣は一旦飽田郡の二本樹村に移りて白川縣と稱せしが、翌六年一月八代縣を併せて肥後十五郡を管し、同九年二月には熊本に復歸して熊本縣の舊稱を復す。同十三年五月 飽田・託摩二郡の中より熊本區分れ、これが同二十二年四

月に至り、市制を布きて熊本市となり、同二十九年四月には飽田・託摩二郡を合して飽託郡とし、山鹿・山本二郡を合して鹿本郡とし、菊池・合志二郡を合して菊池郡として今日の一市十二郡となる。

ヒコオー——ヒコネ

安等の諸邑あり。

ヒコオキ 肥後萩

ヒコサキ 彦崎

ヒコサン 彦山

【彦山村】 福岡縣豊前田川郡の南部。英彦山の西北麓に位する山村にして彦山川の源流地なり。北及西北は添田町に圍まれ西南部は朝倉郡に東南は大分縣日田郡・下毛郡に界す。東南境に英彦山(二二〇〇米)聳え、それより山嶺西に連りて途中、岳流鬼峠・釋迦ヶ嶽・大日ヶ峠等を起して南境を限り、之等の山地は北方へ山脚を擡げ英彦山より西北方へのびる一脈は東境を限り、西境を東北方へ連りて劃する山脚もあり、共に北方へ高さを減す。南部に發する彦山川は中央を北流し北隅に僅に低地を見る。村内温泉の湧出する所もあり。林産多くまた竹林もあり。西部には縣道南北に走り添田町へパスの便あり。(舊龜石坊庭園)指定名勝。元彦山龜石坊の庭園にして斜め前に立地を控へ流を懸け泉流を通す。規模大ならざるも置石豊かにて石鳥あり、浮石あり、樹木茂り彦山の裡清雅なる林泉あり。

一境地を描寫す。景石中瓦石の崩落して水畔に押出せる石造ひか見るが如き技工の巧妙、山岳地に於ける築山泉水庭の古園として佳作とすべし。(英彦山の鬼杉)指定天然記念物。當村より約四軒、大南神社附近にあり。胸高周圍約一二・四米、樹高約三八米、樹齡凡そ千二百年、材積二七八立方米、この一樹を以て二十三戸を建つるを得と稱せらる。(英彦山神社)大字英彦山に鎮座。官幣中社。祭神、忍骨命。忍骨命は天照大神の御子天忍穗耳命の別名なり。彦山縁起に社地は太古この命の靈この嶺に降り給ひし神蹟なりといふ。役行者小角この舊蹟を求めて登山すといふ。中世修験道の隆盛なるに至り彦山権現と稱し熊野・羽黒と共に修験道の大道場となり、その勢甚だ盛にして、僧坊三千餘、食地一萬石を有せりといふ。爾來徳川・細川・小笠原氏等の崇敬厚く各々社領を寄す。例祭、九月二十八日。【彦山川】 福岡縣にある遠賀川の一上源。↓遠賀川

ヒコシ 日越村

郡の東部。關原町の東に接し、東より北へかけては古志郡に界し、信濃川を隔てて長岡市に對す。西南方枳形山は本村西南隅にて勢盡き、大部分膏沃なる越後平野にして水田穰々たり。米の産多く、次いで果樹栽培・養蠶行はる。村内を稍東西に走る社線長岡鐵道あり日越・上除兩驛(大正五年設置)を置く。縣道また南北

丸の南北に米蔵を設け、繞すに幅十間乃至二十數間の城濠を以てし、本丸の東の大手門に接して一郭を成し城主の館邸に充つ。城郭の石壁は安土・佐和山・長濱等より運搬せられ、瓦は小谷山の土を以て造り、満山露着たる樹木は防備に適するものを各園より移植し、本丸より三の丸までの城濠はみな湖水に連絡せしめ、更に南方は沼波附近より芥川の流路を人工的に變移して一直線に市街の南邊に流下せしめしものを外濠となせり。彦根の城下町は築城と並行して計畫せられ、北部を除き城山を中心とし東西南の三方に圍む格子狀の街衢となし、辻々に屈曲部を作り外部に通ずる要地十一箇所に門を設くる等市街を以て防備に利用せり。街衢は大體三の丸を界とし内側を内町、外側を外町と大別し、内町の傳馬町は中仙道筋の高宮・鳥居本間の別宿として宿驛に代用せられ馬匹人足を備へ、旅宿・問屋安に集り、外町の江戸町は朝鮮人街道筋の要衝として、川原町は商業區として城下町の中心地區たり。其他は待屋敷と大工町・桶屋町・鍛冶屋町・職人町・魚屋町等各職業による群居をなし町數五十六となり、更に町外の安清・後三條・大橋・沼波等の近村も發達して彦根と接続し之等を新町と稱せり。寺院は主として三の丸に集中し三十三寺と稱せられ、殊に大雲寺・長純寺・宗安寺・大信寺・大玄寺等は井伊氏の舊封地上州より移轉し、妙源寺は

ヒコネ——ヒコネ

【彦山村】 福岡縣豊前田川郡の南部。英彦山の西北麓に位する山村にして彦山川の源流地なり。北及西北は添田町に圍まれ西南部は朝倉郡に東南は大分縣日田郡・下毛郡に界す。東南境に英彦山(二二〇〇米)聳え、それより山嶺西に連りて途中、岳流鬼峠・釋迦ヶ嶽・大日ヶ峠等を起して南境を限り、之等の山地は北方へ山脚を擡げ英彦山より西北方へのびる一脈は東境を限り、西境を東北方へ連りて劃する山脚もあり、共に北方へ高さを減す。南部に發する彦山川は中央を北流し北隅に僅に低地を見る。村内温泉の湧出する所もあり。林産多くまた竹林もあり。西部には縣道南北に走り添田町へパスの便あり。(舊龜石坊庭園)指定名勝。元彦山龜石坊の庭園にして斜め前に立地を控へ流を懸け泉流を通す。規模大ならざるも置石豊かにて石鳥あり、浮石あり、樹木茂り彦山の裡清雅なる林泉あり。

東西に貫通し長岡市へパス通す。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。

ヒコタニ 彦谷嶺山

郡にある滿庵山。鐵道は宮島村と平屋村とに跨る。極く近年事業を開始したるものなれども比較的成績よく準重要鐵道に列し、昭和十年には滿庵鐵道五二八號(價額一萬一千餘圓)を出す。

ヒコナ 彦名村

鳥取縣伯耆國西伯郡の西北部。夜見ヶ濱半島の西南部にあり。米子市の西北に連り中海に面す。北に夜見、富益二村接す。面積四・二九方。全村概ね平坦にして耕地多し。海岸線は極めて平滑にして水産旺んならず。聚落の大部は中央の里道に沿うて集る。登嘉盛んに行はれ滿の産出大なり。米・麥・牛・馬・鶏・醬油・酒類・蠶・蠶等を産す。米子市にパス通じ、爲に交通便なり。郷社栗島神社は少彦名命を祀り、村名の起原これなりと云ふ。(栗島神社)大字栗島山に鎮座。祭神、少彦名命・大己貴命。文永四年(一〇八三)久社殿を再建す。例祭、四月十二日。

ヒコナリ 彦成村

埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。吉川町の南隣にして古利根川の東岸にあり。西は南埼玉郡と相對す。全村平地にて大部分沼田をなし、米を主産す。他に蔬菜・麥を産す。縣道は川沿ひに縱走し又これと交叉するものは西方北は堂野草加町に通じ、パスの便あり。

前居城佐和山法華丸より、北野寺は彦根山西寺を移建せるものなり。江戸時代に於ける彦根の人口は元祿及び享和頃の調査によれば町民の戸數約二千三百、約一萬五千六百人、僧侶約七百五十人、藩士約二萬人計三萬六千餘人と推定さる。かくて井伊氏の藩祖直政の子直繼より十七代直憲に至るまで二百六十餘年間藩治の中心となり、此間中央に出て大老の要職に就きしもの六人に及び幕府との關係緊密にして威望天下を壓せり。城下町は商業より零る工業の中心となり、武器の製造殊に刀劍には虎徹の如き名工あり、陶器に湖東焼あり、これは文政の頃佐和山の麓の相屋窯にて焼かれたるものを、天保十三年藩窯となし陶器方を置きて改良せしめ染付赤繪に逸品を出したるが、文久以後再び民業に移し廢藩後廢減せるも此地の陶工等が京都に轉住し清水焼を興せりといふ。維新後明治元年に彦根縣が知事に任命せられしが其年の終に廢せられ、彦根は長濱縣の中に入り更に犬上縣となり、同五年滋賀縣に統一後彦根支廳が設けらる。同十二年郡制布かれて彦根に郡役所置かれ、同二十二年市町村制の實施と共に彦根町以下接續村成り、大正十五年郡役所廢止となり、昭和十二年二月市制を布きて彦根町・松原村・北青柳村・青波村・千本村・福瀨村を合し彦根市を結成するに至る。その面積二二・

ヒコネ 彦根市

滋賀縣、琵琶湖中央部の東岸にある城下都市。北は坂田郡米原町、東は同島居本村及び犬上郡芹谷村、南東は久徳村、南は高宮町・河瀬村、南西は磯田村に界す。市の東部一帯は鈴鹿山脈の北端部を形成する雲仙山(一〇四三米)・鶴尾山(八三九米)等より連る一帯の山地にして、三〇〇米内外の高度を保ち、主として秩父古生層より成り粘板岩・角岩等の露頭多く、湖岸に近く平野中に孤立する城山(一三六米)またこの系統に屬す。以上の山地を除く大部は謂ゆる湖東平野にして、芥川は中部を、犬上川は南部を緩かに西に流れて湖に注ぎ灌漑に便し、各河口附近に小規模の三角洲を形成す。城山の北に接する松原内湖は松原の砂嘴によりて外湖と劃せられ漸次乾拓の傾向にあり。近年綿絲・麻絲・絹絲等の紡績、製織・セメントの各工場が建設せられ、佛壇・鐵器等の製造工業も盛となり、縣水産試驗場・名古屋煙草專賣局出張所・商工會議所・物産陳列所等も設立され、彦根高等商業學校・彦根圖書館を始め各種の教育文化の施設も備はる。市は中仙道の西に當れる往古の朝鮮人街道・順禮街道及び濱街道に沿ひ、八幡・日夏・稻村・多賀・久徳・大藏・鳥居本・長濱等に通ずる各縣道の要衝に當り、省線東海道本線の彦根驛(明治二十

八五方軒、人口三七、九五八八(合併當時現在)にして、舊彦根町は全市に比し面積に於て二二・二%、人口に於て六八・八%に當る。(彦根城址) 西北方湖水に臨み濠三重に繞り、西南の高宮八幡宮を大手、東南の澤山切通を搦手口となし、東北に船手松原口あり、本丸の天主閣は三層樓にして、京極高次の築城にかゝる大津城の天主を移建せるものなり。この西に西丸の三層樓並び、北端の土佐郭はもと長濱城の天主たり。本丸の東に鐘丸あり、その途中に存する天秤樓門は羽柴秀吉の創築に成る長濱城の城門を移建せしものにて外に太鼓樓門あり。而して本丸を挟みて南北に米倉を配し、本丸の東表門に接して城主の居館設けらる。内濠幅約四〇米あり、二の丸・三の丸は湖水を引きし濠を以て界せられ、三の丸に待屋敷の外、町家・寺院等相交雜し、南方に芥川を外濠として郭内には主として待屋敷置かる。城は明治維新後破却を免れ、のち井伊家の有となりしが、いま公開せられ、天主閣上に登れば太湖及び彦根全市を一時に見渡され眺望絶佳たり。(松原) 市の西北部、松原内湖と外湖の間の砂嘴より成り、市部とは運河によりて隔てられ、北方は磯山により入江内湖に接す。運河入口松原港は彦根港の咽喉に當り船舶常に輻輳す。湖岸一帯は青松白砂の勝地にして千々の松原と稱せられ、井伊氏別邸千松館あり、水泳場設け

らる。「北青柳」市の南西部、湖に面し...

海抜二二二米、基盤は秩父古生層の角岩...

山ともいふ。夫木・山「彦根山あまれき...

八箇町の産土神として崇敬せしに始ると...

として洪積層にして一般に砂質壤土及び...

滿を産し、特産物として椎茸・里芋・飛...

に粘土質にして、また金銀を各所に埋蔵...

屬し以て今日に至る。村内に五葉山・關...

ヒコネ

飛駒村 栃木縣下野國安蘇...

ヒコネ

飛駒村 栃木縣下野國安蘇...

ヒコネ

飛駒村 栃木縣下野國安蘇...

ヒサイ

久居町 三重縣伊勢國...

ヒコへ

飛駒村 栃木縣下野國安蘇...

ヒコへ

飛駒村 栃木縣下野國安蘇...

ヒコへ

飛駒村 栃木縣下野國安蘇...

ヒサイ

久居町 三重縣伊勢國...

ヒシカ

に時ち、南斜面に越後山系に重なる長野縣下水内郡岡山村との境界が東西に通ず。標高一二九米、山麓火山岩より成る。南西斜面より保倉川の一水源發して北流し水源に近く瀑布懸る。東方に野々海崎、西方に伏野崎の山路南北に通じ、最高點はいづれも越後山系に置き、南降して千曲川流域に至る。

ヒシカ

【菱ヶ岳】一に平家岳。越後山系飯豊山地西端部の一峰。西側は新潟縣北蒲原郡堀越村飛地と笹岡村に、東側は東蒲原郡下條村に屬す。標高九七四米。西斜面に大日ヶ原演習地あり。

ヒシカ

に係り、のち大友能直及び日出城主木下氏代々の崇敬厚く領内の總鎮守となす。例祭、十月十五日。〔松屋寺〕曹洞宗。康徳山。寺傳に養老年中、仁開の創建に係るといふ。慶長五年木下延俊、日出城主となるや、豊臣秀吉夫人の母康徳寺殿松屋妙貞大姉、追福の爲め堂宇を創建し、その香華院となし寺領百石を附す。堂側に有名なる大蘇鐵あり、幹の周囲約三米、枝六米、里人は泉州堺妙國寺の蘇鐵より大なりと誇る。文祿年間朝鮮征伐の際大友義統の特歸りしものと傳へ、いま天然記念物に指定さる。

奥六

岐國三豐郡の中央西北偏。仁尾町の東に接し、約二軒西方は備後瀬海海岸なり。東西に細長し。西境には山志保山脈の一部南北に連りて東へ傾斜し、東半は廣き觀音寺平野の北部を占むる平地にして湖沼多く灌漑に便し、田畑發達す。中央には縣道及び省線豫讃線南北に通過し、上高瀬驛へは東北方約二軒、本山驛へは南方約二軒なり。この地は和名抄、三野郡無岡郷に屬せるものなるべし。〔無岡八幡神社〕郷社。祭神、息長帯姫尊・玉依姫命・譽田別命。例祭、十月二日。

ヒシカ

【比自岐村】三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西南部には平地開けて長田川の一支流北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主生業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鑛産・林産あり。松茸の特産あり。社線參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。〔比自岐神社〕大字比自岐に鎮座。縣社。祭神、比自岐神。當社主神は皇室に奉仕して常に殞宮の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシカ

に時ち、南斜面に越後山系に重なる長野縣下水内郡岡山村との境界が東西に通ず。標高一二九米、山麓火山岩より成る。南西斜面より保倉川の一水源發して北流し水源に近く瀑布懸る。東方に野々海崎、西方に伏野崎の山路南北に通じ、最高點はいづれも越後山系に置き、南降して千曲川流域に至る。

ヒシカ

【菱ヶ岳】一に平家岳。越後山系飯豊山地西端部の一峰。西側は新潟縣北蒲原郡堀越村飛地と笹岡村に、東側は東蒲原郡下條村に屬す。標高九七四米。西斜面に大日ヶ原演習地あり。

ヒシカ

に係り、のち大友能直及び日出城主木下氏代々の崇敬厚く領内の總鎮守となす。例祭、十月十五日。〔松屋寺〕曹洞宗。康徳山。寺傳に養老年中、仁開の創建に係るといふ。慶長五年木下延俊、日出城主となるや、豊臣秀吉夫人の母康徳寺殿松屋妙貞大姉、追福の爲め堂宇を創建し、その香華院となし寺領百石を附す。堂側に有名なる大蘇鐵あり、幹の周囲約三米、枝六米、里人は泉州堺妙國寺の蘇鐵より大なりと誇る。文祿年間朝鮮征伐の際大友義統の特歸りしものと傳へ、いま天然記念物に指定さる。

奥六

岐國三豐郡の中央西北偏。仁尾町の東に接し、約二軒西方は備後瀬海海岸なり。東西に細長し。西境には山志保山脈の一部南北に連りて東へ傾斜し、東半は廣き觀音寺平野の北部を占むる平地にして湖沼多く灌漑に便し、田畑發達す。中央には縣道及び省線豫讃線南北に通過し、上高瀬驛へは東北方約二軒、本山驛へは南方約二軒なり。この地は和名抄、三野郡無岡郷に屬せるものなるべし。〔無岡八幡神社〕郷社。祭神、息長帯姫尊・玉依姫命・譽田別命。例祭、十月二日。

ヒシカ

【比自岐村】三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西南部には平地開けて長田川の一支流北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主生業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鑛産・林産あり。松茸の特産あり。社線參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。〔比自岐神社〕大字比自岐に鎮座。縣社。祭神、比自岐神。當社主神は皇室に奉仕して常に殞宮の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシガタ

【菱形村】熊本縣肥後國鹿本郡の西南隅。熊本市西北部より約四軒北にあり。西は玉名郡に、南は飽託郡に界す。村内概ね丘陵を成し西南部は東北方に傾斜する斜面地にして西南隅は五九六米の高度を有す。菊池川支流の木葉川こゝに源流して中部を西北流し玉名郡に入る。農業を主業とするも畑地多く麥・甘藷の産多く養蠶も亦盛なり。米・粟も出ず。北部に東方植木町と西方玉名郡高瀬町とを結ぶ縣道走り、省線鹿兒島本線は中部を横斷し東方約一軒に植木驛ありて自動車を通ず。大字木留は明治十年西南の役に官賊兩軍の對峙せし所。

ヒシガタ

守らしめしが天正二年武田氏のため降さる。爾後徳川氏恢復せんとして争ふこと八年、天正九年陥る。〔高天神社〕大字上土方に鎮座。郷社。祭神、高皇產靈神・天菩比命・菅原道眞。一に遠江國造等の祖、遠祖天菩比命を祀れるに創るかといふ。もと菅原天神といひ、朱印領六石を有せり。例祭、三月二十五日。

ヒシカ

【菱刈郡】大隅國(鹿兒島縣)の古郡名。續紀天平勝義七年紀に始羅郡の菱刈村を以て郡となすと見ゆ。和名抄は比志加里と註し、羽野・亡野・大水・菱刈の四郷を管す。後世、郡境度々改まり明治三十年四月薩摩國に入り北伊佐郡と合して伊佐郡となる。

ヒシカ

【比自岐村】三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西南部には平地開けて長田川の一支流北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主生業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鑛産・林産あり。松茸の特産あり。社線參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。〔比自岐神社〕大字比自岐に鎮座。縣社。祭神、比自岐神。當社主神は皇室に奉仕して常に殞宮の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシカ

【高天神城】高天神山に在る城址。鶴舞城ともいふ。應永年間、今川氏の築く所といひ、のち徳川家康、小笠原長忠をして

四八五

【比自岐村】三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西南部には平地開けて長田川の一支流北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主生業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鑛産・林産あり。松茸の特産あり。社線參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。〔比自岐神社〕大字比自岐に鎮座。縣社。祭神、比自岐神。當社主神は皇室に奉仕して常に殞宮の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシカ

【比自岐村】三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西南部には平地開けて長田川の一支流北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主生業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鑛産・林産あり。松茸の特産あり。社線參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。〔比自岐神社〕大字比自岐に鎮座。縣社。祭神、比自岐神。當社主神は皇室に奉仕して常に殞宮の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシター——ヒスチ

(一)二九米あり、全村北へ傾斜す。...

ヒシタ 菱田

【菱田】鹿兒島縣嶺南郡にある川。...

ヒシテポアン

州新高郡にある蕃社。東嶺大山より郡大...

ヒシト

鼻頭 臺灣總督府 鐵道集集線の一驛(大正十一年設置)。...

ヒシヌマ

陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に日理郡菱沼郷...

ヒシノ

菱野 ↓大里村(長野縣北佐久郡)

ヒシフタ

比地二村 香川縣讃岐國三豐郡の中央西北偏。西は山志保山...

ヒシマ

土萬村 兵庫縣播磨國宍粟郡の西部。千種川支流公文川の源流...

ヒシヤマ

菱山村 山梨縣甲斐國東山梨郡の南部。勝沼町の東北に接す。...

ヒシメ

日詰町 岩手縣陸奥國紫波郡の南部。北上川の右岸段丘上にあり。...

ヒシヤ

肥前 西海道十二箇國の一。九州島の西北の半島形の部分を占む。...

四六〇

聖澤發し東流して大井川に落つ。この山は東方大井川谷なる井川村字樺島より大井川を、更に赤石澤を廻りて達頂し得らるるも、多く北方赤石方面より南に尾根を走し、百間洞露管地・大澤岳(二八一九米)・兎岳(二七九九米)を経て、前聖岳に、或は南方の上河内岳(二八〇二米)方面より北に尾根を傳ひ、聖平(北側聖澤源頭に聖平露管地あり)を経て、同じく前聖岳に登頂せらる。これ等の間に縦走路通す。

ヒシロ

日代村 大分縣豊後國北海部郡の東南部。津久見海南岸に臨み南は南海部郡に界す。背後には山地を負ひ海岸に急斜して北岸東部に赤崎、中央西偏に辰研、それより北へ突出して朝代澤を抱き、灣心に朝代島あり。西北部には千怒崎の突出あり。林産・水産あり。省線日豊本線本村を通過して、日代驛(大正十五年設置)あり。もと日見浦・朝代浦の二村なりしが合併して日代村を建つ。

ヒスチ

日土村 愛媛縣伊豫國西宇和郡の北部。八幡濱市の北に接し東北部より東部にかけては喜多郡に界し西

ヒシヤ

は種爪に作り後世郡山と稱し、のちまた日詰と稱するに至る。延暦年中に坂上田村麻呂の蝦夷經營のために築きし志波城は、此地なるべく、中世藤原秀衡の一族たる比爪五郎の居館なる比爪館あり。東鑑に文治五年九月十五日、比爪俊衡・其弟季衡・其子太田師衡・次郎兼衡・河北忠衡・子新田經衡等の六人、厨川に降ると見えたり。慶應三年、盛岡に移り、移りて居す。寛永十二年、盛岡に移り、のち寛文十年に至り城を毀つ。明治天皇明治九年、奥羽御巡幸の際、及び明治十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御小休あらせらる。(勝源院の遺櫓)指定天然記念物。勝源院奥庭にあり。一株の櫓にして、本幹は地上約六〇種の高さにて四方へ分枝し、主幹の基部の周囲約四米一、樹高約一二米七。横に擴がれる枝は鋭き屈曲を呈し、その下方に曲れる角は突出し瘤状をなせる處あり、樹形甚だ奇異にして、通常の櫓樹と大いに成長の状態を異にす。

ヒシヤ

比西彼村以下の六郡は長崎縣の管下に屬す。この國はもと筑紫國の一部をなし、國造本紀には末羅・葛津の二國あり成務天皇の朝に夫々國造を定め給ひしこと見ゆ。これ等は國郡制定の時、松浦郡・藤津郡となりて火の國に編入され火を肥に改めこれを前後二國とし、肥前國と稱す。國府は今の佐賀郡春日村大字久池井の邊にありき。此國は早く神功皇后三韓御遠征の時にも著はれ、また遣唐使の往來にも此國の海岸、又は島嶼を通過するを常とせり。此國の國守に任ぜられたる人々の中に名の著はれたるは吉備眞備・源頼光等なり。續紀文武天皇の二年大宰府をして修治せしめられし三城の一なる基肄城は筑前との堺にある要害なり。後一條天皇の寛仁三年三月刀伊の賊入寇するや、松浦郡にも侵入し、前肥前介源知これを撃退す。この源知の一族の子孫や外寇の際防備のため東國より太宰府に來れる將士の土著せしものの子孫や、また安倍貞任の弟宗任・則任等の如き倭因のこの地方に配せられしもの裔などが相集まりてのちに松浦黨を形成し地方に於ける有力の團體となれり。壽永年間平家が西海に落ち來るや松浦黨は兵船を出しこれを助けて源氏の兵と壇浦に戦ふ。後堀河天皇の嘉祿元年には武藤資頼太宰少貳にてこの國を管す。これを後に九州に威を振へる少貳氏の祖とす。文永・弘安の蒙古入寇の際には本州もまた害を蒙る

ヒシヤ

比西彼村以下の六郡は長崎縣の管下に屬す。この國はもと筑紫國の一部をなし、國造本紀には末羅・葛津の二國あり成務天皇の朝に夫々國造を定め給ひしこと見ゆ。これ等は國郡制定の時、松浦郡・藤津郡となりて火の國に編入され火を肥に改めこれを前後二國とし、肥前國と稱す。國府は今の佐賀郡春日村大字久池井の邊にありき。此國は早く神功皇后三韓御遠征の時にも著はれ、また遣唐使の往來にも此國の海岸、又は島嶼を通過するを常とせり。此國の國守に任ぜられたる人々の中に名の著はれたるは吉備眞備・源頼光等なり。續紀文武天皇の二年大宰府をして修治せしめられし三城の一なる基肄城は筑前との堺にある要害なり。後一條天皇の寛仁三年三月刀伊の賊入寇するや、松浦郡にも侵入し、前肥前介源知これを撃退す。この源知の一族の子孫や外寇の際防備のため東國より太宰府に來れる將士の土著せしものの子孫や、また安倍貞任の弟宗任・則任等の如き倭因のこの地方に配せられしもの裔などが相集まりてのちに松浦黨を形成し地方に於ける有力の團體となれり。壽永年間平家が西海に落ち來るや松浦黨は兵船を出しこれを助けて源氏の兵と壇浦に戦ふ。後堀河天皇の嘉祿元年には武藤資頼太宰少貳にてこの國を管す。これを後に九州に威を振へる少貳氏の祖とす。文永・弘安の蒙古入寇の際には本州もまた害を蒙る

ヒシヤ

比西彼村以下の六郡は長崎縣の管下に屬す。この國はもと筑紫國の一部をなし、國造本紀には末羅・葛津の二國あり成務天皇の朝に夫々國造を定め給ひしこと見ゆ。これ等は國郡制定の時、松浦郡・藤津郡となりて火の國に編入され火を肥に改めこれを前後二國とし、肥前國と稱す。國府は今の佐賀郡春日村大字久池井の邊にありき。此國は早く神功皇后三韓御遠征の時にも著はれ、また遣唐使の往來にも此國の海岸、又は島嶼を通過するを常とせり。此國の國守に任ぜられたる人々の中に名の著はれたるは吉備眞備・源頼光等なり。續紀文武天皇の二年大宰府をして修治せしめられし三城の一なる基肄城は筑前との堺にある要害なり。後一條天皇の寛仁三年三月刀伊の賊入寇するや、松浦郡にも侵入し、前肥前介源知これを撃退す。この源知の一族の子孫や外寇の際防備のため東國より太宰府に來れる將士の土著せしものの子孫や、また安倍貞任の弟宗任・則任等の如き倭因のこの地方に配せられしもの裔などが相集まりてのちに松浦黨を形成し地方に於ける有力の團體となれり。壽永年間平家が西海に落ち來るや松浦黨は兵船を出しこれを助けて源氏の兵と壇浦に戦ふ。後堀河天皇の嘉祿元年には武藤資頼太宰少貳にてこの國を管す。これを後に九州に威を振へる少貳氏の祖とす。文永・弘安の蒙古入寇の際には本州もまた害を蒙る

ヒシヤ

比西彼村以下の六郡は長崎縣の管下に屬す。この國はもと筑紫國の一部をなし、國造本紀には末羅・葛津の二國あり成務天皇の朝に夫々國造を定め給ひしこと見ゆ。これ等は國郡制定の時、松浦郡・藤津郡となりて火の國に編入され火を肥に改めこれを前後二國とし、肥前國と稱す。國府は今の佐賀郡春日村大字久池井の邊にありき。此國は早く神功皇后三韓御遠征の時にも著はれ、また遣唐使の往來にも此國の海岸、又は島嶼を通過するを常とせり。此國の國守に任ぜられたる人々の中に名の著はれたるは吉備眞備・源頼光等なり。續紀文武天皇の二年大宰府をして修治せしめられし三城の一なる基肄城は筑前との堺にある要害なり。後一條天皇の寛仁三年三月刀伊の賊入寇するや、松浦郡にも侵入し、前肥前介源知これを撃退す。この源知の一族の子孫や外寇の際防備のため東國より太宰府に來れる將士の土著せしものの子孫や、また安倍貞任の弟宗任・則任等の如き倭因のこの地方に配せられしもの裔などが相集まりてのちに松浦黨を形成し地方に於ける有力の團體となれり。壽永年間平家が西海に落ち來るや松浦黨は兵船を出しこれを助けて源氏の兵と壇浦に戦ふ。後堀河天皇の嘉祿元年には武藤資頼太宰少貳にてこの國を管す。これを後に九州に威を振へる少貳氏の祖とす。文永・弘安の蒙古入寇の際には本州もまた害を蒙る

ヒシヤ

比西彼村以下の六郡は長崎縣の管下に屬す。この國はもと筑紫國の一部をなし、國造本紀には末羅・葛津の二國あり成務天皇の朝に夫々國造を定め給ひしこと見ゆ。これ等は國郡制定の時、松浦郡・藤津郡となりて火の國に編入され火を肥に改めこれを前後二國とし、肥前國と稱す。國府は今の佐賀郡春日村大字久池井の邊にありき。此國は早く神功皇后三韓御遠征の時にも著はれ、また遣唐使の往來にも此國の海岸、又は島嶼を通過するを常とせり。此國の國守に任ぜられたる人々の中に名の著はれたるは吉備眞備・源頼光等なり。續紀文武天皇の二年大宰府をして修治せしめられし三城の一なる基肄城は筑前との堺にある要害なり。後一條天皇の寛仁三年三月刀伊の賊入寇するや、松浦郡にも侵入し、前肥前介源知これを撃退す。この源知の一族の子孫や外寇の際防備のため東國より太宰府に來れる將士の土著せしものの子孫や、また安倍貞任の弟宗任・則任等の如き倭因のこの地方に配せられしもの裔などが相集まりてのちに松浦黨を形成し地方に於ける有力の團體となれり。壽永年間平家が西海に落ち來るや松浦黨は兵船を出しこれを助けて源氏の兵と壇浦に戦ふ。後堀河天皇の嘉祿元年には武藤資頼太宰少貳にてこの國を管す。これを後に九州に威を振へる少貳氏の祖とす。文永・弘安の蒙古入寇の際には本州もまた害を蒙る

こと多く、此時、松浦黨は大いに戦功を樹つ。建武年間には松浦黨の一人松浦貞(定)は官軍に應ず。足利尊氏の叛くや資頼五世の孫貞経がこれに應ぜしが、肥後の菊池武重勤王の師を起すに及び、この國の豪族有馬・大村二氏もまたこれに應ず。此時千葉胤貞も本國下總より來りて小城郡に居る。正平の頃、武重の弟武光が征西將軍懷良親王を奉じてこの地に來るや、全國悉くその節度に服す。武光功によつてこの國の守護となる。足利義滿これを見て今川貞世・大内義弘を遣はして九州探題として菊池氏を討たしむ。國内の豪族これに屬するもの多く、千葉氏松浦黨もまたこれに降る。應永三年濠川滿頼九州探題となり、本州に來りて養父郡の綾部城(三養基郡中原村大字義原)に居り本州を管す。正長元年從子滿直これに代り子教直に傳へしが、後、少貳政資の爲に城を奪はる。明應六年、政資は大内義興に破られて小城郡の多久城に自盡し、教直の子尹繁探題となり基肆郡の勝尾城に居る。これより以後少貳・濠川・大内・千葉四氏の間小競合を演ぜしが永祿年間、佐賀の龍造寺隆信起るに及んで、國の東部七郡を定め、佐賀に居りてその威近隣に振ふ。平戸の松浦隆信、岸岳(東松浦郡の鬼塚村大字如島)の波多親等は、いづれも款を通ぜしが、南部の有馬義直は附近の四郡を領して獨りこれに抗し、天正五年、隆信と戦つて敗れ、僅に

高來の一郡を有するのみとなる。天正十二年隆信は肥後に入り島津氏と戦つて敗死し、子政家不肖なりしたため、その臣鍋島直茂が代りて事を執る。天正十五年豊臣秀吉の九州を征するや政家に舊領七郡を與へ、有馬晴信(高來郡日ノ江・日ノ津附近、また原城ともいふ)・大村嘉前(大村)・松浦貞信(平戸)・波多親(松浦郡岸岳)・五島純玄(五島の福江)等、各々舊領を安堵す。次いで龍造寺政家は封を鍋島直茂に讓る。文祿朝鮮の役には大本營が松浦郡の名護屋に置かれ、秀吉はここに天下の諸侯を會す。次いで岸岳の波多氏は罪を獲て封を收められ、寺澤廣高これに代り唐津に移る。關原役起るに及び、鍋島直茂は徳川氏に屬してその封土を保ち、のち小城・運池・鹿島に子弟を封じて支藩とし、大村・松浦・五島の諸氏また西軍に與せざりしを以て何れも舊封を安堵して子孫相承く。既にして有馬氏は元和年間日向に移され松倉重政が島原に封ぜらる。寛永年中、天主教徒の島原亂起りし時、教徒の擧りしは日ノ江の故城なりき。松倉氏は非政のため領内にかゝる叛徒を蜂起せしめし罪を以て封を奪はれ、のち數代を更へて寛文九年松平氏ここに封ぜられ、正保年中には唐津の寺澤堅高狂疾を以て國除かれ、のち數代を経て文化十四年以來小笠原氏が封を受け、また平戸にては元祿年間に平戸新田を分ち、維新の初めに於ては合せて十藩あり

き。即ち、佐賀(鍋島氏、三十五萬七千石)・小城(鍋島氏、七萬三千二百餘石)・運池(鍋島氏、五萬二千六百石)・鹿島(鍋島氏、二萬石)・唐津(小笠原氏、六萬石)・大村(大村氏、二萬七千九百餘石)・福江(五島氏、一萬二千六百石)・平戸(松浦氏、六萬七千七百石)・平戸新田(松浦氏、一萬石)・島原(松平氏、七萬石)なり。明治四年一般廢藩置縣の時、平戸新田の本藩に合せる外みな一時それぞれ縣と稱す。之より先、江戸時代の開外國貿易を掌りし長崎の地は、安政六年六月より開港となり、明治元年長崎裁判所を置き間もなくこれを長崎府と改め、更に翌二年六月にはこれを長崎縣と改む。而して佐賀縣は明治四年九月これを伊萬里に移して伊萬里縣と改む。明治四年十一月に行はれたる縣の大分合の際、長崎・島原・平戸・福江・大村の五縣を廢して更に長崎縣を置き彼岸・高來及び松浦郡の一部を治め、伊萬里・唐津・小城・運池・鹿島の五縣を廢して更に伊萬里縣を伊萬里に置き肥前の殘餘の郡を管せしが、六年五月にはこれを佐賀に移して佐賀縣と改む。明治九年四月に至れば佐賀縣を廢して其所管の地を一時筑後國の三潯縣に合併せしが、間もなく八月にはこれを更に長崎縣に編入し、ここに肥前國は全部長崎縣の管下に入る。明治十三年五月には松浦郡を東・西・南・北の四郡に分ち、彼岸郡を東西二郡に、高來郡を南北二郡

に分割す。明治十六年五月に至り佐賀縣を復活す。明治二十二年四月には彼西彼岸郡より分れたる長崎縣が市となり、佐賀市が佐賀郡より獨立し、明治二十九年四月三根・養父・基肆三郡を併せて三養基郡とし、明治三十五年四月佐世保市が東彼岸郡より獨立し、昭和七年一月より唐津市が東松浦郡中より獨立して以て今日の如く四市十四郡となる。

【肥前炭田】 肥前國の西北部にある炭田。即ち佐賀縣の小城・杵島・東松浦、西松浦の四郡及び長崎縣の北松浦・西彼岸の二郡に互り、筑豊・石狩の二大炭田に次ぐ本邦の大炭田。此地方は第三紀層頗るよく發達し石炭の重要産山のみならず、十四、準重要産山は二十あり。其内、北松浦郡には前者九、後者十五存す(昭和十年)。主要産山の分布は、炭田の東部に於ては、六角川の支流・上支地方(杵島炭礦など)及び、松浦川の上流・上支地方(新屋敷炭礦、岩屋炭礦など)、西北部にては深江川・佐々川・相ノ浦川の流域地方、西南部にては西彼岸中島の西海岸島嶼とす。本炭田に屬する重要産山のみを掲ぐれば別表の如し。(昭和十年の分)なほ準重要産山の嶺山名次の如し(昭和十年)。(佐賀縣東松浦郡)入野・(佐賀縣西松浦郡)大久保・(佐賀縣西松浦郡)長崎縣北松浦郡)向山・(長崎縣北松浦郡)上野・山口・綱ノ鼻・平田山三坑・皆瀬・田中・鹿爪・福井・吉岡・福島・大平・

Table with 3 columns: 嶺山名, 嶺區所在地, 年産額(産)

中島江口・平田山二坑・岳下・中里(長崎縣西彼岸郡)松島・新松島。
【肥前旭】 鹿兒島本線の一驛(昭和六年設置)。佐賀縣三養基郡旭村にあり。
【肥前飯田】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。佐賀縣藤津郡七浦村飯田にあり。
【肥前大浦】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。佐賀縣藤津郡大浦村にあり。
【肥前鹿島】 長崎本線の一驛(昭和五年設置)。佐賀縣藤津郡鹿島町にあり。
【肥前長田】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。長崎縣北高來郡長田村にあり。
【肥前七浦】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。

郡の北端に位置し、郡邑晋州の北方約二〇軒にあり。集賢山(五七二米)の西境近く聳ゆる他は著しきものなく概ね百米内外の丘陵地帯を形成す。従つて耕地は丘陵面及び緩傾斜面を開墾して置るが發達す。ただ灌漑水に乏しき爲め水田極めて少なし。農産物は小麦・粟・棉花・米・麻等にして、工業に麻布・綿布等あり。また美川金銀嶺山より金・銀を出す。道路は晋州より北方陝川に通ずる三等道路西部を南北に縱貫する他は何れも等外線にして交通便ならず。聚落は普遍的に分布す。西北部の安洞里には陰曆二・七の日に開く市場あれども商圓狭く漸次衰微しつつあり。

國十二郡の内、北部の六郡を割つて美作國を置く。備前國は僧道鏡の窺密の心を挫きし和氣清麻呂の出身地なり。鎌倉時代此初め、幕府は土肥實平・梶原景時を國の守護とし、また佐々木盛綱に兒島郡を與ふ。建武中興の時、松田盛朝をこの國の守護とし、兒島郡は兒島高徳に與ふ。足利尊氏の叛くや、田井・飽浦等の土豪は皆これに應ず。勤王の士兒島高徳はこれを討ちしも克たず、新田義貞の弟義助もまた來り攻めしも效なく、全國悉く尊氏の有に歸す。尊氏乃ち播磨國の守護赤松則祐をして本國を兼れ治めしめ、爾後數傳して滿祐に至り誅せられ、山名持豊代りて守護となる。應仁二年、赤松政則はその臣浦上則宗をして山名の守護代たる小鴨氏を遣はしめ、則宗守護代となりて三石城に治す。既にして文明年中に至れば則宗京都所司代となり、永正年中には則宗の子村宗、赤松氏に背きて自立す。浦上氏の臣に宇喜多直家あり、上道郡の沼城(いま浮田村大字沼)に據り、漸次に附近の地を併せ天正元年に岡山に移り、ついで赤松氏を亡ぼして備前國を領有す。羽柴秀吉の織田信長の命を奉じて中國平定のため來攻するや、宇喜多直家は逸早く款を通じ、よりて備前・美作を領するを得たり。關ヶ原役には直家の子秀家西軍の統率となり、軍敗れて逃亡し、後捕へられて八丈島に謫せらる。徳川家康乃ち小早川秀秋を本國および美作に封

す。秀秋の歿後國除かれ、慶長八年より池田輝政の子忠繼岡山に來り、嗣なきを以て弟忠雄これを嗣ぎ、寛永九年子光仲の時因幡島取に移り、光仲の從兄池田光政これに代り備中の五郡をも併せて三十一萬五千餘石を領し、一國一藩を以て明治維新に至る。明治四年七月岡山藩を廢して岡山縣を置き爾來一貫して今日に至る。備前國の郡は、美作國の分置後六郡なりしが、奈良時代の初めに藤野郡(後に和氣郡と改む)を置き、平安時代の初めに磐梨郡を置き、以來長く八郡となる。明治十三年五月御野・上道二郡の中より岡山縣が獨立し、これが明治二十二年六月に至り岡山市となり、明治三十三年四月御野・津高二郡を併せて御津郡とし、赤坂・磐梨二郡を併せて赤磐郡として今日に如く一市六郡となる。

【備前白石】 備前本線の一驛(昭和十二年設置)。岡山縣御津郡白石村にあり。【ヒゼンホリ】 備前堀川 埼玉縣兒玉・大里兩郡にある渠。本庄町の東北、兒玉郡仁手村字久々字に於て利根川の水を分流し、利根川の自然堤を開鑿して、同郡藤田村大字堀田に於て小山川に水を落す。大里郡大寄村大字矢島に於て再び分流して東方に流れ同郡泰村に於て利根川に注がしむ。この渠溝によつて深谷町の東北一帯の水田は灌漑せらる。流程約三〇軒。慶長九年伊奈備前守忠次の疏通せしものなるを以て備前堀川と稱す。

【日田郡】 大分縣十二郡の一。豊後國の西部。西は福岡縣朝倉郡・浮羽郡及び八女郡に界し、南に熊本縣に接して西南部は南方へ長く延び其南端は菊池郡に其東は阿蘇郡に隣る。四周山地を以て繞らされ西南の一隅のみ開け玖珠川西北流して福岡縣に入りそこに日田盆地を開く。即ち西境南部には熊渡山(九六〇米)・權現嶽・釋迦ヶ嶽(一二三一米)・猿嶽山・三國山等南北に連り其山地東北地方へ山脚を延して廣がり、西南部に渡神嶽・米精山等か起す。西南部には酒吞童子山(一一八一米)・蟬居す。東南部は阿蘇火山北麓の山嶽地帯なり。東部の山地は九重火山群西北麓の山にして龜石山(九四三米)等あり。西北境には英彦山(二二〇〇米)及びえ、東南方へ山脚を延びて北境を限り途中、大將陣山・壹尺八寸山(七〇七米)等を起す。河川は東方玖珠郡より來る玖珠川北部を西北流し、東南方阿蘇郡より來る大山川は中央を西北流し玖珠川と合し三隈川となりて筑後川上流をなし、以下西北部に日田盆地を造り福岡縣に流れ入りて筑後川となる。郡内の水は凡て兩者に合す。農業を主生業とし林業これに次ぎ、日田盆地の農産物及び材木等は筑後川によりて搬出せらる。また銅生鐵山は有望なる金山なり。郡内日田町の外十八箇村を含み、人口密度は一七一人に於て、大部分山地なれば人口密度概して多からず、最も少きは上津江村の三四人なれども日田盆地のみは人口稠密にして日田町は二六一三人を算し而も近年久大本線開通後は次第に發展しつあり。日田

町を中心として縣道四方へ通じ、西方久留米市より東方大分市へ至るもの、北方小倉市へ向ふもの、東北方津市へ至るもの、また東南方阿蘇郡宮地町へ向ふもの等ありて西北部は交通至便なり。また省線久大本線北部を東西に通ず。國造本紀によれば成務天皇の朝國造を定め給へる比多國が國郡制定の時郡となりしものなるべし。風土記・拾芥抄等昔日田に作るも和名抄に日高に作り比多と註し、日田・在田・夜間・日理・又連・石井の六郷あり、東鑑に肥多または肥太の字を用ふ。明治に至り日田に從ふ。

【日田盆地】 大分縣の西北部にある日田町を中心とせる斷層盆地。高約三〇〇米の平頂山に圍まれ、内部に開削されたる月隈・日隈・星隈・慈眼山・吹上嶽・丸山など何れも火山岩より成る水蝕殘丘を有す。南部の日隈・丸山一帯は阿蘇系にて輝石安山岩より成り、之に反し北部の月隈・慈眼山・星隈等は耶馬溪系に屬し凝灰岩より成る。盆地は直徑約四軒の略圓形をなし盆地底の最高は一〇〇米に滿たず。嘗て湖水なりしものが西方を破りて流れ出で、現在の沖積地を成せしもの。東方山地より流るる玖珠川及び大山川は盆地の東南部に合流して三隈川となり、舊湖底を網状をなして流れ花月川を合せ、謂ゆる水郷日田の景觀をなし、北方に英彦山、南方に阿蘇山を望み、風光極めて明媚なり。近時省線久大本線が盆地

地を貫通し、盆地の中心日田町附近は異常なる發展を約束する。【日田町】 大分縣豊後國日田郡の西北部。日田盆地の中央を占め、筑後川の右岸に沿ふ。東北部にやや丘陵ある外は地形低平にて、東南方約一軒の地點に於て筑後川上流玖珠川と大山川と合流し、三隈川となりて本町南境に沿ひ西北流す。中部には其分流花月川西北流し外に小分流もあり一種の水郷をなす。米・麥・蕎麥・粟・粟糠等の農産多く、筑後川による木材の搬出盛にて町内は製材・下駄の産多く、外に酒の特産もあり。また三隈川の鮎は長良川の特産も及びぬ味を有すと云はれ日田町の名物なり。市街地はもと日田町の、豆田町の兩部に分れて發達し人口一四八七〇人、人口密度二六一三人の多きに達し、省線久大本線全通後益々發展の途上あり。縣道・里道四通しバス往來して交通至便。省線久大本線日田驛(昭和九年設置)あり。また深耶馬溪へもバス通ず。古くは日田郷と云ひ、和名抄に日高郡日田郷と見ゆ。弘安岡田帳に日田庄地頭職日田彌三郎永基とあり。町は隈・豆田の二區に分れ、隈町は文祿二年豊臣氏舊大友領に諸侯を分封せし時に此地に代官を置き餘地を治めしむ。當時宮本長次郎この地に日隈城を起し、市街を開き隈と稱す。のち毛利高政佐伯に封ぜられし時兼攝して治め關ヶ原の役に毛利氏西軍に與せしを黒田氏の將栗山大膳來討して之を

降す。豆田は一名永山と稱し舊日田の郡役所ありし處。慶長六年小川壹岐守光氏二萬石を以て來封し、日隈山に築城ありて城下を丸山町と稱す、元和元年石川忠總六萬石を以てここに封ぜらる。永山城豆田町と初めて改稱す。寛永十年石川氏總州佐倉城へ移封せられ江戸幕府代官來り治す。豊前守佐藤龍王七萬石を以つて兼管し西國郡代または日田代官と稱し永山を陣屋とす。豊前四日市・日向富高・肥後八代等に出張陣屋を置き幕府直轄領を管して直接江戸・長崎と交通し九州治政の目付政所たり。その後天保二年一時松平直矩封ぜられしも幾くもなくして再び代官政治となり明治に至る。王政復古の時、養藩兵を出して日田を圍み永山布政所を收む。明治四年廢藩置縣に際し、初めは日田縣置かれて舊直轄地を治せしが程なく廢して大分縣の管轄となる。町村制實施の際豆田町・隈町の二町となりしが、明治三十四年合併して日田町と改む。(盛宜園址) 指定史蹟。大字南豆田にあり。日田文化の源泉、廣瀬淡窓の私塾にして文化の末年閉塾せしより安政の頃まで約四十年間専ら育英に努め、更に旭莊・青村・林外と相繼ぎて帷を下せし所に門人四千餘人に及びしといふ。縣道を挟みて西側なる舊郡役所ありし地城はもと考案樓・西塾・南塾等を置き、東側の淡窓圖書館の存するところば、もと秋風庵・心遠處・遠思樓・東塾・講堂

等のありし處にして、總稱して盛宜園といへり。いま舊時の遺構として秋風庵及び書庫あり。庵は東西八間半、南北三間半、草葺二階建、天明元年淡窓の伯父月化の建てしものなり、安政三年淡窓七十五歳を以てこの庵に歿す。淡窓の墓所は縣の北方、工藝學校附近にあり。(慈眼山) 大字豆田にあり。一に鷹城山といひ松樹鬱茂し、山容極めて古雅なる丘陵にして、花月川に臨み眺望廣き勝地なり。丘上の松林中に日田・宇佐・國東地方に水利を興して新田を開き民政に貢獻せし日田代官鹽谷大四郎の碑石あり。(月隈公園) 大字北豆田にあり。俗に城山・丸山・永山と稱せられ、丸山城・永山城のありし所にして歴代代官の城地たりき。日隈山・星隈山と合せて日田三丘と稱せられ、老杉古樞繁り、風色拘すべく山上に月隈神社を祀る。路傍に存する二十有餘の横穴は土蜘蛛族の遺跡と傳へらるるも、日田の國造鳥羽宿禰、または豪族日下部一族の古墳ならんと稱せらる。ここより出でし棺骨を埋め中腹に歸宅碑を建つ、碑銘は當地の儒者廣瀬淡窓の撰に成る。(龜山公園) 大字隈の日隈山、一名龜山山にあり。もとの日隈城の址たり。後醍醐天皇及び楠公を祀る日隈神社鎮座の地に於て、蒼翠鬱々として水中に峙立し、神社の裏手山麓に櫻樹多し。山上より、いはゆる水郷日田の全貌より、日田盆地を繞る峰巒を望むを得べく、山水映

發、風光明媚、日田第一の勝境たり。(豪霧の葉) 本町及び高瀬村との境をなす三隈川にあり。大島・千丈と共に日田三葉と稱せられ、毎年六月一日より二十日前後仲秋まで無數の香魚これに懸りて頗る壯觀を呈す。(永興寺) 大字北豆田にあり。淨土宗。慈眼山。長和三年日田領主大藏大夫永弘、其子永興菩提の爲これを創建す。國寶、十一面觀音立像(木造)一軀・兜跋毘沙門天立像(木造)一軀・同毘沙門天像(同上)二軀、外四軀。(廣瀬淡窓) 鴻儒。名は建、通稱求馬。龜井南溪に從遊、のち自家塾盛宜園を開き徒に授く。門生前後三千餘人、知名の士を出す。安政三年歿、年七十五。贈正五位。著、數十種世に行はる。(廣瀬旭莊) 詩儒。淡窓の季弟、名は謙。長兄に學び學業練達、詩文に長ず。天保九年大阪に家塾を開き皇道の精神を鼓舞す。文久三年歿、年五十七。贈從五位。(廣瀬久兵衛) 篤行家。淡窓の弟。庄屋。殖産興業・水利土工等地方の民政に盡力する處多し。明治四年歿、年八十二。贈從五位。

【日田】 豊後國(大分縣)の古地名。和名抄に日高郡日田郷あり、その地今の日田郡日田町・三芳村に當る。【ヒタ】 肥田村 岐阜縣美濃國土岐郡の中部。土岐川左岸に沿ひ、東は瑞浪町、西は土岐津町、北は土岐川を境に泉町に接す。土岐川の一支流内を北に流れ流域に繁茂多し。半農半工の地にして密業榮

えて陶磁器を産し、殊に三五の皿は廣く全國及び滿洲國等の需要を充し、年産出數一億を越す。農業は米作主にて、また養蠶の副業あり。河沿に縣道通じ中央本線土岐津驛ハスの便あり。この地は和名抄、土岐郡檜原郷の内なるべし。大字肥田は清和源氏、土岐氏の族、肥田氏發祥の地にして、のち一族、尾張に移住して其名著る。大字淺野も清和源氏、土岐氏の族淺野氏發祥の地。「八劍神社」大字肥田に鎮座。郷社。祭神日本武尊。社傳に貞享元年社殿再建と傳ふ。例祭、陰曆八月十三日。

ヒタ 飛驒

【飛驒國】東山道十三箇國の一。信飛高原に位し、海に濱せざる國の一なり。行政上、高山市及び大野・益田・吉城の三郡に分れ、岐阜縣の管下たり。この國は成務天皇の朝國造を定め給へる斐陀國にして、また工匠を以て朝廷に仕へ奉れる飛驒工を以て著る。國名は大寶令には斐陀とあるも、萬葉集には斐太に作る。今も高山市にある縣立中學は斐太の字を冠す。その飛驒に作るは、和銅年間以後とす。國內は初め大野・荒城（近世吉城に改む）二郡に分れしが、清和天皇の貞觀年間に大野郡を分ちて益田郡を置き以て三郡となす。國府は大野郡の三枝郷（いまの高山市内）に置く。鎌倉幕府の末期に信濃の守護小笠原貞宗この國を兼管す。建武中興の時に公卿の嫡小路高基

が國司（公家にして守護となれるを國司といふ）に任ぜられ、三世を経て足利氏の將光極高光のために滅ぼされ、高光が守護となりしが、なほ嫡小路氏の祀を存し國司と稱して弘治年間に至る。高光の家臣三木正頼なるものあり、その曾孫頼頼に至り嫡小路氏を冒し國守となる。天正十三年豊臣秀吉、金森長近を遣はし頼頼の子自綱を討たしめ、長近を高山に封ず。長近より六傳して頼時に至り、元祿五年金森氏は出羽上ノ山に移され、加賀の前田氏をしてこの國を管せしむ。前田氏は代官伊奈氏を置き賞賦の事を掌らしめ、のち城池を毀ちて高山の陣屋と稱し郡代を置き以て明治維新に至る。明治元年五月飛驒縣を置きて飛驒一國を管し、ついでこれを高山縣と改稱す。明治四年十一月高山縣を廢して信濃松本にありし筑摩縣の管下に移せしが、明治九年八月筑摩縣の廢止と共に飛驒一國は岐阜縣の所管となり、昭和十一年高山は市吉城郡より獨立して以て今日の狀態を示す。

【飛驒支廳】岐阜縣の北部、飛驒國三郡の内、大野郡・吉城郡を以て支廳の管轄とし、高山市に支廳を置く。

【飛驒山脈】謂ゆる日本アルプスと稱せらるる本邦第一の高大なる山脈の内、北アルプスと稱せらるる部分に相當し、その地域は長野・富山・新潟・岐阜の諸縣に跨る。※日本アルプス

【飛驒高地】岐阜縣大野郡・益田郡・吉

城郡に互り、高山市をほぼ中心として發達せる一〇〇米乃至一五〇〇米の高臺狀の山嶺地帯の總稱。飛驒高原ともいはる。東方は謂ゆる北アルプスの名にて呼ばるる飛驒山脈と、中央アルプスと稱せらるる木曾山脈の一部に接し、西方は加賀の白山を中心とする加賀・美濃の山地の高原は飛驒の一國に止まらず、北部は越中の富山平野に面し、南方は濃尾平野より三河の臺地に連り、ほぼ南北に本州を横斷して發達する臺狀地にて、内部はほぼ三つに分れ、富山平野後背山地より高山市・古川町を含む盆地と、吉田川・八幡町附近の二線をその界となすを得、正しくは越中・飛驒・美濃高原と稱すべきものなり。この地域は前述の如く山地は甚しく高峻ならざるも、飛驒の持つ山川の景は我國にては最も壯大にして純美なるものなり。地形的に多くの浸蝕面の殘存する地域にて、土地の隆起と共に河川は此等の浸蝕面を開鑿し、深く壯大なる峡谷を到る處に發達せしむ。この若き河谷は此地域の交通を阻害し、最近まで本邦中最も交通不便にして文化の及ばざる地域なりき。所謂飛驒高原の中心たる高山市に出づる交通路としては、南方の岐阜市より木曾・飛驒川の沿谷に沿ふ飛驒街道（益田街道）・郡上街道あり、中央本線中津川驛より北上する南北街道、富山市より神通川の沿谷に沿うて高山市

に至る越中西街道・越中街道、高岡市よりする東白川街道、福井市より東する西白川街道、松本市より来る木曾街道（野麥峠を通過するにより、野麥街道ともいふ）等あり。これ等の線は何れも深き谷の壁を通ずる難路なるも近時自動車道は驚くべき發達を遂げ、加ふるに省線高山本線全通して東海と北陸とを連れ、船津町より東方の高原川に沿ひては碓氷嶽の西麓の平湯温泉に達し、また高山市より乗鞍岳西麓の久手附近まで自動車道し、安房峠の四軒を越れば直ちに梓川沿岸に出られ松本市に連絡する自動車道に接續するに至れり。この地域は山深く人口も極めて稀薄にて、産業も氣候その他の制約を受けきして興らず。林業は第一の産業にて、檜・ひば・さばら・まき・くろべの五種は五木と稱し、良材多し。鑛業もまた古より發達す。即ち神岡・平金・高根・大倉・森部・天生・尾神・六瓶等は金・銀・銅・鉛・亜鉛・黒鉛・水銀・水晶・石灰等を産す。一位の木の細工・春慶塗漆器また古來の名産なり。農産としては米は平地少く産額少量なり。養蠶は副業として行はれ、外に麻布・柶紙等の産あり。

【飛驒一ノ宮】高山本線の一驛（昭和九年設置）。岐阜縣大野郡宮村にあり。

【飛驒金山】高山本線の一驛（昭和三年設置）。岐阜縣益田郡下原村にあり。

【飛驒國府】高山本線の一驛（昭和九年設置）。岐阜縣吉城郡國府村にあり。

ヒタカ 日高

【日高支廳】北海道十四支廳の一。もと浦河支廳と呼ばしが昭和七年改稱。北海道の南部に於て日高山脈の西を占め、東を河西、西を膽振、北を上川の各支脈と號し、南は太平洋に面す。面積八〇九・七平方料。土地は東境に於てパイロソグ（二〇一七米）・戸葛別岳（一九一七米）・神威岳（二六〇七米）・十勝岳（一四五七米）等の北より南に向つて漸次高さを減する連峯より成る日高山脈を稜とし、これより西南に向ひて低下する傾斜面をなし、沙流川・新冠川・築退川・元浦川等の必從河が北東より南西に向ひ略ぼ並行して斜面上を流れ、それ等の長さは土地の幅に比例して、南東のもの程短小となる。この地形に相當して地質もまたかなり單調にして、日高山脈に並行して東より花崗岩及びこれに附隨する貫入片麻岩また接觸岩より成る深成岩地帯、古生層地帯、中生層地帯が帶狀に排列し、最東部に於て第三紀層が比較的廣く現はれ、また中部以西の海岸には狹長なる沖積地

發達す。氣候は北海道他の部分に比して溫和、夏季には相當の雨量と濕氣を示す。また東南風に伴ひて海霧を見るも、秋は空晴れ、冬季は積雪比較的少し。土地の開拓はなほ不十分にして、總人口七五三八八人。うち約五千はアイヌ人にして、北海道中にて最もアイヌの多き地方をなし、到る處にその特徴ある生活が見受けらる。産業中最も重要な地位を占むるは水産業にして河川及び沿海よりは鮭・昆布及び鮎の産多く、遠洋漁業も盛なり。農業は主として海岸の平野にて行はれ、燕麥・稗・米・大豆・馬鈴薯及び菜豆を主要收穫物とす。牧畜は馬を主とし、ここに我國第一と稱せらるる宮内省の新冠牧場及び農林省の日高種馬牧場あり。一方山地の森林よりは木材の産多し。これに對し、工業は未だ發達せず、鑛産物も少く、沙流川流域の鐵をやや著しきものとす。交通は未だなほ不便にして、鐵道としては苫小牧より管内に達するものと、その支線たる佐瑠太・平取間の一小線あるに過ぎず。支廳は浦河町に置く。

【日高國】北海道の一國。同道の中部の南邊を略ぼ南北に走る日高山脈の西の斜面にして海に面す。行政上、沙流・新冠・静内・三石・浦河・樺似・幌泉の七郡に分ち、いま日高支廳の所管たり。この國は沙流郡の平取村を中心として蝦夷創業の地として知られ、沙流の古都なる新冠に南方の女神漂著して蝦夷人の祖先とな

れりといふ傳説、及び源義經に關する傳言に因める古蹟に富む。即ち平取村の義經神社、新冠郡の判官館等はなり。従つてアイヌの部落も他の地方よりも比較的によく舊態を存す。幌泉以西の地方を日蝦夷と呼び、以東の地方を奥蝦夷といひ、襟裳岬を界として風俗・習慣・言語等多少異なるものあり。松前藩の統治の時代には佐瑠太・新冠・静内・三石・浦河・樺似・幌泉の七領とし、これを家臣の知領とせり。寛政十一年浦河以北・知床間を幕府の領地とし、享和年間箱館奉行に屬せしむ。その後幾多の變遷を経て現在の如く七郡となる。

【日高嶺】北海道日高國（主として）にある省嶺。膽振國勇拂郡苫小牧町の省嶺至蘭本線苫小牧驛より太平洋岸に沿ひ日高國樺似郡平鷲村の樺似驛に至る一四四・四軒。沿線の佐瑠太驛（日高國沙流郡門別村）にて社線沙流街道に接續し、静内驛（日高國静内郡静内町）よりは自動車にて新冠の御料牧場に至り得。浦河郡浦河町の浦河驛より樺似驛までは昭和十二年に開通す。

【日高山脈】北海道中央脊梁山脈中の南部を占むる山脈。日高國と十勝國の國境山地をなして、襟裳岬より北方狩勝峠に至り、十勝火山脈に續く。山地の中央部は分水界をなす地帯は花崗岩及び閃綠岩等の深成岩によつて構成され、その兩側に古生層・中生層・第三紀層が並び、地

質圖を見るに五色の長嶺の如し。南端襟裳岬より約三〇軒北に於て廣尾嶽（一三三〇米）あり。それ以南の地は一〇〇〇米以下の同一高度の山頂群より成り、東に猿留川、西に歌別川・ニカンベツ川等が必從谷をなす。廣尾嶽の北に於て高度を増し、樂吉岳（一四七二米）・十勝岳（二四五七米）・神威嶽（二六〇一米）を起す。この附近は一五〇〇米級の山頂をなし、その西側には中生層を中間に介在して古生層あるを以て山相は複雜となり、この間を流るる幌別川・元浦川・築退川等の上流は複雑なり。神威嶽の西方ヒリガイ山（二六七七米）・セツウシ山（八五九米）・ヒテナイ山（二〇二六米）の山脊及びその北方なるイトナツパ岳（一七四八米）より笹山（八〇六米）に至るもの等は特に著し。神威嶽より北西に延ぶる主脈は次第に高度を増して、幌尻岳（二〇五二米）・札内嶽（一八九六米）・美唄岳（二〇一七米）等の二〇〇〇米級の山地をなす。幌尻岳より分岐する支脈は、貫氣別山（一三二一八米）・リビラ山（一二九二米）を主峯としてその南に新冠川が峡谷を作る。この西方支脈との間を流るる曙河川の中流は構造に従つて必從谷を作る。ルテンベツ澤（春別川の支流）・ニシエオオマナイ澤・シロカナンベツ澤（元浦川の支流）・コイゴカシシヒチヤリ川・イトナツパ川（築退川の支流）等は著しきものにして、更に西南に於て東南西

ヒタカ

北に必從河川群あり、第三紀層と第三紀前層との境界に沿ふ。西方山麓が以上の如く複雑なるに反し、東側は必從谷が見事に並び流し中川・帯廣の扇状地を形成す。それ等古期岩層の東に第三紀層が廣く簡単に分布せるがために、やがてこれらの緩傾斜地をなす扇状地は最初に開拓する地域となりしものとす。

- 【日高三石】 日高線の一驛(昭和八年設置)。北海道日高國三石郡三石村にあり。【日高門別】 日高線の一驛(大正十三年設置)。北海道日高國流石郡門別村にあり。【日高村】 茨城縣常陸國多賀郡の南部。日立町の北隣にて、東は太平洋に臨む。阿武隈山脈東斜面の一部を占め、西北境に石登山(三八六米)あり。これより次第に東方に低下し、海岸附近に稍平地ありて農業行はれ米・麥を産し、特産物には蒟蒻・苹果・松苗等あり。海岸は單調なる砂濱をなし漁業盛なり。陸前濱街道は東部を北走し、省線常磐線またこれに沿ひ小津驛(明治四十三年設置)を置く。この地は和名抄、多珂郡道口郷の内なるべく、風土記に見ゆる飽田村は大字小津の相田の地なるべしといふ。【日高】 群馬縣群馬郡高尾村の大字。兩毛線の日高驛(昭和十二年設置)あり。【日高町】 兵庫縣但馬國城崎郡の南部。

四八八

内原・石淵・南部の五郷及び餘部一を管す。續紀「大寶三年、令紀伊國、阿提、飯高、平瀧三郡、賦銀也」。

【日高川】 和歌山縣の川。縣の中央部なる日高郡を東より西に貫流す。有田・日高兩郡境にある若敷山(一五二五米)及びその東方の城ヶ森山(二五九米)の南側斜面に源を發し、奈良縣境の護摩ノ塚山(一三七〇米)及び大峰山(一八八米)の西側斜面の水を集め龍神村まで南流し、大字龍神より西南に向ひ、上山路村大字五領附近にて丹生ノ川を左岸に收む。五領より西方四軒、横畑間に横入曲流見事に發達し、ロアは八箇に分かる。横畑より北に向ひ、川上村大字椿山に於て初湯川を右岸に合せて西流す。この間には河岸平野多少開けて、田地・畑地見らるるも主業は山林にあり、材木は筏流しとして御坊町に送る。椿山より野日村間には川の蛇行による氾濫原稍開け、周囲の山地は五百米以下の低平なるものにして、草地畑地多く、蜜柑を産す。野日村に於て、稍開けたる海岸平野に達し、御坊町の南を流れ海に入る。この附近以南には梅の樹林行はれ著名なり。流程約一八〇軒、船着村以下約三〇軒の間は舟楫の便あり。【日高村】 愛媛縣伊豫國越智郡の東部。今治市の西南に接し、西部に低き丘陵ある外は地平坦にして南境に沿ひて若津川東北流す。全戸數四二一戸中三八一戸は可を得て採掘したることありといふ。明治三十四年の頃より赤澤鐵山として知らる。蓋し赤澤は宮田川上流の溪谷とす。同三十八年に久原房之助の經營に移るや日立鐵山と改稱す。これより大發展を遂げ、爲に日立町は大正十三年町制を施すに至る。現在は日本鐵業會社の經營にて日立鐵山の荷扱所ありて當鐵山の咽喉部をなし、こゝより事務所・製鐵所方面へは鐵山専用の電車あり、總延長二〇軒に餘る。専用電車の芝内停留場附近には七八百の電線槽を有する電線場ありて、粗銅を精製するのみならず金・銀を分離す(當製鐵所は日立鐵山の鑽石を製鍊するのみならず、他鐵山の金銀鐵・銅鐵等を合併製鍊す。而して前記の産額に日立鐵山のみ鐵石に依る製産額にあらす)。なほ宮田川上流の谷を利用して従業員住宅、商賣等多くあり、更に鐵山經營の劇場・病院・學校等立派なる建物目立ちて、宛然山間に都市をなす。

ヒタチ

【日立町】 茨城縣常陸國多賀郡の南部。東は太平洋に臨み、西は久慈郡と隣る。阿武隈山脈東斜面の一部を占め、北境に神峯山(五九四米)、西境に高鈴山(六二四米)あり。山地は海岸附近まで延び、海岸附近に狭き平地あるのみ。西部に日立鐵山あり、町は之によりて發達せしものなり。日立鐵山の鐵區はこゝより四方に延びて廣大なる範圍を有し、金・銀・銅・硫化鐵等を製出す。また日立製作所の日立工場あり。同工場は本町より助川町に亘る大工場にして、水・火力發電に關する諸機械・發電機・電動機その他各種の電氣器具等大規模の製作をなす。海岸平地には農業行はれ、米・麥・苧・甘藷を産す。陸前濱街道は東部の平地を北走し、栗落は之に沿ひて南部に發達し、宮田川を挟みて助川町の聚落に接し、此處に大鐵山町を現出す。省線常磐線は海岸に沿ひて通ずるも町内に驛なく、南隣の助川町に助川驛ありてバス通す。この地は和名抄、多珂郡道日郷の内なるべし。明治二十二年、宮田村と滑川村とを合併して日立村と稱す。同三十四年赤澤鐵山(日立鐵山の舊稱)が創立せられしも振はず、同三十八年久原鐵業(いま滿洲重工業開發會社)の手に移り、漸く活況を呈す。日立村は大正十三年町制を施す以て今日の盛況を見るに至る。【日立鐵山・製鐵所】 日立鐵山の鐵區は

ヒタカミ

【日高見(國)】 書紀登行紀に見ゆる古地名。蝦夷の根據地。同紀の廿七年に「武内宿禰自東國還之奏言、東夷之中有日高見國……亦土地沃壤而曠之、擊可取也」とあり。同紀四十年日本武尊東夷御征伐の條に、「蝦夷既平、自日高見國還之、西南歷常陸至甲斐國」とあり。延喜式神名帳の中に陸奥國桃生郡日高見神社あり、また仙臺平野を流る大河に北上川あり。キタカミとは蓋しヒタカミの轉訛なるべし。かく擧げ來れば登行紀に見ゆる蝦夷の根據地日高見國は今日の仙臺平野の邊なるべく、關東平野以北に於て土地廣く沃穰なる地方は仙臺平野を除きて他になければなり。【ヒタキ】 日瀧 長野縣上高井郡にありし村。昭和十一年須坂町に編入さる。

ヒタカ

ヒタチ——ヒタネ

武尊の蝦夷征伐の時にはこの國を通過し給ひ、書紀に新治・筑波等の地名が既に著る。國造本紀に従へば成務天皇の朝に新治・筑波・仲(後の那珂)・久自(後の久慈)・高(後の多賀)等の諸國ありて國造を定め給ひ、應神天皇の朝には筑波國造を置く。大化改新國郡制定の時に、これ等の國々は郡となり常道の國の中に入る。國名を常陸の字に改められしは蓋し文武天皇の朝の頃か。同天皇の二年に初めて常陸國の字見ゆ。國府は茨城郡茨城郷の府中(いま新治郡の石岡)に置く。平安時代の初、淳和天皇の御代、この國は上野・上總の二國と共に親王の任國とされ、長官を太守と稱し親王これに任じ常に京都にあり、次官たる介または権介が國務を管す。平將門が下總に亂を起せし時には、この國の大掾に平國香あり、その子孫世襲して大掾氏と號し府中城にありて威を振ひしが、のち水戸城に移る。堀河天皇の頃源義光が常陸介となり、その子孫もまたこの國にありて佐竹氏と稱す。平治年間平清盛は義光四世の孫佐竹忠義を常陸介とし久慈郡の太田城に居らしむ。源頼朝の起るに及び兵を遣はして忠義を討ち一旦これを滅ぼせしが、のち從子秀義の時に赦して舊領を復せしむ。頼朝また小田知家をこの國の守護とし筑波郡の小田城に居らしむ。これを小田氏の祖とす。建武中興の時足利尊氏この國の守護となり、のち叛するや秀義五世の

孫佐竹貞義これに應じしが、大掾・小田兩氏は官軍に應じ、のち北畠親房もまた吉野より來り、小田氏に據りて恢復を謀る。然るに官軍の威漸く振はず、大掾・小田二氏も亦遂に賊軍に降り、親房の辛苦終に報いらずして吉野に歸るに及び、全國みな足利氏に屬し、大掾・小田・佐竹の三氏國內に鼎立す。應永の季、江戸通房が大掾氏を襲ひ、水戸城を奪ひしより大掾氏も衰へ、國の北部は佐竹氏、南部は小田氏の有となれり。天正二年小田氏は太田資正に滅ぼされ、天正の季には佐竹義重は江戸・大掾二氏を滅ぼしては國内を平定し、子義宣を水戸に置く。かくて義宣は關東地方に威を振ひし北條氏と相拮抗して降らざりき。ついで天正十八年、豊臣秀吉の小田原北條氏討伐のため東下するや、佐竹義宣は款を通じて國の大部分を領有すること故の如し。關原ヶ役の起るや義宣は西軍に通ぜしを以て、徳川家康は封を削りこれを出羽の秋田に移す。家康の第六子信吉を水戸に封じしも天死せしを以て信吉の弟頼宣を此處に移す。頼宣の更に駿河に轉ずるに及び更に弟の頼房を封じ三十五萬石を與ふ。これを水戸藩の始祖とす。その後、國內に封を受くるもの多く明治維新の始めに於て次の十二藩ありき。穴戸(水戸)の支藩松平氏、一萬石・石岡(府中)の水戸の支藩松平氏、二萬石・松川(水戸)の支藩松平氏、二萬九千石・笠間(牧野

氏、八萬石)・下館(石川氏、二萬石)・下妻(井上氏、一萬石)・松岡(もと水戸の家老中山氏、二萬五千石)・土浦(土屋氏、九萬五千石)・志筑(本堂氏、一萬石餘石)・牛久(山口氏、一萬餘石)・龍ヶ崎(米津氏、一萬石)・麻生(新莊氏、二萬石)等なり。以上に水戸を加へたる十三藩は、明治四年七月にいづれも一旦廢となりしが、同年十一月には之を合併して水戸・穴戸・笠間・下館・下妻・松岡の六縣を廢して茨城縣を水戸に置き、多賀・久慈・那珂・茨城・眞壁の五郡を管し、土浦・石岡・志筑・牛久・龍ヶ崎・麻生・松川の七縣を廢して新治縣を土浦に置き、以て新治・筑波・河内・行方・信太・鹿島の六郡を管し、この外に下總國の三郡をも併せ管す。明治八年五月に至り、新治縣を廢して常陸六郡を茨城縣の管下に移し、下總國三郡を千葉縣に移す。明治十三年五月に至れば茨城郡を東西二郡に分ち、同二十二年四月には水戸市が東茨城郡の中より獨立し、同二十九年四月には新治・信太・河内・筑波の四郡(下總國の北相馬郡の一村をも含む)の境界に大整理を行ひ、信太・河内二郡を廢して新治・稻敷・筑波の三郡として今日の一市十一郡となる。

【常陸大宮】 水郡線の一驛(大正七年設置)。茨城縣那珂郡大宮町前ノ臺にあり。【常陸鴻巣】 水郡線の一驛(大正七年設置)。茨城縣那珂郡芳野村鴻巣にあり。【常陸酒出】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡木崎村大字南酒出にあり。【常陸大子】 水郡線の一驛(昭和二年設置)。茨城縣久慈郡大子町大子にあり。【常陸津田】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡川田村大字津田にあり。【常陸中里】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡瓜連町中里にあり。【常陸村田】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡村田村大字津田にあり。【常陸那珂郡】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡村田村大字津田にあり。

【直根村】 秋田縣羽後國由利郡の西南部。矢島町の南に隣り、西南及び南は山形縣に接す。面積一四四・五五方軒。西境に鳥海山(二二二〇米)聳え、圓錐形の山容を以て東方に傾斜す。東境には觀音峯(五七二米)・朝日森(六二二米)あり。全村概ね山地にして、鳥海山より下玉田川、南境より上玉田川、東南境より百宅川各發源し中央部に於て合して鳥海川となり、東北に流る。全村山林多し木炭を産し、また米を産す。道路は東部を略東南より西北に通じ、北方矢島町に至る。

ヒタマオカ 水玉岡

大沼郡にありし村。大正十四年川路村とを合併し玉路村を置く。

ヒタモリ 美守村

新潟縣越後國中頸城郡の東部。高田市の東方約六軒。保倉川及びその支流に沿ひ、東部に稍々高き部分あるも概ね平低にして頸城平野の一部分を占む。灌水の便よく水田開け頸城米の産多し。南北に縣道走り、高田市へパスの便あり、社線頸城鐵道森本驛に近し。此地は保倉村・味方村と共に和名抄、頸城郡夷守郷(比奈毛里と訓す)の地に於て、大字本郷は夷守の本郷なり。

ヒタリイシ 左右

省線松浦線の一驛(大正九年設置)。長崎縣北松浦郡大野村にあり。

ヒタン 美灘面

朝鮮江原道平昌郡の最南端、郡邑平昌の東方約七軒。大白山脈の西斜面に屬し、城内山岳重疊し、南境に漢江上流西方に曲流するも、殆んど平地なく、溪谷に僅に小平地の散在を見るのみ。従つて耕地極めて少く比較的緩傾斜面を拓きて耕地となすを以て、灌溉不便にして大部分畑作をなす。住民は大部分農業に従事し傍ら採薪・製炭の業に従事す。主要産物は大豆を第一位とし粟・稗・玉蜀黍・蕎麥・馬鈴薯・蜂蜜等あり。また南部は寧越炭田の一部に屬し石炭を出す。道路は面の略中央にある倉里を起點として、溪谷に沿ひ郡邑平昌、南方寧越、東方旌善等に放射狀に通ずる

ヒタマ——ヒツチ

も、境界に星摩嶺(八六七米)・栗峙等の靚峰あり、平昌・旌善はバスを通ずるも、交通未だ便ならず。棄落密度は疎なり。倉里には南事務所・警察官駐在所及び市場等あり。

ヒチ 比地

播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に突栗郡比地郷あり、その地今の突栗郡城下村・戸原村の邊に當る。

ヒツ 比津

省線名松線の一驛(昭和十年設置)。三重縣志保郡八知村にあり。

ヒツ 檜島

山口縣萩市の北方海上約八軒に浮ぶ島。長門六島の一。南北約一軒、東西約〇・六軒のほぼ楕圓形島にして島頂は九〇米、山脚直ちに海に迫り四周何れも海岸を以て繞らさる。

ヒツサ 必佐

近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に蒲生郡必佐郷あり、その地の今蒲生郡日野町・西大路村・南北都佐村・北比都佐村の邊なるべし。

ヒツチュー 備中

山陽道八箇國の一。いま倉敷市及び都窪・港口・小田・後月・吉備・上房・川上・阿哲の八郡に分ち岡山縣の管下に屬す。この國は上世の吉備國の内にして、應神天皇の朝に國造を配置されたる下道・加夜(後に賀陽)の二國も國郡制定の時郡となりてこの國に屬せしもの如し。文武天皇の朝、備中國を置かれて九郡を管す。國府は賀陽郡(いま吉備郡の内)の八部郷にあり、その位置はいま總社町の内といはる。鎌倉時代の初め

四九〇

【常陸大宮】 水郡線の一驛(大正七年設置)。茨城縣那珂郡大宮町前ノ臺にあり。【常陸鴻巣】 水郡線の一驛(大正七年設置)。茨城縣那珂郡芳野村鴻巣にあり。【常陸酒出】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡木崎村大字南酒出にあり。【常陸大子】 水郡線の一驛(昭和二年設置)。茨城縣久慈郡大子町大子にあり。【常陸津田】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡川田村大字津田にあり。【常陸中里】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡瓜連町中里にあり。【常陸村田】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡村田村大字津田にあり。【常陸那珂郡】 水郡線の一驛(昭和十年設置)。茨城縣那珂郡村田村大字津田にあり。

この國の守護となりしは土肥實平・梶原景時なり。元弘年中、高橋英光が守護となり松山城(いま高梁)に居る。足利尊氏の叛せし時には、高師泰の子師秀をこの國の守護となす。足利義満の時には細川頼之をして守護を兼ねしむ。應永年中、弟滿之守護となり、上房郡の井の山に治し、子孫相繼ぎて勝久に至り大に衰ふ。永正十二年將軍義隆の時、細川政春を以て守護とし淺口郡の鴨方に治せしむ。既にして戰國時代に至れば州の内外の諸豪の攻防頗る盛にして容易に統一せず。天正十年羽柴秀吉の織田信長の命を奉じて來り征するや、清水宗治を高松城に圍む。城堅くして容易に拔く能はず、秀吉乃ちこれを水攻にし、毛利氏は兵を發してこれを援けんとせしが效なし。偶々本能寺の變あり、秀吉、倉泉、毛利氏と和を講じ、川邊川(高梁川)以東の地を獲て東に歸り、後その地を岡山の宇喜多秀家に加賜す。關ヶ原役後、徳川氏に宇喜多秀家の故地を小早川秀秋に與へ、戸川達安を庭瀬に、木下家定を足守に封ぜり。爾後江戸時代の間、譜侯の廢置少からざりしが、明治の初めに至り次の九藩あり。鴨方(岡山の新田、池田氏、二萬五千石)・四田(伊藤氏、一萬三千餘石)・足守(木下氏、二萬五千石)・庭瀬(板倉氏、二萬石)・新見(關氏、一萬八千石)・高梁(もと松山、板倉氏、五萬石)・成羽(山崎氏

一萬二千七百餘石)・淺尾(壽田氏、一萬石)なり。明治元年五月には幕府の直轄地たりし倉敷に早くも倉敷縣が置かれ、同四年二月には四國の多度津藩を併せ管せり。同年七月の一般廢藩置縣の際には前記の九藩はいづれも一旦は縣となりしが、更に同年十一月には倉敷縣以下の十縣は悉く廢せられて、備中國全部は備後國深津郡の深津に置かれし深津縣の管下となる。翌五年六月に至り、深津縣を備中國小田郡笠岡町に移して小田縣と改稱す。同八年十二月に至り、小田縣を廢してこれを岡山縣に併せ、かくて備中國一國は岡山縣の管轄となり、以て今日に至る。而して明治三十三年四月に至り郡の併合を行ひ都賀郡・窪屋二郡を併せ都賀郡とし、下道・賀陽二郡を併せ吉備郡とし、上房郡と阿賀郡の大部分とを以て上房郡とし、阿賀郡の大部分と哲多郡とを併せて阿哲郡とす。昭和三年四月倉敷市が都賀郡の中より獨立して以て今日の一市八郡となる。

【備中川面】 伯備線の一驛(昭和二年設置)。岡山縣上房郡川面村にあり。【備中神代】 伯備線の一驛(昭和三年設置)にして藝備線の接續點。岡山縣阿哲郡上市村にあり。【備中高梁】 伯備線の一驛(大正十五年設置)。岡山縣上房郡高梁町にあり。【備中廣瀬】 伯備線の一驛(大正十五年設置)。岡山縣上房郡高梁町にあり。

ヒツツ 比布村

北海道石狩国上川支庁上川郡の北部旭川市の東北約一〇軒に存し省線宗谷本線比布・蘭留驛所在地。東南境を石狩川西流して富麻村を界し、西は東鷹栖村、北は天鹽國に接す。面積八七・三一方軒。東部北部は山地に占められ西北に丘陵起伏す。南半部は比布川外流小川南流して、石狩川に注ぎ平地展げ、旭川盆地の北部を形成せり。水利に恵まれて耕地頗る拓げ馬鈴薯・米・甜菜等の産額多し。牧畜・工業稍行はる。省線宗谷本線貫通し比布・蘭留驛を置く。本村は明治三十九年、鷹栖村の内字比布を割きて置けるもの。

ヒツツ 筆雨村

宮城縣磐城國伊具郡の西南部。丸森町の南に隣り、西及南は宮城縣に接す。面積七四・二四方軒。阿武隈山地の東斜面に屬し、西南境に副露山(七八三米)、東境に動平山(五一六米)あり、全村概ね山地をなし、阿武隈川の支流内川は西南部に發源し村の中央部を東北に流る。木炭・米・蕎麥を産す。角田軌道丸森驛へは東北約一〇軒。交通便ならず。人口密度は一方軒につき二八人なり。村内に不動瀧あり、高さ一五米、幅六米。この地は戊辰の役に仙臺岳が官軍を拒みし地なり。

ヒツツ 日連村

神奈川縣相模國津久井郡の北部。桂川の南岸にある小村にて、川を隔てて與瀬町・吉野町と相對す。大部分山地にて、桂川の流域のみ稍平地ありて農業行はれ、麥・甘藷・馬鈴薯等を産し、養蠶も行はる。縣道ありて、與瀬町・吉野町に通じ、與瀬町に省線中央本線與瀬驛あり。

ヒツツ 畢祿山

臺灣中央山脈北部の一高峯。東側は花蓮港、西側は臺中州に屬す。標高三三七九米。北麓に中央尖山(三七三三米)、南麓に合歡山(三三九四米)續く。西斜面よりは大甲溪の一支、東斜面よりは大甲溪支流發源す。

ヒツツ 日出島

長野縣東筑摩郡宗賀村の大字。中央本線の日出鹽驛(大正十五年設置)を置く。

ヒツツ 日出谷村

新潟縣越後國東蒲原郡の北部。阿賀川中流に沿ひ、北は北蒲原郡に接す。津川町の東北約五軒の山村。飯豊山地の一部に屬し、北部中部には一〇〇〇米前後の山岳重疊し土地一般に高燥なり。阿賀川は南部を東より西へ流れ、概ね峡谷をなすも僅かに耕作地を置く所もあり、粟落此處に散在す。尙東南隅にて飯豊山に發源せる賀川を合流す。林業を主産業とし、次で米・麥・粟・稗等の耕作、養蠶行はる。其他畜産・工業僅かにあり。南部河沿に省線磐越西線走り、日出谷驛(大正三年設置)あり。

ヒツツ 埤頭庄

臺灣臺中州北斗郡二街六庄中の一。郡の中央部に位置し、東は田尾庄及び北斗街、西は二林街及び竹塔庄、南は溪洲庄、北は二林街に接す。

ヒツツ 鼻頭

臺灣本島の東北端なる三貂角の西北にあり、三貂角と三貂灣を挟みて相對す。高さ一二〇米餘の半島にして、遠望宛々孤島の如し。鴨嘴蘭志に、「鼻頭山、俗呼鼻頭山、以形得名」と見ゆ。臺北基隆郡瑞芳街に屬す。

ヒツツ 鼻頭角

臺灣本島の東北端なる三貂角の西北にあり、三貂角と三貂灣を挟みて相對す。高さ一二〇米餘の半島にして、遠望宛々孤島の如し。鴨嘴蘭志に、「鼻頭山、俗呼鼻頭山、以形得名」と見ゆ。臺北基隆郡瑞芳街に屬す。

ヒツツ 人取橋

青田村

ヒツツ 一ツ木

愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外三箇村を廢し富士松村を置く。

ヒツツ 一栗村

宮城縣陸前國玉造郡の東南部。岩出山町の北に接し、北は栗原郡に接す。村の東北及西南は山地をなし、荒雄川は中央部を東南に流れ沿岸に耕地拓く。米・蕎麥・木炭を産す。道路は村の中央部を西北より東南に通す。陸羽東線池月驛(大正三年設置)を置く。村内に一栗館あり、大崎家の臣、氏家兵部隆春の居りし所にして、西館は兵部の父、放牛の居りし所。東館は兵部の家士、千田雅樂の居りし所。小館は千

ヒツツ 一ツ瀨川

宮崎縣のほぼ中央部にある川。西臼杵郡の西南部壹原山(三六七米)の東側斜面の水を集めて南流し、兒湯郷に入る。西米良村大字村所にて右岸に小支流を合せ、これより東南流し同村大字越野尾にて小川川を左岸に入れ、更に鏡元川を左岸に合せこれより流路を東南に轉じ佐土原町の北に於て西方より来る財川と合し宮崎郡境を東流し、兒湯郷富田村の地内にて日向灘に注ぐ。流程約五六軒。流域の地形は中流部以上と下流部に於ては著しく異り、前者は急峻なる懸崖の間を急流するも、後者の下流部は平野を作る。

ヒツツ 一松村

千葉縣上總國長生郡の東部。九十九里濱に臨み、一宮町の東北隣にあり。九十九里濱沿岸平地の南端を占め、南境を一宮川流れ村内に海に注ぐ。西部には沼澤地散在す。農業行はれて、麥・米を産し、蕎麥の産額も多く、養蠶も行はる。縣道一宮町に通じパスの便あり。同町に省線房總東線上總一宮驛を置く。この地に元祿十六年十一月二十二日、大地震あり、海嘯起り附近は村落被害甚大にして、溺死するもの幾

ヒツツ 鼻頭角

鼻頭角の突端頂上にあリ。其の構造は鐵造六角形白色とし、等級及び燈質は第四等回轉白色、毎三十秒時間に一光を發す。明弧は南八九度東より南・西を経て北一度西まで二五八度間、燈火の高さは基礎より一二米餘、水面より約六四米、光達距離二一海里なり。

ヒツツ 一日市場

秋田縣羽後國南秋田郡の西北部。五城目町の西方約四軒、西は八郎湯に面す。面積四・〇九方軒。全村平坦にして馬場目川は南境を西流す。農業を主産業とし米を産す。又佃農の特産あり。道路は東部を南北に通じ自動車の便あり。奥羽本線一日市驛(明治三十五年設置)を置き、五城目軌道線これより東に分岐す。人口密度は一方軒につき七七九人あり。この地の禪宗の清源寺は三浦兵衛盛永の菩提所に於て、盛永は天正年間、楡山の大相模守に殺されその子盛末本町に居住せり。大正十四年町制を布く。清源寺は、明治天皇、明治十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際御泊あらせられたり。

ヒツツ 一言坂

井田村(靜岡縣)

ヒツツ 一箕村

福島縣岩代國北會津郡の北部。若松市の東北に隣り、北は河沼郡に接す。東部に吹屋山(四九二米)、中部に飯盛山あり、西方に傾斜し、西北部は會津盆地に屬して平坦なり。米・麥・大豆・蕎麥を産す。道は村の中部を略東西に通じ、西方若松市、東北方磐越西線翁島驛へはパスの便あり。本村はもと鹽養村と稱せしが、明治三十四年現稱に改む。明治戊辰の役に、激戦のありし地なり。(白虎隊墓)飯盛山の中腹、會津平野及び會津若松市街を一時に収むる眺望廣闊の地にあり。明治元年戊辰の役に死力を盡して官軍に抗せし會津藩士が、朱雀・青龍・玄武・白虎の四隊を編成して戦ひし時、十五歳より十七歳までの少年が白虎隊となり、八月二十三日死を決して戦ひしが、力及ばず、最後まで踏み止りし十九名は瀧澤村より退却して飯盛山に登り、城を拜して自死し、悲惨なる最期を遂げし處なり。昭和三年ここにイタリイ首相ムツツリニの寄贈せし記念碑及び獨逸青年士官より贈られし記念碑建つ。(八幡神社)大字八幡に鎮座。郷社。祭神、品陀別命。社記に用明天皇御宇の創祀と傳ふ。寛治元年源義家出羽會長清原兄弟征討の際本社に戦捷を祈り、凱旋の後社殿を造營し神像を奉ず。のち至徳年中若名若狭守直盛宏壯なる社殿を造營し、社領三百町を寄す。蒲生氏また先規に準ず。爾來、歴代領主の崇敬厚し。例

祭、四月廿六日。「榮螺堂」飯盛山上にあり。一に開通三庫堂と稱す。寛政年中郁堂の建てし所にして、その造構六稜三層にして旋回して昇降し、宛も榮螺の殼の如きを以ての名あり。塔に近く自虎隊士自刃の靈場あり。場内九十餘坪にして瑞垣を以て繞らし、石門あり。左右の門柱に「精忠貫日月・勁節凌風霜」の十字を鐫む。舊藩主松平容保の書する所なり。また場内の中央に松平容保の蒙額、山川浩將軍撰、南摩綱紀の書になる高さ一丈餘の碑を建つ。「妙國寺」瀧澤にあり。顯本法華宗。妙法寺日什上人の私廟を置きし所にして會津法華の靈場なり。會津城主護國の際、當寺に起居せりと云ふ。寺傍に母題目の碑あり。宮本武蔵の筆と傳ふ。境内には日什上人の墓あり。

に低夷する隆起準平原にて、盆地の北縁にまで拗曲して低下し、處々に小斷層を伴ひ盆地底と境す。盆地の南縁は白髮岳(四一七米)北麓なる階段層により低下し、見事なる三角先端面が滑かなる弧状をなして排列し、その崖下に高柱川・水無川・免田川・思川等の必從谷の作る扇状地あり、切原野・中原・神殿原、小田原・前原・中原・野中田等の聚落あり。盆地の北側は稍不規則なる山麓をなし、川邊川・平山川・松ヶ野川・柳野川・小川内川等あり。その東部は球磨川の浸蝕により五〇—六〇米の急崖を作る。この急崖の北側に大久保・茂原・里掛・高原等の泥流熔岩臺地あり。之と同様のものは川邊川の西に別府の臺地、原田の臺地及び南嶺西部の鳩胸川の兩岸にある水畑・奥水田の臺地にて、これ等は南方肥薩・隅の三國境附近より盆地内に流入せしものと考へらる。以上の地形により耕作景は三様に區別さる。南北兩側山地は高温多湿と相俟つて松・杉・檜・栗等の用材及び樺・椎等の薪炭材を供給す。これ等の用材は球磨川を筏流して人吉・八代等の市場に出され取引行はる。盆地の中央を東西に走る省線湯前線の南側は斷崖下扇狀地にて畑・草地及び雑木林あり、竹材・甘藷等を産す。泥流熔岩臺地は草地をなすもの多く、放牧行はる。球磨川氾濫原と、南北より流入する小川川沿岸には水田多し。球磨川上流水上村に

は椎茸の特産あり、大久保・多良木村等の臺地には桑園・茶園・梨畑等あり。盆地の北方、川邊川の上流には史上有名な五箇荘があり、南方、肥薩線大畑驛の近くにループ線あり。輪狀の長さ二二軒餘、交叉點に於ける上・下の比高五四米なり。その南矢線驛は海拔五三三米にて南に約二五〇米の一大陸道あり。肥薩線はもと鹿兒島本線なりしが、かかる不便ありため海岸線の開通後、その地位を奪はれたり。盆地の出口に近く人吉の城下町あり、中央には馬場(多良木)の聚落ありて、盆地内の経済的中心をなす。

船地にして新興の温泉郷としても賑ふ。「人吉城址」麓町にあり。一に鐵月城の名を以て呼ばれ、球磨川の南岸に臨み、河水を利導して要害となし、建久年間相良三郎長頼人吉地頭職となりて遠江相良よりこの地に移りしより以來、相良氏七百年の居城址なり。明治十年の亂に薩軍一時ここに據りしことあり。「大村横穴群」指定史蹟。人吉驛の背後に存する凝灰岩の丘陵南側に穿たれたるものにして約二十箇を算へ、外壁に觀その他各種の圖象等を浮彫す。このうち第七號と稱せらるる横穴入口外部の上部に屋根形の線彫あり、向つて右側に觀彫刻せらる。左側に種々動物の彫刻あり、左端上部に鞍を置きし馬あり、その下に牛又は馬の圖象、その右方にまた馬あり、下部に一本の線を彫り出して區劃を作り、この下に左端に三角形のもの二箇垂下され、その右に小さき兎または小馬と思はるるもの及び大なる一獸恐らく馬ならんと思はるるものを何れも浮彫にす。第五號と稱せらるるものには三箇の觀を浮彫にせしものあり。第十一號と名付けらるるものは、入口の左右に觀と稱、刀子と思はるるもの、圓形をなせる恐らく鏡と思はるるもの等浮彫せらる。これらの横穴中より出土品に蕨手刀・陶形土器等あり。附近の大童氏方に保存せらる。「人吉温泉」球磨川に臨みて涌出。泉質、食鹽性アルカリ炭酸泉。もと附近中原村球磨川

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒトヨ 一夜山

附し、その菩提所となす。大永六年、瑞聖藏主の謀叛するや堂宇灰燼に歸し、のち相良氏これを再興し、慶長二年十二月再度焼失し、寛文五年再建する。明治維新後、故ありて一旦廢寺とせしを同十四年に信徒協力して之を再興す。本尊釋迦如來を安す。蓋し郡内屈指の巨刹なり。

ヒナ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

畔に林温泉ありて風光の美と温泉の豊富とを以つて知られしが、近年舊藩主相良氏の下屋敷に温泉を掘鑿して相良温泉の涌出を見しより、温泉熱益々盛んとなり本町内に於て内湯として掘鑿せられしも既に三十餘箇所を數へ、風景の美を以て知らる、本町は更に温泉郷として發展の勢ひを見るに至り、林・相良・町内の昭和・地獄・新堀尾・青柳・大入吉ほか數湯を總稱して人吉温泉と稱す。「青井阿蘇神社」大字青井村に鎮座。郷社の祭神、健甕龍神外三柱。平城天皇大同元年の創立と傳へ、後冷泉天皇天喜年中の再興に係る。建久年中相良長頼當都を領するやこれを氏神として當都二百五十有社の宗社となす。社殿中本殿・幣殿・樓門は慶長十五年の造營に係り桃山時代の華麗なる手法存し何れも國寶たり。「人吉神社」人吉城址に鎮座。相良家累代の靈を祀る社。境内に林藤左衛門正盛・高橋七郎兵衛政重の頌徳碑あり。何れも水利の功勞者にして、正盛は寛文中球磨川に舟楫の便を開けり。「永國寺」曹洞宗。蓬萊山。應永十七年相良前頼の創建に係り、開山を實底とす。爾來相良家の菩提所にして今なほ郡内の大伽藍。「觀音寺」臨濟宗妙心寺派。正法山と號す。元中二年領主相良近江守前頼の京都より歸國の際、京都惠日山東福寺の前住無庵至清禪師を同伴し來り、至徳年中、伽藍を建立し、同禪師を以て開山とし寺領五百石を

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒトミ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒナガ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒナカ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒナカ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒトリ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒナカ

【人見原】阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

沿ひて鹿兒島街道走り、バスの往來頻繁なり。その東に省線鹿兒島線通過して日奈久驛(大正十二年設置)あり。景行天皇熊襲を誅して筑紫の國を巡狩し給ふ時、葦北火流浦より船を發して火の國に幸ずといふ。火流は比奈賀とよみ、後に轉じて日奈久となれりと。古くより温泉あるを以つて知らる。明治三十四年町制を布く。(日奈久温泉) 泉質炭酸泉。昔後に山を負ひ前は八代灣に臨み温和なる氣候に恵まる。またヒナゴとも稱す。

なる漁邑にて水産多し。其他米・麥及び生柿・酒類の特産あり、伊里村を経て西方上町へバスの便あり。海上は汽船便にて牛嶽に至る。明治廿九年町制施行。(春日神社) 宇日生に鎮座。郷社。祭神武甕槌命外三柱。創建年次詳かならざるも、大和國春日神社を勧請せしものなるべく、當村の産土神として古來崇敬の社なり。例祭、十月十五日。

社領三十五石を寄進す。例祭、九月二十一日。
ヒナタ 日奈田峠 剣山山脈を南北に乘越す交通路の一。最高點は主峯(九五六五米)の東約約六米にあり、一八四六米を算す。北側は徳島縣麻植郡木屋平村に、南側は那賀郡深谷村に属す。東は天神丸(一六八二米)に續き、西は一ノ森(一八八〇米)を経て剣山に連る。

に山之湯温泉・日當山温泉等湧出す。)米・藁・麥等の農産をばじめ工業・林産、畜産等多く又水産もあり。東部には縣道南北に走りてバス通じ、省線肥後線中央を縦断して嘉例川驛・表木山驛あり。もと西嶽山村と云ひしが昭和五年現名に改む。
[日當山] ↓國分町(鹿兒島縣始良郡)
ヒナタワタ 日向和田 ↓青梅町(東京府)

ヒナクラ 日名倉山・鍾倉山

國山脈の一峯。岡山縣英田郡東栗倉村・兵庫縣宍粟郡千種村・佐用郡石井村の三郡境に跨る。標高一〇四七米、山體粒狀安山岩より成る。北麓に道仙寺山(一三四五米)續き、東麓は南流する千種川上流に洗はる。

ヒナシロ 蛭城村 福岡縣筑前國朝倉郡の中央南部。甘木町の東南方約四軒にあり、筑紫平野東北の一部を占むる農村。全村地形低平にして南方約一軒に筑後川西流するあり。純農村にして米・麥・菜種・蕎麥等を産し特産物には促成胡瓜・促成トマト等あり。東北部を社線朝倉軌道線掠めて過ぐ。神功皇后三尊御征伐の際に素戔嗚命・大己貴命・事代主命。神功皇后攝政二年の創建と云ふ。式内社に擬せらる。古來下座郡總社として上下の尊崇厚し。明治二年五月福岡藩供米十俵を寄進、翌三年十月これを改めて

ヒナタ 日向村 長野縣信濃國東筑摩郡の北部。北部は更級郡大同村に隣接す。北境に聖山(一四四八米)聳立し、本村はその南斜面に當り南を岸川小支西流するも平地乏しく、中腹までは耕地として開き、米・麥・藁を産す。街道は南部小流に沿うて東西に通ずるも聚落の多くは中腹にありて交通便利ならず。この地は和名抄、更級郡麻績郡の内。
ヒナタ 陽田 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄、度會郡に陽田郷あり、比奈多と訓す。其の地は今の宇治山田市に當る。

ヒナチ 比奈知村 三重縣伊賀國名賀郡の中部。長瀬川に跨り名張町の約二軒東にあり。東境は約四七〇米餘の高さを有し山地次第に臺地狀に西方に極めて緩慢に傾斜し南方より流下し來る長瀬川は中央を西に貫流す。米・藁の農産を主とし外に工業・林産・畜産・水産・鐵産あり。省線參宮急行電鐵伊賀線の名張驛は西方約三軒にあり。
ヒナツ 日夏村 滋賀縣近江國大上郡の西部。東隅の一點彦根市の西南隅に接し、西は約一・五軒にて琵琶湖畔に出づ。西隅に小丘陵ある外は、地形平坦にして西部を河川西北に貫く。田畑よく拓けて農産を主とし米・糠肥用作物・麥・桑葉等を産し林産・水産もあり。彦根市へバスの便あり。省線東海道線川瀬驛へは東南約一軒を取つ。この地古くは和名抄、犬上郡安食郷に屬す。

ヒナゴ 鍾子

愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村を廢し、篠木村・高藏寺町に分割編入す。

ヒナタ 日根

遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡日根郷あり、比叺と訓す。その地、今の小笠郡倉敷村・栗本村・東山村・西郷村の邊に當る。
[日根(郡)] 和泉國(大阪府)の古地名。續紀靈龜二年紀に河内國日根等の三郡を割きて和泉監を置くと見ゆ。和名抄は比叺と註し近義。賀美・呼喚・鳥取の四郷を管す。明治二十九年四月北方の南部と合して泉南郡を建て郡名を失ふ。

ヒナタ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒネ 日根
[日根] 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡日根郷あり、比叺と訓す。その地、今の小笠郡倉敷村・栗本村・東山村・西郷村の邊に當る。
[日根(郡)] 和泉國(大阪府)の古地名。續紀靈龜二年紀に河内國日根等の三郡を割きて和泉監を置くと見ゆ。和名抄は比叺と註し近義。賀美・呼喚・鳥取の四郷を管す。明治二十九年四月北方の南部と合して泉南郡を建て郡名を失ふ。

ヒナシ 日生町

岡山縣備前國和氣郡の南部。片上灣の出口の北岸にあり、前面に散在する小島嶼を含む。南部及北西部には小丘陵あり。中部は東西に狭き谷開けてその東部には海に臨む市街地發達し、一半島その東より東南方へ延びて市街地及小灣を圍む。前面には鹿久居島・曾島・鴻島・頭島・大多府島の大小島嶼浮き風光明麗なる地として古へより著名なり。郡最大人口稠密(密度四〇一人)

ヒナタ 日根

遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡日根郷あり、比叺と訓す。その地、今の小笠郡倉敷村・栗本村・東山村・西郷村の邊に當る。
[日根(郡)] 和泉國(大阪府)の古地名。續紀靈龜二年紀に河内國日根等の三郡を割きて和泉監を置くと見ゆ。和名抄は比叺と註し近義。賀美・呼喚・鳥取の四郷を管す。明治二十九年四月北方の南部と合して泉南郡を建て郡名を失ふ。

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナノ

日向國(宮崎縣)の古地名。延喜式兵部省式に日向國夷守驛馬五疋と見ゆ。いま西諸縣郡小林町の邊なるべし。同町の地名に夷守あり。西南に夷守岳聳ゆ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナノ

日向國(宮崎縣)の古地名。延喜式兵部省式に日向國夷守驛馬五疋と見ゆ。いま西諸縣郡小林町の邊なるべし。同町の地名に夷守あり。西南に夷守岳聳ゆ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

ヒネイチ 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎衛村と改む。
ヒネノ 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を控井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども重要なるは工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはバスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモリ 夷守

美守村(新潟縣)
[夷守] 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守驛家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守驛馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。

して、允恭・桓武二帝の歴々狩獵あらせられし處。日根野行宮は允恭天皇の妃衣通姫の居りし處。〔日根神社〕大字日根野に鎮座。府社。祭神、鴨茅葺不合尊・玉依姫命。社傳に神武天皇御東征の礎の創建といふ。天武天皇白鳳二年に社殿の修造あり。聖武天皇當和泉國五社に神領六千八百石を賜はり、當社はその内五百石を拜受す。延喜の制、新年の官幣に預り、獻饗一口を加へらる。爾來朝野の尊崇厚し。例祭、五月八日。〔慈眼院〕大字日根野にあり。古義眞言宗。井關山。仁和寺末。白鳳二年の創建に係り、天平年中覺豪阿闍梨勳を奉じて諸堂を造立。のち空海ここに住し、弘仁八年多寶塔及び金堂を建立せしより、屢々勅願の詔を賜はり、武門の歸依また厚かりき。爾來千年の星霜、兵火にも恙なき多寶塔・金堂はいま國寶たり。

ヒノ 日野

【日野村】群馬縣上野國多野郡の北部。東西に細長き大村にて、東北は藤岡町に近く、北は北甘樂郡の一部と隣る。全村山地にて、南境には赤久瀨山(一五二二米)・桐ノ城山(一〇二八米)・御荷鉢山(一二八六米)等連り、北境も亦約六七百米の山地連りて南北より村内に傾斜し、村の中央はその据合にして粘川東流す。山地は森林多く、西部は草地にて日野牧場あり。川沿ひに狭き平地ありて粟落はここに發達し、麥・米を作り養蠶も

行はる。縣道は村の中央より川沿ひに東走し、藤岡町方面に通ず。他は山間に村道あるのみにて交通不便なり。大字上日野は和名抄、多胡郡俘因郷に當り、大字下日野は絲野郡高山郷に當る。大字金井には中世高山氏の居りし城址あり。

【日野町】東京府武藏國南多摩郡の北部。八王子市の東北にあり。多摩川の南岸にて、北は北多摩郡立川町等と相對す。南境を淺川東流し、町は東南隅にて多摩川に合す。全町平地にて、米・麥を産し、養蠶盛にて繭を多産す。甲州街道は町の中央を西南に走りて八王子市に通じ、省線中央本線、また南走して、町内に日野(明治二十三年設置)・豊田(明治三十四年設置)の二驛を置く。此地は和名抄、多摩郡石津郷の内なるべく、近世は土淵庄日野領に屬す。當所の領守日の宮は日野宗頼の勤請せるものなり。宗頼は當國七黨の内、西の黨の祖、大夫宗忠の子孫なりと。明治天皇、明治十三年、山梨・三重及び京都府幸の際、同十四年、八王子行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇日野御小休所址及建物附御膳水は指定史蹟たり。

【日野川】福井縣の中部を流るる川。九頭龍川の支流。古くは白鬼怒川、信濃貴川、または叔羅川とも云ふ。上支に二あり、一は若狭との境なる木ノ芽峠に發する板取川、一は美濃境に近き夜又ヶ池に發する白鬼川にして、兩者合して日野川

となり、なほ南條郡の諸水を聚めて北流し、日野山(七九五米)の西流を經、今立郡との境を流れ、次で丹生・今立の郡境を劃し、天主川を合せて後、足羽・丹生の郡境を流れ、足羽川を容れ、依然北流を續け、坂井・吉田兩郡境にて九頭龍川に入る。流程七二軒餘。今立郡舟津村白河より下流に舟楫の便あり。流域の洪湧原は縣下主要の農業地帯をなし、機業また盛に行はれ、下流には鯉・鮒・鮭等の産あり。交流足羽川に跨りて福井市發達し、また主流沿岸には鯖江・武生の名邑あり。

【日野村】長野縣信濃國下高井郡の西南部。中野町の南に隣り、南は上高井郡山田村に接す。南境には千米に及ぶ山地東に連り、山腹は東・西兩境を各々北に延び、中間に廣き谷底ありて北部の中野盆地に續く。北部低地は耕地開墾し、米・麥・繭を産す。中部を南北に街道通じ中野町に至るも交通便ならず。社線長野電鐵村内を通じ日野・村山の二驛を置く。此地は中世高梨庄に屬し、信濃源氏、高梨氏の出身地なり。のち高梨氏は下高井郡中野城にありて高梨庄を治せり。大字新野に天和・元祿の頃、武家の代官所の置かれしことありきと。〔間山豐宮神社〕大字間山に鎮座。郷社。祭神天照大御神。元慶六年の創立に係ると傳へ、いま本村の産土神たり。例祭、十月十五日。

【日野】岐阜縣稻葉郡にありし村。昭和二年設置。羽安驛(大正十二年設置)あり。この地は和名抄、多可郡那珂郷の地に當る。〔天日神社〕大字大木に鎮座。村社。祭神、天日一箇神外數社。式内社。例祭、十一月八日。

【日野】因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に瓦濃日野郷あり、その地今の岩美郡網代村の邊に當る。

【日野川】鳥取縣日野・西伯の兩郡を貫流して美保灣に注ぐ。雲伯備三國境の三國山(一〇〇四米)の東北斜面に發源して東北流し、日野郡黒坂町にて左岸に印賀川を合せ、根雨町にて右岸に小流を合せ、江尾村の邊より西北に流路を轉じ旭村にて野上川を左岸に入れ、これより西伯郡に入り米子市の東にて北方に流れ美保灣に注ぐ。流程約八〇軒。江尾村以南の流域地方は五―六百米の隆起準平原發達し、牧牛盛んに行はる。川は三―四百米嵌入して峡谷を成し菅福村地内にては石霞溪の景勝あり。また江尾村より北は東側は大山火山の裾野にして、河岸に大平原・拵平原・水無原・模原等の丘陵平原あり放牧行はる。河口附近には砂丘内側の濕地に水田拓け、その外側の砂丘には煙草の栽培行はる。

【日野郡】鳥取縣六郡の一。伯耆國の西南隅。東は大山の西南麓より西南に延び島根縣境に涉り、南及び東境は岡山縣に接す。北隣に西伯・能義二郡あり。面積七二五・七五方軒。郡内に溝口・根雨・

六年本莊村と共に岐阜市に編入さる。【日野町】滋賀縣近江國蒲生郡の南部。八日市町(神崎郡)の東南方約八軒にして蒲生川に跨る。北部及び南部は丘陵をなすも中央には廣き平野開け蒲生川南部山麓を西流す。田畑よく拓けて米・麥・糠肥用作物・茶・桑種・繭・桑葉等を産し外に鐵産・水産・林産等あり。また感應丸・實母散等の特産あり日野町の産地として知らる。縣道東西南北に通じてその集中點に市街地發達し人口密度五四一人を算す。社線近江鐵道の日野驛は西方約一軒にあり。往古日野と云へるは今日の西大路村をも含む。牧ありて日野牧と云へり。市街は蒲生氏に城せるより拓けたりと云ひ、いま城址は西大路村の地籍に屬す。町の特産日野桐の行商に端を發せる日野商人は近江商人の最たるものとして知らる。※湖東平野(馬見岡神社)大字村井に鎮座。縣社。祭神、天穗日命外二神。神武天皇の御代、彦健忍雄心命、出雲國より天穗日命を神岡ヶ山に奉遷して齋き祀れるに創まるといふ。式内小社に列し、當時社運盛にして社領三千貫を看せしも、吉野朝時代に神主南朝に與せしを以て將軍足利義滿より社領を奪はれ、社殿荒廢せしが、のち領主蒲生社殿を造營し社領百石を寄す。國寶、天津日子根命坐像(木造)一軀。同天月間見命坐像一軀。他六軀。例祭、五月三日。〔願證寺〕大字村井にあり。眞宗大谷派。も

と法然の弟子空阿の遺跡と傳ふる伊勢國桑名郡長島の地にあり、親鸞の弟子祐信を以て開基となす。住持は寺領一萬石を有し寺門隆盛を極めしが、元龜元年、本山、織田信長に抗するに及び、當寺また長島・中郷屋・大鳥居・篠橋等に築城して信長の軍を阻む。天正二年長島遂に陥り、住持願忍當寺に逃れ本誓寺に寓す。同十一年本願寺顯如の命を承け、本誓寺淨宗坊・西田次郎兵衛等相謀り現地に一字を創して長島願證寺と號す。(興仙寺)大字大窪にあり。眞宗本願寺派。清雲山と號す。寺傳に聖德太子姫高階氏の族此地に來り仙を修して昇天せし遺跡なりといふ。本尊阿彌陀如來は圓仁作と傳ふ。〔金剛寺〕大字大谷にあり。別稱、山寺。さつき寺。臨濟宗永源寺派。聖德太子の開創といふ。延享三年僧懷州の再興。國寶に聖觀音立像(木造、鎌倉初期作)一軀あり。(信樂院)大字村井にあり。淨土宗。佛智山。初め聖武天皇信樂廢宮の後、その内道場、本尊阿彌陀如來を當國信樂の牧村假堂に奉置せしが、のち三轉し、明應七年蒲生貞秀これを音羽城内に移して一字を興し、嚴譽を請じて開山たらしむ。境内に貞秀の墓あり。(正明寺)大字松尾にあり。黃檗宗。法輪山。寺傳に聖德太子の開創に係り、當時支院九十三坊を擁せりといふ。のち織田信長の爲め一院を残すの外諸堂悉く一炬に附せられ、寺領亦没せらる。後水尾上皇、正

保元年一絲の時銀二百枚を賜ひ、更に翌二年清涼殿舊村を下賜ありて本堂大慈殿を建立す。中興は龍溪にして、後水尾上皇勅額を寄せらる。國寶、本尊千手觀音並に脇侍不動明王・毘沙門天立像一軀。(正崇寺)大字大窪にあり。眞宗本願寺派。寺傳に親鸞の法弟圓覺の草創に係るといふ。圓覺は俗名佐々木高綱末子源高吉なりといふ。寛政六年・明應二年の兩度本願寺運如山徒の難を避けて當寺に留錫す。蒲生氏累代の歸依厚し。(毘沙門堂)大字松尾にあり。いま日野町大字松尾の所管たり。觀音堂本尊十一面觀世音立像一軀は藤原期の作にして國寶。(本誓寺)大字日田にあり。眞宗大谷派。即登山。親鸞の門弟性信の開創に係る。のち日野家士野田貞國・本願寺覺如の門に入り淨惠と號し本寺を中興す。

【日野村】兵庫縣播磨國多可郡の南部。松原川に跨り、西脇町の西北に接し、北は中町に隣る。西南部は加西郡に界す。東西兩部は約二―三百米の山地にして北方より南下し來る杉原川中央を貫流して沿岸低地開く。米・稗麥・小麥・繭・蔬菜・花卉・葉煙草・食用農産・果實・茶等の農産物を主とし鶏卵・林産・沿岸漁獲物・水産養殖の外木製品・蠶製品・醬油・豆油・履物・墨・竹製品・瓦等の工業産物も多し。縣道中央を南北に貫き西脇町及び北隣中町へバスの便あり。社線播丹鐵道鍛冶屋線通過して市原驛(大正十

黒坂三町外十四箇村を含む。本郡内は山陰第一の高燥なる山嶽地帯を占め、東嶽の大山(一七二三米)、西嶽の船通山(一四三三米)に挟まれ諸處に高峰屹立し、南境には中國山脈の分水嶺東西に連互して三國・道後・花見・毛無等の諸嶽聳立す。日野川は三國山北麓に發して郡心を東北流し、溪谷を開き、黒坂・根雨・溝口の市街地何れも沿岸に發達す。山嶽地方は養蠶盛にして林業・鐵業も行はれ、ローム鐵を産出す。沿岸の小平地に耕地拓く。省線備前線川沿ひに北通し溝口・江尾・根雨・黒坂・上菅・生山・上石見等の諸驛を有す。また略ぼ之に並行に米子市・福山市を結ぶ縣道通じ、根雨町より津山市に到る國道分岐せり。郡内及び岡山縣勝山町にバスの便あり。伯耆國日野郡と出雲國仁多郡との境にある鳥上山は今船通山と稱し此附近を籠といひ、肥まれば繩に作る。東に流るる川は日野川となりて郡を貫流し、西に流るるは篠ノ川となる。郡名これに因む。和名抄比乃と註し野上・葉倍・神戶・阿太・武庫・日野の六郷を管す。

ヒノエー—ヒノカ

村内農業を主とし米・蕎麦を産し、また木材・牛馬の産あり。省線伯備線と縣道は川沿に貫通し、根雨・黒坂驛にバス通じ交通便なり。中世この邊を日野郷と稱せり。もと波・安井の二村に分れしが大正二年に合併して日野村を建つ。〔長樂寺〕大字下段にあり。曹洞宗。醫雲山。黒坂泉龍寺末。もと黒坂村にありて天台宗に屬せり。文治年間現地に移る。薬師如來及び兩脇侍像(木造)三軀。毘沙門天立像(木造)は國寶なり。

ヒノエマタ 檜枝岐村

代南南會津郡の西南隅。西は新潟縣、南は群馬縣、栃木縣に隣接す。面積三九四・三二方軒の大村。村の中央部を東北より西南に慈明山(一八四二米)・駒ヶ嶽(一一三二米)・大杉嶽(一九二二米)・燧嶽(二三四六米)連りて分水界をなし、その東斜面には檜枝岐川南境に發源し東北に流れ、東南境より實川・舟岐川等を合す。その西斜面には大津岐川・袖澤等發源し西北に流れ只見川に合す。只見川は西境を北流す。村の東境及び東南境には北より自身山(七六九米)・帝釋山(二〇六〇米)・釜倉高山(二〇六七米)・黒岩山(二一六三米)等あり。山岳重疊せる僻村にして、聚落は檜枝岐川に沿ひて發達せるも、水田皆無なるため畑の耕作を主とな

す。各戸とも川の上流・下流或は支流に出作り小屋を持ち、夏は此處に住居して耕作に従事す。此他、木工品製作の山小屋を持つる者もあり。粟・稗・大豆・蕎麦・木工品等の産あり。沼田街道は檜枝岐川に沿ひて東より南に通ず。交通の便よろしからず。人口密度は一方軒につき僅に二人なり。

ヒノオカ 日岡

【日岡】京都市東山区の町名。東山を横斷する日岡峠の東口に當る。京阪電氣鐵道大津線の日岡驛を置く。

ヒノカゲ 日ノ影線

一部。九州東部中央にあり。延岡市の日豊本線延岡驛より東白杵郡を経て西白杵郡七折村の檜峰驛に至る二九〇軒。

ヒノカミ 氷上山

岩手縣氣仙郡大船渡町・高田町・釜川村の境上に位す。標高八七五米、山體は花崗岩より成る。東麓には大船灣、南麓には廣田灣に臨む。山上よりばこれ等の灣に浮ぶ數多くの小島を俯瞰し、眺望最佳なり。

ヒノカミ 日野上村

日野郡の西南部。日野川の上流に沿ひ、石見・福榮二村の西北に接す。面積四三・五平方軒の大村。日野川は西南—東北に中央を貫流し、川に沿うて細長き地形を有し南北兩岸ともに五—六百米の山地に蔽はる。米・蕎麦・醤油・酒類の産多く、また牛・馬・鶏・木材・木炭を産す。溪谷に部落集り縣道貫通し、西隣の多里村にバスを通す。東部に省線伯備線南北に貫通し生山驛(大正十二年設置)を置く。大正十年に宮内村・霞村を合併して本村を置く。〔石段溪〕指定名勝。大字生山と黒坂村大字荒神原にあり。石見川の日野川に合流する生山の南北凡そ二軒に互れる花崗岩の峽谷なり。石見川に臨める處殊に奇巖怪石に富み、天狗岩・墨岩・獅子岩・辨天岩・蓬萊岩等の巨巖、溪を歴して聳立す。また日野川に臨める處に鐘巖・摩天岩・廣畑岩等あり、崖下に水神瀑懸る。〔樂々福神社〕大字宮内に鎮座。縣社。祭神、若健吉備津彦命外三神。崇神天皇朝、祭神若健吉備津彦命、その兄君の四道將軍大吉備津彦命と共に此地に來り、兎賊を平げ給ひしに依り、里民その恩澤を感謝して祀りしところなりと傳ふ。例祭、五月一日。

ヒノカワ 樋川

石川縣羽咋郡にありし村。昭和八年志雄町に編入せらる。

ヒノカワ 簀川郡

島根縣十三郡の一。出雲國の北部。西南部は稍南方

積に努め以て夢しき種田を得つつあり。而し新しきアルタの事故地盤が次第に下り、川床は依然として高く、故に川堤の一側を切開して砂下川や切通しの土管を通じて土砂を導き地上げしたる所多し。三角洲の地先は年々進出しつつあり。かくて宍道湖岸には出來洲・灘分・島村・中島・中洲等の地名が興へられ末廣がりの畦道が出来、新田には次々に獨立家屋が増し來り謂ゆる簀川平野東部の開墾地を物語る我國典型的の散村をなす。簀川平野は山陰には珍らしく開けたる平野にして殆ど全部水田なり。而し低濕なるため肥沃なれども裏作に特有な高畦耕作を行ふ。また低濕の故に水質悪く低き川は悪水川の固有名詞さへあり。従つて各戸は殆ど濾過装置を有す。本郡の主産物は米・蕎麦・木炭・生牛とす。郡内は今市町・大社町・平田町の三町外四十三村を含み、簀川平野地帯は交通都邑の連る開けたる人口密度高き地方にて、平均密度二五四人に對し今市町は七八九二人を有す。中國山地の北に今市町を貫きて山陰道走り今市町より西北岸の大社町と東北方の平田町を通りて宍道湖岸に縣道通じ、其他處々に道路四通し、省線山陰本線中央を東西に横斷し出雲今市驛より省線大社線が大社町へ延ぶ。また今市町より東北方へ走る社線一畑輕便鐵道線ありて東北隅東村の山頂にある一畑薬師へ及ぶ。本郡は明治二十九年四月、出雲・楢橋・神門

ヒノキ

三郡を合せ郡内を流るる斐伊川の別名なる簀川の名によりて簀川郡と名づく。一に妙見山とも云ふ。北面は岡山縣吉田郡中谷村・郷村に、南面は久米郡大井東村に屬す。標高約六〇〇米。西段には矢倉山(六六〇米)聳つ。東流は南流する吉井川に限られ、南流には作備東線と出雲街道東西に並走す。

ヒノキノイ 楡木内村

秋田縣羽後國仙北郡の西北部。田澤湖の西北に位置し、北及び西北に北秋田郡、西南は河邊郡に隣接す。面積一九一・六五方軒の大村。北境に高柴森(八七六米)、高崎森(九三三米)・西境に大森(八五七米)・大佛嶽(一一六七米)・黒崎森(八二二米)・大石嶽(二〇五九米)・東境に葡萄森・楡森(七三三米)・高森(七九六米)・天狗森あり。全村概ね山地をなし、楡木内川は北境に發源して村の略中央部を南流す。村民の生業は主に製炭業にて木炭の産出多く、また米を産し、干ぜんまいの特産あり。大覺野街道は村の中央部を南北に貫通すれど、交通便ならず。人口密度は一方軒につき一八人なり。

ヒノキヤマ 楡山村

京都府丹波國紀郡に界す。四周山地を繞らし特に南部に高く南境には櫃ヶ嶽(五八〇米)屹立して約五—六百米の山地連る。由良川に注ぐ高屋川の支流が東北部を東南方へ貫き

ヒノキ

て流る。米・蕎麦等の農産最も多く、工業に次ぎ林産・水産あり。東北部の河谷を中心に縣道四通し東南方國部町へ至るもの、東隣の須知町市街地へ向ふもの、西西北方の福知山市に出づるもの及び西方何鹿郡綾部町へ走るもの等ありて、各自自動車を通す。

ヒノクマ 日前

紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に名草郡日前神戶郷あり、その地今の海草郡和歌山市の一部に當る。

ヒノクマ 楡前

武蔵國の古地名。延喜兵部省式に楡前馬牧あり。其址いま明かならず。或はいふ、いま東京市淺草區の内ならんと。いま區内に馬道あり、駒形あり、これ昔の楡前牧に因るものなるべし。〔楡前〕大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡楡前郷あり、比乃久末と訓す。その地今の高市郡坂合村の邊か。日本書紀・雄略天皇十四年の條に楡野とあるも此地なり。

ヒノクマ 日前

紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に名草郡日前神戶郷あり、その地今の海草郡和歌山市の一部に當る。

ヒノクマ 楡前

武蔵國の古地名。延喜兵部省式に楡前馬牧あり。其址いま明かならず。或はいふ、いま東京市淺草區の内ならんと。いま區内に馬道あり、駒形あり、これ昔の楡前牧に因るものなるべし。〔楡前〕大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡楡前郷あり、比乃久末と訓す。その地今の高市郡坂合村の邊か。日本書紀・雄略天皇十四年の條に楡野とあるも此地なり。

ヒノコン

社 臺灣臺中州新高郡にある蕃社。丹大溪支流ヒノコン溪左岸に在り。アモン族の丹蕃に屬する高砂族の部落。戸數八、人口八四(昭和十一年調査)。

ヒノサト 日里村

岡山縣備中國川上郡の南部。成羽町の南に接し、南部は小田郡に界し、西南隅は僅に後月郡に隣る。全村四〇〇一五〇〇米程度の山地丘

に延びて三瓶山頂に及び、北は島根中島西部と簀川平野を含みて日本海に面し、東部は宍道湖に臨む。南部は中國山地にて丘陵起伏し、南境中央に玉院山(五五四米)・三子山(四八九米)等あり。西南部は地形高くして満珠山(六五九米)屹立し西南隅にはトロイアの形状を有する秀峰三瓶山(一一二六米)聳立す。中國山地は西部にて日本海に迫り中央及び東部は簀川平野に臨む。北部には三條の雁行せる島根山脈あり。平均高四〇〇米の地壘性山脈にてその西部地塊と中部地塊の西半が本郡に屬し、兩者は船川の斜斷層によりて絶たれ、西部の地塊は簀川平野に斷層し、西端三角状に西に突出して日御崎となる。中部の地塊は日本海に斷層して西部と相返する傾動ブロックをなし、西端尖塔状に海中に突出し十六島鼻となる。島根山脈と中國山地との間は謂はゆる宍道地溝帯の地にして、山陰第一の簀川平野(一五〇方軒)を開く。斐伊川は東南方に發して東南部より西北流して本郡に入り、簀川平野に出で新川を分ち共に東流して宍道湖に注ぐ。西南方に發する神戸川は西南隅より本郡に入りて東北流し、平野に出でて西北折して日本海に注ぐ。斐伊川上流は以前砂鐵採取のため流砂多く現在國道邊に於て川底は耕地より約五尺高く謂ゆる天井川をなす。故に川尻にては枝川をつけ、或は留枝や砂依や蒲の根等の人工媒介によりて流砂の帶

ヒノサワ 日野澤村

埼玉縣武藏國秩父郡の北部。吉田町の北隣なり。全村山地にて西境には城峯山(一〇三八米)・南境に破風山(六二七米)あり。中央部は僅にこれ等山地の山合ひをなし、村道ありて聚落はこれに沿ふ。山地一帯森林多く林産あるも耕地は少く、僅かの蕎麦を産し、一般に養蠶盛にて繭・生糸を産す。山間の村落なるため交通不便なり。村内には秩父三十四ヶ所の一たる水潛寺(曹洞宗)あり。

ヒノシタ 日下

神奈川縣久良岐郡にありし村。昭和二年に横濱市に編入せらる。

ヒノシマ 日島村

長崎縣肥前國南松浦郡の村。五島列島のほぼ中央に位置する若松島の西半部と、同島の西北に散在する日ノ島・有福島・漁生島・相島等よ

り成り、西南は瀧河原嶺戸を隔てて奈留島に、北は中通島西部の半島に對す。面積二一・六方軒。若松島に屬する部分に中部に深き灣入あり。瀧奥三支に岐れ、これと南岸の瀧河原浦と日ノ島・漁生島間等に良備地を有す。城内は老年性地貌を呈する丘陵地にして平地に乏しく、村民は漁業を主とし農牧に従事す。

ヒノシマ

種島村 熊本縣肥後國天草郡の東端。天草上島の東南端に接して八代海中に位する種ノ島及び附近の竹島其他の無人屬島より成る。種ノ島は東西一・五軒、南北四軒、面積三・五方軒にて中部南偏に地狭部あり。全島白層層より成り南部に泊山(一九三米)、北部に高取約二三五米の二峰あり。地狭部は卑低なるを以て遠方より望めば恰も二島の如く見ゆ。島岸は北西部を除きては概ね崖岸を成し、天草上島との間の水道に臨みて洲ノ崎、西南側の小灣内に上種川の漁村あり、洲ノ崎よりは八代・三角等へ發動機船の便あり。昭和十年の人口二二〇九人、人口密度は一方軒當り五九二人にして天草諸島中最も稠密なる部に屬す。本村は對岸の高戸村と組合町村をなす。

ヒノタニ

日谷野村 徳島縣阿波國那賀郡の中央南部。那賀川中流に跨り、鶯歌町の西南約四軒、南は海部郡に界す。八郎山(九二〇米)等の海部山脈に屬する山地南境に高く聳えて南部はその北方傾斜地をなし山岳重疊す。北部も五〇〇米

以下の山地をなす。那賀川は中央北偏を迂曲しつゝ東流し、沿岸に稍々低地を見る。米を産したる麥・蕎もあれど全村概ね山地なれば産額少し。中央河谷に沿ひて街道東西に通じてバスの便あれど、概して交通不便なり。

ヒノト

日頭 武藏國(東京府)の古地名。和名抄に豊島郡日頭郷あり、比乃度と訓す。その地今の牛込區戸塚町の邊に當る。

ヒノハラ

檜原村 東京府武藏國西多摩郡の南部。五日市町の西方約六軒にある大村にて、南は神奈川縣津久井郡及び山梨縣北都留郡の一部と隣す。關東山脈中の一帯を占め、西境より北境にかけて三頭山(一五二七米)、御前山(一四〇五米)、大嶽山(一二六七米)等の諸山連なり、南境にも一〇〇〇米前後の山地連なり。村内はこれ等山地の斜面またはこれ等に續く小山地をなし、全村森林多く林産あり。秋川は東北部に發源して東流し、流域には狭き耕地ありて麥を産し養蠶行はる。府道は東部より東走して五日市町に通ずるも、大部分は山間に村道あるのみにて交通不便なり。本村は小田原北條氏の頃、平山氏の領地たり。此地より相模國津久井郡と甲斐國都留郡に通ずる兩岐あり、徳川氏の時、關所を此處に設け、口留番所と稱せり。〔神戶岩〕指定天然記念物。秋川の一支流が古生層の角岩を貫きて高さ八〇—九二米、幅六一—一〇米

ヒノハル

日野春村 山梨縣甲斐國北巨摩郡の中部。八ヶ嶽の南麓、釜無川の左岸に沿ふ。八ヶ嶽の裾野に當り高原状を呈し、南部を釜無川東南に流るるも平地に乏し。一般に山林多く、水利の便なる所には耕地發達し、米・麥・蕎を産す。村内には縣立北農學校・日野春警署・甲府區裁判所出張所・長坂壘址あり。省線中央本線は溪間を縫うて通じ、日野春驛(明治三十七年設置)・長坂驛を置き、縣道また略々これに沿うて走り、交通便なり。

ヒノボリ

日登村 島根縣出雲國大原郡の西南隅。木次町の南に接し、西は飯石郡三刀屋町・飯石村に、南は仁多郡温泉村に隣接す。概ね三百米餘の山地にして、西境を北流する斐伊川及び北部を西北流する支流沿岸に僅に耕地開く。米の外に養蠶も盛にしてなほ木材・木炭の産も多し。街道は小支流に沿うて木次町に至りバス通す。此地は和名抄、大原郡來次郷の内なるべし。

↓三尾村(和歌山縣)

ヒノミサキ

日御崎村 島根縣出雲國鏡川郡の西北端。島根半島の中軸をなす宍道山脈の西方海上に盡くる先端を占め、三角状に西方へ突出し日ノ御崎に終る。燈臺あり。西方の海上に鯨島の孤島あり。東部のみ陸につゞき東南部は大社町に界す。中央には三六四米の山地時ち、海岸は多く斷崖をなして巨岩海に迫り、奇岸怪石散在して日本海の荒波飛沫をあげ、低地は西北岸日御崎の東に猶大の地ありて村落をなす。水産漁獲物多く村民多く之に従ふ。外に蕎を主とする農産・工産・林産・畜産あり、また素乾の特産あり。部落より大社町へ道路ありてバスを通す。日御崎燈臺(明治二十八年設置)は白色圓形鐵造、燈質連閃白光、光達距離二三・五哩に及ぶ。古くは日御前と云ひしが明治二十二年宇龍浦と合併し日御崎村と改むといふ。宇龍浦は日子氏の頃は明國の商船を招来して貿易したる處といふ。〔日御崎の大蘇鐵〕指定天然記念物。福性寺境内にあり。一株、根元周圍約四米、地上一米の高みにて兩支幹に分れ高さ約四・二五米に達す。蘇鐵の巨樹として有数なり。〔經島みれこ藩城地〕指定天然記念物。日御崎頭に聳ゆる海中の巨巖に(文島とも云ふ)棲息せる鶴に類似せるうみれこの幾千となく群飛して奇麗を發して鳴交はし居る様は

奇觀なり。鳥には舟を乗り入れ得る大岩洞あり。洞内に神代文字の彫刻存すと傳へらる。〔日御崎神社〕大字日御崎に鎮座。阿幣小社。祭神、素戔鳴尊(上社)。天照大神(社下)。古くは御崎神社と稱し延喜の制小社に列す。村上天皇の御崇敬深く、日字を賜ひて日御崎神社と號せしめ給ふ。社寶の甲冑二領は源頼朝着用と稱し國寶たり。例祭、七月七日。

ヒハ

日羽 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に賀夜郡日羽郷あり比波と訓す。その地今の吉備郡池田村・日美村・富山村・大和村の邊に當る。

ヒハ 比婆

【比婆郡】 廣島縣十六郡の一。備後國の東北隅。北は島根縣に東北は鳥取縣に東は岡山縣に界す。北境には中國山脈の主脈蜿蜒と連り大万木山(一一八八米)・毛無山・殺政山(一一六八米)・烏帽子山・道後山(一二六九米)・三國山等の高峰聳立し、南方へ數條の山嶺を延ばし郡内到處山地起伏し總じて地形南に低し。江ノ川支流西城川は北境東偏三國山に發して中央を西南流し、途中北境烏帽子山に原流して、南下する比和川を合し雙三郡に出で西南方にて江ノ川に合す。東部には川邊の支流東城川の北境に發して東南流するあり。西北部は江ノ川支流神瀬川の流域にして北境高野山に發する同河は西部を西流し西境附近に於て南に折れ雙三郡に入る。流域所々に低地あるも峠・

丘陵・臺地等に遮られし不規則なる山間盆地にて、南部西城川流域の庄原盆地や著し。本郡は純農業地帯にして大麥・麻・粟・蕎等を産したる良牛の産地なり。郡内は西城川流域の西城町・庄原町、東城川流域の東條町及び比和川に沿ふ比和町の四町十八ヶ村を含む。中部には庄原町・西城町を貫きて縣道あり。東北方の山陰地方、米子市方面に通じ、南は尾道市・廣島市方面に及ぶ。西條町よりは東南にのび東城町を過ぎて南方福原市へ到るものあり。又庄原町よりは西北比和町を経て高野山村に達する縣道あり。省線備前線は南部と東部を通過しその備後落合驛よりは北方宍道へ至る省線木次線あり。本郡は明治三十一年十月に奴可・三上・惠蘇三郡を合併したるなり。記に伊非丹尊を伯耆・出雲國境の比婆山に葬るとあり、舊惠蘇郡比和村を以て比婆山陵墓の地とする傳説に因み郡名起る。

ヒハ 美唄

【比婆山】 中國山脈西部の一峰。美古登山とも云ふ。島根縣仁多郡と廣島縣比婆郡との境界に跨り、標高一二七三米。山體は潤葉樹を以て掩はる。山頂よりはも北方に島根半島及び宍道湖を望み、東方視野開く。頂上に俗に伊邪那美尊の御陵と稱するものあり。

ヒハ 美唄

【美唄町】 北海道石狩國空知支庁空知郡の西部。砂川町の南に接し、西は石狩川を以て樺戸郡に對す。面積三〇七・九五

長さ約一〇〇米の狹隘なる一峽谷をなす。谷の長さ大ならざるも高さに比し幅狭く、標式的峽谷として稀なり。〔大嶽神社〕大字大嶽に鎮座。祭神、大國主命・少彦名命・日本武尊等九柱。もと大嶽金峯山藏王權現と稱し、小田原北條氏・徳川氏の崇敬あり。朱印領十五石を有す。明治初年に現稱に改む。例祭、四月八日。

ヒハ 美唄

【美唄町】 北海道石狩國空知支庁空知郡の西部。砂川町の南に接し、西は石狩川を以て樺戸郡に對す。面積三〇七・九五

和十年には石炭三七、四〇〇噸を出す。〔三菱美唄炭鐵〕 鐵區は美唄町と三笠山村とに跨り、即ち美唄川の上流及びその支流たるウツンシリアンペイ川の流域にありて鐵區六三一萬餘坪、鐵區内の夾層層は下部第三紀層にて、砂岩及び頁岩の互層より成り、その間に十數層の石炭層介在す。炭層は東西に走る大斷層によりて自然に兩分せられ、南部の炭層は傾斜比較的緩かにして、北部の炭層は南部よりも傾斜急なり。昭和十年の産額は塊炭三二八、五〇七噸、粉炭三九七、二〇四噸、切込炭一三二、六六八噸、粗炭九、一八九噸にして、この總價額七二二萬餘圓、同年六月末の使役鐵夫一、九一八人とす。本鐵山は明治中期の發見なるも第一坑の開坑は大正二年なり、同四年に三菱の手に移りてより活發なる發展を遂げ、我國有数の炭鐵となる。現に三菱鐵業會社にて稼行。〔三井美唄炭鐵〕 鐵區は美唄町と三笠山村に跨りて五四六萬餘坪、地質・炭層は三菱美唄と略同じ。昭和十年の産額は塊炭一一〇、六六四噸、粉炭一七五、三〇四噸、切込炭二〇、三八八噸、粗炭一一、〇三〇噸、この總價額は二一九萬餘圓、同年六月末の使役鐵夫八〇二人とす。現在、三井鐵山會社外一の經營たり。〔奔別炭鐵〕 三笠山村〔空知神〕 大字美唄に鎮座。祭神、天照皇太神・大己貴神・少彦名神。明治二十七年の創立に係る。

ヒハイ——ヒビキ

【美唄鐵道】 社線。石狩國空知郡美唄町の省線函館本線美唄より同町の當盤臺驛に至る一〇・六軒。主として石炭輸送に利用せらる。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。

ヒバイロ 美生岳

ヒバイロ 美生岳 ヒバイロとも云ふ。日高山脈北西部の雄峰。十勝平野の西方遠く屋根形に峙つ。北海道十勝支廳芽室村・大正村と日高支廳右左府村とに跨る。標高一九一七米。登山は美生川を廻りて行はるるも、山頂附近は雪渓急峻にて登高困難なり。夏山は一九二五年、冬山は一九二八年それ〴〵初登頂せられたり。

ヒバウシ 美馬牛

ヒバウシ 美馬牛 北海道石狩國上川郡美瑛村の大字。富良野線の美馬牛驛(大正十五年設置)あり。

ヒハツ 飛渡島

ヒハツ 飛渡島 下磯南浦府

ヒハラ 日原村

ヒハラ 日原村 長野縣信濃國更級郡の西北部。犀川の左岸、北は上水内郡津和村に隣接す。概ね高原山地にして犀川沿岸にも沖積地の發達著しからず。水利の便なる所に樹枝狀に耕地開け、麥・蕎麥を産し外に木材・木炭を出す。街道は犀川に沿うて走るも交通便ならず。ヒハラ 檜原村 福島縣岩代國耶麻郡の東北部。猪苗代町の北方約一軒。北は山形縣に接す。面積一八七・三千方軒の大村。磐梯山の北麓に位し、南境に磐梯山(一八一九米)・猫魔ヶ嶽(一四〇四米)ありて北方に傾斜し、北境には東

鉢山(一五一二米)・西大嶽(一九八二米)・西吾妻山(二〇二四米)ありて南方に傾斜す。南北兩山地の間には檜原湖(一〇方軒餘)・小野川湖外幾多の小湖あり。檜原湖の西岸には北より家森山(一一三四米)・八森山(一一五〇米)あり、東岸には大早稻澤山(一四二五米)・粟部山(一三八七米)あり。全村概ね山地及び湖沼かなす。木炭・蕎麥を産す。道路は村の西北部を斜斷し、北方の米澤市に至る。人口密度は一方軒につき八人なり。村内に中瀬(高さ一八米、幅三米)・不動瀬(高さ二七米、幅三米)・上瀬(高さ一五米、幅三米)あり。(檜原城) 檜原峠の南麓にありし城。會津風土記によれば文明十八年此地に山城ありて行人を悩ますにより會津の領主蘆名氏は穴澤家を遣はし、これを退治せしむ。後家、賊を平定せし後此處に館を築き以て出羽方面への防備とす。舊來の名稱榎木谷地を改めて檜原とせしむ此時なりといふ。(曾原湖) 西に檜原湖、東に小野川湖あり。成因は堰止湖なり。冬季は一米餘の厚さに結氷し、その上を橇を以て薪炭を盛んに運搬す。(檜原湖) 磐梯火山の北麓にある湖。檜原村に屬す。明治二十一年七月十五日の磐梯山爆發に際し、泥流にて堰止められて形成されしもの。高度八二五米に位し面積は一〇・二四平方軒にて湖岸四七・三九軒。南部は深さ一〇米、中部は二〇米にて北方の堂場山の南東沖、泥流の到

達せし位置よりも前方に三二米の最深所あり。南部は凹凸甚しく、中部以南には島多し。そのうち或ものは舊の山頂、また或ものは流れ山なり。大正六年以後、南東隅の長峰舟著よりトンネルにて小野川湖に排水す。水位の變化は人口的にて一年の較差は七米に達す。底質の大部分は泥流そのままなるが、北部は以前の耕土や草原や森林地がそのまま残り。湖上には長峰舟著と檜原部落の間に一日一回モーターボートが往復す。湖上の風景は變化に富む。

ヒバリ 雲雀野

ヒバリ 雲雀野 下原町(福島縣相馬郡)

ヒビ 日比町

ヒビ 日比町 岡山縣備前國兒島郡の南部。宇野町の西南に隣接し、東は香川縣直島に對し、南は遙に香川縣を望む。西部・北部には二百米餘の丘陵性山地ありて西南境に新割山(二三五米、聳立し、末端は東に延びて中部に臥龍山(一九一米)、その南に大平山(一八九米)あり。海岸は屈曲に富み龜崎鼻・犬尻鼻・貝掛鼻・矢出ヶ鼻等の小突出あり、また南部に日比港の灣入ありて好耕地をなす。概ね丘陵に富むも氣候溫和なれば農耕に適す、米・麥・柿を産し酒類も醸造し、海岸に鹽田あり。本町は古くより備前海峽に臨みて港市として發達し、藥品(三六八千圓)・食鹽(二一九千圓)等を廣島・宇野港等に移出し、硫黃(四二八千圓)・石炭(八〇千圓)を宇野・大阪・若松港より

ヒビキ 響

【響村】 秋田縣羽後國山本郡の東部。二ツ井町の南に隣り、東は北秋田郡に接す。面積八〇・九七方軒。地形南北に長く、東境には七座山(二八七米)・長鞍山(三四四米)其他の山頂連りて西方に傾斜し、南境及び西境にも山地連りて全村概して山地をなし、田代川は東南境に發源して西北に流れ、南境より来る濁川を合して北流し米代川に合す。米代川は北境を西流し沿岸に耕地拓く。村民の生業は牛農

ヒビタ 比比多村

ヒビタ 比比多村 神奈川縣相模國中郡の中部。伊勢原町の西隣にあり。大山(兩降山、二二四六米)の東南麓を占め西半は山地にして、西境は約五五〇米あり。東半は平地にて、鈴川南流し、農業行はれて、米・麥・甘藷・大豆・蕎麥・粟等を産し、養蠶も盛なり。縣道は伊勢原町に通じバスの便あり。社線小田原急行鐵道は東南部を西走するも村内に驛なく、伊勢原に伊勢原驛、南隣大根村に鶴巻温泉驛ありて共に縣道を通す。この地は和名抄、大住郡桶狭間の内に於て、中世は白根庄に屬す。(冠神社) 大字三ノ宮に鎮座。郷社。祭神、稚日女神・木花開耶姫命外四神。別稱、比々多神社。崇神天皇七年、天社國社及び神地神戸を定められし時の一なりと傳ふ。式内小社に列す。例祭、四月二十二日。

ヒビヤ 日比谷公園

ヒビヤ 日比谷公園 下東京市

ヒビユウ 社

ヒビユウ 社 臺灣高雄州旗山郡にある舊社。老濃溪の左岸支流ラックス溪との合流點を距る東方約一・五軒、蕃稱スラバタン山の山麓に位す。アマン族の施武群に屬する高砂族の部落。戸數一九、人口一五五(昭和十一年調査)。

ヒビラ 日本

ヒビラ 日本 下北方村(宮崎縣東臼杵郡)

ヒビル 氷蛭

ヒビル 氷蛭 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に御浦郡氷蛭郷あり、比比留と訓す。この地今詳かならざるも或は横須賀市の一部に當るか。

ヒラ 蕨生

ヒラ 蕨生 新潟縣北魚沼郡にありし村。昭和四年に本村を分割されて、小千谷町・川口村に編入す。

ヒラエ 美笛嶺山

ヒラエ 美笛嶺山 北海道膽振國千歲郡千歲村大字烏樽嶺にある金銀山。極く近年の開鑿に係り、昭和十年には金銀鐵三五五噸(價額一萬六千餘圓)を出し、同年六月末の鐵夫數は二一五人とす。なほ大字烏樽嶺には美笛川流れ、また字に美笛あり、嶺山名は之に因るもの、而して美笛はアイヌ語のヒパイより轉訛せるものなり。

ヒアスマ 碑衾

ヒアスマ 碑衾 東京都荏原郡にありし町。昭和七年に目黒町と合し目黒區を建つ。

ヒアリ 日振島

ヒアリ 日振島 下日振島村(愛媛縣)

ヒアリジマ 日振島村

ヒアリジマ 日振島村 愛媛縣伊豫

り移入し(數字は昭和九年)、また宇野町の隣接刺戟により商業盛なり。縣道は海岸に沿うて走り、臥龍山の北麓を東西に貫通する縣道を分ち、宇野町との間にバス通じ、海上また交通便なり。聚落は日比港の西岸に沿うて發達し、人口は國勢調査によれば、大正九年に一一六六六六なりしも同十四年九八九四人に減少し、其後また増加し、昭和五年には一一六五四人、同十年一三六三七人となり、一方軒密度は七四八人なり。もと日比村と云ひしが、明治三十九年に玉野村の大字玉を合併して町制を布く。山家集に「ひびのと」と見え、その詠歌あり。また大字和田は南朝の忠臣、兒島高德の出生地として知らる。高德は和田純長の子、備後三郎と稱す。後醍醐天皇笠置に還幸せらるるや、一族を聚めて王事に盡したるも、その終るところを知らず。從三位を贈らる。

ヒホ 美浦面

ヒホ 美浦面 朝鮮咸鏡北道穩城郡の中東部、穩城面の東に隣り、北と東とは闊門江を距てて滿洲國間島省と相對す。南境に五百米臺の山嶺連なり北方に低夷し百—二百米の臺地をなして江岸に迫り特に東部は斷崖を以て江に臨む。産物は

ヒビキ——ヒホ

ヒビキ

半出にして、米・蕎麥・杉材等を産す。羽州街道は北部を東西に通じ、北方奥羽本線二ツ井驛へは約二軒あり。一般に交通便ならず。明治十四年、明治天皇山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(銀杏山神社) 大字仁鶴に鎮座。郷社。祭神、天照大神・豐受大神外三神。大化改新、後越の岡守阿部比羅夫東夷征討の礎、戰捷祈念のため創祀すと傳ふ。例祭、陰曆四月八日。

ヒボ 飛保

ヒボ 飛保 愛知縣葉栗郡にありし村。明治三十九年に外一村と共に廢され、宮田町を置く。

ヒビツ 日比津

ヒビツ 日比津 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に本村外二村と共に廢し中村を置き、中村は大正十年名古屋市に編入さる。

米・大麥・大豆・粟等を主とす。鐵道北
鮮東部線は中部を貫き豊仁・黄坡の二驛
(共に昭和六年設置)あり、調戎・穩城間
二等道路ほぼ之と並走す。黄坡驛の北な
る黄坡嶺は韓國時代の陸軍駐屯地にて、
對岸間島との間に渡船連絡あり。

ヒホー 飛鳳

【飛鳳】 朝鮮京畿道水原郡の中北部。
水原邑の西方約一〇軒。東南境に建達山
(三三七米)の聳ゆる他は著しきものなく
二〇一五〇米の丘陵殆ど全域に及び、西
北部に僅に低地を見る。農産物の主なる
ものは大豆・棉花・米・大麥・小麥・粟
等にて、殊に大豆は品質優良にて内地に
移出す。其他、栗・柿等あり。道路は水
原より西方南陽に至る三等道路の中部
を横斷し乗合自動車の便ある他は何れも
等外路線にして、前記道路を軸にして隣
接諸面に支線を岐つても車を通せず、多く
は徒歩または馬背に依る。

【飛鳳】 朝鮮忠清南道青陽郡の北部。
青陽面の北に隣接す。車嶺山脈に屬する
法山(四五九米)東北境に聳え、餘脈域内
に及び東北境は一般に山地を成せども西
半部は低平にして地味肥え、無限川これ
を灌溉し農業盛に行はる。住民は勤勉に
して農業を主とし、副業として養蠶を爲
す者漸次増加の傾向にあり。また近時内
地人の鐵業經營者増加し之に備はれ郡内
鐵山に於て勞働に従事する者多し。産物
の主なるものには、米・大麥・小麥・大豆・

棉花・煙草・蕎麥・金・銀・飛鳳山金礦等
あり。道路は青陽より来る三等道路は面
の略中部を縦貫し、北方禮山に通じて乘
合自動車の便ある他、京南鐵道忠南線廣
川驛(洪城郡廣川面内地)は西方約一〇軒
にありて、之より三等道路を通じ交通概
して便なり。聚落は西北部の無限川沿ひ
に多く分布す。

【飛鳳】 朝鮮全羅北道完州郡の北西部
に位し、全州府の北方約二〇軒にあり。
北境には天靈山(五〇〇米)の聳ゆる他著
しきものなきも、城内概して丘陵起伏し
東南の萬頃江斜面に小低地を見るに過ぎ
ず。地味肥沃なるも耕地少なきを以て生
産豊かならず。産物には米・煙草・荏・
胡椒・牛・皮・薪炭・竹細工等あり。道
路は偏境に位置せるを以て改修未だ充分
ならず、且つ何れも等外線にして、一般
に交通不便なり。聚落はその密度極めて
疎なり。東北部の水仙里に定期に開く市
場あり。

ヒホー 美幌町

北海道北見國網走
支廳網走郡の中部。網走湖南岸の平地よ
り網路國屈斜路湖の西岸山脈に及び地を
占め、北は女満別村、東北は網走町、西
は野付町に接す。面積四二・一六五平
方軒。網走川及び支流美幌川流域地方を
占むるも村内概ね山地に蔽はれ、殊に東
南國境のアトサトマブ火口原の外壁諸
山岳は一〇〇〇米の高度をもちて南北に
連亘せり。美幌川この西麓に發し西北流

見港に陸上げせられ、鐵路によりて京阪
及び各地に移出せらる。殊に蠶の豐漁に
至りては全國稀にみる盛況にして其年産
實に五十八萬餘圓に達すといふ。これに
伴ひ水産製造物また見るべきものあり。
即ち櫻干蠶は水見眉指の名産にして年額
五十萬圓を超え、内地は元より遠く北海
道・朝鮮方面に移出す。鹽麩・鰻油漬等
も見るべく、また蠶ノ粕は年額九十五萬
貫(四十八萬圓)に及び關東・信越・北陸
方面に送り出さる。一方工業としての蠶
針は古來著聞す。一時は年額二百萬圓を
超えるの盛況を見たりしも、今は衰へ年
産八萬圓程度とす。交通は省線米見線の
水見驛(大正元年設置)を置き、縣道諸處
に走りてバス通じ、交通頗る便なり。こ
の地は舊郡役所のありし所。源平盛衰記
に水見海の名見え、萬葉集十七卷に、大王
の……水見の江過ぎて 多胡の鳥……
とあるも此地なるべし。【朝日山公園】
本町の西部朝日山即ちこれにして、山頂
より富山灣を俯瞰し、眺望快調なり。東
北麓に存する上日寺境内の公孫樹の老木
は幹圍目通一米、高さ二〇米に及び、地
上約二米の部分に數十箇の乳房を有し、
毎年七、八石の種實を生ずといふ。いま
指定天然記念物たり。【朝日貝塚】指定
史蹟。大字朝日誓度寺境内、富山灣有磯
海に臨みし低き丘陵の中腹にあり。貝塚
は庫裡の南の畑にて蛤・赤貝等を主と
し、誓て發掘されし遺物に石鏡・石斧・

ヒミ 氷見

【氷見】 富山縣越中國八郡の一。東は
富山灣に臨み、南は射水・西礪波二郡に、
西は石川縣羽咋郡に、西北は石川縣鹿島
郡に接す。面積二二七・五四方軒。能登
半島の頸部に當り、寶達山脈は西境に連
亘して分水嶺をなし、城峰・白ヶ峰・基
石峯・荒山・高坂山等あり。南境にもそ
の支脈走りて三千防山あり。山地は二百
乃至四百米の低山性にして郡内山地多き
も、上庄川・阿尾川流域及び富山灣岸に
僅に平地ありて耕地開く。農産物は米・
麥・大豆・甘藷・馬鈴薯等を産し、蠶
を主とする水産物、蠶糸・藻類・藻類・
鹽麩・セメント・醸造等の工産物あり。
縣道は海岸及び河川に沿うて通じ、省線
米見線は氷見町に至り、また氷見町には
海上汽船寄航す。

ヒミ 日見村

長崎縣肥前國西彼杵郡
の東南部。長崎市の東に接して千々石灣
西北岸に臨む。村内山地をなし東南部に
は二七二米の金比羅岳聳えて千々石灣を
下瞰す。中部には池沼あり。東北部海岸
には平地開け他は山地海に迫る。米・麥・
甘藷等の農産及び水産あり。長崎街道北
部を横斷し長崎市へバスの便あり。天正
の頃迄は矢上氏の所領に屬せしものの如
し。舊長崎街道の一驛たり。のち有馬氏
の所領となりしが天草の亂に依り有馬氏

四石・石鏡・石匙・石鏃等の石器類及び
土器破片・骨器・角器等あり。其他、住
居址二箇所發掘せられ、共に自然石を以
て圍みし爐址内部より發見せらる。【日
宮神社】大字中に鎮座。祭神、天
照大日靈命。天長五年の勸請と傳ふ。例
祭、七月十四日。【日吉神社】大字見外
畑に鎮座。祭神、大山咋命。古來、
氷見町の總社たり。

ヒミ 氷室

【氷室】 省線北陸線の一。富山縣射水
郡伏木町の省線中越線伏木驛より氷見郡
氷見町の氷見驛に至る九・二軒。
【氷見町】 愛媛縣伊豫國新居郡の西北端。
燒津に臨み、西條町の西方約一軒餘。西
は周桑郡小松町に界す。南北に細長き町
なり。南部は山地をなして南境には綱付
山(五二〇米)そびゆ。北半は廣き平野に
して中山川東北流して海に入る。農業を
營むもの五四〇戸、商業一八〇戸、稼一
八〇戸の割にして主産物は米・麥・繭・
なり。中部に國道及び省線豫讃本線横斷
し西境近く小松町に伊豫小松驛あり。北
部にも東西に横斷する縣道あり。南部に
は國道より分れて南走するものあり、自
動車諸方に通じ交通の便よし。町名は此
地の石槌山の北にあり夏なほ雪の氷れる
を見るに因るとも、或は日を高く見るよ
り日高見より日見となり、更に氷見と書
くに至りしものとも云ひ詳ならず。明治
四十一年町制を布く。【岩岡神社】大字
氷見に鎮座。祭神、譽田別命外二

ヒミ 氷室

【氷室】 栃木縣下野國安蘇郡の北部。
秋山川に沿ひ南北に細長く、東は上都賀
郡と隣接す。足尾山塊東斜面の一部を占
め、北境には氷室山あり。之に續きて東
境には尾出山(九三三米)等の諸山連り、
西境にもまた嶽山(七〇五米)・大島屋山
(六九三米)など連亘し、一帯に森林多く
木材・木炭を主産す。中央部は東西兩山
地の標合にして秋山川南流し、流域の細
き平地には農業・養蠶行はれて米・麥・
麻・繭を産す。聚落もこの川沿ひに發達
し、縣道も南部より南走して葛生町方面
に通じバスの便あり。他は山地多きため
村道あるのみにて交通不便なり。大字秋
山に職國の頃、遠藤・戸叶諸氏の據りし
城址あり。

ヒミ 氷室

【氷室村】 栃木縣下野國安蘇郡の北部。
秋山川に沿ひ南北に細長く、東は上都賀
郡と隣接す。足尾山塊東斜面の一部を占
め、北境には氷室山あり。之に續きて東
境には尾出山(九三三米)等の諸山連り、
西境にもまた嶽山(七〇五米)・大島屋山
(六九三米)など連亘し、一帯に森林多く
木材・木炭を主産す。中央部は東西兩山
地の標合にして秋山川南流し、流域の細
き平地には農業・養蠶行はれて米・麥・
麻・繭を産す。聚落もこの川沿ひに發達
し、縣道も南部より南走して葛生町方面
に通じバスの便あり。他は山地多きため
村道あるのみにて交通不便なり。大字秋
山に職國の頃、遠藤・戸叶諸氏の據りし
城址あり。

神。神功皇后新羅より凱旋の際、此地に
碇泊せられ神祭あり。其遺跡に一祠を建
て三神を奉祀せるをその創建と傳ふ。例
祭、十月十九日。【吉祥寺】眞言宗東寺
派。密教山胎藏院。四國八十八所第六十
三番札所たり。もと坂本村山中にありし
が、天正年間兵火に罹りて燒亡、のち現
地に移る。詠歌「みの中あしきひばう
を打捨ててみな吉祥を望み新れよ」
【氷室】 日野 信濃國(長野縣)の古地
名。和名抄に高井郡日野郷あり、その地
は今の上高井郡小布施村・高井村・山田
村・都住村の邊か。

ヒミ 氷室

【氷室村】 栃木縣下野國安蘇郡の北部。
秋山川に沿ひ南北に細長く、東は上都賀
郡と隣接す。足尾山塊東斜面の一部を占
め、北境には氷室山あり。之に續きて東
境には尾出山(九三三米)等の諸山連り、
西境にもまた嶽山(七〇五米)・大島屋山
(六九三米)など連亘し、一帯に森林多く
木材・木炭を主産す。中央部は東西兩山
地の標合にして秋山川南流し、流域の細
き平地には農業・養蠶行はれて米・麥・
麻・繭を産す。聚落もこの川沿ひに發達
し、縣道も南部より南走して葛生町方面
に通じバスの便あり。他は山地多きため
村道あるのみにて交通不便なり。大字秋
山に職國の頃、遠藤・戸叶諸氏の據りし
城址あり。

ヒミ 氷室

【氷室】 富山縣越中國八郡の一。東は
富山灣に臨み、南は射水・西礪波二郡に、
西は石川縣羽咋郡に、西北は石川縣鹿島
郡に接す。面積二二七・五四方軒。能登
半島の頸部に當り、寶達山脈は西境に連
亘して分水嶺をなし、城峰・白ヶ峰・基
石峯・荒山・高坂山等あり。南境にもそ
の支脈走りて三千防山あり。山地は二百
乃至四百米の低山性にして郡内山地多き
も、上庄川・阿尾川流域及び富山灣岸に
僅に平地ありて耕地開く。農産物は米・
麥・大豆・甘藷・馬鈴薯等を産し、蠶
を主とする水産物、蠶糸・藻類・藻類・
鹽麩・セメント・醸造等の工産物あり。
縣道は海岸及び河川に沿うて通じ、省線
米見線は氷見町に至り、また氷見町には
海上汽船寄航す。

ヒミ 氷室

【氷見町】 富山縣越中國氷見郡の首邑。
郡の中央東端。西北に石動の嶺岳、南に
二上の山丘を擁して富山灣に面し、地形
東西に短く南北に長く銀砂嶺の海邊に
沿うて長蛇の如き市街を形成す。地勢平
坦にして住宅密集し、昭和十年度に於い
ては人口一四四五二、面積二・二七方軒、
密度六三六七人とす。當町は元來漁港と
して發達せしもの。當町附近の沿海(有
磯海)は古來樞要の漁業地として知られ
沿海漁獲物總額はその多きは年額二百數
十萬圓に達し、これ等の漁獲物は悉く米

糸織が長野縣大町・新潟縣糸魚川町の兩方面より漸次開通しつゝあり。

〔姫〕省線太多線の際(大正八年設置)。

岐阜縣可兒郡姫治村にあり。

〔姫岳〕九州山脈の一嶽。一に紫雲岳とも云ふ。臼杵灣・津久見灣の西岸に近く

大分縣北海部郡臼杵町・津久見村・南津留村の境上に在り。標高三八三米、山體

は秩父古生層より成る。永享年間に大友親綱は將軍足利義教の命を奉ぜざりしかば、河野通久來り征めしも、大友氏この山に據りて通久勢を破る。

〔姫ガミ〕姫神岳。北上山脈の一嶽。

盛岡市の北東方一八軒前後、東北本線好摩驛より約八軒、岩手縣岩手郡玉山村に峙つ。標高一二五米、山體は花崗岩より成る。圓頂の山姿を有し、中腹以下樹木に掩はるるも山頂部は露出せる岩石重疊す。頂上よりは眺望廣闊にして、絶好の四圍觀望臺をなす。ここに姫神社の小祠あり。初夏の頃は山麓に鈴蘭咲き亂れて美し。

ヒメコリ 姫社 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に基肆郡姫社郷あり、その地今の三基基郡基里村の邊なるべし。

ヒメジ 姫治村 岐阜縣美濃國可兒郡の西部。廣見町の西南に隣接し、南隅は尾張國東春日井郡に接す。南北に長くして南部に四〇〇米内外の丘陵ありて北へ傾斜し、北境を可兒川西流し、東北隅にて村内に發する一支を合流す。農

耕を主として養蠶を副業とする純農村にして米・麥・繭の産あり、栗の特産物あり。村の東部を南北に省線太多線および多治見街道並走し、前者の姫驛(大正八年設置)を置く。この地は中世に姫庄と稱せし地にして、建武二年、西園寺家領目録には「美濃國郡戸庄内下切」とあるは此地なるか。

ヒメジ 姫路市 兵庫縣播磨國中

央南部の商工都市。播磨平野の中部、市川下流の右岸に在り、東は飾磨郡谷外村・花田村・四郷村、南は飾磨郡西は八幡村・曾左村、北は置鹽村・神崎郡香呂村・豊岡村に接す。もと略中央部に在りし酒井氏の舊城池白鷺城を中心と發達せる城下町たりしが大正十四年に城北村、昭和八年に水上村・砥堀村、同十年に城南村・高岡村、同十一年に安室村・荒川村・手柄村等の隣接諸村を編入し、現在市域は東西八・三軒、南北九六軒、面積五一・五方軒餘に擴大し、人口また一〇八〇〇〇人を數ふ。北部に廣峰山(三二一米)・増位山(二五九米)、廣峰山の西南に八丈岩山(一七三米)等の丘陵山地あるもその餘は東境を南流する市川、西北部を潤す夢前川による沖積地にして土地概ね平坦なり。中國街道と省線山陽本線は東西に貫き、後者は姫路驛(明治二十一年設置)を置く。但馬街道と省線播磨線はこれに交りて略南北に通じ、播磨線には龜山驛(明治三十年設置)・京日驛(明治三十

一年設置)・野里驛(明治二十七年設置)・仁豐野驛(明治二十九年設置)あり。また省線姫新線は姫路驛より分岐して西北に走りて、播磨高岡驛(昭和五年設置)を設け、明石市より來る社線山陽電鐵は龜山御坊・手柄の二驛を經、省線姫前驛に接する姫路驛前驛(以上三驛、大正十二年開業)に達し、市は播磨中部に於ける交通運輸上の要樞たり。もと城下町として發達せし、近時、紡織工業を第一に化學・機械及び器具・製材及び木製品・食品等の諸工業次第に興りて工業都市と化し、工場數二二〇、職工數一〇〇〇〇人を數へ、工産額は四六〇〇萬圓に近く(昭和十一年)、生産總額の九三%を占む。これに伴ひ商業また隆盛となり、會社數二四三、公積資本一四二二萬に上る。主なる官署・學校に第十師團司令部・第八旅團司令部・歩兵第三十九聯隊・騎兵第十聯隊・野砲兵第十聯隊・輜重兵第十大隊・地方裁判支所・姫路高等學校などあり。姫路の名は神代の末期、市川の沖積地帯の未だ河海の狀を呈し居りたる頃、十四丘點在せし其の中の一、今の城山が瀾の形狀をなし居りしより日女遺丘と呼ばれしに起りしものと傳へらる。蓋しひめは蠶の異名、ち海よりいふ陸地の意にして、もと姫地と書きしこともありといふ。この地の里を成したるは景行天皇の御代、針間別皇子、伊和部(穴栗郡)の民を來りし來り、伊和部の里

(のち伊和の里)と稱したるに始まり、大化的の新政に國府を置かる(いま城東町に國府遺址あり)降りて鎌倉時代の末年元弘の亂の時、赤松則村は播磨に義兵を擧げ、勤王の軍を進むるにあり姫山に據りしが、これ姫路が樞要なる地たりしが故にして、室町幕府成立するや、その子貞範によりて城築造せられ、戰國の世に羽柴秀吉は中國の藩鎮として三層の城郭を構ふに至る。斯くて姫路は武族興隆の地となり、江戸時代は徳川幕府の親藩もしくは譜代大名配置せられ、池田・本多・松平・榊原の諸侯を経て、酒井家十代二百十年に互りて藩政を布きしより、能く封建都市としての發達を遂げ、明治維新後に興りし新造都市には見られざる風格と一種の落着きを備へ、封建文化の徵象たる城郭はいま史蹟に指定せられ、その現存建築物は舉げて國寶たり。明治維新に姫路縣・飾磨縣たりしことあるも、同九年兵庫縣に編入せられ、同二十二年市制を實施せしより、こゝに五十年を閱す。其間、明治四十五年國衙村及び市原村の一部、大正十四年に城北村、昭和八年水上村・砥堀村、同十年に城南村・高岡村、同十一年安室村・荒川村・手柄村を併合して現在の市域となり、姫路都市計畫區域内に今や本市と飾磨町あるのみにて、目下修築中の飾磨港を姫路港と改稱するの日も遠からざるべしと見られ居り。〔姫路城〕古くは姫山と稱す。その起源

一年設置)・野里驛(明治二十七年設置)・仁豐野驛(明治二十九年設置)あり。また省線姫新線は姫路驛より分岐して西北に走りて、播磨高岡驛(昭和五年設置)を設け、明石市より來る社線山陽電鐵は龜山御坊・手柄の二驛を經、省線姫前驛に接する姫路驛前驛(以上三驛、大正十二年開業)に達し、市は播磨中部に於ける交通運輸上の要樞たり。もと城下町として發達せし、近時、紡織工業を第一に化學・機械及び器具・製材及び木製品・食品等の諸工業次第に興りて工業都市と化し、工場數二二〇、職工數一〇〇〇〇人を數へ、工産額は四六〇〇萬圓に近く(昭和十一年)、生産總額の九三%を占む。これに伴ひ商業また隆盛となり、會社數二四三、公積資本一四二二萬に上る。主なる官署・學校に第十師團司令部・第八旅團司令部・歩兵第三十九聯隊・騎兵第十聯隊・野砲兵第十聯隊・輜重兵第十大隊・地方裁判支所・姫路高等學校などあり。姫路の名は神代の末期、市川の沖積地帯の未だ河海の狀を呈し居りたる頃、十四丘點在せし其の中の一、今の城山が瀾の形狀をなし居りしより日女遺丘と呼ばれしに起りしものと傳へらる。蓋しひめは蠶の異名、ち海よりいふ陸地の意にして、もと姫地と書きしこともありといふ。この地の里を成したるは景行天皇の御代、針間別皇子、伊和部(穴栗郡)の民を來りし來り、伊和部の里

(のち伊和の里)と稱したるに始まり、大化的の新政に國府を置かる(いま城東町に國府遺址あり)降りて鎌倉時代の末年元弘の亂の時、赤松則村は播磨に義兵を擧げ、勤王の軍を進むるにあり姫山に據りしが、これ姫路が樞要なる地たりしが故にして、室町幕府成立するや、その子貞範によりて城築造せられ、戰國の世に羽柴秀吉は中國の藩鎮として三層の城郭を構ふに至る。斯くて姫路は武族興隆の地となり、江戸時代は徳川幕府の親藩もしくは譜代大名配置せられ、池田・本多・松平・榊原の諸侯を経て、酒井家十代二百十年に互りて藩政を布きしより、能く封建都市としての發達を遂げ、明治維新後に興りし新造都市には見られざる風格と一種の落着きを備へ、封建文化の徵象たる城郭はいま史蹟に指定せられ、その現存建築物は舉げて國寶たり。明治維新に姫路縣・飾磨縣たりしことあるも、同九年兵庫縣に編入せられ、同二十二年市制を實施せしより、こゝに五十年を閱す。其間、明治四十五年國衙村及び市原村の一部、大正十四年に城北村、昭和八年水上村・砥堀村、同十年に城南村・高岡村、同十一年安室村・荒川村・手柄村を併合して現在の市域となり、姫路都市計畫區域内に今や本市と飾磨町あるのみにて、目下修築中の飾磨港を姫路港と改稱するの日も遠からざるべしと見られ居り。〔姫路城〕古くは姫山と稱す。その起源

は白國の里といひ、往古、新羅人の來住せし所なるを以て、その名起ると傳ふ。〔姫路公園〕姫路城内の東北部に在り、本市唯一の公園にして、面積七一六アールを占む。西方に約五十の樹種を算する森林繁茂し、園の中央に鹽池を湛へ、池畔には豐公の銅像、姫路藩大夫河合寸翁、同屏山の頌徳碑あり。園内に梅・櫻・桃・蘇・露・楓その他花卉多く、櫻は數百本ありて花の一名所をなす。〔射橋兵主神社(總社)〕本町に鎮座。縣社。祭神、射橋神(五十猛命)・兵主神(大己貴命)。欽明天皇二十五年飾磨郡伊和里なる水尾山に始り兵主神を鎮祀せるを、延暦六年國衙小野江に奉遷し、射橋神を合祀す。近世寺領百五十三石餘。社寶中、太刀一日(綾小路定利作)は國寶。例祭、十一月十四日より同十六日まで。〔高岳神社〕今宿町に鎮座。縣社。祭神、住吉大神・應神天皇・崇神天皇等十一社。天長三年の創立と傳ふ。延喜の制、國幣の小社に列し、播磨國の五宮にて古來安室郷の惣氏神たり。世々の武將・國司・領主の尊崇篤し。もと五社權現・三社明神・高岳明神と云へり。例祭、十月八日。〔白國神社〕大字白國字山田に鎮座。縣社。祭神、阿多津姬命。白國家の祖阿曾武命の室神、吾田津姬命の神誕に依り奉祀せしに起り、白國神または白國々主明神・日の宮と稱す。元慶元年正五位下に叙せられ、延喜の制、國幣の小社に列し

播磨國の四宮と稱せらる。永萬元年慶刀を神祇官に納む。例祭、十月九日。〔姫路神社〕本町に鎮座。縣社。祭神、酒井正親。明治十二年の創建。社寶中、太刀一日(包水の銘あり)は國寶。例祭、四月十二日。〔廣峰神社〕廣峰山に鎮座。縣社。祭神、素戔鳴尊・五十猛命。俗に廣峰天王といひ、山城國祇園牛頭天王の根本なりといふ。聖武天皇天平六年の創建といふ。近世、社領七十二石を有し、播磨國中第二位に置かる。例祭、四月十七日。〔荒川神社〕井ノ口字宮山に鎮座。縣社。祭神、水波能女命・手置帆貝命。彦左知命。創立年代詳かならず。赤松氏以下歴世領主の崇敬あり。もと荒川大明神・岩宮とも云へり。例祭、十月十六日。〔十二所神社〕十二所前町に鎮座。郷社。祭神、少彦名神。別稱、十二所權現。諸病平癒に靈驗ありとて祈願者多し。境内には播州血屋敷のお菊の祠堂と稱するものあり。また藤の名所として聞ゆ。〔景福寺〕吉田町にあり。曹洞宗。明徳四年通幻寂靈の開創に係る。のち姫路城主池田輝政本寺を崇敬しこれを中興せしむ。松平大和守また本寺に歸依すること深く吉田町にありし寺基を現地に移す。今末寺四十七箇寺を有す。〔正明寺〕五軒驛房道邊の開創に係る。建治二年正覺皇の御願寺となる。のち新田義貞・池田輝政等歸依して寺領若干を寄す。〔隨願寺〕白國にあり。天台宗。用明天皇朝、厩戸皇子の造營に係り、開山を高麗國の歸化僧惠便法師とす。天平七年行基菩薩勅を奉じて諸堂を建立す。爾來朝野の崇信厚く、山内に寺坊百餘を有し、寺運隆盛なるものありしも、中世戰亂に際し衰頹す。近世は朱印地三百石、墨印地二百石の寺領を有せり。寺寶中、毘沙門天立像(木造)一軀は國寶。〔姫路別院〕地内町にあり。眞宗大谷派。本徳寺。本願寺八世蓮如、空善をして當地に教化せしめしが、明應年中に當國英賀に一寺を創して弘教の道場となす。是れ本寺の濫觴たり。豊臣秀吉寺領三百石を寄す。元和三年本多忠政の姫路城主となるや寺地を寄せて當地に移らしむ。慶安八年龜山本徳寺第六世明澄の室、貞照院良春尼故ありて末寺三十六箇寺を率ふる當派に歸し、本寺に入る。明治十八年明治天皇の行在所に充てらる。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇姫路行在所〕指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年舞子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。〔好古堂〕江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の書學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。

〔白國梅林〕増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし園雅幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

を評にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此處に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。〔姫路藩〕關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野鷹橋(前橋)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。

〔明治天皇

事記に二神次生女島、赤名謂天一根とあり、伊非諾、伊非冉の二神生む所の諸島の一なる女島はこの島ならんといふ。

ヒメト 姫戸村

熊本縣肥後國天草郡天草上島の東部。八代海に臨み東北

は海岸に沿ひて細長く東北方へ延ぶ。全村山地をなし西境に念珠岳(五〇三米)、西南方に龍ヶ岳(四七〇米)聳ゆ。東方海上に丸山(二〇九米)は半島状に突出して尖端兩龍岬となる。

ヒメヌ 姫沼

筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に八名郡姫沼郷あり、その地の浮羽郡姫沼村の邊に當る。

ヒメノエ 姫江

讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に刈田郡姫江郷あり、比女乃江と訓す。その地は今の三豐郡豊濱町・和田村の邊に當る。

ヒメノエ 姫ノ江

香川縣三豐郡にありし村。明治三十一年豊濱町と改む。

ヒメノハラ 姫原

伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に和氣郡姫原郷あり、比女乃波良と訓す。この地の今の松山市の一部に當る。

ヒメハル 姫治村

福岡縣筑後國浮羽郡の東南部。吉井町の東南約三軒にありて西南は八女郡と界し、東南及び東は大分縣日田郡に隔れ東方約七軒に日田町あり。全村山地にして西・南・東の三面は山脈に圍まれ西隅には鷹取山(八〇二米)聳ゆ。東南部に源流する巨勢川中央を西北流するも沿岸低地乏し。林産多し。河谷に沿ひ吉井町へ出づる道路ありてバスの便あり。省線久大線筑後千足驛へは北方約二軒餘にして自動車を通ず。大字妹川に御坐石と稱するものあり。景行天皇の遺跡なりと傳ふ。古くは姫治郷に作り、和名抄に生葉郡姫治郷と見ゆ。井上城址は三善清行の遺裔、間注所康行が正和二年鎌倉より下向し當郡を領して此處に居りし處と傳へ、子孫相承けしが天正年中に廢城となる。

ヒメマツ 姫松村

宮城縣陸前國栗原郡の中部。一迫町の北に隣る。東部に僅少の低地ある外は概ね百内外の丘陵性臺地を成す。二迫川の支流、南部及び北縁を何れも東より西に流れ沿岸耕地を灌溉す。主生葉は農にして米の産額多し。また丘陵地には桑園拓けて養蠶業行はる。交通は社線仙北鐵道の築館驛(築館町所在)へ約五軒にして縣道通す。また一迫町にも縣道通す。

ヒモサシ 紐差村

長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の東部。東は海を隔てて北松浦半島鹿町村(西北部)を望む。稍南北

路は西方長崎より来る三等道路は面の略中部を横斷し、東方連川・金谷に通じ、金谷・長瀨間にバスの便あり、また臨津江に舟楫の便ありて、南部の沿岸地帯は運輸便なり。聚落は臨津江岸と前記街道とに沿うて分布し、後者に面邑斗日場あり。市場は陰曆二・七の日に開き大豆の取引殊に賑はる。

ヒヤナン 社

臺灣臺北州羅東郡にある神社。宜蘭濁水溪の上流左岸支流メモン溪との合流點西北方約二軒の地に在り。約百三十年前、頭目トライアエンは原社の地味瘦薄にて狭隘なる人口の漸増に將來を憂慮し、現在の比較的肥沃なる土地を選定し、戸數二〇戸、人口一〇二を以て移住し來り當社を形成せり。アタナル族の溪頭蕃に屬する高砂族。戸數六五、人口三四六(昭和十一年調査)。

ヒヤハウ 社

臺灣臺北州蘇澳郡にある神社。大濁水北溪の右岸スカオカン溪との合流點より南方約八百米の臺地に在り。アタナル族の南澳蕃に屬する高砂族の部落。約百六十年前戸數七、人口二五人を以て臺中州鹿港より移住し來り。既に於て當社の屬する南澳蕃は天險の利を恃み、藩丁の多數と銃器彈藥の豊富なるを誇り、傲慢にして常に兇暴を逞しうす。故に明治四十一年全蕃は新設したる隘勇線外に封鎖せられ、多大の苦痛を感じたれどもなほ多數の武器彈

に細長し。地形概ね山地に屬し、西北境に劉ノ鼻、西南境に有僧郡岳、南境には慈眼岳等あり。中部には稍低地開け入江深く東方より灣入す。山地海に迫り北半の海岸は屈曲多く、哀崎等の突出及び黒島・野島等の小島嶼多數散在す。南半は概して單調なる崖汀にして北に白戸鼻あり。米・麥の農産及び水産・林産あり。西部に平戸島を縦斷する縣道走り自動車通す。

ヒモシヤ 碑文谷

東京府荏原郡にありし村。塔婆に碑文を書きて埋めしより村名起るといふ。昭和七年に東京市日黒區に入りてその町名となる。

ヒヤキ 日焼

伊田線の貨物驛(明治三十一年設置)。福岡縣直方市にあり。

ヒヤクサイ 百濟

百濟 郡 百濟 郡 百濟 郡

ヒヤクスカ 百塚村

富山縣越中國越前郡の北部。富山市の北に隣り東は神通川を隔てて上新川郡と境す。地は富山平野の一部を占め、南部に奥羽丘陵の一部縮短たるほば全村低平なり。概して南部に桑園多く北部に水田拓く。神通川の分流東部を灌溉しつつ北流す。農産に米・蕎麥を出し、また藥品の製造・行商に携はる者多し。南部を省線北陸本線東西に走り城内に驛を置かざるも社線越中鐵道は村内を走り八ヶ山驛(大正十三年設置)を置く。富山市に近く交通至便なり。此地は和名抄、婦負郡岡本郷の内なるべく、中世は倉垣庄に屬す。富山

ヒヤクチヨ 百町

佐賀縣の一驛(昭和十二年設置)。福岡縣山門郡三橋村の大字百町にあり。

ヒヤクネン 百年嶺山

朝鮮黃海道谷山郡東部の嶺山。嶺區は同郡伊寧面。東村面及び咸鏡南道德源郡豐下面に跨がる。鐵道は金・銀・マンガステンにして昭和十年の産額はタンゲステン四七四〇〇(價額七八・五萬圓)あり、同年六月末現在使役人員は五五七人。

ヒヤクレイ 百嶺面

朝鮮平安北道寧邊郡の東部。郡邑寧邊の東方約三〇軒。北境には妙香山脈の主峰、妙香山(一三六五米)を始め、兄弟峰(一二二九米)等相連りて一大險峻を成し、東境

薬を所持し、歸順の誠意を示さざるに依り大正三年再び削奪せられ、銃器五四〇挺、彈藥全部を提出歸順す。戸數九一、人口四七四(昭和十一年調査)。

ヒヤマ 日山嶺山

福島縣安積郡にある金銀銅山。嶺區は中野・月形・多田野の三村に互りて約百萬坪、地質は主として第三紀層凝灰岩にて、鐵床は一般に青磐化變質を受けたる砂質凝灰岩中の鐵脈と認められ、脈幅は平均七〇釐、主要礦物は金にして少量の黃銅・黃鐵・閃亜鉛・方鉛等の細粒を夾雜す。含金品位一釐に付一〇・四瓦にて昭和十年には金銀銅鐵二、八四七噸を産す。本嶺山は大正の初期より採行せられたるが一旦廢坑となり、昭和八年日本鐵業會社により再び採行せられ、十年には歴氣機・鑿岩機等を設置して本格的に採掘したるに成績頗る良好、かくして重要嶺山に列す。なほ本嶺山より中部部落まで六軒は馬車の外通せず、中部より磐越西線上戸驛までは自動車通す。

ヒヤマ 槍山

北海道半島西部にある支嶺。東と南は函館支嶺、北は後志支嶺と境し、西は日本海に面す。江差・瀨棚の二町と上ノ國・泊・厚澤部・乙部・熊石、貝取洞・久遠・奥尻・太櫛・東瀨棚・利別の十一村より成る。人口八〇、九四五、面積二、八四九・一六方軒、一方軒の人口密度二八人(昭和十年現在)。南方、松

には加馬峰(一三〇五米)・寺頂山(九九一米)等聳え、餘勢域内に及びて山岳重疊し、中部を清川江支流の百嶺川西流しその流域に僅に小低地の散在を見る。住民は農蠶に従事し、婦人は機械に従事する者少からず。産物は大豆を主とし、大麥・粟・馬鈴薯・蕎麥等にして、明軸・生牛・牛皮等の産あり。道路は面邑東倉を中心として四方に通ずるも、面境に於て牛嶺(六六九米)・草嶺(三三四米)・於業嶺(六二五米)等の諸嶺ありて坂路多く交通不便なり。尙ほ東倉には陰曆三・八の日に開く市場ありて雜穀・薪炭等の取引行はれ、附近に鍾乳洞あり。聚落は大部分溪谷に沿ひて分布す。

ヒヤシ——ヒヤマ

は加馬峰(一三〇五米)・寺頂山(九九一米)等聳え、餘勢域内に及びて山岳重疊し、中部を清川江支流の百嶺川西流しその流域に僅に小低地の散在を見る。住民は農蠶に従事し、婦人は機械に従事する者少からず。産物は大豆を主とし、大麥・粟・馬鈴薯・蕎麥等にして、明軸・生牛・牛皮等の産あり。道路は面邑東倉を中心として四方に通ずるも、面境に於て牛嶺(六六九米)・草嶺(三三四米)・於業嶺(六二五米)等の諸嶺ありて坂路多く交通不便なり。尙ほ東倉には陰曆三・八の日に開く市場ありて雜穀・薪炭等の取引行はれ、附近に鍾乳洞あり。聚落は大部分溪谷に沿ひて分布す。

ヒヤツカク 百鶴面

朝鮮京畿道道津川郡の西部。郡邑道津川の西南約一七軒。臨津江下流の右岸、支流沙尾川との合流點に當り、概して平坦にして僅に小丘陵起伏するに過ぎず。住民は農業を主とし傍ら養蠶・果樹栽培を爲す。産物には米・大豆多く、其他煙草・麻等の工藝作物及び桃・杏・栗等の果實あり、南部には積城金礦の鐵區防り砂金を出す。道

前との境に木無山(八九二米)・松倉山(六三一米)・大千軒岳(一一二八米)・七ツ岳(九六四米)等の何れも安山岩より成り高山連立し、その北には石崎川・天野川流れて、下流に小海岸平野を形成す。更に北の八幡岳(六三九米)は第三紀層と安山岩地帯との境に突出し、天野川と厚澤部川流域とを分つ。厚澤部川流域は域内北部の利別川流域の平野とともに二大平野をなすものなり。半島地峽部に花崗岩類より成るユウラブ岳(一一三七米)聳え、その西方には毛無嶺(八八〇米)が海岸に迫り、帆越岬・オバナ岬を作る。北部後志支嶺との境には花崗岩類より成るカンガ岳(九九五米)、噴出岩より成るメツブ岳(二二二米)・狩場嶺(一五三二米)あり、海岸は茂津多岬を以て境とす。海上には帆越岬の沖に奥尻島あり。なほ此地は古くより本州西海岸の住民が出稼に行きし所にて、その移民の歴史は古く、人口密度も北海道中にては大きな方に於て一方軒二八人なり。出稼人は多く漁業に従事し、帆越岬附近より北に於て磯、江差附近に於て昆布を採取す。海上一帶より鳥賊・鯨・スケツクを産し、奥尻島の海岸にては鮑等を産す。これ等漁獲物は年額約二百五十萬圓にて、水産製造物を加へて約八百萬圓に上る。漁港としては、南に江差、北に瀨棚あり。厚澤部・利別の二平野は農耕地にて、米・大豆を栽培するほか養蠶等も行はる。

【楡山郡】 北海道渡島國楡山支廳管下六郡の一。渡島半島西南部を占め、日本海に面す。北及び東は渡島支廳に接し、南は福山町に接す。面積一〇五五・五六方尺。郡内江差町の外、上ノ國・泊・厚澤部三村を含む。東西南の三周は山脈連なり乙部岳(一〇一七米)・大千軒岳(一〇七二米)等の諸峰屹立し、郡内概ね山嶽地帯をなす。海峯を向いて傾斜せり。厚澤部川・天ノ川・石崎川等何れも山林の間を西流して海に注ぐ。何れも支流多く流域低地大にして集落集まれり。海岸は小平地を有し、出入に乏しきも、中央に津花岬小突出をなし江差港開けたり。前面向に鳴島海中に浮び燈臺を有す。江差町は福山町と共に、和人最初の移住地にして、古來西海岸の中心地として發展せる所。現在なほ屈指の鱈漁港なり。厚澤部川は最大の流域低地を有し耕地最も多く米・大豆・小豆等を産し、沿岸に泊・厚澤部二村あり。木材・木炭・牛・馬を産す。溪間に柳崎・意養温泉湧出す。天ノ川は河口に上ノ國村の聚落を有し、米・馬鈴薯・鰯・鱈を産す。近時、省線江差線木古内―江差驛を繋ぎ、郡内南部を貫通す。江差港は近海航路の便を有し、バス近隣に通ず。もと江差の山中には往昔より楡木繁茂し、方七里と稱す。故に楡山郡と名づけしものなり。

【楡山町】 秋田縣羽後國山本郡の略中部。能代港町の東南約八軒。全町概ね丘陵地帯をなして山野多く、楡山川は東南境に發源して西北に流れ、西北部に稍平坦地あり。米を産し、また竹製品・箸・木材等の特産あり。道路は町の西部を略南北に通じ、西北方の奥羽本線機織驛へは約五軒あり。この地は往時、安倍氏の後、秋田城之介居城の地にして、城址は霧山に現存す。

【楡山村】 島根縣出雲國簸川郡の東北部。島根半島に位して平田町の北に接し、東南一軒餘に至れば宍道湖西北岸に出づ。北に島根半島の中央をなす山脈蜿蜒連りて大船山(三二七米)聳ゆ。南部に耕地拓けて平田町との間に小河東流し宍道湖に入る。農業盛にして米産多く、薯加工品(繩・蕨)の特産あり、山地よりは木炭を供す。南部に縣道走り、平田町へバスあり。村名は楡ヶ山と呼ぶ山名より出づ。(多久神社) 大字多久に鎮座。郷社。祭神、多伎都彦命・天御姫命。式内社。例祭、十月一日。

【楡川村】 樋道川村(ヒヤリカワ) 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の東部。加須町の北約四軒。北は約一軒にて利根川に達す。全村地低平にて、主として西南部に水田開け、東北部に桑畑拓く。利根川の分流流敷流西南部を西北より東南に流れて灌漑に便す。純農村にして米を多産し、蕎麥の産も少からず。交通は社線東武鐵道伊勢崎線の加須驛(加須町)に近く縣道

【日向郡】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

【日向町】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部

ヒュー——ヒュー

ヒュー

あれば注意を要す。

【七三一】 薇陽面 朝鮮京畿道安城郡の西南部に位置し、郡邑安城の西南方に隣接す。城内に小丘陵起伏すれども著しきはなく概ね平坦にして耕地よく拓け安城川の灌漑あり、附近に於ける重要農業地をなす。主要農産物は米・小麦・豆類・粟・黍・甘藷・馬鈴薯等なり。また馬場盛産砂金・硯山砂金の産出の一部分にして砂金の産多し。社線京南鐵道京畿線は面の略中部を南北に縦貫し、薇陽驛・古地驛(大正十四年設置)ありて直接その恵に與る他、安城・天安間道路は東部を縦貫し自動車を通じ交通・運輸便なり。桑落密度は極めて大にして且つ普遍的分布を見る。

ヒョーキヤマ 表木山

肥薩線の一驛(大正九年設置)。鹿兒島縣始良郡日當山村にあり。

ヒョーゴ 兵庫

【兵庫村】 福井縣越前國坂井郡のほぼ中央。三國町の東南約七軒。面積四・八方軒。越前平野中に位して地頗る低平、且つ南境を劃する兵庫川(九頭龍川の支)によりて灌漑の便よろしく、水田遠く連る。米の産多く其他に茄子・西瓜・胡瓜等の農産あり、近時、絹織物・人絹織物の生産大に行はるるに至る。社線三國電鐵城内を通じて下兵庫驛(昭和三年設置)あり、また福井市・蘆原温泉(縣道)を通じてバスの便あり。昭和十年の人口一五

八三人にして、一方軒當り三三二人の稠密を示す。この地は謂ゆる春日領河口庄十郷の一なる兵庫郷と稱せし地なるべし。「春日神社」大字下兵庫に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命。寛弘八年の勸請にて當十郷の總社たり。往昔は宮殿・樓閣・七堂伽藍・坊舎等を並べ、また種種の寶物・古文書等多かりしが、天正年中、織田氏の兵火に罹りてより廢類す。例祭三月八日。

【兵庫縣】 近畿地方の西部。東は京都・大阪の二府に接し、西は岡山・鳥取の二縣に隣接し、北は方日本海に面す。また南は大阪灣・播磨灣に臨み、その間にはほぼ南北に長く淡路島横たはり、島の東南部に紀淡海峡を隔てて和歌山縣と相對し、西南部は徳島縣との間に鳴門海峡を挟み、南岸は紀伊水道の水に洗はる。攝津の一部(神戸・西宮・尼崎の三市、武庫川・川邊・有馬の三郡)、丹波の一部(多紀・水上の二郡)と、播磨(明石・姫路の二市、明石・美濃・加東・多可・加西・加古・印南・飾磨・神崎・揖保・赤穂・佐用・宍粟の十三郡)、但馬(城崎・出石・養父・朝來・美方の五郡)および淡路(津名・三原の二郡)五國の五市二十五郡を管し、縣廳を神戸市に置く。面積八三二二方軒餘、人口約二九四萬、一方軒の密度は三五一人を算し、内地道府縣中、面積は第十二位、人口は東京府・大阪府・北海道に次ぎて第四位、密度は第

十位に居る。「地形」構造上よりいへば本州南勢山系内帯の一部にして、瀬戸内の陥没によりて成れる中國半島の頸部に當る。曾て第三紀中葉に於て一時は全く準平原化し、その後地塊運動の激しかりし部分なれば地層の配列は頗る複雑にして、太古層は淡路南方の小島島沼島に限り、秩父古生層は播磨の中部と南但馬に、中生層はそれらの北と丹波の篠山附近及び淡路の南部とに、第三紀層は播磨の東南部より攝津にかけ、また但馬の中部に、花崗岩は六甲山・淡路の北半に、流紋岩・石英粗面岩は播磨・攝津の北部に、安山岩・玄武岩は但馬の各所に分布す。地形的に見れば東隣の丹波高原より西方に連る中國山脈ありて縣の中部を略東西に延び、その主分水嶺は播磨・但馬の國界をなし縣を南北の兩斜面に分つも高度は大ならず。概ね高原状をなし海拔一千米以上の山岳地帯は廣からず。最高峰をなすは但馬・因幡の國界に跨る白山火山帯に屬する米ノ山にて標高一五〇〇米を示す。武庫川・加古川・市川・揖保川・千種川は南流し、圓山川(朝來川)・矢田川は北流す。武庫川流域には篠山・三田の二盆地と武庫平野、加古川・市川・揖保川の下流域は即ち播磨平野をなし、圓山川流域には出石・豐岡の二小盆地、淡路西南部には三原平野あり、これらの盆地と平野は共に主要農産地帯をなす。海岸は、日本海岸は山嶺直ちに海に迫り

七段二級弱なり。農産總額は一億二千六百萬圓にして全生産總額の九・二%を示す。米は農産物の大宗にしてその質良く清酒醸造の原料に用ひらるるもの多し。

て小岬角多く若石海岸をなし小出入に當み、東部に津居山、中部に香住、西部に諸寄の漁港あり、また中部一帯は御火ノ浦の登勝をなす。瀬戸内海岸は西部に相生・坂越・室津の諸灣あるほかは殆ど直線的の砂濱をなす處多く、氣象の清朗と相待ちて鹽田の發達を見、東部には神戸の良港を始め西宮・尼崎の港あり。淡路島は地盤にて急斜の海岸多く出入少きも福良・山良・洲本の諸港あり。「氣象」概ね温暖中和なるも北の日本海斜面と南の瀬戸内斜面は各特殊の氣候を有す。前者は謂ゆる裏日本氣候區の一部に當り、冬季は西北季節風の影響にて曇天降雪多く、年降水量は二〇〇〇—二〇〇〇耗に達し、氣温も年平均一四度内外を示す。後者は丹波・北播磨の地域を除けば溫和なる瀬戸内氣候を有し、年平均氣温一五度内外、年降水量は八〇〇—一五〇〇耗に過ぎず、夏季は東南の微風によりて暑熱を和らげ、冬季は西北季節風吹くも湿度は概ね中國山脈によりて除かれ清朗の天氣多く、土地比較的乾燥して米・麥・果樹の栽培に適し、山地には松樹よく繁茂す。「交通」交通機關は近年産業の發達に伴ひ大いに整備せられ、道路は國道五線、延長三三六軒、縣道四七八軒、延長三九七〇軒、市町村道延長二七、七四八軒に達し、鐵道は七一〇軒、電氣軌道は二二三軒の延長を有す。道路路面の改善せらるるに従ひ自動車制の發達著しく

今やバスの交通を見ざる處は殆ど無きに至れり。今これらの主要路線を見るに、國道の中國街道は大阪より來りて攝津・播磨二國の南部を東西に貫き、作州街道は姫路より起りて西北津山方面に向ひ、山陰街道は京都より來りて但馬を西北に貫きて鳥取縣に入る。また鐵道幹線には東海道本線とこれに連る山陽本線はほぼ中國街道に沿ひて西に走り、山陰本線は始め山陰街道に沿ひ、ついで圓山川左岸を北走し、更に日本海岸に近く西に向ひてまた鳥取縣に入る。これら南北の鐵道幹線を繋ぐものに尼崎に起る福知山線、姫路に發する播但線あり。また省線姫新線は姫路に起りて作州街道に沿ひ、津山を過ぎて伯備線新見に達り、有馬線は福知山線三田より有馬に、宮津線は山陰本線豊岡より宮津方面に延ぶ。社線には加古川に沿ひて南北に通ずる播丹鐵道とその支線あり、神戸・姫路間には山陽電鐵あり。特に神戸・大阪間とその附近には東海道本線の外に、北には阪急電鐵神戸線、南には阪神電鐵本線と同國道線(阪神國道上に通ず)あり、阪急電鐵には伊丹・甲陽・上筒井・今津の諸支線、阪神電鐵には傳法線・尼崎海岸線・甲子園線の諸支線あり、神戸よりは鈴蘭臺・有馬温泉・三田に至る神有電鐵ありて交通至便の地域をなす。淡路島には洲本・福良間に淡路鐵道ある外、國・縣道上にはバスの往來ありて交通また便利なり。海上

交通は神戸港その一大中心をなし淡路・四國・九州諸港への近海航路は勿論、鮮滿支諸港より歐米に至る航路を有す。其他、明石・洲本・西宮・飾磨等の諸港ありて船舶の出入多し。「産業」土地の豊饒、氣候の溫暖、位置の良好、交通の便利等の自然的條件に恵まれ農工商の諸産業活動盛にて昭和十一年の生産總額は十三億七千萬圓の巨額に達し、大阪・東京・愛知に次ぎて全國道府縣中の第四位を占め一戸當り約二千二百七圓、一人當り約四百五十九圓を示す。「農業」縣の北部は氣候やや寒冷なるも養蠶・牧畜に適し、南部は氣候溫暖、土質肥沃にして耕種農業の發達せる地なり。但し近年阪神地方商

Table with 3 columns: 種類 (種目), 額 (金額), 千分比 (百分比). Rows include 農産物 (126,046千円, 92%), 林産物 (9,015, 7%), 水産物 (11,401, 8%), 工業 (1,204,757, 879%), 計 (1,370,003, 1000%).

盛に伴ひ縣内人口のこれら地方に移るもの多し、特に中部以北の農村人口は年々減少の傾向を見るも、昭和十一年に於ける農家戸数は約十八萬戸にて全戸数の二八・四%に當り、耕地面積約十二萬八千九百町歩(田十萬七千九百町歩、畑二萬一千七百七十町歩)にて一戸當りの耕作段別は

Table with 3 columns: 種類 (種別), 額 (金額), 千分比 (百分比). Rows include 總額 (1,204,757千円, 1000%), 工業 (237,535, 197%), 紡織 (233,526, 194%), 機械 (183,234, 152%), 窯業 (19,503, 16%), 化學工業 (230,983, 192%), 製材 (18,032, 15%), 印刷 (4,509, 3%), 食品 (172,645, 143%), 瓦斯 (32,366, 27%), 其他 (45,521, 38%), 加工 (26,901, 22%).

邊・飾磨二郡の葡萄・桃・川邊・明石二郡の無花果の如き地方的に名高きものあり。工業農産は概して盛ならざるも、攝津・播磨・丹波・淡路の葉煙草、但馬の柘柳は名高く養蠶・畜牛は但馬を中心とし、牛は謂ゆる但馬牛の名あり、近年は丹波・西播・淡路にも畜牛は普及され、神戸肉となる肥育牛のほかに、乳牛の頭数も増加せり。「工業」工業は本縣の最重要産業にして神戸市を中心とする近傍、尼崎・西宮・武庫川邊・加古・明石・飾磨・姫路の各都市に集中し、揖保・赤穂・多可・加西・津名の各郡これに次ぎ、工場數四千七百四十を越え、従業者總數二十二萬七千人に達し、昭和十一年の工産額は實に十二億圓を突破し、生産總額の八八%に近く、大阪・東京に次ぎて全國第三位に居る。産額順に云へば紡織・金屬・化學・機械及び器具・食品工業等にして、紡織工業は大阪・愛知に次ぎ、綿糸紡績には鐘紡の兵庫・高砂・洲本、大日本紡の尼崎・明石、福島紡の姫路・飾磨・東洋紡の赤穂の各工場を始め日の出・内外綿・大阪合同・龍田・喜多等諸會社の工場あり、毛糸には伊丹製絨所・今

津紡毛・日本毛織・山陽絹毛の工場、絹糸紡績には東洋紡、麻糸には小泉製麻、大阪製麻神崎の工場あり。綿織物は多可郡を中心として播磨の諸町村に普及し、毛織物・毛布類は日本毛織の加古川・米田の工場及び伊丹製絨所の生産にかゝるもの多し。化学工業には神戸市を中心とするゴム製品、加古郡別府の多木製肥工場をはじめ尼崎・武庫郡・神戸市にて生産せらるゝ人造肥料の外、製紙・薄荷・樟腦・植物油・製革等を主なるものとなす。金屬・機械及び器具等の重工業は近來特に發展し、川崎・三菱兩造船所・神戸製鋼所・住友伸銅鋼管工場・川西航空機製作所・川崎車輛工場・三菱電機製作所等の世界的大工場を有し、鋼塊・鋼線・亜鉛鍍金・特殊鋼・釘類・板製品・船舶・原動機・紡機・車輛・自轉車・電気機械器具・農具等を主要製品とす。また美濃郡三木の刃物は古來世に著る。その他、食料品工業は西宮市・武庫郡の謂ゆる灘五郷の清酒を第一に、西宮の大日本麥酒、尼崎の麒麟麥酒、揖保郡龍野の醬油、揖保・飾磨二郡の素麺等名高し。雑工業中の燐寸は大同マツチ工場及び同社系の工場にて主として製造せられ年産額約一千萬圓にして全國産額の約七五%に達し、行李・籠・バスケツト等を主とする杞柳製品は産額大ならざるも城崎郡の特産品として燐寸と共に全国的にその名を馳す。また縣下到處製材業行はれて

板・角・丸・ベニヤ板等を産し、西宮市及び武庫郡に於ける清酒醸造は桶樽類の木製品製造を發達せしめたり。商業。縣下農業の旺盛と世界的の開港神戸を擁して内外物資の出入頻繁を極むるにより商業・貿易また甚だ盛大に行はる。本店を縣内に有する會社数は六千五百に近く、その公稱資本金(または出資額)は十三億六千萬圓に達し、これを營業別に見れば商業會社は六〇%、工業・運輸の會社これに次ぎ最も少くは水産會社なり。また分布上より見れば神戸市は約三分の二を占有し、武庫郡・姫路市・西宮市・尼崎市等これに次ぎ、縣の東南部が如何に商業的に重要な地域たるかを如實に物語るを知るべし。神戸港の貿易は年々異常の伸張を示し、昭和十一年には輸出九億七千萬圓、輸入は約九億五千八百萬圓、總額十九億三千萬圓に近く、大阪・横濱と共に我國の三大重要開港たり。輸出品は綿織物・生糸を主とし、人絹・絹織・毛織・運動靴・メリヤス品等これに次ぎその大部分は全製品なり。輸入の主要品は米國・英領印度・埃及の棉花を筆頭に、パルプ・羊毛・機械類・生ゴム等これに次ぎ、大部分は原料品に屬し、全製品輸出状況に對比して我國が如何に原料外國依存の加工工業國たるかを察知するに足らん。神戸港はかく主要開港たるに止らず、四國・中國・九州より北海道・樺太・朝鮮・臺灣・南洋等の各港

との取引旺盛にして、内國貿易上の重要港たり。鋼鐵業。主要礦山は生野及び明延(養父郡南谷村)にして、鐵産物に金銀・銅・鉛・鋼等あり、その總額約一千五百六十萬圓に上り、外に石材・砂利・花崗岩・安山岩等の石材・土石等の産額三百二十餘萬圓あり。(國水産。南に瀬戸内海、北に日本海を控へ水産また少からず。昭和十一年の斯業者は三萬人、漁船一萬一千艘を超え、沿岸漁獲物約六百萬圓、水産製造高約三百三十萬圓、養殖高十八萬圓、寒天約七十五萬圓、水産總額一千四百四十萬圓に上る。〔沿革〕明治四年七月廢藩置縣行はれ、地方行政區劃の基礎新たに制定せらるゝや、同年十一月二日に豐岡縣を置き、丹後・但馬二國及び丹波國のうち多紀・水上・天田の三郡とを管し、次いで十一月九日に姫路縣を飾磨縣と改稱し播磨國一圓を、十一月十五日には名東縣を置き河波・淡路二國を十一月二十日には兵庫縣を置き攝津國のうち八部・荒原・武庫・川邊・有馬の五郡を各管轄す。越えて明治九年八月に飾磨縣・豐岡縣及び名東縣を廢し、飾磨縣播磨國一圓と豐岡縣但馬國一圓、丹波國のうち多紀・水上二郡及び名東郡淡路國一圓を兵庫縣合併し、豐岡縣丹後國一圓と、丹後國のうち天田郡とを京都府へ、名東縣河波國一圓を高知縣へ夫々合併せり。明治十三年攝津國八部の内を割きて神戸區を置き、同二十二年神戸區

を改めて神戸市と爲し、飾磨郡の一部を割きて姫路市を置き、何れも同年より市制を施行せり。次いで明治二十九年三月に攝津國のうち八部・荒原・武庫の三郡を廢しその區域を以て武庫郡を置き、播磨國飾磨・飾西・揖保・西・神東・神西の六郡及び多可郡の一部とを廢しその區域を以て飾磨・揖保・神崎の三郡を置き、但馬國城崎・美含・氣多・七美・二方の五郡を廢し、その區域を以て城崎・美方の二郡を置き、同年これを實施せり。また明治二十九年岡山縣管下、美作國吉野郡石井村及び吉野村大字中山を播磨國佐用郡に編入す。かくして本縣の管轄區域は現今の状態に於ては落つき、爾來四十有餘年その境界を變せず。【兵庫】山陽本線の一驛(明治二十一年設置)。神戸市兵庫區にあり。【兵庫港】山陽本線の一貨物驛(昭和八年設置)。神戸市兵庫區佐賀郡の東部。佐賀市の東北約〇・五折にあり、東は神埼郡に界す。地形極めて平坦にして水田よく拓け米産多し。東南部には佐賀市と東北方神埼町とを結ぶ國道通過してバスの往來繁しく中部には省線長崎線斜めに横切りて伊賀屋驛(昭和三年設置)を置く。村名は慶長年中、佐賀藩の成富兵庫の開墾せしに因む。【ヒョース】兵主村 滋賀縣近江國野洲郡の北部。野洲川と日野川に挟ま

れて其の河口近くに位し、北部僅に琵琶湖に臨む。前記二川の三角洲上に位する爲め地形極めて平坦にて、西境に沿ひて野洲川北上し、中洲村に入りて湖水に注ぐ。日野川は東隅にて稍々境界に沿ひて北上し北里村に流れ入りて湖に注ぐ。北部には南方へ勢入する二三の潟湖あり。農産を主とし米・蒲・麥・綠肥作物・桑菜・茶種・茶等を産し、また水産及び林産あり。縣道縱横に通じ南方野洲町へバスの便あり。中世は兵頭莊と呼ばれ。【兵主神社】大字五條に鎮座。縣社。祭神、大己貴命。欽明天皇御代の鎮座と傳ふ。元正天皇養老二年社殿の造營あり、式内名神社に列せらる。源賴朝本社に武運を祈り、天下一統の後社殿を造營し三千餘石の神領を寄す。近世は振はず。例祭、五月五日。(法藏寺)大字六條にあり。淨土宗。慶長年間、當國安土淨土院の僧清閑來りて本寺を開創し、以て念佛弘道の道場となす。思沙門天立像(木造)一軀(藤原末期作)は國寶。(藥師堂)大字須原にあり。淨土宗。同村西德院に屬す。本尊、藥師如來坐像(木造)一軀は藤原末期の作に係り國寶。(佛光寺)大字井口にあり。淨土宗。桓武天皇御宇最澄の草創なりと傳ふ。元龜二年織田氏の兵火に罹りて衰頹せしを、慶長四年再建せらる。寺寶中、聖觀音立像(木造)一軀(藤原初期作)は國寶。

羅南道濟州島の東南部に位置し、漢學火山の東南斜面をなす。西境に聳ゆる拒文岳(七三六米)を最高峰とし、黒色玄武岩より成る熔岩はアスピーテ式の頗る緩き傾斜をなして遂に海に達す。其の緩傾斜面には恰も西瓜を並べたる如く二十餘個の圓錐形或は甲型の寄生火山並布屹立して奇觀を呈す。其のうち赤岳(五九一米)・狗頭山(五二六米)・雲巖岳(四九五米)・大鹿嶺(四七四米)・狗岳・百薬岳・左市岳・瀛洲山・母地岳・西月岳等は三〇〇米臺、二〇〇米臺として長子岳・安座岳・卯峯等を數へ、一〇〇米臺としては甲旋岳・兎山岳・鷹岳・達山等あり。河川は東境に川尾川、西境に松川あれども河床は岩盤或は礫層より成り雨期以外は涸涸流をなす。海岸は玄武岩の急崖にして出入に乏しく、ただ表善里附近には貝殻の粉末より成る大砂丘の發達を見、その移動顯著なるものあり、貝殻粉末砂丘の堆積は地質學上興味ある問題を與ふ。斜面は三〇〇米以上は草原をなして牛馬の放牧行はれ、それ以下は更に中間・海岸の二帯に分れ中間地帯は休閒耕地大部分を占め、海岸地帯は最も重要な農業地帯をなす。住民は農業を主とし、臨海の婦女は裸潛海女漁業に従事し、海女として半島・内地方面に出稼する者も多し。産物には大麥・粟・甘藷・蕎麥・薄荷類・除蟲菊・綿等あり、又海産物には鮑・蝶螺・和布・かじめ・鯖・鯛等あり。

なほ馬及び牛を産す。道路は海岸に沿ひ三等道路を通じ北方城山浦、西方西歸浦に午前・午後各二回の定期乗合自動車あり。水運は大坂・濟州航路船及び濟州・木浦間の各汽船が表善里に寄航し島内各港及び陸地方面に聯絡す。粟落は島内十二箇中密度最小なる地域にて多くは海岸地帯に分布し、表善里は最も顯はれ中間地帯には城邑あり、草原の山間地帯には火田民部落あり。城邑は旌義と通稱し、古く旌義郡の主邑にして、交通の要路に當る。【ヒョービト】猫鼻頭 臺灣南端の一岬。鸞鼻と南淵を挟みて之と相對す。鸞鼻を南岬と稱するに對し、西南岬の稱あり。【ヒョーフ】屏風 石狩川上流の右岸に臨み、北海道上川支廳愛別村に時つ。石狩川上流を隔てて南方約二〇軒に石狩岳(一九八〇米)・南西方十二軒前後に大雪山嶽の諸峰時つ。標高一七九二米。山體は巖著たる森林を以て掩はる。登山は試みられず。いま大雪山國立公園地域に屬す。【屏風崎】石川縣鹿島郡能登島の西南に斗出する岬角。西島村に屬す。七尾灣内の勝地にして、南は屏風嶺を隔て石崎に對す。その距離一軒に及ばず。沿岸斷崖を成し屏風を立つるが如し。

【ヒョーアウラ】屏風浦 神奈川縣久良岐郡にありし村。昭和二年横濱を改めて神戸市と爲し、飾磨郡の一部を割きて姫路市を置き、何れも同年より市制を施行せり。次いで明治二十九年三月に攝津國のうち八部・荒原・武庫の三郡を廢しその區域を以て武庫郡を置き、播磨國飾磨・飾西・揖保・西・神東・神西の六郡及び多可郡の一部とを廢しその區域を以て飾磨・揖保・神崎の三郡を置き、但馬國城崎・美含・氣多・七美・二方の五郡を廢し、その區域を以て城崎・美方の二郡を置き、同年これを實施せり。また明治二十九年岡山縣管下、美作國吉野郡石井村及び吉野村大字中山を播磨國佐用郡に編入す。かくして本縣の管轄區域は現今の状態に於ては落つき、爾來四十有餘年その境界を變せず。【兵庫】山陽本線の一驛(明治二十一年設置)。神戸市兵庫區にあり。【兵庫港】山陽本線の一貨物驛(昭和八年設置)。神戸市兵庫區佐賀郡の東部。佐賀市の東北約〇・五折にあり、東は神埼郡に界す。地形極めて平坦にして水田よく拓け米産多し。東南部には佐賀市と東北方神埼町とを結ぶ國道通過してバスの往來繁しく中部には省線長崎線斜めに横切りて伊賀屋驛(昭和三年設置)を置く。村名は慶長年中、佐賀藩の成富兵庫の開墾せしに因む。【ヒョース】兵主村 滋賀縣近江國野洲郡の北部。野洲川と日野川に挟ま

成りし臺灣府志(續修)に見え、裨海紀遊は麻里哲口、臺灣使按察及び蕃族六考は麻里即吼に作る。

ヒョーリツ 苗栗

【苗栗郡】 臺灣新竹州の一部。州の南端に位し、南は大安溪を隔て、臺中州に、北は後龍溪によりて竹南郡と境す。東は大湖郡に連接し、本島唯一の石油鐵道たる出磺坑は本郡の東端大湖郡界に位す。西は廣く臺灣海峡に臨み、海岸線總延長一九九に達するも屈曲少なく良港に乏し。管内山岳丘陵に富み、大安溪、後龍溪、打那叭溪の三溪の流域に於ては相當廣大なる平地を有す。氣候は概ね温和にして雨量多く、地味も亦肥沃なるを以つて、平地、山地共に各種の産物に富み、水産物に於ても將來を期待せらる。管内總面積五二五・九四平方科にして、苗栗街・頭屋庄・公館庄・銅鑼庄・三叉庄・苑裡庄・通霄庄・四湖庄の一街七庄を管轄し、總戸數一八七五七、人口一二六二六を有す。住民は内地人・本島人・外國人(支那人)にして、海岸地方には福建系本島人、其他の地方には廣東人多し。郡下に於て重要な産業は農業・畜産業・林業・水産業・蠶業・鑛業及び商工業等にして、農業に於ては年産約三八〇萬圓を産出し、米・茶・甘蔗・甘藷・柑橘等を其主なる産物となす。本郡は由來畜産業の適地にして、特に牛畜は其の肉質優良なるを以て名あり、年畜産總生産額は約一

六〇萬圓に達す。郡の東部山地には自然林・造林多く其の成績良好にして、林業生産額としては木炭二五萬圓、薪一八萬圓を主とし、生龍眼・生柿・棕皮等を合して約五萬圓の副生産あり。本郡沿海は魚類豊富なるも漁獲法極めて幼稚なると、沿海に適當なる漁船の避難港なきため、殆んど全部が竹筏に依つて沿海漁撈をなすに過ぎず。従つて漁獲高は至つて僅少にして、年四萬圓前後なり。本管内はまた地勢、氣候の關係上養蠶地帯として全島的に名實共に著名にして、山手方面に多くの自然生る桑葉繁茂せる外、桑園の新設等も行はれ、養蠶戸數は逐年増加し養蠶界に目覚しき發達を遂げつゝあり、近年は年三萬圓に達する蠶業生産額を有す。蠶業に於ては管内に石油・石炭・を有するも、石炭は品質良好ならず又鐵區遠隔の地において搬出に不便なり。本島有数の石油坑として名高き出磺坑は大湖郡界にありて噴油量多く、其實また良好なり。農業地たる本郡の商業は其の盛を望むべからざるも、商取引は相當行はれ、その搬出品の主なるものは米・木炭・砂糖・茶及び帽子等にして、殊に三角蘭及び紙を材料として造らる、帽子は婦女子の家庭副業として稱揚せられ、年産百三十萬圓に達し、其の大部分は海外諸國主として米國に輸出せらる。また其他に苗栗燒として知らる、陶器、竹製品等も主なる工業に屬す。交通に於ては、郡下

に海岸線・臺中線の二線通過し、前者は管内に白沙屯・新埔・通霄・苑裡の四驛、後者は苗栗・南勢・銅鑼・三叉・十六份の各驛を設く。補助交通機關たる臺車も相當發達し、管内物資の搬出入に便すること大なり。道路は管内山岳に富み、其開墾に不利なる點多く、其の發達を妨ぐる事甚しく、産業發展上遺憾なる點尠からず、故に近年地方民は其の必要を痛感し、産業道路の改修開墾に着手し、目下着々進行中なり。

【苗栗街】 臺灣新竹州苗栗郡の一街七庄中の一。郡の北端に位し、東は頭屋庄・公館庄、南は銅鑼庄、西は四湖庄、北は竹南郡後龍庄に境し、地形南北に長く、東西に狭し。街の西南部は殆ど高地にして丘陵起伏重疊し、北西方に向ひて漸次低下す。而して銅鑼庄・公館庄を経て流入せる後龍溪は管内の東端を流れ北端に出づ。市街地は縱貫鐵道に副ひて發達し、一般に土地高燥にして住み良き地なり。主なる産業は農業・畜産業・工業等にして、農業に於ては其の産額の高位を占むるものは米にして、年産約六十五萬圓なり。製造工業に於ては昭和製糖苗栗製糖所の砂糖にして、年五十五萬圓を産し、日石苗栗製油所に於ては主として出磺坑に於て採油せる原油を精製す。尙ほ當街は大湖郡の關門を扼し、奥地産物を始め、大湖庄・公館庄・頭屋庄方面の果實類或は米其他物資の集散地なり。交通に於ても比

較的便利良好にして、苗栗驛は本街内に設けられ、又道路に於ても近年街下住民の覺醒により産業道路の開墾せらるゝもの多し。街下の教育に於ては小学校一、公學校一を有する外、各處に國語講習所設置せられ、本島人の皇民化運動に力を致せり。法院出張所・郵便局(三等)・郡役所・街役場・圖書館・日本石油臺灣蠶業所・同製油所・昭和製糖苗栗製糖所・臺灣軌道會社・商工銀行支店等は本街に設けられたる主要なる機關なり。當街はもと平埔蕃族ゲアリ社(新竹)の所在地なりしが、清領後、竹塹(新竹)に淡水廳の設置せらるゝや、嘉盛地方は嘉志閣の地名を以て其の行政區域に編入せられ、ゲアリ社の所在地たりし苗栗地方も斗六方面より陸路移住せる福建人により漸次開墾せられしが後ち廣東人の移住する者頗に増加す。同治年間よりは附近山地一帯に製糖事業勃興し苗栗は其中心集散市場として發達し來れり。我領臺後、當街地方は一堡に屬せしが、大正九年十月の地方制度改正に際し、本堡中より八庄(現大字)の地を割きて一街を建て、苗栗街とし、新竹州苗栗郡の管下に置けり。(北白川宮殿下御遺跡地) 苗栗驛より南方約二軒餘の所にあり。樹木鬱蒼たる小丘にして俯して後龍溪、仰ぎて遠く中央連山を望む。明治二十八年、故北白川宮殿下の本島御平定の砲、後龍方面より此地に馬を

進ませ給ひし時御休憩遊ばされし所にして山頂に將軍駐馬の碑あり。

ヒョー 日吉村

【日吉村】 千葉縣下總國香取郡の南隅。多古町の東南方に栗山川に沿ひ、東には匝瑛郡、西南は山武郡の一部と隣す。東部は丘陵地をなすも、西部は栗山川流域の平地をなして農業・養蠶行はれ、米・繭・麥を産し養蠶も行はる。縣道は多古町及び南方山武郡横芝町に通ず。横芝町に省線總武本線横芝驛あり。北隣吉田村には成田鐵道線下總吉田驛を置く。

ありて山肢村内を走り、村の大部分は山地をなし、ただ東北部の一部のみ低平なり。信濃川の支流黒川は東部低地を北流し灌溉に便す。純農村にして米・繭等を出す。交通は社線長岡鐵道の越後關原驛(東隣關原町地内)に近く、比較的便利なり。本村の大字七日市は近世、羽州上山藩(松平氏)の陣屋を置き、附近一萬五千石の邑を治せし地なり。

【日吉村】 岐阜縣美濃國土岐郡の北部。和名抄、土岐郡日吉郡の内。木曾川の左岸に沿ひ、北は木曾川を境に加茂郡に、西は可兒郡に、東南隅は土岐町に接す。北部に高根山・高根權現山等、五百米餘の山岳連なり木曾川へ絶壁を以て臨み、南へは緩傾斜をなす。全村高原性にして可見用の水源をなし、別に小支流を南方土岐川へ源流す。農業を主とし蠶業・蠶業に従ふものも多少あり。舊中山道は略中央を東西に走り、南北へ道路を分岐す。土岐津・御嵩兩町へ縣道通じ土岐津驛よりバスを便あり。(鬼宮溪)指定名勝・天然記念物。東美鐵道御嵩驛の東約八軒にあり。俗に鬼岩といふ。朝鮮の金剛山、甲斐の昇仙峽等と同種の花崗岩の溪谷にして、磊々たる巨巖谷の兩岸に峙ち、清流その間を走る。巨巖下に岩窟あり、昔、稀代の兇賊の棲みし址なりといふ。花崗岩の風景地として日本有数のものなり。(鬼岩鐵泉) 東美鐵道御嵩驛の東南約六軒の地にあり。硫化水素を含有

する硫黄泉にして加熱浴用に供す。附近に願興寺・鬼岩公園等あり。(酒波神社) 郷社。祭神不詳。美濃國神名記に土岐郡七社、正一位酒波大神と見ゆるもの即ち是なり。社傳に高倉天皇の御宇、源三位頼政の勸請に係ると。例祭九月十五日。

【日吉村】 愛媛縣越智郡にありし村。大正九年今治市に編入す。和名抄、越智郡日吉郷の地なり。

鎮座。祭神、大山神外六神。仁平二年、石浦河内守經國、江州坂本山王を勧請すと傳ふ。例祭、十月九日。〔大慈寺〕大字野田にあり。曹洞宗。太梁山と號し、永平寺末。弘安年中、寒巖義尹の開創に係る。寒巖は後鳥羽天皇皇子といひ一に順徳天皇第三皇子とも傳ふ。往昔朝野の尊信厚く寺領等また多く、寺運隆盛を極めしといふも、永正十七年兵火に罹りて炎上す。洞春これを再興し後奈良天皇より勅額を賜はるといふ。爾後、加藤・細川氏等寺領を寄す。いま國內門葉三百八十二箇寺を有し、九州に於ける同宗隨一の名刹。

ヒライ 日美村

岡山縣備中國吉備郡の西部。高梁川の左岸に沿ひ、總社町の西北二軒餘。村形西部は細長く高梁川に沿ひて西方へ延ぶ。全村山地をなし北部に高く南部に低く南境に沿ひて高梁川屈曲しつゝ、東南流す。米・麥・蕎麥を生柿・薄荷・酒類の特産あり。河川に沿ひて縣道及び省線伯備線通過して後者は美袋驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、賀夜郡日羽郷の内にして日美は日羽の轉訛なりといふ。

ヒライ 日義村

長野縣信濃國西筑摩郡の中東部。福島町の東北約三軒、東南は上伊那郡伊那町に隣接す。東境に茶臼山(二六五三米)・大棚入山(二三七五米)の連峯南北に連り、大棚入山の西に水澤山(二〇〇三米)聳立す。西北部を木

ヒライ 平井

群馬縣上野國多野郡の東北部。藤岡町の西南隣にて、鎭川の南岸。西境附近には山地あるも、他は平地にて、鎭川の支流鮎川北流す。農業行はれて米・麥を産し、また蕎麥盛にて蕎麥の産額大なり。縣道藤岡町に通じ、同町に省線八高線群馬藤岡線を置く。この地は和名抄、絲野郡佐味郷の内なるべく、戦國時代の名城として知られし平井城のありし所。殖産興業・灌漑に盡力せし大谷新左衛門(贈從五位)及び幕末、齋藤大之進(贈從五位)は本村の人。〔平井城〕山内上杉氏の居城。城址は大字西平井の鮎川の西崖にあり。上杉顯定が此處に築き白井城より移り、爾來上杉氏相次ぎて居城とせしが、憲政の時、天文二十年北條氏康に攻められ防戦及ばず越後に走る。氏康即ち北條長綱を置く。永祿元年、上杉(長尾)景虎これを復せしも防備に缺くる所あり、厩橋城(前橋)に移りて城廢す。

【平井村】 東京府武蔵國西多摩郡の東南部。五日市町の東方約四軒にある小村なり。北境は約二七〇米の山地をなすも、南部は平地にて麥・米を産し、一般に養蠶盛んにて繭を多産す。府道は五日市町及び南隣西秋留村に通じ、同村に五日市鐵道線西秋留驛を置く。【平井】 省線總武本線の一驛(明治三十二年設置)。東京市江戸川區平井三丁目にあり。

ヒライ—ヒライ

曾川の上支西南に流れ沿岸に僅に低地ありて耕地開く。米・麥・蕎麥を産し、水澤山と大棚入山の山中は日義御料林と成る。國道中山道は木曾川に沿うて通じ、省線中央本線また之に沿うて走り、宮ノ越驛(明治四十三年設置)を置く。この地の大字宮越は舊中仙道の宮越宿にして、木曾川の右岸に臨濟宗徳善寺あり、木曾義仲の菩提寺たり。明治天皇、明治十三年山梨・三重及び京都行幸の際、この地に御休あらせらる。〔宮ノ越〕宮ノ越驛所在地。巴ヶ淵と稱する木曾川の碧潭は北方八〇〇米の地にあり。宮ノ越城は木曾義仲の本城たりし所にして、附近に義仲の元服せし八幡宮及び今井兼平の邸址あり。川の對岸徳恩寺に義仲の位牌安置せられ、境内に巴御前の墓なるものあり。

ヒライ 比良

【比良】 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか四村を廢し、山田村を置く。【比良山脈】 滋賀縣西部の山脈。琵琶湖の西岸に屏風の如く屹立して南北に連なり、南は和通川を以て比叡山脈に境し、西は安曇川の深き構造谷を以て丹波高原に接す。北より蛇ヶ谷峰(九〇二米)・武奈ヶ岳(一一二四米)・蓬萊山(一一〇三米)・打見山(一一七四米)・権現山(九九五米)・龍仙山(七五五米)等の諸峯連なり、殆んど花崗岩を以て構成せられ、北部西側には古生層並合して一山塊をなす。

【平井】 愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年、本村ほか七村を廢し高橋村を置く。【平井】 愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年、本村ほか二村を廢し東郷村を置く。【平井】 兵庫縣揖保郡にありし村。明治四十二年本村及び桑原村・布施村を廢しその地域を以て揖西村を置く。【平井】 岡山縣上道郡にありし村。昭和六年岡山市に編入さる。【平井町】 香川県讃岐國木田郡の中央東北偏。高松市の東南方約六軒。東北部は大川郡志度町に接す。北部には低き丘陵ありて北方に瀬戸内海、西北方に屋島を望み、中部及び南部は高松平野の東部を占むる平地にして、中央に大きな湖沼あるを初め所々に灌漑用池沼あり。西南部には西北流する河川ありて約七軒先に瀬戸内海に注ぐ。全戸数千二百數十戸の中約七割は農家に於て穀物・野菜等を栽培し、残りの三割は商業を營む。南部には東西に走る阿波街道ありて西方丸龜市に至り、また之より分れて西方高松市に向ふ縣道あり、市街地之に沿ひて發達す。社線高松電氣鐵道線南部を横斷し鹿伏・妙徳寺・平木・田中道・池戸の各停留所あり。もと平木・井上・池戸・鹿伏の四箇村を合併して平木・井上の頭字を取りて平井村とし、大正八年町制を布く。また此地の人奈良専士は農學家にして稻

山頂が一面の平原をなせるは準平原の隆起して生じし地盤なることを明示するものにして、山中到る處花崗岩の露瀝のありと奇峯斷崖を連続せしめ、從つて東面の斷層崖下にその土砂の堆積を以て標式的なる扇狀地を展開し、白砂青松の湖岸美をなす。山脈は丹波高原の東の縁邊となる關係上、裏日本よりの吹雪を悉く吸収し、晩春に至るもなほ白雪を戴きて暮雪の風景を形成し、また好個のスキー場を提供す。なほ八景を以て知らるる比良山はその南部なる蓬萊山の稱にて、こより山嶺を北に縦走して最高峯武奈ヶ岳に至るものを近江アルプスともいふ。【比良山】 ↓比良山脈

ヒライ 比樂

加賀國(石川縣)の古地名。延喜式兵部省式に加賀國比樂驛々馬五疋と見ゆ。いま石川郡石川村の邊が即ちその地ならんといふ。手取川をもと比樂川と呼べり。

ヒライ 庇羅

肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に松浦郡庇羅郷あり、その地、今の平戸島に當り、貞觀十八年、この郷を上近郡・下近郡に分けしが、久しからずして中止す。延喜式に庇羅馬牧あり、往時放牧の場を置かれしものなるべし。

ヒライ 平ヶ岳

越後山系清水山塊の一峯。利根川水源地の左岸に位し、東斜面は新潟縣北魚沼郡湯之谷村に、西斜面は群馬縣利根郡水上村に屬す。標高二一四〇米。北西には剣ヶ倉山(一九九八米)・

の改良、碎塊器の創製、洋種蔬菜の栽培等、我國農業界に裨益するところ多し。明治二十五年歿、年七十一。贈從五位。【平井村】 熊本縣肥後國玉名郡の西部。東西に細長く西北部は西北方大牟田市南部との間に約二軒を隔つ。北は福岡縣三池郡に界し、西は荒尾町を距てて有明海なり。東南部に筒ヶ岳(五〇一米)ありて四周へ傾斜し、村内丘陵地をなす。北部には諏訪川ありて東半は村境に沿ひ、西半は境界の僅か南を西に向つて流れ、西北部流域に稍々低地を見る。米・麥・粟・甘藷の産あり。三池街道中央を縱貫し省線鹿兒島本線萬田驛は西方二軒餘にてバス便あり。この地は和名抄、玉名郡爲多郷の内なるべし。

ヒライ 飛來峯

朝鮮平安北道の山。碧潼郡・昌城郡に跨り、一四七〇米の最高點は碧潼郡松西面・城南面と昌城郡祐面との境上にあり。山の北斜面に南湖川、西斜面に映洲川發源して鴨綠江に注ぎ、南斜面には大寧江の大支なる昌城江發源す。此山は白頭山脈の支脈なる飛來峰山脈の主峰とす。同山脈は東縁は蓋馬高臺に續き、平安北道の北部を鴨綠江の通谷に沿うて西南に走り、東北より慈城江・禿魯江・忠滿江等の鴨綠江支流により横ざられ、飛來峰の西南四〇軒に天摩山(一六九米)の後峰を聳立せしむ。

ヒライシ 平石

栃木縣下野國河内郡の東部。

大水上山(一八四〇米)・鬼岳(一九二六米)を経て、中ノ岳(二〇八五米)・駒ヶ岳(二〇〇三米)に連なり、南境は白澤山(一九五三米)・東白澤山(一九四二米)を経て至佛山(二二二八米)・笠ヶ岳(二〇五八米)に續く。西斜面は南流する利根川の上源地たり。山頂は平坦なるに因り、山名出づと云ふ。山頂東部に小池を湛へ、池畔に珍奇なる毛氈苔・白山小蘗など生育して美し。また平石と稱する所に似たる瓦岩あり。大正四年、高須式氏の初登頂に成功後、次第にこの山の幽邃味を求めて登山者の増加するに至れり。登山は銀山平より只見川の一支流を南西方に遇るか、大水上山方面より尾根傳ひにて行はる。

ヒライ 比良居村

山口縣周防國大島郡大島の中中部。廣島灣に臨み西北は久賀町に接す。背後に山を負ひ西北境に嵩山そびえ前面は海に臨む。海岸中央に丘陵東北に突出して岬をなし其の東と西に沿岸低地ありて部落發達す。東南部は約半軒南に到れば海岸に出づ。海上遊かに浮島・頭島等浮島が、其の前面に我島・ハンド島・飛瀨島等の小島散在す。水産・農産・林産あり。久賀町へ海岸を傳ひて道路走り、沿岸には便船あり。(白鳥八幡宮)大字日前に鎮座。祭神、應神天皇外二神。創建年次詳ならずも、山城國男山八幡宮よりの勸請といふ。例祭陰曆八月十五日。

宇都宮市の東隣にて、鬼怒川の西岸。東は川を隔て、芳賀郡の一部と相對す。全村平地にて鬼怒川附近は水田多く、他は畑地をなす。農業行はれて米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。近年、製糸業發達す。陸羽街道は宇都宮市より來り、村の西北部を東北に走り、その他にも二條の縣道宇都宮市に通す。南部の縣道は、宇都宮市・茂木町間の省管自動車本線の通過するも、村内に驛なく、宇都宮市に宇都宮驛、北隣古里村に岡本驛を置く。村内に宇都宮高等農林學校あり。大字石井は横田系團に出羽守時業(絹業の子)の次男五郎左衛門尉業澄は此の地を知行すと見ゆ、業澄は石井氏の祖たり。

ヒライ 平泉村

岩手縣陸中國西磐井郡の東北部。一關町の北約三軒、東は東磐井郡長島村、北は膽澤郡衣川村・前澤町に隣接す。面積四四・〇三方軒。中部東西に百米乃至二百米の丘陵性山地連互し、東部末端に高館・中登寺・毛越寺等あり。北上川は衣川・太田川等を入れ東部を南流し、各河川沿岸には廣き沖積低地あり。米(一八六千圓)・

麥(五四千圓)・大豆(一七千圓)・馬鈴薯(四千圓)・桑葉(一三千圓)・野菜(八千圓)を産し、山間部には梨・柿・葡萄等の果樹(二千圓)を栽培す。養蠶も盛んにして春繭(一七千圓)・夏秋繭(二千圓)を挙げ、なほ郡内に於ける特産物として大麻を東部低地より産し、原料として輸出するもの多かりしも、今は開田等による畑地減少により昔日の如き産なし。外に用材(松・杉)・薪炭材・木炭(約一四千圓)を出す。(数字は昭和十一年現在)。国道陸羽街道(一名昭和国道)は北上川に沿うて走り、縣道は之より分岐し太田川に沿ひ西南隣巖美村に至るものあり、各バスを通ず。省線東北本線は国道沿ひに通じ平泉驛(明治三十一年設置)を置く。平泉は藤原清衡が堀河天皇の御代、江刺郡の豊田館(岩谷堂町大字豊田)を出でここに移りて以来、基衡・秀衡・泰衡に至る四代の居館平泉館のありし處にして、文治五年泰衡に至り源頼朝に滅ぼさるまで藤原氏四代、約百年間榮華に耽りし所。源義經の居りし高館址あり、その西方の關山には中尊寺、その南方の山麓には毛越寺址あり、もとは堂塔十字、坊舎千を以て敷へしが、戦亂・火災のため概ね荒廢し、僅に中尊寺の金色堂にその榮華の跡を偲ぶのみ。而も地形の變化により、舊居館の邊は概ね北上川の河道となり、その遺址は今や探るよすがもなし。藤原三代と云ふは泰衡が家を繼いで幾何

もなく亡びし爲めこれを除いて三代といへるもの。この藤原氏は鎮守府將軍藤原秀郷四代の孫頼遠といふもの下總に下りその子経清陸奥互の地に移りて互權太夫となりしが、安倍頼時の女婿たりし關係より前九年の役に安倍頼氏に黨し誅せらる。然るにこの役、源頼義を援けて殊勳を奏し、鎮守府將軍となりし出羽の清原武則は、経清の妻とその子清衡とを連れ歸り、妻をば己の子武貞に妻はせり。かくて清衡はここに清原氏を移せしが、この後に後三年役清原氏亡ぶるに及び、本姓に復し藤原氏を稱せりといふ。清原氏亡びてその遺領はそのまま清衡の手に歸して陸奥六郡を領し、更にその勢力は安倍・清原二氏の上に出て居館豊田館を出で衣川を越えてその南なる平泉に根據を構へ、その勢力奥羽二州に及ぶ。かくて清衡はその富に任せて榮華を極め、中尊寺の壯麗は人目を驚かしむ。中尊寺建立は清衡が京都の文化を憧憬して、これを陸奥に移して東國に文化の中心を造らんとせる具體的表現の一にて、當時堂塔四十餘宇、禪房三百餘宇ありと云ひ、今僅に遺れる金色堂はその贅美當時の文都に於ても、これに匹敵する程の建物に無かりしといふ。子の基衡に至りては、勢力更に父に過ぎ南方遠く信夫郡の事にまで干渉を試みるに至る。基衡は別に毛越寺を建立せしが、規模は更に中尊寺よりも大に、堂塔四十餘宇・禪房五百餘宇に

及べりと云ひ、當時基衡が京都の名工運慶に屬して、本尊藥師如來の像を彫刻せしむるについて、その支拂へる報酬が、黄金百兩・覺羽百尾・七間中御木約皮六十餘枚・安達紺千疋・希婦細布二千端・鞍部駿馬五十疋・白布三千端・信夫毛地摺一千端に、その外に山海の珍物を添へ、成功に至る三年間、これを京に送る入夫駄馬が、山道・海道の間、片時も絶えざりしといふ。それにも不足と思ひてか別祿として生美絹を船三艘に積んで回送し、のち更に練絹三艘を送りしといふ。基衡の子秀衡は、宇治の平等院に模して無量光院を建つ。これ等の寺院はいづれも當時の中央に於ける建築美の粹を集めしものにして、蟹取夷洛と呼ばれし奥州にも、平泉の文化は京都につぐ程のものなりしものならん。この外に藤原三代奥羽二州に於ける遺立の堂宇、幾千萬宇なるを知らずと東鑑に見ゆ。秀衡はまた當時の權勢家なる平清盛に運動して、鎮守府將軍に任ぜらる。右大臣九條兼實はその日記「玉葉」嘉應二年五月二十七日の條にこれを記して、「奥羽夷狄秀平(衡)任鎮守府將軍、亂世之基也」と歎ぜり。斯く秀衡は平氏と結托せる爲め、源頼朝鎌倉に起つて平家討伐に當りても、常に秀衡がその後を窺ふを恐れ終始鎌倉を離れ得ず。されば源義經が兄頼朝と不和となり、遂に身を置くに處なきや、遂々陸奥に下りて秀衡を訪ひ、以てその保護を

請ふ。而して頼朝も遂に手を下すを得ざりしが、文治三年十月秀衡歿するや、子泰衡の暗愚にして兄弟の間閤滑ならざるに乘じ、文治五年頼朝自ら大軍を率ゐてこれを征し、遂に藤原氏を滅す。清衡以来四代約百年、中央政局の變轉以外ありて、よく士民の風俗を柔け、以て太平を樂しむを得しむ、その略として淫靡柔弱の風に陥り、されば頼朝との戦に於いても華々しき決戦もなく、恰も落葉の秋風に弄ばるるが如くに亡び、ここに平泉の榮華も終を告げ、後世芭蕉をして「夏草やつはものどもの夢の跡」の嘆をなせしむるに至る。(中尊寺)大字中尊寺にあり。天台宗。關山弘誓院。松島瑞巖寺と共に東北屈指の古刹。寺傳に、初め圓仁の草創に係り、陸奥守藤原興世、堂宇を造營、のち下野大慈寺の住僧榮信、大いに寺基を擴張、貞觀元年に清和天皇勅して中尊寺の號を賜ふ。のち天喜、康平の頃、源頼義、安倍貞任討討の時、當寺に戦捷を祈願し、凱戦の後、小前澤兩邑の地を寄進すと見ゆ。堀河天皇長治二年藤原清衡勅を奉じて堂宇を再興、のち漸次諸堂を建立、末樓碧殿輪奐として雲に接し巍然として嶺を壓するに至る。清衡再興のことは、再興と稱するも蓋し史實的には創建にして、圓仁草創説は恐らく縁起莊嚴の假託なるべし。のち基衡・秀衡相次いで寺基を擴張し、遂に堂塔四十餘宇、禪房三百餘宇に達し一大伽藍を

形成するに至る。後鳥羽天皇本寺を以て勅願の御前所に充て給ひ、僧慶源別當となりて一山を統轄し、寺運の隆盛奥州に冠たり。文治五年平泉藤原氏の滅亡後源頼朝寺領を安堵し、また堂宇を修理せしむ、爾後寺門次第に衰頹に向へり。加之、建武四年野火に罹り、金色堂・經藏を殘すのみにて他は大半灰燼に歸す。正應元年、鎌倉將軍惟康親王、金色堂の廢頹を惜み給ひ保存の爲め覆堂を造立せしめ給ふ。文明年間葛西滿信、寺領十二箇村を五箇村に減す。豊臣秀吉朱印地七箇村を附す。寛永の始め後水尾天皇勅して金色堂を修復せしめ給ふ。のち兼徳再興を企圖し伊達氏の援助を求めて經營に努めしも尙往昔の銀觀に及ばず。寛文五年以後東叡山直末となりしが、維新後比叡山直末となる。堂宇中、金色堂本堂、同覆堂、經藏は國寶。寺寶中、國寶に指定せらるもの枚舉に遑なく、一字金輪坐像一軀(木造)・大日如來坐像(木像)一軀等をはじめ、其他二十數點に及ぶ。金色堂は天治元年藤原清衡及び女壇三氏が清衡の遺骸を収むるために造營せし非堂にして藤倉時代に修建せられし覆堂によりて保護せらる。その規模は小なるも内外の裝飾纖靡を極め金色燦然たるを以て一に光堂とも呼ばる。併聖芭蕉の「五月雨の降り残してや光堂」の句は夙に人口に膾炙する所なり。構造手法上斗拱間に我國最古のものといふべき本龕殿を設けたる外

は特に留意すべきものなしと雖も、其内外の裝飾に至りては當時工藝の粹を蒐めたるものといふべし。即ち堂の内外上下四面に悉く紗布を掛け、黒漆を塗りて其地を重厚にし、その上に金箔を施し、また内部中境の四隅に一に七寶卷柱と稱せらるる柱を立て、柱身に十二光佛を蒔繪にて表はし、金銅の光背を附し、間地に蒔繪の七寶文、螺鈿の寶相華、唐草を嵌出し、柱脚は金銅の逆蓮華を礎とす。内陣中央と左右兩隅に須彌壇各一基あり。中央須彌壇下に清衡、左に基衡、右に秀衡の棺ありと傳へ、また秀衡の棺側に忠衡(秀衡の子)の首桶ありといふ。而してこれ等三基の須彌壇中、中央のものに最もその結構優秀なり。壇は方形をなし、側面に香狭間形を造り、孔雀・草花・胡蝶等を金銅にて打出せり。壇上には螺鈿の華文を嵌入せる紫壇張りの勾欄を繞らし、地置下に金銅の蓮座を設く。壇上に安置せる彌陀三尊二天像は後世の修補により、大いに尊容を損傷せり。なほこの壇に國寶の木造經案を置く。その製作年代は堂と同時代と思はる。當初は漆壇に螺鈿を嵌め、透金具を装したりしも、今は破損著るし。以上説くが如く堂宇裝飾の約華麗なること、宇治平等院を凌駕し、その規模は小なりと雖も、藤原後期裝飾工藝の粹といふべく、同時に平泉三代の廟堂建築として特に注目すべき遺構なりとす。金色堂覆堂は金色堂の類廢

を防がんとす。正應元年鎌倉將軍惟康親王が平貞時及び宣時に命じて造立せしものにて、金色堂の四面を圍み屋方を覆ふ。その細部に鎌倉時代の手法認められ國寶たり。(毛越寺址)指定史蹟。現毛越寺本堂の東方に南大門址あり、礎石殘存す。それより東方に土壘あり、今の山門の傍にて北折し山際に至り更に西折す。土壘の内部に東西に長き大泉池あり、池中に中島殘る。西北方に優美なる塔山聳え、昔は山麓と池との間に主要建造物存在せり。第一は金堂圓隆寺址にして土壇上に五間四面の建物の礎石殘存し、その前面左右に鼓樓・鐘樓址等あり、いづれも礎石殘存し、更に金堂に連なる廻廊の土壇址に礎石僅かに遺存す。鼓樓址の西に經藏址あり、その西方に大土壇ありて、五間四面の建物の礎石あるは根本中堂の嘉祥寺址たり。金堂の東に江戸時代再建せし常行堂あり、その東に法華堂址殘る。その一區劃の東隣に道を隔てて老松の繁茂する土壇は、觀自在王院址にしていま二小堂あり。こゝはもと大阿彌陀堂のありし位置にて、その東に小阿彌陀堂址あり。遺址の南方の田圃中に低く一劃をなせし所は即ち舞鶴池の址にして、池畔の庭石所々に遺存す。また上述の遺址を圍みて總社・日吉・白山・祇園・北野・稻荷等、當時京都にて信仰の盛なりし神を勧請して鎮守となし、その宏壯なる規模は遂に中尊寺を凌駕せし平泉第一の大伽

藍にて、奥州藤原氏の富榮を示して餘ありしも、爾後次第と衰頹していま僅にその礎石のみを遺すに至る。觀自在王院址の北に千手院と號する草庵あり。もと舞鶴池の中島に建てられし鐵塔の塔身及び臺座を所藏す。塔身に文和四年の銘文鑄出せり。更に千手院の北金鶴山の東麓に總社金峯山址あり。その附近に大礎石十數箇點在し古瓦の破片散在す。これ即ち藏王堂址にして、當時吉野の藏王堂に模して造りし所のものといふ。(無量光院址)指定史蹟。驛の北約八〇〇米、中尊寺に至る途中部落の西方田圃中にあり。院は藤原秀衡の建立にかゝり新御堂とも稱せり。大苑池を掘り、庭石を配し、池の北畔に阿彌陀堂を建て、丈六の本尊を安置し、前方に殿堂を連れ、規模全く宇治の平等院、鳳凰堂に類似し居りしといふ。いま尙ほ苑池の址を認むべく、また堂の土壇礎石など遺存す。(平泉館址)驛の北方、高館部落の東より北に亙る。嘉保元年、藤原清衡が江刺郡豊田館(いまの岩谷堂町字餅田)より移り、居館を構へて以来、基衡・秀衡を経て、泰衡が文治五年源頼朝に滅さるまで四代九十九年の間居住せし處なり。その北部は清衡・基衡の御所、その南部は秀衡・泰衡の伽藍御所のありし所といふ。なほ毛越寺山門の西に八花形と呼び、秀衡の長子國衡の館址と稱する處あり。(高館址(衣河館))平泉驛の北一軒。中尊寺に示る

道路の東側にある老杉鬱蒼たる小丘を高館山と名づけ、いま丘上に義経堂と稱する小堂あり、伊達村の建立にして、義経の木像を安置す。高館は源義経が居住し、文治五年、藤原泰衡に攻められて戦敗れ、英雄の末路はかく自刃せし處と傳へ、高館山より東方に及ぶ地を占め居たりしが、今は北上川河道の變遷によりて舊址全く失はる。(達谷窟) 驛の西南約六軒。巖美溪に至る途中に高さ約一〇米、長さ約一七米の岩窟あり。此地昔蝦夷の酋長志路王の據りし所、のち坂上田村麻呂これを征服し、こゝに京都の鞍馬寺に擬して堂を建て、名づけて西光寺と號し毘沙門天の像を安置すといふ。いま洞内に毘沙門堂あり、舞臺造りにて側面の階段より堂内に入るを得。窓の左右の岩壁に摩崖佛の如きものあり。(金鶏山) 高館の西南にあり。藤原秀衡が富士山に擬して築きし山にして、平泉の鎮護として黄金の鶏雄雉一番を頂上に埋むと傳へその他種々の傳説あり。(平泉の劍舞) 十三人の童子が面を披り、劍・扇等を持ち、笛太鼓に合せて踊る。その始めは平泉にて死せし義経主従の靈を慰むるにありしといふ。

ヒライツ

平磯町 茨城縣常陸國那珂郡の東南部。鹿島灘に臨み、湊町の東北隣にあり。大部分低き臺地をなし、海岸附近に平地あり。農業行はれて麥・米を産す。海岸は單調にて大部分磯濱をな

し、南部に漁港ありて聚落はこの部分に發達す。この地は常陸に於ける最大の漁業地と云はれ、漁業榮ゆ。また海岸は海水浴に適し、磯崎・阿字ヶ浦名高く夏は旅館營業盛なり。縣道湊町に通過し社線鉄道線また之に沿ひ、町内に平磯・磯崎の二驛(大正十三年設置)を置く。この地は和名抄、那珂郡幡多郷の内なるべし。元治元年九月、水戸藩の諸生黨、及び那珂藩の天狗黨が大發黨を攻撃し、この地に戦へり。(酒列磯前神社) 大字磯崎に鎮座。同幣中社。祭神、少彦名命。創立を大洗磯前神社の創祀と同じうす。祭神少彦名命を俗に乳母神と稱へ、當社を一に乳母様ともいふ。天安元年大洗磯前神社と共に官社に列し、延喜の制名神社に列す。建久二年源頼朝筑波山に詣て特に磯前の神威を仰ぎ神馬三十頭を納め、更に那珂以東久慈以西の地二百二十町歩の神領を寄す。文和二年佐竹貞義深く崇敬し、神田を増し社殿を修築す。のち元祿年中徳川綱條當社に參詣し、水戸光圀の遺命を受けて社殿を造替す。例祭、十月十五日。

ヒライデ

平井手 朝日村(長野縣上伊那郡) 山日縣周防國熊毛郡の東部。水場港に臨み田布施町の東南に隣る。北は玖珂郡に界し、東北隅は柳井町に接す。北部に赤子山(二八八米)、東部に南方より延び来る丘陵の北麓

ある外は平坦なる沃野開く。西南隅は東北へ深く侵入せる水場湯渡に臨み、湯頭良箇地をなして市街地あり。米・麥の農産及び水産あり、鹽を特産とす。柳井町より来る縣道中部を西南に横斷し、また田布施町に至る道路もあり。省線山陽本線柳井驛(東北一五軒・田布施驛(西北約二軒)へ共に自動車通す。此地は和名抄、熊毛郡多仁郷に屬せるもの如し。明治三十六年町制を布く。(沼八幡宮) 大字平生に鎮座。祭神、應神天皇外四神。社傳に後壇河天皇の元仁元年豊前國宇佐より分靈し創祀すといふ。例祭除曆八月十日。

ヒラオ

平尾村 大阪府河内國南河内郡の西北部。富田林町の西北約一軒。地形東南部に高く西北に臺地狀に傾斜し、西北部に稍々低地あり。西北部に大和川支流北流す。農産・工業・畜産・林産あり。富田林街道中央を西北に横切りて堺市に至り、バスの便あり。この地は和名抄、菅生郷の地。弘和二年楠木正儀がこの地に山名氏清と戦ひて敗走す。〔菅生神社〕 大字菅生に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命・菅原道真。創建年次詳ならずも、この地に住みし菅生氏がその祖神を祀りしに始まれるが如し。式内大社に列し、道真を合祀せるは此地がその誕生の地といふによるならん。例祭、四月五日。

ヒラオ

平磯村 長野縣信濃國下高

越え、白根山の中道を巡り草津温泉に出で、更に澤渡・四萬・河原等上州の諸温泉に達す。夜間瀬川に沿うて社線長野電鐵通じ上條驛・湯田中驛(昭和二年設置)を置き、湯田中より上林までは積雪期間を除き自動車通す。(平穩温泉) 本村及び穂波村の二村に散在せる湯田中・安代・澁・上林・地獄谷・發咄・熊ノ湯・角間・穂波の九湯を總稱して平穩温泉といふ。これら温泉群は高山・幽谷・高原の間にあり、大澤・湖沼・溪流・瀑布等これに加はり局部々々の雅趣あふべく春花秋葉の美あり、佐久間象山これを「小桃源」と推賞せし一郷なり。(安代温泉) 星川に臨みて涌出。泉質、鹽類泉。湯田中温泉より半軒餘の地にあり、海拔四八〇米、東に笠・横手・岩菅、西に戸隠・飯綱・黒姫・妙高の諸山を望む。附近一帶經の羨氣盛んにして、浴客の食膳にこれを供す。(湯田中温泉) 星川に臨みて涌出。泉質、無色透明の硫酸泉及び鹽類泉。當温泉は平穩温泉の關門ともいふべく、天智天皇の御代僧知由の發見と傳ふ。附近に佐久間象山の碑・果亭文庫・湯平山遊園地及び湯田中遊園地等あり。(澁温泉) 星川の清流に臨みて涌出。泉質、白濁濁の鹽類泉。神龜年間行基の發見と傳へられ、古來有名なる温泉場にして、海拔七五〇米の地にあり、内湯旅館、土産物日用品等の商店道を狹みて屏立して一小市街をなし、華やかなる湯治場情調を織

ヒラオ——ヒラオ

りなす。(上林温泉) 横湯川に沿ひし小丘に涌出。泉質、鹽類泉。別荘地として知られ、海拔約九〇〇米、平穩温泉中の最高所なり。前に黒姫・飯綱・戸隠の高峯展開し、澁・安代・湯田中・角間を一帯に收め、星川を望み、山水の勝を坐ながらに眺るを得。附近一帶またスキーに適しジャンプ臺設けらる。附近の廣業寺は、明治遺壇の瓦匠寺崎廣業のアトリエをそのまゝ、寺院とせしものにして陶氣味を帯び展望に富む。(發咄温泉) 岩菅山麓の懸崖に臨みて涌出。泉質、無色透明の鹽類泉。平穩温泉中、熊ノ湯と共に最もかけ離れしところあり、海拔約一六〇〇米、全く俗界を離れたる靜寂境にして、眺望また廣闊にして遠く銀冠青衣の日本アルプス群峯を望むを得。(熊ノ湯温泉) 五岩の根元より涌出。泉質、硫酸泉。笠ヶ岳の麓にて海拔一七〇〇米餘、塵外の幽境たり。佐久間象山の發見といふ。(地獄谷温泉) 澁及び上林より東二軒餘。横湯川の上流の川床より、絶えず湯煙と熱湯を噴出し、轟々たる音を響かす。(地獄谷の噴泉) 指定天然記念物。地獄谷は横湯川の河谷にあり。基底を成せる岩石は輝石富士岩の變質せるものにして、直方狀節理を現はす。噴泉は左岸に近き礫積の間にありて、水滴を多く含む水蒸氣を約一〇米の高さに噴出し、轟々たる音を發す。孔口の周圍に炭酸石灰の沈澱より成る霰石堆積して噴泉塔を

形成す。水蒸氣中に炭酸瓦斯及び硫化水素を含む。この噴氣口は明治四十三年横湯川洪水の時河底を掘下げ、岩盤より温泉漏れて噴出力弱まり、大正元年五月その噴出全く停止す。よりて十數間の下流に合掌林を組立て、河の水位を上昇せしめ、鐵棒を打込みしため從前の如く噴出するに至る。(琵琶池) 村内にある湖。高度は一三八九米にして面積〇・一七平方軒、長さ七六〇米、幅二二〇米。中央括れて琵琶狀をなし北半は淺く南半は深く二一米あり。笠ヶ岳の龍紋岩へ志賀火山の熔岩が衝突して生ぜし盆地に湛水せしものにして、現時は大沼池及び丸池の水を流入させ發電及び灌漑に利用す。以前は水色淺藍にして透明度一厘米に及びしが、角間川の水を流入せし以來綠色となり透明度も三米程に減じたり。(旭山) 上林より東約一軒、草津街道の香打茶屋より登る。海拔一五二〇米、西は妙高・戸隠等の五峰、日本北アルプス、善光寺平一帯を望むを得。(幕岩) 香打茶屋より二軒餘の地點にあり。角間川上流の南岸に聳立し、蜂の巢をたゞきつぶしたるが如き一枚岩にして數日に傾す。岩下に幕岩瀧あり、この邊また岩燕多し。(瀧瀧) 香打茶屋より右に小徑を辿れば、瀧見臺あり、瀧は幅一九米、落下一八〇米、瀑邊岩燕多く見らる。

ヒラオカ

平岡

【平岡村】千葉縣上總國君津郡の東北部。北より東は市原郡姉崎町および戸田村と隣す。大部分丘陵地にて森林多し。西南部は小櫃川流域平野の一部にて、水田多く米を主産し他に麥・繭・鶏等を産す。姉崎町に縣道通じバスの便あり。南隣中川村には省線久留線横田驛ありて縣道を通す。【平岡村】長野縣信濃國下伊那郡の南部。東南は靜岡縣に接す。天龍川は北方より來り中部より西境を劃して南流す。東南境に熊伏山(一六五八米)・觀音山(一四一八米)等の高山聳立し、其山肢村内を蜿蜒して南部に一〇五二米の山を起す。北部にもまた八百米内外の山起り村内概ね深山を成す。地形上産業見るべきものなく、天龍川河岸に開けたる小低地に耕地拓け米・麥・繭等を出す。また本村・木炭等を出す。北方飯田町方面へバス通じ、また天龍川による舟楫の便あり。【平岡村】長野縣信濃國下高井郡の西南部。中野町の北に隣接す。中野盆地の東北部にあり、千曲川の一支夜間瀬川は北部を西北流し、本村は夜間瀬川の構成する扇狀地にして桑園よく開く。米・麥・繭を産し林檎も栽培す。縣道は中部をばは南北に走り中野町にバス通じ、社線長野電鐵も西部を南北に通じ四ヶ郷驛(大正十四年設置)・信濃竹原驛(昭和二年設置)を置く。本村は新井村・若宮村・竹原村・金井村・間長瀬村・笠原村の舊六

ヒライ

筒村の合して成れるもの。〔笠原神社〕大字笠原に鎮座。郷社。祭神、少彦名神。もと宇天神前に鎮座ありしを、中古

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

も盛にして就中針金の製産高は日本一なり。また革製品の産額も多し製粉も亦盛

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

南方より来り、南境を西流して雄物川に合す。雄物川は盆地の西邊をなして北流

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

【平岡村】兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部に別府町に接して播磨灘に近く、西北に野口村を距てて加古川あり。東

ヒラガ 平賀

【平賀(郡)】中世私に陸奥國津輕郡の南に建てたる郡名。鎌倉領なり。即ち同じく私稱郡號たる鼻和郡の南に位し、その

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラカ——ヒラキ

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラガ 平賀

【平賀(郡)】中世私に陸奥國津輕郡の南に建てたる郡名。鎌倉領なり。即ち同じく私稱郡號たる鼻和郡の南に位し、その

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラカ——ヒラキ

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラガ 平賀

【平賀(郡)】中世私に陸奥國津輕郡の南に建てたる郡名。鎌倉領なり。即ち同じく私稱郡號たる鼻和郡の南に位し、その

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラカ——ヒラキ

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラガ 平賀

【平賀(郡)】中世私に陸奥國津輕郡の南に建てたる郡名。鎌倉領なり。即ち同じく私稱郡號たる鼻和郡の南に位し、その

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラカ——ヒラキ

【平賀村】長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

によりかく名づけしものといふ。「寶滿神社」大字北新開に鎮座。郷社。祭神、玉依姫命外四神。創建は社記に據るに、天武天皇白鳳九年の創祀に係り、舊藩主代々の祈願所なり。例祭、十一月三日。

ヒラキ 平貴

【平貴】 静岡縣濱名郡にありし村。明治四十年本村を廢し、小野口村および北濱村に編入さる。

ヒラキキ 開聞

【開聞】 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に額姓郡開聞郷あり、その地今の掛宿郡額姓村の邊に當る。

ヒラギン

【開聞岳】 開聞岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラギシ

【開聞岳】 開聞岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラキタ

【開聞岳】 開聞岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラクボ

【開聞岳】 開聞岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラクラ

【開聞岳】 開聞岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラサワ

【開聞岳】 開聞岳(鹿兒島縣)の別稱。

金浦町の東北に接し、西北は日本海に面す。東部は低き山地にて西方に傾斜し、西南部にもまた小起伏ありて中部や平坦なり。白雪川は西部を北流し、日本海に注ぐ。生業は農業・漁業及び中小商工業を主とし、米・鮮魚等を産し、また院内油田の石油を精製し年額二百數十萬圓に達す。その他鱒・鮭の特産あり。酒田街道は海岸沿ひに西南より東北に通ず。省線羽越本線羽後平澤驛(大正十一年設置)あり。この地は清和源氏、小笠原氏の族、由利氏の故郷にして、慶長年間、一旦最上領となりしが、元和九年最上家斷絶となりしにより、由利十二黨(仁賀保・矢島・赤尾津・子吉・芥田・打越・石澤・巖屋・湯保・結川・下村・玉前の十二家)の一なる仁賀保兵衛、本領を回復し、寛永三年、兵庫頭はその庶子内膳に二千石、内記に千石を分地して末家となし、平澤に陣屋を置き治せしむ。是より本家末家共に徳川旗下に列し江戸に定住し、寛永九年本家の藏人良俊死して嗣なく、家斷絶し、末家のみ連綿と明治に至る。明治戊辰の時は仁賀保氏はその舊邑平澤・三森・院内・小國を保ち秋田藩に頼り、存立を謀る。幕末の勤王家、仁賀保兵衛(附正五位)はこの族なり。明治三十年町制を布く。當町と院内村に跨りて院内石油山あり、また當町と院内村西目村に跨りて旭院内石油山あり、昭和十年には前者は原油五五、三八二坪、

部に發して東北に流る。全村概ね山地をなすも東北部稍平坦なり。米・繭・木炭を産す。重要嶺山たる大森嶺山の嶺區は當村と大森村・鳥川村とに跨る。同嶺山は昭和十年に金一〇、七九一瓦、銀三九、五〇二瓦を産す。東北方福島市へハスの便あり。この地は古の驛路にして、東鑑に文治五年、佐藤庄司が鎌倉の大軍を拒める所なりといふ。(陽林寺)大字小倉にあり。曹洞宗。位作山。遠江國周智郡園田村雲林寺末。永正年中伊達種宗の開基に係り盛南齊和を開山となす。境内に種宗及びその子實元の墓あり。

【平田村】 静岡縣遠江國小笠原郡の南部。掛川町の東南約一〇軒。菊川中流の右岸に位す。東北部に丘陵性臺地ある外は全村地低平にして耕地ひろく拓く。主生業は農にして米の産最も多く、繭・茶の産また見るべきものあり。縣道東方より來り村の中部を北走して西北方掛川町に通じ、ハスの便あり。掛川町には省線東海道本線掛川驛あり。(春日神社)大字上平川に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命・齋主命・天兒屋根命・比賣大神。一説に延喜式内城御郡奈良神社を本社に充つ。例祭、十月十五日。

【平田村】 滋賀縣近江國蒲生郡の中部西北偏。神崎郡八日市町の西南約三軒。雪

後者は原油一四、三七五坪を産す。何れも、重要嶺山に屬す。(琴ヶ浦海水浴場)平澤町東北郊外に琴ヶ浦部落あり、その前面に見らる、海岸一帯は砂灘遠く続き廣潤、遙に男鹿半島雲風山眞山等の連山を望み、また雲峰島海山東南に聳立す。海底は淺淺にして眞に初心者の游泳にも適當す。省線平澤驛より數町の近距離にあり。汽車を利用してこの地に來る者多きは之による處大なり。夏季本莊町遠くは秋田市より來る者多く爲に驛其他に於いて雜閑を極む。由來本莊町中心の海水浴場として適當の地なし。然るに琴ヶ浦海岸は種々の點より之に好適す。これ海水浴場として賑ふ理なり。平澤町にて海岸に脱衣場其他を設け、海中に跳込臺・浮橋等を設け、浴者の便に供す。

【平澤嶺山】 山形縣にある亞炭山。嶺區は最上郡舟形村と北村山郡福原村とに跨り二四萬餘坪、準重要嶺山なり。昭和十年には亞炭三、七六八種(價額約一萬三千元)を産す。同年六月末の嶺夫數は二一名。

【平澤】 省線魚沼線の驛。明治四十四年設置。新潟縣北魚沼郡城川村にあり。

ヒラシ 枚石

【平澤嶺山】 山形縣にある亞炭山。嶺區は最上郡舟形村と北村山郡福原村とに跨り二四萬餘坪、準重要嶺山なり。昭和十年には亞炭三、七六八種(價額約一萬三千元)を産す。同年六月末の嶺夫數は二一名。

ヒラシナ 平等村

【平澤嶺山】 山形縣にある亞炭山。嶺區は最上郡舟形村と北村山郡福原村とに跨り二四萬餘坪、準重要嶺山なり。昭和十年には亞炭三、七六八種(價額約一萬三千元)を産す。同年六月末の嶺夫數は二一名。

西北は西山梨郡に接す。西北境に棚山ありて東南に傾斜し、西北の大部は山地を成すも、東南部は笛吹川に沿ひ、笛吹川扇状地の一部を占めて低平にして肥沃なり。養蠶業頗る盛んにして繭・桑葉を多産し、また米・麥を出す。縣道及び省線中央本線より並行して村の東南部を東北より西南に走り、城内に驛を置かざるも後者の日下部驛(加納岩村内)へ約二軒、また甲府市及び日下部町にバス通す。この地は和名抄、山梨郡山梨郷の内なるべし。大字岩下の地は、足利幕府の時、國主武田家資頼に當り、跡部氏この邑に據り、守護代職をなして、權勢大いに振ふといふ。

【平田町】 鳥根縣出雲國簸川郡の北部。斐伊川下流簸川平野の東北端に位して東西に細長く、東部僅に穴道湖に臨む。謂ゆる十六島斷層の間に位し北方に山嶺を背負ふも、城内は西北隅の山嶺を除く外は地形極めて平坦なり。北部には小河東流し、南方には斐伊川分流を造りて穴道湖に注ぐ。簸川平野は有数の農業地にて、平田町は其中心をなす。このあたりに肥沃なるも低濕なる爲裏作には特有の高畦耕作を行ふ。稻の收穫後耕土をば簾の高さに積上げし謂ゆる高畦は初春甘露の白花に飾られ平野は美觀を呈す。産物は一般には米・繭を産しまた鶏卵・水産・畜産あり。工業亦盛にて清酒・醬油の産多く雜語も出ず。特に生絲・羽二重・乾魚は著し。俗に平田名物見せたいものは、出雲羽二重兩全生糸、八雲味淋に滋養の饅頭、外になしぞへ生蠶糖といふ。人口密度一三九七人を算し、郡平均二五二人に比し著しく多く、今市町の七八九二人に次ぎ第二位を占む。市街地は西部に發達し、縣道走り省線山陰本線直江驛及び今市町へバスを通す。社線一畑電鐵は南部を東西に通過して雲州平田驛(大正三年設置)あり。穴道湖岸には昔ながらの湖上小型汽船もあり。(宇美神社)縣社。祭神、布都魂命。應永年間長廻家元祖氏神に紀伊國熊野神社の分靈を勧請し氏神となせしに創る。例祭、十一月二日。

【平田村】 高知縣土佐國幡多郡の西南部。

【平田町】 鳥根縣出雲國簸川郡の北部。斐伊川下流簸川平野の東北端に位して東西に細長く、東部僅に穴道湖に臨む。謂ゆる十六島斷層の間に位し北方に山嶺を背負ふも、城内は西北隅の山嶺を除く外は地形極めて平坦なり。北部には小河東流し、南方には斐伊川分流を造りて穴道湖に注ぐ。簸川平野は有数の農業地にて、平田町は其中心をなす。このあたりに肥沃なるも低濕なる爲裏作には特有の高畦耕作を行ふ。稻の收穫後耕土をば簾の高さに積上げし謂ゆる高畦は初春甘露の白花に飾られ平野は美觀を呈す。産物は一般には米・繭を産しまた鶏卵・水産・畜産あり。工業亦盛にて清酒・醬油の産多く雜語も出ず。特に生絲・羽二重・乾魚は著し。俗に平田名物見せたいものは、出雲羽二重兩全生糸、八雲味淋に滋養の饅頭、外になしぞへ生蠶糖といふ。人口密度一三九七人を算し、郡平均二五二人に比し著しく多く、今市町の七八九二人に次ぎ第二位を占む。市街地は西部に發達し、縣道走り省線山陰本線直江驛及び今市町へバスを通す。社線一畑電鐵は南部を東西に通過して雲州平田驛(大正三年設置)あり。穴道湖岸には昔ながらの湖上小型汽船もあり。(宇美神社)縣社。祭神、布都魂命。應永年間長廻家元祖氏神に紀伊國熊野神社の分靈を勧請し氏神となせしに創る。例祭、十一月二日。

ヒラタ 平田

【平田村】 福島縣岩代國信夫郡の中部。福島市の西南約五軒。安達太郎山の東北麓に位し、西境は海拔約五〇〇米にして東北方に傾斜し、阿武隈川の一支流中央

ヒラタ

【平田村】 福島縣岩代國信夫郡の中部。福島市の西南約五軒。安達太郎山の東北麓に位し、西境は海拔約五〇〇米にして東北方に傾斜し、阿武隈川の一支流中央

ヒラシ

【平田村】 滋賀縣近江國蒲生郡の中部西北偏。神崎郡八日市町の西南約三軒。雪

高支那沙流郡の中部。沙流川流域地方を占め、西は山地を以て膽振國に界し、南は門別村を隔てて太平洋に臨み、北は右左府村に界す。面積七七・七五平方町。村内日高山脈西斜面に属し概ね山地にして、北部にはハッタオマナイ岳(一〇二米)・岩内岳(九〇四米)等聳ゆるも南方に傾斜せり。沙流川諸川を集めて村心を南流す。流域低地廣大にして耕地拓く。四周の山地は森林繁茂し林産豊富なり。馬鈴薯・大豆・蕎麥・馬等の産多し。アイヌ族の古都にして、ま尙な中心部落をなせり。社線沙流鐵道川沿ひに北走し紫雲古津・荷葉・平取の各驛あり。此地は齊明天皇五年、阿部比羅夫蝦夷を征し、進んで内入能に至り、後方羊蹄に郡領を置くといへるもの即ち是ならんかといふ。村内には八田鐵山あり、近年活動を開始せるもの。昭和十年には格魯鐵礦五、一五〇(價額十五萬餘圓)を出だし、また同年六月末の使役鐵夫は五八八とす。大正の初期、村内の大字幌去字ニセウに格魯鐵礦發見せられ、同八年日東鐵山の名を以て開坑せしを始めて爾來多くの鐵礦設定せらる。此邊の地は蛇紋岩廣く發達し格魯鐵礦は其中に塊狀、粒狀或は粉鐵をなして存在す。現在の主要なる鐵山左の如し(下表は昭和十年現在にして、産物は全部格魯鐵礦とす。重は重要鐵山、準は準重要鐵山)なほ左に掲げたるもの以外に矢張り格魯鐵礦の貫別鐵山

(平取村)・岩内鐵山(平取村・右左府村)など存す。

Table with 2 columns: 鐵山名, 鐵區坪數, 年産額, 備考. Lists iron mountains like 新日本, 日東, 八田, etc.

ヒラネ 平根村 長野縣信濃國北佐久郡の中津部。岩村田町の東に隣接す。八風山肢の末端、富士山(一五五六米)は東部に聳え、北方に淺間山を望む。千曲川の一支湯川は北部より西部を貫流し、西南部には低地ありて佐久平の北縁をなす。米・蕎麥を産す。街道は低地を南北に通じ岩村田町に出づれば交通便となす。

十一年岡谷市に編入さる。
【平野】 平安京の頃、洛北七野の一。紙屋川の西にして、大將軍の北に位す。官幣大社平野神社鎮座す。平野はこの附近なり。
【平野】 關西本線の一驛(明治二十二年設置)にして片町線の接続點。大阪市住吉區平野元町にあり。
【平野村】 兵庫縣播磨國明石郡の中部。明石川に跨り、明石市の北方約三町。東西兩部に東北より西南に連れる丘陵地にして、中央には明石川同じく東北より西南に貫流し、沿岸に廣潤なる低地開く。米・小麥・粟・大豆・蕎麥・花苳・葉煙草・食用農産・果實等の農産の外に醬油・製菓用品及び水産養殖・林産物等あり。明石川に沿ひて縣道走り、之より分れて北方へ向ふ縣道もありてバスの便よし。此地、中世は平野莊と呼ばしといふ。
【平野】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に美濃郡平野郷あり、比良乃と訓す。その地今の美濃郡久留美村の邊か。
【平野村】 奈良縣大和國磯城郡の西部。田原本町の西南に接し、曾我川東岸に沿ひ對岸は北葛城郡なり。南は高市郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて曾我川北流し、中部には飛鳥川北方へ貫流

る。この地は和名抄、佐久郡大井郷の内にして、いま横根村・上平尾村・下平尾村の舊三箇村を合併して本村をなす。村内に山古城・里古城・延壽城等あり。【諏訪社】 大字横根に鎮座。郷社。祭神、御穂須々美命。日碑に、創建を後鳥羽天皇の文治元年なりといひ、のち建久年中、守護職小笠原長清の一子横根法眼再建すと傳ふ。
ヒラノ 平野
【平野村】 山形縣羽前國西置賜郡の東部。長井町の西に隣り、北方は西村山郡に接す。地形は西北より東南に長く弧狀をなし、西境には、北方より平岩山(一六〇九米)・大玉山(一四三八米)・観瓶山(一四一七米)・柴倉山(一二六三米)・三體山(一二五六米)ありて東方に傾斜す。野川は西北境に發源し村の東境をなして南流し、流路を變じて東北に流る。村の西部は高峻なる山地をなすも、東部は長井盆地に屬して平坦なり。米・蕎麥・蕪炭を産す。道路は村の東南部を斜斷し、東方長井線長井驛、東南方同線時庭驛へは各三軒あり。
【平野村】 福島縣岩代國信夫郡の北部。飯坂町の西南に隣る。西北部には低き山地ありて東南に傾斜し、東南部は福島盆地に屬して平坦なり。小川は北境を東流し摺上川に合す。米・蕎麥・果實を産す。道路は村の中部を南北に通じ、北方飯坂町、南方福島市へはバスの便あり。(警

王寺) 大字平野にあり。新義真言宗豐山派。天長年中、弘法大師の開創に係り自刻の薬師如来を安置すといふ。佐藤氏の菩提所に於て、境内藥師堂後方に佐藤基治夫妻及び同繼信・忠信の墓と傳ふるものあり。
【平野村】 埼玉縣武蔵國南埼玉郡の西北部。蓮田町の北隣にて元荒川の東岸。西は川を隔てて北足立郡の一部と隣す。全村平地にて農業行はれ、米・蕎麥を産す。縣道は蓮田町及び東北方久喜町、北方菖蒲町等に通じ、蓮田町に省線東北本線蓮田驛、久喜町に同線久喜驛ありて、久喜驛へはバスを通ず。
【平野村】 長野縣信濃國下高井郡の西南部。中野町の西に隣接す。面積五・九四方町にして本郡最小の村。西部に丘陵ある外は土地低平、僅に東南に緩傾斜する扇狀地にて善光寺平に續く。東北部に桑園開け、その他耕地よく開け米・蕎麥を産し、また林産を栽培す。縣道は中野町に至るものに二條ありてバスを通じ、また社線長野電鐵は東北部を掠め信州中野驛(中野町)に近く交通便なり。この地は東鐵、文治二年、左馬寮領の牧の中に、高井野牧・吉田牧・笠原牧とある吉田牧はこの地なるべく、また一に中野牧とも稱せられ、東鐵・承久元年の條には信濃國住人、中能太郎助能とあるも、此の中野牧に在名を稱せしものなるべし。
【平野】 長野縣諏訪郡にありし村。昭和

す。米・蕎麥の産多く、蕪炭の特産あり。社線大阪電氣鐵道線東部を掠めて走る。村名はこの地藩政の頃、田原本藩主平野氏の所領たりしに因む。大字飯高に小子部連の祖、神八井耳命を祀る子部神社・飯高堂(瑞花院)などあり。(鏡作伊多神社) 村社。祭神、石許利止賣命。式内社。例祭、九月二十一日。(瑞花院) 大字飯高にあり。淨土宗。一に飯高堂。嘉吉三年在原鬼若丸の建立と傳へ、泰樂寺と並稱せらるる古刹。本堂は國寶。
【平野】 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に都濃郡平野郷あり。その地、いまの都濃郡福川町・夜市村・湯野村の邊に當る。延喜式に平野驛馬廿疋とあり、和名抄に都濃郡驛家二所あり、その地今の福川町の平野宿なり。
【平野村】 愛媛縣伊豫國喜多郡の西南部。八幡濱市の東北に接し、東北部は大洲町に界す。全村山岳地をなし、西北境には鞍掛山をびや。低地は東北隅に僅に開けて大洲町の低地につづく。純農村にして米・蕎麥を主とし、一部養蠶其他の副業に従事す。縣道中央を横斷し八幡濱市及び大洲町へバスを通ず。また豫讃本線の伊豫平野驛(昭和十一年設置)を置く。もと平地・野田の二村なりしが合併して平野村と名づく。宇和郡に屬せしが明治三十二年本郡に編入して今日に至る。
ヒラノ 日良野鐵山 西山村(山形縣西村山郡)

ヒラノイワサワ 平野岩澤鐵山 山形縣 岩手縣和賀郡村大字山日子 岩澤にある石青山。昭和十年には一、一五〇畝を出す。本鐵山に近接し矢張り石青山にて岩澤鐵山あり、昭和十年には四、〇八八畝を産す。
ヒラノゴ 平野郷 大阪府 東成郡にありし町。大正十四年大阪市住吉區に編入す。
ヒラノマチ 平野町 大阪の町名。現今の東區平野町、一丁目より五丁目に至る。東横堀川に架する平野橋より西に通じ、北に道修町、南に淡路町と各隣接す。卯月の潤色・上・私も若いに鐵漿つけて、逃れし賽の河原町、三途の瀬戸の淡路町、越ゆれば親の古里の、名にも別るる平野町、囀近き時太鼓、どう道修町これやこの、修羅の太鼓の響かとも、共に驚く袖と袖、關取千兩額・ハ・生れかばりて又爰へ、親の便りを備後町、永き未來を瓦町、かく成り果つる我々は、いつの因果を身にうけて、共に憂き目に淡路町、悔むは愚痴と平野町、とは思へども棄つる身を、咎めてはゆる犬の聲、道修町筋過ぎ行けば、はや眞夜中の月代の、空恐ろしく行き悩む、しばしば爰に伏見町」
ヒラハタ 平幡 愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年本村及び穂原村を廢し新に八幡村を置く。
ヒラバタ 平端 奈良縣生駒郡にあ

りし村。昭和十年本多村と合併して昭和村を建つ。
ヒラバヤシ 平林 長野縣 新潟縣越後國岩船郡の西南部。岩船町の南に隣り、荒川河口の右岸に位し、西は日本海に面す。村形は西北より東南に狭長なり。東境には朴坂山(四三八米)ありて其の山肢西方に走りて東部に要害山(二八一米)を起し、東半は概ね山地を成す。西部沿岸には岩船町に連なる砂丘發達し、其の間に肥沃なる低地開く。純農村にして米産多く、東部山地にありては桑園よく拓けて養蠶業行はる。省線羽越本線中部低地を南北に走り城内に驛を置かざるも坂町驛・岩船町驛に近く交通便なり。この地は色部氏の舊邑なりしといひ、北越軍記に、平林内藏助なる人あり、色部一族なるべし。
【平林村】 山梨縣甲斐國中丘郡の西南隅。東南は南丘郡増穂・穂積・五開の諸村に、西南は同西山村に隣接す。西部には丸山(一九一〇米)聳立し、一般に高山地帯にして高原狀をなす。耕地は水利の便なる所に發達し米・蕎麥の外に木材・木炭を出す。街道は中部を貫通するも險路をなし、交通便ならず。村内に養丹瀧(高三〇米、幅四米)・狗留瀧(高二七米、幅四米)あり。(平林の大杉及び大樞) 高尾山米室神社境内に大杉あり、樹幹周囲目通り八米、根廻り一〇米餘、多數の他の杉とともに密林をなす。大樞は

ヒラハ——ヒラヤ

大字久保平にあり、樹幹周囲目通り八本、根廻り一〇米弱なり。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

【平林】 奉東線の一驛(大正七年設置)。

ヒラヤ——ヒルカ

両部は五〇〇米以下の廣き山地をなし、佐用川中部を貫流して南下し南方約一〇軒にて千種川に合す。沿岸に稍々低地あり。米・蕎麥・裸麥・小麦・食用農産・蔬菜・花卉・蕪蕎麥・製茶等の農産物を主とし、外に鶏卵・醤油・木製品・双物・製製品等を産す。縣道西部を通過し棄落これに沿って街村型市街地をなして發達し、佐用町へバスの便あり。この地に佐用城址あり、佐用範家の築くところにして天正の頃なほ存せり。町はその城下町として發達す。昭和三年町制を布く。

【ヒラホコ】 比羅保許・平戈 出羽國の古地名。續紀天平九年紀に比羅保許山見え蝦夷の駐屯地たり。天平寶字三年驛を置かれたる平戈(後廢せし)を以て延喜式には其の名見えすの附近の山なるべし。いま羽前國(山形縣)最上郡金山町にある有屋峠を稱せしものなるべし。

【ヒラマ】 平間 神奈川縣川崎市の東部の古名。平間氏此地に住み、川崎大師として有名なる平間寺は此地に在り。婦美東繁施子「深川州州崎まで波にうつろふ沖津浪、西は羽田平間まで見へ渡りたる浦」に引つりする蓋のいさり火は、星辰おちて浪に入かとうたかばれ。

【ヒラマキ】 平牧村 岐阜縣美濃國可兒郡の中部。御嵩町の西南約七軒、今渡町の東南方約五軒とす。東南境を淺間山(三七四米)の連嶺走り、その山肢東西兩

境を西北走し、その樹合谷を小川西北流す。村内概ね山地を成すも中部及び西北部には低地ありて耕地拓く。主生業は農にして米・蕎麥等を産す。交通は省線太多線姫驛(西隣姫治村地内)に近く便なり。この地はもと平牧庄と稱せし地にして、大字羽崎は七岐系圖に頼忠の弟、參河守惡五郎康貞の三男を羽崎光直と稱すと、之に在名を稱せしものか。

【ヒラマキ】 平真城村 熊本縣肥後國菊池郡の東部。阿蘇火山西斜面に位し大津町の北に接し東は阿蘇郡に界す。稍東西に長く東部は北方へ廣がる。東境より僅か東に阿蘇外輪山南北に連りて登え全村その斜面に於て東北部に矢護山屹ち矢護川に發して西流す。西半は次第に傾斜緩く殆ど臺地狀をなす。米・蕎麥等の農産もあれど草原地廣く牧畜行はる。省線豊肥線肥後大津驛(西南約二軒)・瀬田驛(南方約二軒)・立野驛(東南約三軒)へ近し。もと平川・眞城・古城の三村なりしが、これを合併し各々その一字を取りて平真城村と名づく。

【ヒラマル】 平丸村 新潟縣越後國中頸城郡の東南部。新井町の東南約一〇軒、東は長野縣に境す。東北境には佛ヶ峯聳え、その連嶺東境を劃して南走す。その山肢北・南兩境を走り、南境に風野山(八七五米)・高床山(五九二米)を起す。その樹合を東部山地に發源せる荒川の支流西流し、そこに棄落と耕地發達す。地形

生駒郡にして、西北部は郡山町に接す。全村地形平坦にして西境に沿って佐保川南流し、南境には其の支流始と直線狀に西流して西南境にて略々直角に佐保川に合す。田畑よく拓げ純農村にて米・蕎麥・蕎の産多し。東部には奈良市より南走する道路あり。西方約一〇五軒に省線關西線郡山驛あり。大字三橋はいま上下三橋に分る。續紀和銅七年の條に新羅の使節を三橋に迎ふとあるは此地なりといふ。

【ヒラン】 社 臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。老濃溪の左岸、美壩山の西南方山腹、海拔一千米内外の地に位し、アマソ族の施武群蕃に屬する高砂族の部落。大正十年に現在の社を形成せり。

【ヒリ】 美里莊 ↓關西庄(臺北州新竹郡) 臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。老濃溪の左岸、美壩山の西南方山腹、海拔一千米内外の地に位し、アマソ族の施武群蕃に屬する高砂族の部落。大正十年に現在の社を形成せり。

【ヒリカ】 美利河 北海道後志國洞爺郡利別村の大字。瀧川線の美利河驛(昭和四年設置)あり。

【ヒリユ】 飛龍山 大洞山(埼玉・山梨縣境)

【ヒル】 蛭ヶ岳 關東山脈丹澤山塊の最高峰。北側は神奈川県津久井郡島屋村・青根村に、南側は足柄上郡三保村に屬す。標高一六七三米。南麓に主峰丹澤山(一五六七米)および塔ヶ岳(四九二米)連る。↓丹澤山

【ヒル】 蒜山 白山火山脈の一峰なり。伯耆大山(一七三三米)の南方に位し、北面は鳥取縣東伯耆郡山守村に、南面は岡山

上、産業の見るべきものなく米・蕎麥を出す。新井町へバス通じて信越本線に連絡し得るの外、交通の便なし。

【ヒラヤ】 平谷村 長野縣信濃國下伊那郡の西南部。浪合村の南に隣り、西は岐阜縣惠那郡上村に接す。一三〇〇米以上の山地重疊し、これ等山地より發する諸水は集りて上村川となりて西流し岐阜縣に出づ。山地深く耕地は上村川沿岸に僅に發達し、米・蕎麥を産し外に木材・木炭を出す。縣道三州街道は中部を南北に通じ交通比較的便なり。昭和九年、浪合村を廢し、その大字波合の區域に浪合村を置き、大字平谷の區域を以て本村を置く。

【ヒラヤ】 平屋村 京都府丹波國北桑田郡の中部。西南は宮島村に接す。四周を六百乃至七百米の山地に圍繞せられ、中部を東北より西南に高屋川の一支大野川貫流し、沿岸には僅に低地ありて耕地開く。米・蕎麥を産しまた富村と宮島村とに跨りて準重要鐵道たる彦谷鐵道あり。極く近年事業を開始したるもの、昭和十年には満鐵五二八號を出す。縣道は大野川に沿って通じ、中部にて東南、深見峠越えの縣道を分ちバスを通す。一方軒人口密度は僅に五人(昭和十年國勢調査による)なるも、人口は漸増の傾向にあり。

【ヒラヤマ】 平山 千葉縣君津郡松丘村の大字。久留里線の平山驛(昭和十一年設置)あり。

【平山】 福岡縣嘉穂郡にある丘陵。此處は筑豊炭田の地域にて重要鐵道なる平山炭礦あり。鐵道は桂川村と磯井村とに跨り一三九萬餘坪、地質は第三紀層にして頁岩・礫岩・砂岩・砂質頁岩が累層をなし、炭層は此間に介在し、何れも鐵礦の北々西部より南々東部に互りて蜿蜒露頭す。炭質は不銜合質深青炭にして昭和十年には塊炭六六、四七二噸、粉炭一五〇、二八九噸、切込炭四、七四〇噸、粗炭二四、一八四噸(この總價額二〇一萬餘圓)を産す。なほ同年六月末の鐵夫数は一、一二人なり。當炭礦の發見は日碑によりれば寶曆年間なりといふ。いま知り得る限りにては明治十八年の開發にて現在は平山鐵業會社の經營に屬す。

【平湯】 ↓上寶村(岐阜縣古川郡) 【平湯村】 日本北アルプス、乗鞍岳(三〇二六米)の北麓に最高點(一六八四米)を置く峠。この附近は西流する小八賀川と北流する高原川の分水嶺をなし、小八賀川に沿って降れば岐阜縣大野郡丹生川村字旗鉾に達し、高原川に沿って降れば古川郡上寶村なる平湯(温泉)に至る。

【平良町】 神龜縣琉球國宮古郡の町。宮古島の西北部にて南は城邊村・下地村に接し、面積七二平方餘。地は石斧狀にして、北に平良半島突出して西平安名岬に盡き、約二軒北の屬島池間島を望み、西岸には張水港及び大浦灣を

擁す。城内概ね武平にて最高一〇〇米内外に過ぎず、第三紀層上に隆起珊瑚礁被覆し、海岸には珊瑚の發達を見る。從つて灌溉用水は勿論、飲料水を得るにも困難にて、耕地またその制約を受く。産物は甘藷・甘藷及び砂糖を主とし、米・蕎麥・大豆等もある多額ならず。道路は平良を中心として縣道は北方狩俣、東方城邊に通じ、其他、與那覇・宮國等に至るに便にして、また同地より那覇・八重山に定期航路ひらく。市街は張水港に臨みて發達し、郡内第一の繁華地にして、宮古支廳をはじめ、區裁判所・刑務所支所・稅務署・縣種畜場分場・郡マラーヤ防衛所等の官公署及び縣立中學校等あり。人口は昭和十年二六、一三二人にて一方軒三六一人の密度を示す。(詳雲寺)大字西里にあり。臨濟宗妙心寺派。龍寶山。慶長年間、薩摩島津家の檢察使の地に於りし時、寺廟を經營せしに始る。舊琉球國の前願所にして寺領十石を有せり。

【ヒララウ】 社 臺灣臺東廳大武壠にある蕃社。太麻里溪の上流、蕃稱チヤバガス溪合流點の東北二軒弱の地點、標高約七六〇米に位す。約百年前、四戸、一五人を以つて高雄州潮州郡バタエン社より移住し來り、現在の社を形成す。パイヤン族の大麻里蕃に屬する高砂族の部落にして、人口約二百。

【ヒラワ】 平和村 奈良縣大和國添上郡の西部。佐保川の東岸に沿ひ、對岸は

四九四

縣直庭郡用上村に屬す。上蒜山(一一九九米)・中蒜山(一一二二米)・下蒜山(一〇〇米)等、西より東に並峙し、東方は大挾峠最高點に連る。山は南北に樹野を曳き、特に南側斜面は美し、蒜山野と呼ぶ。この野は約八軒に及び、冬季十二月より三月初旬まで一米程の積雪ありてスキー地となる。熱線のスキーヤーはこの山より大山方面に向けスキーヤーを試む。

【ヒルウ】 貴生村 三重縣伊勢國鈴鹿郡の南部。本郡が河勢郡内へ南に突入する部分を占め北に龜山町に接す。北部及び南部は丘陵をなし中部を榮川東に貫き沿岸は廣き平野をなす。米・蕎麥の産多く、尙ほ工業・林産・畜産・鐵産・水産あり。龜山町と津市方面とを結ぶ縣道中央を貫き省線參宮線また此地を縱貫下庄驛(明治二十四年設置)あり。中世は貴生莊と云ひ中原親能その預所たり。(石神社)大字三ツ寺字薬師にあり。村社。祭神、須佐之男尊・天兒屋根命・大宮比賣命・大山咋命・瀬織津比賣命外四柱。延喜の制小社に列す。例祭、十月五日。

【ヒルカワ】 蛭川村 岐阜縣美濃國惠那郡の西部。木曾川の右岸、平流川との合流點を占め、北は遠ヶ根峠により加茂郡に、南端は木曾川を境に大井町に接す。西境の笠置山(二二八米)を初め西・北・東へかけて山崩風に圍まれ、南

四九五

のみ開けて木曾川西流す。平流川は北部に發源し略々中央を南流し此の谷に聚落散在す。主生業は農畜・林業にて生糸・繭・薪炭・木材・米・麥等を出だし、松茸・寒天・花崗岩等の特産物もあり。大井町より縣道來り、中央本線大井驛へ約一〇軒バスの便あり。木曾川を利用せる大井發電所(出力四二九〇〇キロワット)あり。村内に石器時代の遺物及び古墳あり、古代に先住民の居住せしを知るべし。建武二年和田政忠、平良親王に仕へて同志と此地に來り官方の再起を圖りしが武運拙く親王戰歿し給ひ、遺臣親王の御守として此地に永住せりと。(蛭川村ひとつばた「自生地」)指定天然記念物。字長瀬にあり。平坦なる湿地にして水流あり。この邊一帯の地は高さ四五間以下の雑木林にして、クリ・コナラ・トネリコ・ヤマウルシ・カヤ・クスギ・ハンノキ・サクラ・アカマツ・エンジュ・トサミヅキ・アセビサハケタゲ等の林中に散在し其數六本あり。(「紅岩」)宇岩山にあり。木曾川畔に突兀たる花崗岩より成り風化分解のため恰も砂山の如し。山腹より頂上に至る間は丸味を帯びたる大小種種の岩塊重疊し、殊に頂上近くは一大岩塊をなし上るを得ず。推するに高さ約二七米餘、幅約二〇米あり、向つて右上に一種の地衣附着す。其色紅褐色の稍々黄味を帯びたるより紅岩の稱あり。目下取調べ中に屬しその種類明かならずと雖も

四軒を隔つる大井町・茄子川附近よりも明かに之を見るを得。古くより中仙道往還の旅客の眼に入りその名四近に聞ゆ。その直下は直ちに蕙那峽なり。**ヒルタ** 蛭田 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に數智郡蛭田郷あり、比留多と訓す。その地名詳ならずも濱名郡新津村の邊か。**ヒルハマ** 蛭濱 福岡縣早良郡にありし町。昭和八年福岡市へ編入す。**ヒルマ** 晝間町 徳島縣阿波國三好郡の北部。讃岐山脈の南斜面に位して香川縣多度郡に接し、南は吉野川北岸に沿ひ、西南方約三軒に池田町あり。北境には八〇〇餘米の高度を有する讃岐山脈東西に連なりて村境を劃し、南方へ稍々急斜して嶺が山麓は斷層をなす。南境には吉野川東流して沿岸に平野開く。全戸數の八割五分は農業を營み米・麥等の外、附近葉煙草の産地として名高し。副業として養蠶業行はる。南部に撫養街道東西に走り途中より北方香川縣琴平町へ至る縣道あり。西南部には省線土讃本線通過し築城は西方約〇・五軒にあり。省線徳島本線辻驛は南方約一軒にあり。大正十四年町制を布く。(「天橋立神社」)大字莪間に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命。創建年次詳ならずれど式内小社たり。例祭十月十七日。

ヒルワ 美留和 鋼網線の一驛。昭和五年設置。北海道釧路國川上郡弟子屈

村にあり。**ヒレフル** 領巾坂山 ↓鏡村(佐賀縣)

【廣村】 和歌山縣紀伊國有田郡の西部。湯淺町の南に接して湯淺港に臨み、面積一・四二方軒の小村。全村地形低平にして、東境に沿ひて廣川西北流して海に注ぐ。米・繭等の農産物の外、畜産・水産・林産もあれど綿絲紡績を主とする工業類著し。その他、有田郡井關村の利兵衛なる者の文政十年より焼出したる支那風陶器、男山焼を産す。海岸に沿うて道路走り繁盛これに並び、東部には南方西牟婁郡田邊町に至る縣道あり。省線紀勢西線此地を通過し東北境を出づる僅にて紀伊湯淺驛に至る。もと廣浦と稱し、安政元年十一月、大地震に襲はれ全土殆ど破壊せられたしが、邑人濱口梧陵及び同古右衛門等、官と謀りて堤防を築き道路を改修して復興の基をなせりといふ。梧陵は明治後諸公職に就き功あり、明治二十年末國に客死。年六十六、從五位を贈らる。吉右衛門はのち千葉の鏡子に移り、山サ製油醸造元となれり。

【廣村】 兵庫縣播磨國飾磨郡の西南隅。姫路市の西に接して播磨灘に臨み、西は東部に夢前川南流して海に入る。田畑よく拓けて米・蔬菜・花卉・小麦・食用農産・裸麥・果實等の農産を主とし、外に鶏卵及び酢・醬油・木製品・薬製品・蠶・竹製品等の工業品を出し、また沿岸漁獲物あり。縣道中央を東西に横斷しバスの便よく省線山陽線北境近くを走る。もと高濱村と云ひしが、明治二十九年廣村と改稱す。

ヒロカ 廣岡

【廣岡】 武藏國(東京府)の古地名。和名門等、官と謀りて堤防を築き道路を改修して復興の基をなせりといふ。梧陵は明治後諸公職に就き功あり、明治二十年末國に客死。年六十六、從五位を贈らる。吉右衛門はのち千葉の鏡子に移り、山サ製油醸造元となれり。

【廣村】 廣島縣安藝國賀茂郡の西南部。吳市の東に隣り、東部に仁方町を圍み、廣大川の河口を占めて瀬戸内海に臨む。東西兩境には山脈連り東境に膳棚峯。東南部には丘陵蟠踞し、南岸にチョーセンノ鼻・アラメノ鼻ありて長濱港・小坪港を抱く。中央には東北方より來りて南下する廣大川あり。流域に低地を造るも西南部河口には平野廣がりて廣潤なる新開地をつくり廣東大川・廣西大川分注す。主産物は農業類・石灰・米等にて、大正七年海軍工廠を置かれ、次で十四年海軍航空隊設置されて以來、村勢頗る活氣を呈し漸次發展しつつあり、横断村として名高し。主生業は農業にて、外に海軍工廠従業員多し。甘藍・石灰を特産とす。縣道は河川に沿ひ南走し廣東大川河口近く新開市街地を過ぎ南岸の長濱市街地に至る。新聞よりは西方へ縣道走り吳市域に入り、阿賀町市街地を経て山嶺を越え吳市市街地に出づ。この道を東に至れば仁方町街地に至す。南部に吳市より長濱に至る社線藝南電氣軌道線(吳市内電車)あり。附近町村と共に要害地帯の一部なり。もとば干潟なりしが元祿十一年の嶺

より開拓せしものといふ。(「二級の瀧」)廣の大瀧と稱へ、縣下第一の大瀧にして上下二級をなし、一は高さ一〇〇米餘、大瀧または雄瀧といひ、傍らに小瀧、一名雄瀧あり。今ここに廣島水力電氣會社の發電所あり。

【廣島】 ↓廣島村(香川縣多度郡)

【ヒロ】 蒲葵島 奥内村(高知縣幡多郡)

【ヒロ】 枇杷島 志布志町(鹿兒島縣鹿兒郡)

【ヒロイシ】 廣石村 兵庫縣淡路國津名郡の西南部。都志町の東南に接し、南は三原郡に圍まれ、西方は約二軒余にて播磨灘に出づ。東部大半は山地の西斜面地をなし、西北部にも丘陵あり。西南部に稍々低地開けて小河西南流し約三軒西方にて五色瀧に注ぐ。米・裸麥・蔬菜・花卉・繭・果實・小麦・食用農産・大麥等の農産物の外に鶏卵・薬製品等の産出もあり。縣道西部を南北に走り西方五龜瀨へ出づる縣道もあり。

【ヒロオ】 廣尾

【廣尾郡】 北海道十勝國の南部。十勝支廳六郡の一。十勝國の南端を占め、西南は日高山脈、東南は太平洋海岸線に挟まれ、北は十勝・中川二郡に接する。頂點を南にせるほぼ正三角形の大郡なり。郡内北に大樹、南に廣尾の二村を含む。面積一四二六・二方軒。地勢は略々三別されるべし。西南部は日高山脈の十勝岳(一四

五七米・廣尾嶽(二二三〇米)等の高峰西北―東南に連なりて高峻を極め、人跡未踏の山林地帯をなし、徐々に東北海岸に傾斜す。中央部は二―三百米の海蝕臺地を以て占められ、西部山中に發したる紋別・豊似・野塚・廣尾川等東流して溪谷を穿てり。諸川海に注ぐ所に沖積平野を連れ平滑なる海岸展開す。海岸線は弓状をなし出入乏しき各河口に漁港あり。殊に近時廣尾港は築港工事施され、陸上廣尾線の開通と共に開港場・漁港として面目を一新せり。沃野廣大なれども人口之に伴はず、原野・放牧場大部を占め、農耕地未だ乏しけれど、最近の廣尾線、海岸地方道の開通により大に將來を期待すべし。現在は鮭・鱒・鯡・大豆・燕麥・蕎麥・馬・牛・製粉・木材等を主産物とせり。帶廣市より分岐せる省線廣尾線は郡内中央を通じ廣尾驛を終點とす。他に野塚・豊似・大樹・忠類・石坂の各驛あり。

【廣尾村】 北海道十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓狀海岸をなして太平洋に面し、北は大樹村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方軒。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連互し、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川瀝澗す。海岸線出入乏しき各河口の口に漁業繁榮あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

として

としての面目を一新せり。村内未だ人口乏しく原野山林の開発されざるもの多きも、近時省線廣尾線及び日高國に到る海岸地方道の敷設等に依て發展を來さんとせり。鮭・鱒・鯡の漁獲を筆頭に、大豆・馬鈴薯・燕麥・馬・牛・木材・製粉等を産す。帶廣より分岐せる廣尾線終點廣尾驛及び野塚・豊似驛(昭和七年設置)を置く。本村はもと茂寄村と稱せしが、大正十五年に廣尾村と改稱す。(「廣尾港」)本港は十勝開拓の發祥地にして漁業榮え、蟹鱒詰工場・製油工場等あり。昭和四年着手されし築港は近時完成す。海岸に立岩・二見岩・烏帽子岩・フンベの瀧等の勝景あり。燈臺は昭和二年の設置。不動白光、光遠距離一里。(「十勝神社」)大字廣尾に鎮座。縣社。祭神、大海津見神外四神。十勝最古の神社にて、寛政年間松前藩主鍋崎藏人の創建に係り北海道屈指の神社たり。社寶として、幕吏近藤重藏この地に入りし時、日勝海岸路の險にやみ、本村ルベツベツより日高國境のビタマクンに至る約三哩の道路を開墾せる記功碑を藏す。(「フンベの瀧」)本町の南約一〇軒音調津にあり。斷崖上より大小數條、二〇米に餘る銀河落下し、謂ゆる黄金道路途上の一風景をなす。(「日勝道路」)本町より日高國に通ずる海岸道路にして、本町と猿留間約二四軒の間をいふ。八年の歳月と六十餘萬圓の巨費と二十餘名の石柱によりて完成せし謂ゆる

抄に豊島郡廣岡郷あり、その地今の東京市板橋區練馬の邊か。

【廣岡】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に佐用郡廣岡郷あり、その地今津ならざるも三日月町・大廣村の邊か。

【廣岡】 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に勝田郡廣岡郷あり、その地今の勝田郡豊田村・豊並村の邊に當る。

ヒロオカカミノ 弘岡上ノ村

高知縣土佐國吾川郡の東南部。仁淀川河口近くの左岸に沿ひ、對岸は高岡郡高岡町なり。北部は低き丘陵の南方傾斜地をなし、南部は仁淀川河口附近の廣き平野の一部を占め、地形平坦にて西南境に沿ひて仁淀川東南流し約五軒先に土佐灣に入る。低地は田畑よく拓け米産多く、繭・大根・柑橘・麥等もあり、また工業・水産・畜産及び林産あり。縣道四通し山麓を東西に走る縣道は西北方伊野町へ通じ、また東部よりは之より分れて東北高知市へ至る街道ありバスを通ず。幕末の勤王家宮田節齋は此地の人にて、元治年間、清岡等と藩論改革を唱へ野根山に據り、のち捕へられて奈半利河原に斬らる、年二十五。

ヒロオカシモノ 弘岡下ノ村

高知縣土佐國吾川郡の東南部。高知市の西南方約三軒。北は土佐郡に接し南方約四軒にて土佐灣岸に出づ。北部に二五〇米以下の五領寺山脈連り、南半は肥沃なる平野拓け、米・繭・麥等の外に大

根・燕・梨・西瓜の産多し。道路よく発達し、南部に東西に走る縣道は東部にて二つに分れ、一は東南方浦戸村龍王岬に至り、一は東方浦戸村に出でて高知市に入る。いづれもバス通ふ。

ヒロオカナカノ 弘岡中ノ村

高知縣土佐國吾川郡の東南部。高知市の西南方約四軒。北は土佐郡に界す。北部には五領寺山脈連りて南方へ緩き傾斜をなし、南部は廣き沃野ひらけて新川西流し、約二・五軒西方にて東南流する。仁淀川に合す。米産多く繭・瓜類・果實等の産もよく、また工業・畜産・林産あり。道路よく発達し南方を東西に走る縣道は西北方伊野町、東方長濱町を結び、東部にて北走し東方高知市に至る縣道もあり、高知市及び西南方高岡郡須崎町方面へ殆ど間斷なくバスの便あり。弘岡城址あり、吉良森といふ。築城年次不詳。戦國時代、吉良氏此處に據り、長曾我部氏と戦ふ。永祿年間、宣直の本山海邊に殺さるるに及び廢城す。〔荒倉神社〕大字弘岡中ノに鎮座。郷社。祭神、天間龍大神。創建年次は詳ならずも、古より郷内の鎮護神にして、舊稱を荒倉三社大明神と稱す。例祭、八月四日・十月三十一日。

ヒロカタ 弘形村

愛媛縣伊豫國上浮穴郡の中部。仁淀川上流面河川と露峯川との合流點に位し、久万町の東南に接する山村なり。西南境には大川嶺(一五

二六米)嶺ヶ城(一三八〇米)等の峻嶺聳えて廣く東北方へ擴がりて傾斜す。北境にも八〇〇米程の山地あり。兩山麓(本村の北部)を久万町より来る露峯川東流し途中北方より来る支流を入れて東境に出づ。東北方石鏡山より流下し来る面河川は本村東境に沿ひて方向を轉じ東南流し、そこに露峯川を合す。沿岸低地乏し。農業を主とし産額上より之を見れば米・木材・繭・木炭等を主とし、農家經濟上より見る時は繭・三極を主とす。特産物には三極の外、茶・玉蜀黍及び野生山菜・紅鯉等もあり。面河川及び露峯川に沿ひて縣道通じ、久万町へバスの便あり。もと日ノ浦・黒岩・大川・有枝の四箇村に分れしが、之を合併し、日ノ浦のヒ、黒岩のロ、大川のカ、有枝のタを取り、ヒロカタとし、弘形村と名づく。

ヒロキ 弘紀

武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に那珂郡弘紀郷あり、その地の兒玉郡松久村の邊に當る。

ヒロコージ 廣小路

東京の地名。上野廣小路・兩國廣小路・淺草廣小路・中橋廣小路等あれど、單に廣小路と稱すれば上野廣小路をさす。いま下谷區上野公園入口前の廣き街道。江戸時代筋違橋(いま萬世橋)より東觀山寛永寺に至る大通を御成街道と稱し、三橋を經、黒門口までを、特に廣小路と云ふ。現今は東側に廣小路町・三橋町の名を存す。世説新語茶「千年の鶴吉が品玉に足をと

ヒロサト 廣里

山梨縣北都留郡に

どめ、萬代の龜屋が茶飯に腹をつくり、廣小路の植木に目をよろこばしめ、佛店の蒲燒に鼻をひこつかせし。六あみだ詣。三「こころ」目出度おさめませうと、廣小路なる長福寺にまゐりて、六番までうちおさめぬ。

ヒロサキ 弘前市

青森縣陸奥國西南部の都市。津輕平野の南端部に位し、四周は中津輕郡の地にて、東は豊田、南は堀越・千年・清水、西は駒越・藤代、北は和徳の諸村に接す。昭和三年清水村の一部を、同十一年和徳村の和徳・高崎・堅田の三大字を編入し、現在の市域は東西四・三六軒、南北四・四八軒、面積一四・二五方軒、人口約五一、〇〇〇人を有す。西北境を掠めて北流する岩木川、東方を北西流する支流平川の造る二扇状地の間に位し、概ね低平なるも東南より西北にかけてやや高く、北部と西部はやや低し。高き部分には上町、北部は中町、西部は下町とよばる。もと津輕氏十萬石の城下町として発達せし處、明治初年廢藩後一時衰れたりしも、省線奥羽本線開通し、明治二十七年弘前驛(當時は和徳村内)設けられ、同三十年、第八師團置かれてまた次第に發展せり。弘前城址は市の北西部にあり、いま一ノ丸・二ノ丸・三ノ丸の一部は弘前公園(舊揚國)として保存せられ、三ノ丸の東南部は第八師團兵器部・火藥庫等の敷地となる。城の東偏は南北に學校・官衙街をなし、その東側

の親方町・一番町より東南に延びる土手町は市の最繁華街なり。市の南部より郊外にかけて第八師團司令部・歩兵第四旅團司令部・歩兵第三十一聯隊(千年村)・騎兵第八聯隊(堀越村)・野砲兵第八聯隊・輜重兵第八聯隊(清水村)・青森地方裁判所支部・弘前高等學校・弘前警察署等の公署あり。酒類・織物(絹木綿・緋木綿など)・菓子類・木製品・履物・味噌等の工業行はれて工産總額七八〇萬圓に近し。商業また榮えて苹果・米・味噌・蠶糸・酒等を移出し、織物・穀類・海産物・肥料等を移入す。名勝舊蹟には鷹揚園・最勝院五重塔、社寺には鷹揚宮・熊野貞照神社・東照宮の縣社、津輕氏の菩提寺長勝寺あり。〔鷹揚園(弘前公園)〕弘前城址の一部にして、園名は大正天皇が皇太子にあらせらるる時に命名し給ひしものといふ。中央に瀟湘津輕爲信の銅像及び三鳥鞍撰文の鷹揚園記碑あり。舊西部に蓮池、舊門外郭に武徳殿、舊北部に招魂社、贈正四位西館孤清碑・乙種公認競技場等あり。明治三十一年及び三十六年に植みつけし二千株の櫻は老松古杉と反映して毎春美観を呈す。〔神明宮〕小人町に鎮座。祭神、天照大神。創建年次詳ならずも、津輕家累代の崇敬厚く、社領若干を寄せ、社殿の修補、再建等間然する所なかりき。例祭、九月十六日。〔八幡宮〕田町に鎮座。祭神、聖徳太子。別稱、大浦八幡宮。當社は中世

ヒロサ

津輕郡八幡村に鎮座し、天文年中社殿を再興すと傳ふ。のち藩主津輕家累代の崇敬厚く、眞音宗最勝院をして三百石を賜はりて本社を統督せしむ。例祭、八月十五日。〔熊野貞照神社〕田町に鎮座。祭神、熊野貞照命・伊弉諾命・外四神。崇神天皇六十七年の創建と傳ふ。津輕家累代の歸依厚し。例祭、五月十五日。〔東照宮〕後水尾天皇元和三年舊津輕藩主信牧、國家鎮護の爲、弘前城内に勸請せし所。例祭、四月十七日。〔稻荷神社〕字和徳町に鎮座。郷社。祭神、倉稻魂命・外二神。社傳に桓武天皇の御宇、坂上田村麿東夷征討の後社殿を再建すと傳へ、その後藩主津輕家の崇敬厚く代々その祈願所たり。例祭、六月二十日。〔華秀寺〕曹洞宗。慶長十七年津輕信牧、父爲信追福のため草創せし寺にして、長勝寺八世格翁の開基、瑞祥殿と呼はるる爲信の靈屋あり。門前に池あり、池畔の小祠は革彦稻荷と稱し藩主の崇敬厚かりしといふ。〔最勝院〕銅屋町にあり。新義眞言宗智山派。金剛山光明寺。天文年中の創建に係り、もと八幡神社別當として寺領三百石を有すと傳ふ。堂宇中、五重塔婆はもと大圓寺に屬せしもの、寛文中津輕信政の建立に係り、江戸時代の優秀なる建築として現に國寶たり。〔誓願寺〕新町にあり。慶長年中表願上人の開創にし

て、寛永年、中京都誓願寺に擬して造られしが、のち屢々火災に罹る。表門は江戸時代初期建築として優秀なるものといふ。〔長勝寺〕西茂森町にあり。曹洞宗。大永年中、大浦盛信が父光信のために大浦村種里に創建せし寺にして、のち賀田村に移され、慶長年間に至りて更に現地に移る。津輕氏の菩提所にして、本堂直後に津輕藩祖爲信の御影堂あり。なほ境内に津輕氏數代の廟あり。堂宇中、三門は國寶たり。〔報恩寺〕新寺町にあり。天台宗。津輕氏の廟所にして、明暦元年藩主津輕信義卒去の際、遺命によりて建立せられし所にして、信義及び信政の墓所を營み、のち信壽以後代々の墓またここに改葬せらる。

ヒロサタ 廣定村

廣島縣備後國世羅郡の東北隅。甲山町の北方五軒餘に位し、東北より東は甲奴郡に圍まれ、西北は雙三郡に界す。村内山地丘陵地と云ふ。起伏し、東南境に男鹿山(六三四米)、西南境には頭士山(六四八米)聳ゆ。低地は東北部及び西北部に開け、共に小河東北流して甲奴郡に入り江ノ川支流の上下川に合す。米・麥・繭及び林産・工業・畜産あり。南方甲原町及び北方比婆郡庄原町へバス通す。〔須佐神社〕大字小童に鎮座。祭神、建速須佐之男命。創立年代等詳ならず。神殿・拜殿・神樂殿・神輿殿・神饗所等あり。

〔廣島村〕北海道石狩支庁狩野國札幌郡の東南部。札幌市の東南方約一二軒、その間に豊平町の東北郭を隔て、北は白石村・江別町に接し、東と南は江別川の支流島松川を境として千歳郡の惠庭村に隣る。面積一八方軒餘。西南部は島松山(五一二米)の東斜面の山地なるもその餘の大部分は洪積層の高さ一〇〇米内外の臺地をなして林野廣く、東部石狩大凹地帯の一部にして、北流する島松川の沿岸には低平なる中之澤原野あり耕地よく拓く。米・豆類その他の農産少からず。札幌より来る室蘭街道は中部を西北より東南に通じ、社線北海道鐵道は東部臺地と低地の界を南北に走りて大字中ノ澤に北

ヒロサ

ありし村。昭和八年、大月町と改稱。

ヒロサワ 廣澤

群馬縣山田郡にありし村。昭和十二年桐生市に編入さる。清和源氏、足利の一族、廣澤氏を稱せし所。

ヒロシマ 廣島

〔廣澤〕 愛知縣西加茂郡にありし村。明治廿九年本村外一村を廢し、富貴下村大字西枝下・西廣瀬を以て廣投村を置く。〔廣澤〕 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に幡羅郡廣澤郷あり。その地今の大里郡内ならんも詳ならず。〔廣澤〕 愛知縣西加茂郡にありし村。明治廿九年本村外一村を廢し、富貴下村大字西枝下・西廣瀬を以て廣投村を置く。〔ヒロシマ〕 廣島。愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年本村外一村を廢し御器所村を置き、御器所村は大正十年、名古屋市に編入さる。

廣島縣(大正十五年開業)を設け、交通不便ならず。本村は明治十六年六月、廣島縣人和田郡次、團體移住を企て、月寒村の内シブアンベツ川より島松川間の山林原野を合せ、百萬坪を選定し、谷川李左衛門等と共に渡道し、同年十二月入地し翌年四月迄に同縣人十七戸を招致し、開墾に従事せしに始まる。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇島松行在所として指定史蹟たり。

【廣島縣】中國地方南面の中部に位す。東は岡山、西は山口、北は島根・鳥取の諸縣と界し、南は瀬戸内海に面しその備後灘・安藝灘を挟んで愛媛縣と相對す。東西約一三〇軒、南北約一一四軒、面積八四三六方軒餘ありて内地道府縣中第十一位に居り、鹿兒島縣に亞ぎ兵庫縣に先んず。昭和十二年十月推計人口約一八五・二萬人、一方軒の密度二一九人にして中國地方五縣中最も稠密なり。安藝國(廣島・吳の二市、安藝・佐伯・安佐・山縣・高田・賀茂・豊田の七郡)と備後國(尾道・福山・三原の三市、御調・世羅・沼隈・深安・産品・神石・甲奴・雙三・比婆の九郡)を管し、縣廳を廣島市に置く。【地形】北境には主として花崗岩・石英斑岩より成る中國山脈路東西に走り、東北部の備後・伯耆の境上に道後山(二二六九米)、備後・伯耆・出雲三國界には三國山(二〇〇四米)、それより西に獲政山(二

二六八米)・大萬木山(一一二八米)、備後・出雲・石見の國界に三國山(約七〇〇米)、安藝・石見の境上に阿佐山(一一一八米)・大佐山(一〇六九米)、安藝・石見・周防三國界上に冠山(寂地山、一三三九米)等を起すも山容何れも急峻ならず。その南に位する備後の北半より安藝の東部にかけては謂ゆる中國準平原の一部にて平均高度五〇〇米を有し解析せられたる高原狀地を呈し、日本海に注ぐ江ノ川上支流の流域に屬す。この高原の南邊はやや高まり、星ノ居山(八三五米)・男鹿山(六三四米)・天神岳(七五八米)・鷹巢山(九二二米)等ありて南方の瀬戸内海に入る小田川・蘆田川・沼田川等の沿海斜面の分水界をなす。また安藝の西部は主として太田川の流域に屬し、加計・水内・三條等、東北・西南の相平行せる構造谷によりて截らるる山地をなす。從つて縣内は北備後の高原(日本海斜面)・沿岸と島嶼部を含む瀬戸内地方及び安藝西部山地の三地理區に分かる。江ノ川の上流可愛川は阿佐山の東南谷に發し、始めは東南流するも郷野に至りて東北に向ひ、北備後高原西部の三次盆地に至りて北より下る神ノ瀬川、東北より来る西成川、東南より来る馬洗川等と合し、西北に向ひ、中國山脈を截りて峡谷をなし、島根縣石見國に出て日本海に注ぎ中國第一の長流をなす。太田川は大佐山の南に發して南下し、戸河内にて西南よ

り来る吉和川を入れて東北に轉じ、加計にて瀧山川を合してまた東南に向ひ、可部の南にて東北より来る三條川と會し、西南に折れ沿岸に沖積地をつくりその川口には廣島の大都會を發達せしむ。蘆田川・豊田川は沿海斜面の分水界が海岸に近きたり流路大ならざるも下流には可なり扇狀地をつくり、前者には福山、後者には三原の都市を擁す。海岸は瀬戸内の陥没によりて出入・岬角・島嶼頗る多く、吳・廣島(宇品)・三原・尾道・鞆等をはじめ良港地に富む。【氣象】廣島市に於ける年平均気温は一四・七度、高緯は三七・八度、低緯は零下八・六度を示せることあるも夏季の最高平均気温は二六・八度、冬季の最低平均気温は四度に過ぎず、岡山市に比してやや高く下關市に比すればやや低し、これを山陰の瀧田・境に比すれば冬季に於てやや低し。降水量は一五五二を示し、また岡山市(一一三五)よりも多く下關市(一六五五)よりも少く、特に冬季に於ては西北季節風の影響を受くること少きを以て日本海岸の瀧田・境等に比すれば遙に少し。縣下全體に就て見るも南部は概して寡雨乾燥にして晴天多く謂ゆる瀬戸内式氣候に恵まれるも北部は南部に比して降水量も多く中國山地中にては降水量二〇〇〇耗以上に達し、また気温もやや低き部分あり。【交通】道路には國道(中國街道)は縣の南部を東西に貫きて沿岸の主要都

邑を連れ、出雲街道は尾道より分岐して出雲に出て、別に廣島より三次を経てこれに合するもの、伯耆・石見に通ずるもの等あり。鐵道には省線山陽本線岡山縣より來りて略中國街道に沿ひ縣の南部を西方に走り、その間所々に支線を分ち、社線と會す。即ち福鹽線は福山驛より岐れ、北方神邊にて社線神高鐵道と會し、更に西北に向ひて蘆田川の谷を測り、甲奴郡上下町を経て、雙三郡幸田村にて藝備線鹽町驛に連り、社線福山驛にて尾道驛に發して、北方御調郡市村に延ぶ。省線吳線は三原驛に岐れて豊田・賀茂二郡の南岸を迂回し吳市を経て、北上して海田市驛に繋がる。また藝備線と宇品線は共に廣島驛より分れて宇品線は廣島港(宇品港)に至り、藝備線は三條川、次いで可愛川の谷に沿ひ、東北上して三次町に出で、更に比婆郡の西城・東城等を過ぎ岡山縣阿哲郡に出でて伯備線新見驛に連る。更に可部線は横川驛に始り北上して安佐郡可部町を過ぎ西方の安藝飯室驛に終り、社線廣島瓦斯電氣軌道の電車線は已妻・宮島驛前間に通ず。その他以上各鐵道線の主要驛より各地にバスの運轉行はれ、備後の東北部、安藝の西部の山地を除けば交通概ね便利なり。海上は尾道・三原・廣島(宇品)等の諸港を中心として沿岸の島嶼と香川・愛媛二縣の諸港及び九州の別府港等(定期汽船の往來あ

り、また大阪・下關間の汽船の寄港するあり。【産業】(一)農業。農家は約一八・五萬戸にして全戸数の約四八・四%を占むるも耕地面積は約一一萬町歩(田約七・六萬町歩、畑約三・三萬町歩)にて一戸當り平均五反九畝弱に過ぎず、耕地狹小の結果集約栽培行はれまた米作のみにては農家の經濟を維持する能はざれば各種の副業盛に行はるるも農家戸数は漸減の兆あり。即ち大正元年末二四・四萬戸なりしもの、昭和五年には一九・六萬餘戸、同十一年には既述の如く一八・五萬戸となれり。農産總額は約八八〇〇萬圓、米、麥類その首位を占め、麥類の約八〇%は裸にて概ね自給自足の状態なるも米は全縣民の需要を充すに足らず、毎年約五〇萬石内外を朝鮮・臺灣・岡山・山口等の地方より移入するを常とす。農産中の特産物に柑橘類・除蟲菊・薔薇手・蘭草・廣島茶・柿等あり。柑橘類は沿海及び島嶼部を主産地とし、特に温州蜜柑とネーブルオレンジが早熟と甘味に富むを以て著はれ、除蟲菊は御調・豊田二郡に主として栽培せられ、年産五〇萬圓を超え北海道に亞ぎて全國第二位を占む。薔薇手は産出量全國に冠絶し、食料原料に供せらるる外工業原料として他府縣に移出せらる。蘭草も全國第二位の産額を有し主として沼隈・御調・安佐三郡より産出せられ墨表・花冠・帽子・圓座等の製品原料となる。廣島茶は慶長年間京都に種子

を求めて試作せるに始り、風土の關係により葉形圓く葉柄中肋共に廣き良品を産出するに至り却つて京阪神地方へも移出せらる。(二)水産業。海岸線長く瀬戸内海は僻處にて漁撈に適し古來漁業は盛なりしも近年は魚族の蕃殖不良となり、漁獲高年額約四百萬圓に過ぎず。この外製造物に削鱈節・蒲鉾・魚介罐詰等あり年額約五百萬圓に近し。その他豊田・沼隈・御調・賀茂四郡は有名なる製鹽地にして年額約一億斤の生産を擧ぐ。水産物中に特記すべきは牡蠣と海苔の養殖にて、前者は廣島市を中心とする東西約四〇軒内外の瀬戸内海岸を主産地とし、この地方民は古く冬季大阪・下關方面に船を出して牡蠣料理を營みしより牡蠣船・廣島牡蠣の名は夙く世に高し。(三)蠶業。養蠶は農家の副業にて御調・産品・雙三・深安・安佐・安藝・比婆七郡に主として行はれ、年額二六〇萬圓に達し、なほ發展の餘地少からず。四者産業。縣の東北部高原地帯は風土牧畜に適し、畜牛數一〇・二萬餘頭を數へ、神石牛の名世に聞ゆ。この外馬約八千頭、豚約一〇萬頭、家畜一三五萬羽に及び、年々屠殺の家畜・家禽の價額三八〇萬圓に上る。(四)林業。林野面積七一萬町歩の廣きに互るも東北部・西部の外は地力少く林相よろからず。林産中特筆すべきはアベキ樹皮と木炭にて前者は瓶栓・床張用・リノリウム等の代用品その他に用ひられ、後者は年産二百

萬圓を超え、佐伯・山縣・雙三・比婆の諸郡をその主産地とす。(六)工業。工業は本縣産業中の首位を占め、生産總額は一八、〇〇〇萬圓を超え、主なる工産品は綿糸紡績を第一とし、清酒・金屬製品・綿織物・印刷・罐詰・水産等之に次ぎ、なほ産額百萬圓以上三百萬圓未満のものに、菓子類・水産製造物・製綿・生糸・丸及び角材・木履・染料等あり。綿織物は謂ゆる備後餅・備後綿の名にて著はれ、地質強靱・染色堅牢・價格低廉なるより久留米餅と共に並稱せらる。清酒は賀茂・佐伯・沼隈・御調・安藝・産品・安佐諸郡に醸造せられ色澤淡泊、香氣芳烈、風味温雅の點に於て瀧・福岡の清酒と其の芳醇を争ふ。この外特産として數ふべきものに墨表・オム製品・罐詰・木製品(指物)・金ペン・萬年筆・毛筆・縫針等あり。墨表は尾道市・沼隈・御調・深安・安佐諸郡を主産地とし古來備後墨として名高し。オム製品は廣島・吳・尾道・福山の諸市と海田市町にて、金ペン・萬年筆は廣島・吳兩市にて近年新に製造せられ俄に聲價を高め、罐詰は日清戦後以來數回の戦役に際し皇軍に供給せる幾多の試練を経て廣島市に發達せしものにかゝる。その他筆筒・佛壇・西洋家具等の指物類はまた廣島市の特産として著れ、毛筆は安藝郡熊野町・廣島市及び賀茂郡川尻町を主産地とし生産數・金額共に全國に冠たり。本縣は明治四年十一月廣

島に置き安藝一國及び備後八郡を管せしに始まり、明治九年四月岡山縣所管の備後國の東南部六郡を併せここに備後一國を管し次いで今日に至る。【廣島市】中國地方第一の商都市。廣島縣安藝國南岸の中部に位し、中國山脈に發し東南流して瀬戸内海に注ぐ太田川口の三角洲と、その附近の地を占め、東は安藝郡、西は佐伯郡、北は安佐郡に接し、南は廣島灣に臨む。東西一二・二軒、南北九・六軒、面積六九・九方軒、昭和十一年推定人口三四・二萬人を有し、東京・大阪等の六大都市に次ぎ我國第七位の大都會たり。【地形】東部と西部は花崗岩より成る山地なるも市の要部をなす三角洲は沙土より成る沖積地にして北より南するに従ひ緩く低下し、南方海中には宇品島・金輪島・神島・似ノ島等の屬島浮ぶ。太田川は市の北部白島北町の北端一本木鼻にて東西二流に分る。東流する神田川は臺屋町北角に至りてまた猿渡川・京橋川に分れ、前者は東南流して市の東南部仁保町を貫き、後者は南流して宇品町の西に注ぐ。本流は西南に下り中島本町の北にて更に元安川を岐ちて共に南流し、その間右岸の横川町と寺町の間に他の一派を分ち、これは更に天満・福島・山手の三分流となりて共に西南に流る。かくて太田川の成す三角洲は東西六箇の中島に分れ、幾多の橋梁によりて結ばれ市は一に中國の水都・小大阪等の異

稱を以て呼ぶ。市街は天正十七年毛利輝元の築城に始りその廣島城を核心として發達せるものにて、城址は市の略中央部に位し、その本丸址にいま第五師團司令部あり、その東に歩兵第十一聯隊、西に野砲兵第五聯隊、輜重第五大隊、陸軍病院等、南に西練兵場あり。城址の東、神田川の西は鐵砲町・上流川町・横町等にて舊士族屋敷街、神田川の東、二葉山の南には騎兵第五聯隊と東練兵場・廣島驛等あり。西練兵場の南より南北に走る大手町、之と直交する元安橋筋附近は最も繁華なる商店街、その東方即ち士族屋敷街の南は近年俄に勃興せる歡樂街、新天地なり。商店街の南は官衙學校區をなし、廣島控訴院・同地方裁判所・縣立女子專門學校・縣立廣島高等女學校・縣立廣島第一中學校・市役所・廣島文理科大學・同高等師範學校・進徳高等女學校・山中等女學校・縣立工業學校・廣島工業學校、元安川の西岸には縣廳・縣病院、京橋川の東には師範學校、その南方には廣島高等學校等あり。中等及び之に準ずる各種學校は以上の外なほ官・縣・市・私立のもの多く總數七十一校を數へ、官衙には既記の外、廣島稅務監督局・廣島稅務署・神戸稅關廣島出張所・廣島營林署・廣島通信局・廣島鐵道局等を主なるものとし、市が學術・教育・政治及び軍事上の中心地たるを物語るものなり。〔産業〕市は又中國地方に於ける重要な商

Table with 7 columns: 年度, 工産, 農産, 畜産, 水産, 林産, 鐵産, 計. Rows for 昭和七, 九, 十一.

工都市にして、生産總額は昭和十一年に於て一億圓を突破し、その中工産は九千四百八十萬圓に近く、生産總額の九一・五%を占む。主要生産品は機械器具(一八五萬圓)を筆頭に、人造絹糸(四九八萬圓)・織詰(四七萬圓)・印刷製本(四七二萬圓)・ゴム製品(四四三萬圓)・洋服(三五九萬圓)・綿糸(三二七萬圓)・指物(三一九萬圓)・防腐木材(二三〇萬圓)・製綿(二〇一萬圓)等あり、その外、産額百萬圓以上のものには菓子・小巾擦染・グリース・賣藥・縫針・牛肉等を舉ぐべし。なほ本市の水産物中最も特色あるは三角洲の沿岸淺海地を利用して養殖せらるる牡蠣と海苔にしてその産額約八十萬圓に達し、廣島牡蠣の名は天下に聞ゆ。商業また活潑にして會社總數七五五(商業會社四六三、工業會社二六三、運輸會社二九)、拂込資本及び出資額一億三千五百萬圓に達す。その商圏は縣下の大部分より藝南島嶼部・島根縣石見國及び山口縣周防國の大半をなほじめ、西は北九州一圓、東は阪神地方一帯に及び、特に市の特産たる織針・織詰・製綿・漆油・擦染・鑄物・機械工具・人造絹糸・佛壇等は臺灣・朝鮮並に北海道とも取引せらる。移出入品中の主なるものは飲食物及煙草・金屬及製品・礦物及製品・油脂及蠟・穀物及種子・木竹藤及製品・藥品及染料・材料・衣類履物及附屬品・布帛及製品等に於て總額一億四千八十萬圓(内移入八五九七萬圓)に近し。また大正九年以來内國船にして外國貿易に従事する船舶の廣島港(宇品港)に出入することを許可せられしより大連及び朝鮮を經由する滿洲・天津・青島・上海その他との輸出入貨物は漸次増加し、概算輸出約五百萬圓、輸入約千二百萬圓に上るに至り。〔交通〕國道(山陽道)は東方府中より、市の中部繁華街を横貫して西方五日市に出て、四線の縣道はいづれもこれと交り南北に通じ、市道も延長約六七七軒に達し、國道・縣道を初め市道の主要部は鋪裝せられ車馬の往來便利なり。鐵道には省線山陽本線は市の北邊を東西に走り廣島・横川・己斐の三驛(廣島は明治廿七年、他は同廿年設置)を置き、吳橋は廣島驛より海田市驛に至りて分岐し、宇品驛・藝備驛また廣島驛より起り、前者は宇品

社(二九)、拂込資本及び出資額一億三千五百萬圓に達す。その商圏は縣下の大部分より藝南島嶼部・島根縣石見國及び山口縣周防國の大半をなほじめ、西は北九州一圓、東は阪神地方一帯に及び、特に市の特産たる織針・織詰・製綿・漆油・擦染・鑄物・機械工具・人造絹糸・佛壇等は臺灣・朝鮮並に北海道とも取引せらる。移出入品中の主なるものは飲食物及煙草・金屬及製品・礦物及製品・油脂及蠟・穀物及種子・木竹藤及製品・藥品及染料・材料・衣類履物及附屬品・布帛及製品等に於て總額一億四千八十萬圓(内移入八五九七萬圓)に近し。また大正九年以來内國船にして外國貿易に従事する船舶の廣島港(宇品港)に出入することを許可せられしより大連及び朝鮮を經由する滿洲・天津・青島・上海その他との輸出入貨物は漸次増加し、概算輸出約五百萬圓、輸入約千二百萬圓に上るに至り。〔交通〕國道(山陽道)は東方府中より、市の中部繁華街を横貫して西方五日市に出て、四線の縣道はいづれもこれと交り南北に通じ、市道も延長約六七七軒に達し、國道・縣道を初め市道の主要部は鋪裝せられ車馬の往來便利なり。鐵道には省線山陽本線は市の北邊を東西に走り廣島・横川・己斐の三驛(廣島は明治廿七年、他は同廿年設置)を置き、吳橋は廣島驛より海田市驛に至りて分岐し、宇品驛・藝備驛また廣島驛より起り、前者は宇品港に至りその間に安藝愛宕・大須口・東段原・女子商業前・兵器支廠前・被服支廠前・大河・丹那・宇品の九驛を設け、後者は市内に矢賀驛(昭和四年設置)を置き、三篠川・可愛川筋に沿ひて東北に走り備後の三次・庄原・西城・東城等を過ぎ備中に出て伯備線新見驛に達り、可部線は横川驛より起り安佐郡可部町を経て安藝飯室驛に及び、社線廣島瓦斯電軌の宮島線(電車)は己斐町の西廣島驛を起點として、省線山陽本線宮島驛前の電車宮島驛に至る。また市内電車軌道には廣島・己斐兩驛を繋ぐ本線、紙屋町・御幸橋間の西塔線、御幸橋・宇品間の宇品線、八丁堀・白鳥間の白鳥線、左官町・横川驛間の横川線の五線あり、そのほかに廣島乗合自動車の自動車は市内路面を八線に分ちて運行し、更に廣島驛より横川驛を経て遠く島根縣濱田町に通ずる省營廣濱自動車線ありて市内外の交通は頗る便利なり。次に海上は、廣島港(宇品港)は軍事上の重要港たる外、愛媛縣今治及び高濱・三津濱への定期航路を有し、また吳・別府間、大阪・下關間の定期船の寄港地たり。〔沿革〕古くは五箇荘とよばれし漁村なりしが、天正十七年毛利輝元この地を開墾して城郭を築き五重の天主閣を起し、吉田より移りて地名を廣島と改む。これより商賈・工人また翕然として來り集り忽ち城下町として繁榮す。慶長五年關ヶ原の戦により毛利氏は削封せ

られて長州萩に移され、福島正則ここに封ぜられて尾州清洲より入部し四十九萬八千石を食み、在城十八箇年餘に及びしが、大いに城郭を修築せしめ信濃に左遷せらる。元和五年淺野長晟紀州和歌山よりここに移封され安藝國一圓と備後八郡の國守として四十二萬六千石を食み、子孫相承くること十二世二百五十餘年、以て明治維新に至る。明治四年廣島縣第一大區となり、同十一年郡區制施行に際し廣島區となる。次いで同二十二年市町村制實施の時始めて廣島市となり、同年かれて工事中なりし宇品港竣成す。明治二十七年日清戰役の起るや、恰も山陽鐵道(今の山陽本線)は本市まで開通せる時なりしを以て宇品港は直に軍隊・軍需品の發送起點となり、明治天皇には長くも大本營を廣島城本丸址に進めさせ給ひしかば市は皇軍統帥の中心となりて俄然活況を呈せり。次いで同三十三年の北清事變、同三十七八年の日露戰役、大正三年の歐洲大戰に伴ふ青島攻略戰、更に昭和七年の滿洲事變・同十二年の日支事變等屢次の戰役に當り皇軍輸送の要點となりしため商工業は急激に發展を見るに至り、昭和四年四月己斐町・古田村・草津町・三篠町・牛田村・矢賀村・仁保村の隣接町村を編入して現今の市域に擴がり、中國第一の大商工都市となれり。〔廣島城址〕市内基町にあり。市の略中央に位し、外濠は埋められ、中濠は一部を残存

し、内濠は完存して本丸址を繞る。いま第五師團司令部の正門となれる舊城門を潜れば本丸址にして、西北隅に天主閣遺存す。城は一名鯉城と呼ばれ、天正十七年毛利輝元の築營、二宮太郎右衛門を奉行とし、文祿二年竣工。慶長五年關ヶ原役後福島正則清洲より轉じて城主となりしが、元和五年淺野但馬守長成和歌山より入り、爾來子孫相繼ぎて明治維新に至る。明治四年熊本鎮臺の第一分營を城内に設け、同六年一月廣島鎮臺を置き、同二十一年第五師團と改稱し現今に至る。天主閣は五層、前面に二層の階段あり、昔時の渡櫓の一部を遺存せるものにて、左方に内部一部重層の附屬建物あり、いま國寶たり。〔弘文館〕鹿島藩の藩營。創立年代不詳。文化二年德讓館と命名、安政六年弘文館と改め、更に明治三年鑄造館と改稱。〔明治二十七八年戰役廣島大本營址〕指定史蹟。明治二十七八年戰役に際し、明治天皇大纛を進め給ひ大本營を置かれし所なり。舊廣島城本丸にあり、もと第五師團司令部たり。御駐紮中の質素なる御調度品も亦共に保存さる。軍事に似し給ひし天皇の御動靜を拜し奉るに足るものあり。〔明治天皇廣島行在所〕指定史蹟。偕行社内にあり。明治天皇、山陽道御巡幸の際、明治十八年八月一日、御假泊あらせられし處なり。〔明治天皇草津御小休所〕指定史蹟。明治十八年、山陽道御巡幸の砌、八月一日

に小泉甚右衛門宅に御小休あらせらる。〔頼山陽舊居〕指定史蹟。國泰寺と道を距て北側にあり。頼山陽先生日本外史著述舊宅址の石標、家前に建つ。山陽の外史の稿を起せし小室は舊態を存し、春水・梅鹿・山陽・華菴などの遺墨を藏す。〔國泰寺の樟〕指定天然記念物。國泰寺の境内共同墓地に北中東南の四株あり、樹齡三百餘年、樹勢雄大樹高、各の高さ三〇米、一七米、二八米、二〇米、周圍七・三米、四・八米、五・五米、四・一米なり。傳説に依るに、元和九年國泰寺の開山僧柱大和尚の植栽せしものといふ。〔比治山公園〕段原町にあり。比治山は一に臥虎山と呼ばれ、山高からざるも視野廣く、市街を望むに便なり。〔舊御便殿〕比治山公園内にあり。明治二十七八年戰役の際、西練兵場の一部に假議事堂を建て、第七議會を召集し給ひし際、明治天皇の御座所をここに移して、同四十二年、宮殿風の套堂を造り、當時御使用の敷物・椅子・卓覆を保存す。〔泉邸〕上流川町にあり。元和五年淺野長晟が入國し、翌年邸第を營み、代々の國守その庭池を擴張修理す。園庭は支那の西湖を模せしより縮景園と名づけ、俗にお泉水と呼ぶ。〔日清戰役死者記念碑〕西練兵場の一隅にあり。明治二十七年戰役の戦死者七百二十六名のために明治三十三年建設せるものにして、碑身は砲彈に撃し、高さ一米あり。〔徳津神社〕縣

せらる。「廣島別院」大手町六丁目にあ
り。眞宗大谷派。龍谷山明信院。天正九
年東本願寺十二世教如の開創に係る。萬
治二年故ありて松平光晃の破却する所と
なりしが、幾許もなくこれを再興し今日
に至る。「廣島別院(佛護寺)」寺町にあ
り。眞宗本願寺派。長祿年中正信の開創
に係る。正信はもと原田政信と稱し甲斐
國武田氏の一族たり。いま本派別院に列
す。「不動院(安國寺)」牛田町にあり。
古義眞言宗。新日山安國寺と號し御室末
たり。天平二年行基の草創にかかると傳
ふ。當初十二支坊を擁して寺觀莊嚴なり
き。降りて曆應二年足利尊氏の本願によ
りて諸堂を造建せしがその後廢す。空憲
入寺して中興開山となる。天正年間豊臣
秀吉朝鮮征伐の時當寺に滞陣し、凱旋の
勲、彼地育玉山より金堂・仁王門・鐘樓
の三字を此處に移建し、同十九年寺領一
萬五百石を寄せたりといふ。爾來福島・
淺野氏等累代領主の崇敬厚し。國寶、金
堂・藥師如來坐像(木造)一軀。「報專坊」
寺町にあり。眞宗本願寺派。無障山。元
和元年の開創にして、はじめは眞言宗な
りしが、文明年中現宗に改む。「明星院」
大須賀町にあり。古義眞言宗。高月山大
日寺。御室末。藩内五箇寺の一に列せし
名利。福島氏就封の時、伊豫石手寺榮鏡
を請じてこれを再興す。近世寺領、三百
石。

て、灣頭に當り廣島市發達す。灣の西北
岸たる廣島市より二十日市を経て小方に
達する海岸は東北・西南の直線的の方向
を示し、後背には山地せまる。恰も廣島
市後背地方に發達する同一方向の新舊斷
層構造と一致し、三條川の河谷に延長せ
らるる一つの斷層海岸なり。また廣島市
より吳市に至る海岸は前者とは殆ど直交
し、前記斷層線に交る稍複雑なる斷層海
岸にて、その交點に當る位置に太田川注
入し、廣大なる三角洲平野を形成し、こ
こに廣島市の發達をみるなり。上記二方
向の斷層線により挟まれし南部に廣島灣
が突入するも、灣内には多くの地塊残さ
れ、嚴島・似ノ島・江田島・西能美島・
東能美島・倉橋島・阿多田島・大黒神島等
を形成し、その間には大野瀬戸・那沙美
瀬戸等の海峡が形成さる。廣島灣沿岸は
多く花崗岩より形成され、白砂の清潔な
る砂濱が所々に發達す。また灣内に浮ぶ
多くの島嶼には松林よく保護せられ、静
水に影する白砂青松は瀬戸内海の代表的
風景を展開す。最もよく知らるるは嚴島
なり。灣内には東方尾道、或は四國高濱
方面より音戸、吳を経て宇品に至る航路、
宇品より嚴島を経て柳井方面に至る航路
等あり。なほ灣内の島嶼全部と吳市後背
地域、草津玖波後背山地を合せて吳鎮守
府の要塞地帯に指定せらる。

とより成る。市内線は本線前より横川終
點に至る一三・四軒。宮島線は廣島市已
妻町の西廣島驛より佐伯郡大野村の電車
宮島驛に至る一六・一軒。電車宮島驛は
省線山陽本線宮島驛に近く、嚴島町航路
に連絡す。軌間一・四三五米、省線と連
帶運輸。
【廣島村】香川縣讚岐國仲多度郡の北方
海上。鹽飽諸島中の廣島・手島・小手島
より成る。廣島は最大島にして東部に二
百餘米の山地南北に連り、北方は養鼻の
突出となる。西部にも三百米餘の山地崎
踞し、東西兩山地は陸路をなす。北部海
岸は概ね海岸をなすも南部海岸にはやや
廣き海岸平地あり。南方の羽節岩に燈標
設けらる。手島は廣島の西北方にあり、
北部に二百餘米の山地ありて兩山地間は
低地をなし、その東海岸に養鼻發達す。
手島の西南に小手島あり、百米以下の丘
陵にして養鼻發達す。島はすべて花崗岩
より成り廣島花崗岩としてその良質なる
を以て知らる。附近の海は魚族に富み、
廣島の南海岸は漁船の夜泊地となる。羽
節岩燈標は連四白光、光達距離一〇哩。
ヒロスカ 廣塚村 富山縣越中
國東礪波郡の中部。福野町の南に隣り、
西北は西礪波郡と界す。地は礪波平野の
一部に位置するを以て低平肥沃なり。小矢
部川西境を劃しつつ北流し、その支流東
南方より來り村の中部を西北流し何れも
灌溉に便す。主産業は農にして米産頗る

多し。省線中越線及び縣道域内を走り、
福野町に接するを以て交通不便ならず。
ヒロセ 廣世 備前國(岡山縣)の古地
名。和名抄に御野郡廣世郷あり、比呂世
と訓す。その地は岡山市の廣瀬町の邊に
當る。
ヒロセ 廣西 因幡國(鳥取縣)の古地
名。和名抄に法美郡廣西郷あり、比呂世
と訓す。その地今の岩見郡宇倍野町の邊
に當る。
ヒロセ 廣妹 下野國(栃木縣)の古地
名。和名抄に芳賀郡廣妹郷あり、妹は妹
の字の誤なり。その地今の芳賀郡須藤村
の邊か。
ヒロセ 廣瀨
【廣瀨村】岩手縣陸中郡江刺郡の北部、
水澤町の東北一三軒。地東西に長く面積
約二四方軒。北上山地の西斜面にして、
四面殆ど二百米臺の丘陵を以て圍まれ、
西北境の明神山(三五九米)、東境の月山
(二六一米)やや著る。廣瀨川は中部を
東西に貫き、明神山の麓には歌書川流れ
て城外に於て前者と合流す。廣瀨川を境
とし以北は安山岩質凝灰岩、以南は主と
して砂質粘質岩より成り、川沿ひの沖積
地に耕地發達す。産物は米(六千石)を第
一に、大麥・小麥・大豆等を主とし、副
業として養蠶・養兔・養鶏はいづれも盛
に、製紙と共に農家の重要財源をなし、
其他木炭・和紙を出す。ほば中部を岩谷
堂より縣道通じ、其他川沼ひに隣接各村

に道路通ずるも交通未だ便ならず。本村
の起原不詳なるも北奥蝦夷征伐により間
接的なれど開拓の緒につけるものと思惟
す。關王山龍泉寺の傳に「田村將軍依東
夷征討之御願建立」とあることより推し
得らるる如し。吉野朝時代本村を語るも
の二、三残れど不詳。青谷觀音境内に丈
餘の石碑ありて「梵字」延文六年(太文)
二月二日(教子)の切付あり。「高氏將軍之御
祈所藤波山三寶院奥湯下當山」或は塚、
五輪、正長元年法印南泉の墓石名等々よ
り、本村を語る何物かがある如くに思は
る。葛西氏の治下になりて臣三ノ關關賊・
菊池掃部・輕石治兵衛・菊池右馬允なる
者各三ノ關・鴨澤・輕石・歌書の諸館に
據れりとなすも時代の前後不詳。葛西氏
失地離散と命を同じうし残るものなし。
明治八年舊村歌書・輕石・鴨澤・一關を
合し明治二十二年更に稻瀨村の内二關・
三關を合し一自治區となし現今に及ぶ。
【廣瀨村】宮城縣陸前國宮城郡の西南部。
仙臺市の西北約一九軒。西北は山形縣、
南は名取郡に隣接す。奥羽山脈の東斜面
に位し、西北境には關山峠(五九四米)あ
り、東南方に傾斜し、廣瀨川は西北境に
發源して村のほば中部を東南に流る。東
部には稍平地あり。米・蕎麥・木炭を産す。
作並街道は村の略ぼ中部を西北より東南
に通じ、西北方山形縣、東南方仙臺市に
至る。仙山線は村内に陸前落合驛・愛子
驛(以上昭和四年設置)・陸前白澤驛・熊

ヶ根驛・作並驛(以上昭和六年設置)を置
く。大字愛子は今、上愛子・下愛子に分
る。下愛子の西端は徳川忠輝に嫁せし伊
達政宗の女が忠輝の死後落飾して居りし
處と傳ふ。「作並温泉」廣瀨川の上流齋
谷に湧出す。泉質、無色透明の鹽類泉。
【鳳鳴瀧】大字作並にあり、廣瀨川の上流
にかかる。一に四十八瀧と稱す。高さ約
三〇米。
【廣瀨川】宮城縣の南部にある川。山形
縣境の面白山(二六四米)の東側斜面の
水を集めて東南流し、宮城縣廣瀨村の東
南部に於て北方より來る名取川を合せ、
作並街道に沿ひて東流し、仙臺市の中部
を蛇行しつつ東南流し名取川に注ぐ。流
程約四八軒。
【廣瀨村】山形縣羽前國東田川郡の西部。
鶴岡市の東南に接す。村の東南半部は丘
陵をなして、西北方に傾斜し、西北部は
庄内平野に屬して平坦なり。赤川は村の
西境を北流す。米・蕎麥を産し、牧畜行
はる。松岡養蠶場は良好の蠶種を産出す
ることにして縣下に著名なり。道路には
村の中部を西南より東北に向ふもの及び
西方よりこれに合するものあり。西北方
羽越本線鶴岡驛及び東北方同線藤島驛へ
は各バスの便あり。本村の因幡堰と松岡
社の開墾事業は特筆すべきもの。前者は
最上家の時、新關因幡守久正、多藏川の
水を引きて灌溉工事を企てしも成らず、
よつて元祿二年郡民再びこの遺謀を承け

繼ぎ、荒川を二流に分ちてそこに兩堰を
掛渡し、遂に事業完成し萬代不易の土功
を建つ。後者は鶴岡の士族、三千五百餘
名、明治五年、松岡社を組織し、田林の
開墾を大成す。大字の狩谷野日は天正十
六年、羽越合戦の舊跡なり。「貴船神社」
大字松尾に鎮座。郷社。祭神、高麗命・
關龍命。文武天皇御宇大寶三年山城國貴
船神社よりの勧請にかかると。領主武藤・
酒井氏代々の崇敬社。例祭、九月八日。
【雷電神社】大字高寺に鎮座。郷社。祭
神、保食神。孝明天皇御宇安政四年、社
殿災上して古記録焼失し由緒の詳細を知
る能はず。されど當世の崇敬を察め、
最上義光神領若干を寄すと。例祭、陰曆
四月八日。
【廣瀨】出羽國(羽前國、山形縣)の古地
名。和名抄、置賜郡に廣瀨郷あり、その
地、今の西置賜郡豊田村・豊原村・豊川
村・添川村及び東置賜郡小松町・大塚村
の邊に當る。
【廣瀨村】福島縣岩代國河沼郡の東北部。
坂下町の東北に隣り、北は日橋川を隔て
て耶麻郡に接す。會津盆地のほば中央部
に位し、大川は東境を、宮川は西境を各
北流し日橋川に注ぐ。日橋川は北境を西
流す。土地概ね平坦なり。米・蕎麥・
大豆等を産す。道路は中西部を南北に通
じ、南方省線會津線坂下驛へは約三軒。
此地は元稻川庄と稱し、結城十郎朝村四
代の孫、生江大勝基氏、永和元年會津に

入り葦名詮盛に仕へ康暦元年稻川庄東青
津に移り住し館を築き分領主となる。永
和四年臨濟宗清光山淨泉寺を創建し菩提
寺となす。文明中曹洞宗に改む。七代山
城守正勝天正十七年六月葦名義興、伊達
政宗と交戦敗走するに及び之に殉じ野に
下る。其子孫連綿として正系は東京目黒
にあり。東青津はいま青津と稱す。「生
江節地」青津の村西にあり、東西廿八間、
南北五十四間、殘障あり。東方に的場と
稱するものあり。村の西北に男壇・女壇
と稱する高さ三尺許のものあり生江基氏
夫妻の鎮まる所なり。別に生江壇とも云
ふ。壇上に各一基の神あれど文字明かな
らず。「青木正徳寺」京都知恩院第卅世
住職たる岩州和尚は生江山城守の類縁に
てもと正徳寺岩園和尚の徒弟。永祿元年
葦名盛氏に叙爵の論旨を奉じて來る。こ
れ葦名氏に對する久し振りの叙爵なり。
【淨泉寺】曹洞宗。寛永年間生江氏の開
基に係りその菩提所たり。藥師堂安置の
藥師如來坐像(木造)一軀は高さ六尺餘、
一木彫成の大像にして藤原初期の作に係
り國寶たり。
【廣瀨】武藏國(埼玉縣)の古地名。和名
抄に入間郡廣瀨郷あり、比呂世と訓す。
その地は今の入間郡水富村の邊にこれに
擬す。
【廣瀨村】新潟縣越後國北魚沼郡の北部。
小出町の北方約六軒。東境には鳥屋ヶ峯
(六八一米)聳え、また村内諸處に三十四

百米の山岳ありて村の大部分は山地を成し、ただ東南に僅少の低地を見るのみ。...

ひ、中央を安曇川東へ貫流し平地開く。概ね農業を主産業とし、米・麦を産す。...

近年北方平野と南方山地との中間的位置の挽回に努めつつあり。産業としては製紙・練香・製油の室内工業と富田川の...

といふ。歴代領主の崇敬深く、祈願所・領内總社として祀り。例祭、十月十五日。...

【廣瀬村】 富山縣越中郡西礪波郡の中部。福光町の西に隣り、西は石川縣に境す。...

【廣瀬】 大和國(奈良縣)の古郡名。奈良盆地の中央に位し、佐保・安雄・飛鳥・葛城・蘇我の諸水此處に會し大和川となる。...

【廣瀬】 廣島縣備後國深安郡の西部。福山市の西北約九軒に位し、西は廣品郡に接し、西北僅かに神石郡と界す。...

【廣瀬】 廣島縣備後國深安郡の西部。福山市の西北約九軒に位し、西は廣品郡に接し、西北僅かに神石郡と界す。...

【廣瀬村】 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。二俣町と中泉町の略ぼ中間に位置す。西は天龍川をもつて濱名郡と境す。...

【廣瀬】 廣島縣備後國深安郡の西部。福山市の西北約九軒に位し、西は廣品郡に接し、西北僅かに神石郡と界す。...

【廣田村】 岩手縣陸前國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、西は廣田灣を隔てて宮城縣本吉郡唐桑村を望み、東南は太平洋に臨む。...

【廣田】 廣田 廣田村 岩手縣陸前國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、西は廣田灣を隔てて宮城縣本吉郡唐桑村を望み、東南は太平洋に臨む。...

【廣瀬村】 宮崎縣日向國宮崎郡の東北端。一ツ瀬川河口の南岸に接して日向灘に臨み、宮崎市に北約二・三軒。...

【廣瀬】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に上座郡廣瀬郷あり、比呂勢と訓す。その地今の朝倉郡宮野村に當り、延喜式の廣瀬郷も此地なるべし。...

【廣田村】 岩手縣陸前國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、西は廣田灣を隔てて宮城縣本吉郡唐桑村を望み、東南は太平洋に臨む。...

【廣田】 廣田 廣田村 岩手縣陸前國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、西は廣田灣を隔てて宮城縣本吉郡唐桑村を望み、東南は太平洋に臨む。...

【廣瀬村】 富山縣越中郡西礪波郡の中部。福光町の西に隣り、西は石川縣に境す。...

【廣瀬】 大和國(奈良縣)の古郡名。奈良盆地の中央に位し、佐保・安雄・飛鳥・葛城・蘇我の諸水此處に會し大和川となる。...

【廣田村】 岩手縣陸前國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、西は廣田灣を隔てて宮城縣本吉郡唐桑村を望み、東南は太平洋に臨む。...

【廣田】 廣田 廣田村 岩手縣陸前國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、西は廣田灣を隔てて宮城縣本吉郡唐桑村を望み、東南は太平洋に臨む。...

蹟。大船渡・廣田兩灣の間に突出せる牛島...

【廣田村】 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の西南部...

【廣田村】 富山縣越中國上新川郡の北部...

【廣田村】 北條村(新潟縣刈羽郡)...

ヒロチ

【廣地村】 樺太真岡支廳真岡郡の南部...

【廣地村】 樺太真岡支廳真岡郡の南部...

ヒロチ——ヒロノ

ヒロツ

【廣津村】 長野縣信濃國北安曇郡の西南部...

【廣田村】 兵庫縣淡路國三原郡の東部...

【廣田村】 兵庫縣淡路國三原郡の東部...

ヒロト

【廣戸村】 福島縣岩代國岩瀬郡の東南部...

【廣戸村】 福島縣岩代國岩瀬郡の東南部...

ヒロタニ

始良郡加治木町の邊に當る。

廣谷

【廣谷町】 兵庫縣但馬國養父郡の中央南部...

【廣谷村】 廣島縣備後國廣谷郡の中部...

ヒロトモ

【廣伴】 陸奥國(陸前國宮城縣)の古地名...

【廣伴】 陸奥國(陸前國宮城縣)の古地名...

久之濱町の北方約八軒。東は太平洋に面し...

ヒロハ——ヒロミ

陵あり。その間に低地開け西境に加茂川南流して流域の平野や大なり。南部には西南流する加茂川支流あり、三軒倉西に於て本流に合す。米・麥・蕎麥を産し酒類・生柿の特産あり。西部に縣道走り省線姫新線高野驛(西南二軒倉)へバスあり。古くは廣野郷に作り、和名抄に勝田郡廣野郷と見ゆ。

ヒロハタ

【廣畑村】 熊本縣肥後國飽託郡の東部。熊本市の東北に接す。全村農地をなし東北部に備かに高し。農業を主要とし總戸數四三八戸中、約八割は農家にて畑地約五五〇町あり、水田は約二三町にして山林は九〇町なり。主要産物は麥・粟・大豆・甘藷・米等なり。省線豊肥線龍田驛は、西方約一軒にあり。村名はこの地如多きを以つてかく名づけしものといふ。

ヒロハタ

【廣幡村】 山形縣羽前國南置郡の中郡。米澤市の西北に接し、北は東置郡に境す。村の西半部は山地をなすも、東半部は米澤盆地に属して地形平坦なり。鬼面川は村の東南部を東北に流る。米・蕎麥を産す。道路は村の中部を南北に通じ、北方小松町、南方米澤市へはバスの便あり。米坂線西米澤驛へは南方約一軒。「一宮神社」大字上小菅に鎮座。郷社。祭神、倉稻魂神・軻遇突知命・植山姫命。元明天皇の和銅三年、國司大野安廣、飽海郡小物忌神社の分靈を遷して創祀、のち四條

ヒロヤス

【廣安村】 熊本縣肥後國上益城郡の西北部。西北隅は熊本市東北隅に僅に接觸し、東は木山町に隣り、北は飽託郡小山戸島村に界す。北半は高距離約五〇米の臺地をなし、南半は平野開け中央を杉堂川西流す。農業を主産とし、米・麥・粟・甘藷等を産し、西瓜の特産物あり。中部に縣道横斷しバスの往來あり。西端より順に東へ、廣崎・古閑・福富・徳領・馬水・安永の六部落あり。西端廣崎、東端安永の頭文字を取りて廣安村と名づけしものといふ。

ヒロヤマ

【廣山】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に排保郡廣山郷あり、その地今の排保郡養田村の邊に當る。
【廣山】 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に英多郡廣井郷あり、廣井は廣山の誤なり。その地いまの英田郡粟廣村の邊に當る。
【廣山】 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に宇佐郡廣山郷あり、その地今の宇佐郡長峯村・天津村の邊に當る。

ヒロヤマタ

【廣山田村】 秋田縣羽後國南秋田郡の南部。秋田市の東南に接し東南及び南は河邊郡に境す。地勢東北部に稍高く西南方に傾斜し、西南部また高きも、中央部は秋田平野に属して平坦なり。大平川は東南境をなしつつ西流す。米・野菜等を産す。當村及び上新城村・外旭川村・秋田市に跨りて旭川鐵山(石

ヒロヤ——ヒロワ

天皇の暦仁元年、出羽國領主大江時廣再興す。伊達氏・上杉氏等の崇敬また厚かりき。例祭、陰曆六月十三日・八月十三日。(八幡神社)大字成島に鎮座。郷社。祭神、磐田別命。創建につきて諸説あれど、大江親秀の創建に係るもの如し。のち伊達氏の崇敬厚く、上杉氏の領土となるや、社領二十石を寄進せられ、上杉氏城下の軍神と仰がる。例祭、陰曆四月十五日・八月十五日。

【廣幡村】 静岡縣駿河國志太郡の東部。北部の岡部町、西南の藤枝町との間に挟まる。西境に僅に第三紀層の丘陵南北に連る外は土地低平にして、大井川下流デルタの北縁に當り、朝比奈川の一支東北部を東南に流れ灌漑の便よく耕地開く。米・麥の外に製糸・製茶の産も多し。縣道は中部をほぼ南北に走り、藤枝町・岡部町に各バスを通ず。社線藤相鐵道の横内・八幡橋・水守の三驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、益頭郡八田郷の地か。大字假名には岡部氏の菩提所萬福寺あり。明治元年、明治天皇、東京行幸の際、八幡神社に御立あらせらる。(青山八幡宮)大字八幡に鎮座。郷社。祭神、玉依姫命・磐田別命・息長足姫命。天正以降、朱印領百七十石五斗を襲領せり。境内には松杉繁茂す。例祭、九月十五日。

【廣幡】 愛知縣額田郡にありし村。明治二十八年町制を布き、大正三年岡崎市に合併さる。
【廣幡村】 岐阜縣美濃國養老郡の東部。高田町の南に接し、西方には南北に連りて聳ゆる養老山脈の諸峰を望み、全村地形低平にして北境には小河東流し、東方約二軒にて排斐川に合す。全村沃野拓けて米産多し。社線參宮急行電鐵養老驛・美濃高田驛(西北一軒倉)に近く自動車の便あり。

ヒロハラ

【廣原村】 宮城縣陸前國加美郡の東北部。中新田町の北に隣り、東北は玉造郡に境す。北境を國見山(六五四米)の連嶺東西に走り、その一山肢西境を劃しつつ南走す。夫等の裾は緩やかに東南の方向に傾斜し、東南部は沖積平地を成す。多田川は西北部山地に發源し村の中部を東南流す。また田川の一支流は同じく西北部山地に發源して南流す。住民は農業を主とし、米を多産する外、蕎麥・麥を出す。また若干の林産あり。縣道中新田町より來り北方玉造郡岩出山町方面に通ず。中新田町には社線仙臺鐵道の鳴瀬川・加美中新田の二驛あり。此地は和名抄、色麻郡相模郡の地にて、大字狼塚に狼塚城あり、里見氏の居城か。

ヒロフチ

【廣淵村】 宮城縣陸前國桃生郡の西部。石巻市の西北約一〇軒。陸前平野の東南部を占め、大谷地低地帯に属し、西部に稍丘陵地ある外概ね平坦なり。米・蕎麥・麥・馬等を産す。石巻街道は村の中部を西北より東南に通じ、西北部(油)あり。重要鐵山にして昭和十年には原油二〇、五八三軒、瀝油一三軒、瓦斯五、三〇九軒を産す。省線奥羽本線秋田驛へは西方約二軒。バスの便あり。もと廣面・松山・柳田の三村なりしが、合併して各々その一字を取りて廣山田村と名づく。

ヒロ

【日和村】 鳥根縣石見國邑智郡の西南部。那賀郡今市村の東北方約八軒にあり。四周山を繞らし、中央に盆地あり。即ち東境には京太郎山(八二七米)、西南境には松原山(日野城山、七一三米)等の山地聳えて略々七〇〇—八〇〇米の山地周圍を連ね、峠或は山嶺を越えて隣村と交通す。中央の小盆地に耕地あり。米・麥を産し、また林産・畜産・工業あり。北隣の川越村に出づれば省線三江線石見川越驛(北方約一・五軒)あり。(千疊溪)指定名勝。本村及び市山村に跨る。一に千丈溪とも記され、江川の支流八戸川に合流する日和川が石英粗面岩を貫穿して長さ五軒に亘る峽谷をなせるものなり。石英粗面岩はその質堅硬、且つ板状及び方狀の節理に富み、これ等の節理に沿つて瀑布の懸るもの多く、瀑下に深潭を湛へ、全溪殆んど瀑布と淵潭との連続より成るをこの溪谷の特色とす。溪中二十四勝と稱するものあり。うち紅葉滝は水量豊富、岩壁奇峭、楓樹滿溪を歴し、白蔦瀧は溪中第一の瀑布にて、幅上部八米、下部二米、直下數十米なり。

ヒロ

【琵琶湖】 滋賀縣にある本邦第一の大湖。古來その形状琵琶に似たるを以て琵琶湖と名づけたりと云ひ、また淡海と呼ばれ今に近江の名を残す。本州島の最狭部に横はり、湖面は海拔八六・三米、湖岸線の延長二三五・二軒にして、面積は内湖を除き六七四・八方軒、東西のシュネーゲ湖より稍大なり。その幅は異なるも平均一〇・八軒、最狭部は東岸の野洲川デルタとその對岸堅田のある眞野川デルタとの間にして七二〇米あり。湖岸線は概して單調なれど、湖首には内陸に深く侵入する瀨谷の灣を有し、また東岸の南部及び西岸の中部に於ては注入河川によ

ヒロミ

方石巻線前谷地驛へはバスの便あり。本村は明治二十九年深谷村を分割し、廣淵沼によりて廣淵村と名づく。
【廣見町】 岐阜縣美濃國可兒郡の北部。木曾川の一支可兒川に沿ひ、久々利・姫兩河は南より合流す。御嵩町の西方約三軒、今渡町の東に接す。東南部に低き丘陵ある外、土地概ね平坦にて水田・桑園開く。米・蕎麥を主産とし製糸業盛なる外、鯉の名産地なり。社線東美鐵道中央を東西に走り、學校前驛(昭和三年設置)・伏見日驛(大正九年設置)、省線太多線廣見驛(大正七年設置)は今渡町に置く。國道は北部を東西に貫通し、交通概して便なり。この地は和名抄、可兒郡大井郷の内なるべく、大正十三年町制を布く。

ヒロミ

【廣見村】 熊本縣肥後國鹿本郡の西北部。山鹿町の北方約六軒にあり、西は玉名郡の東北部に接す。東西兩部は山地にして即ち東部は東境に聳ゆる西岳(六四八米)の傾斜地なり。西部は周圍を山脈にて圍まれ、北境には竹ノ山(三九八米)、西境には三ツ尾山(四〇九米)、南境には彦嶽(三六一米)そびえ、中央に谷をつくる。東・西兩山地の間に菊池川支流南へ貫流し沿岸に低地開く。農業を主産とし、米・麥・粟・蕎麥等を産し、特産物に紙・木炭あり。中央河谷に沿ひて國道通じバス往來す。もと宇生・四丁の二村なりしが、明治二十二年合併して廣見村と名づく。

りて大なるデルタを湖中に向けて突出せしめ、爲に湖岸線に大なる屈曲を生ず。湖中には竹生島・沖之島・多景島・白石等あるも、島嶼面積は全水面の〇・二三%を占むるに過ぎず、最大は沖之島にて周回四軒餘、竹生島は辨財天を以て著はれ、多景島また寺と記念碑とを以て有名なり。琵琶湖は幾多の斷層崖に圍まれたる陥落盆地の底に生ぜしものにて、湖底は西側に急斜し、東側は緩斜す。かく深底部は西岸の比良斷層崖下に迫りて發達するも、湖底は東岸に近き沖之島より北東に向つて湖を斜斷する深度七〇米以淺の淺低區域によりて二分せられ、ここに復成湖盆を形成す。その南方のものは副湖盆にて最深七六米を計り、北部の主湖盆は安曇川の湖底デルタによりて壓縮せられ、その以北に淺窪をつくり、更にその北に偏して九六米の最深點あり。なほ安曇川口の東方、湖心には白石を戴く鐘狀隆起ありその基底は六〇米等深線に圍まれ、其他の島嶼は何れも陸岸に近く、共に緩斜せる東部側壁の上に位す。かくて湖の最深點は二個の斷層線の交叉點にあり、また湖底平原の比較的小さきこと、中央に一大湖増の存在すること等は、湖盆形態の特徴にて、現在の湖盆が壯年期にあることを示す。注入川口附近、特に西岸の瀧流性河川の吐口附近にては砂質の湖底を見、また島地の周圍又は北部斷層谷には岩盤を露出する部分あるも、

ヒロ

ヒワ——ヒワキ

湖底一般、特に深底區域を占むるものは...

に、湖の水は大體湖の長さに沿ひ上流より...

酸性に傾き、冬季環流期に全層が同温となる...

四九三

れ、漁法の種類の多きことも本湖の特異性として...

ヒワキ 樋脇村

鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の南部。川内町の東に接し南は日置郡に界す...

る標野驛のありし地なり。(樋脇温泉) 樋脇驛の東南四軒、山間の平野に涌出...

ヒワサ 日和佐町

徳島縣阿波國海部郡の東部。太平洋に面し、牟岐町の東北方約四軒...

ヒワサ——ヒンコ

ヒワシマ 枇杷島

新潟縣刈羽郡にありし村。昭和三年相崎町に入る。

ヒワタ 日和田町

福島縣岩代國安積郡の東北部。郡山市の北方約五軒。東は阿武隈川を隔て...

ヒンコ 備後

備後國 山陽道八箇國の一。いま福山尾道・三原の三市、及び御調・世羅・深安・沼隈・産品・神石・甲奴・雙三・比婆の九郡に分ち、廣島縣の管下に屬す。

役後徳川氏は毛利氏の地を削り、本國を以て安藝の福島正則に加賜す。元和五年正則罪ありて改易さるるに及び、備後の八郡を割きて同じく廣島の淺野長晟に賜ひ、東部六郡を以てこれを水野勝成に賜ひ、福山に居らしむ。長晟は寛永年間、その子長治を三次に分封せしが久しからずして嗣絶え、宗家に合す。福山はその後松平氏を経て寛永七年阿部正邦が封を受け、十萬石(後十一萬石)を領して明治維新に至る。明治四年七月一般廢藩置縣の際はこの國は福山縣及び廣島縣の治下に入りき。然るに同年十一月福山縣を廢して深津縣を置き、翌五年六月にはこれを備中國小田郡の笠岡に移して小田縣と稱し、更に明治八年十二月にはこれを岡山縣に合併し、ここに備後國の一部は岡山縣の管下となる。明治九年四月に至り備後六郡を廣島縣の所管に移せしを以つて、備後一圓は廣島縣の治下に入る。備後國は永らく十四郡を算せしが、明治三十一年四月尾道市が御調郡の中より獨立し、同年十月深津・安那二郡を併せて深安郡とし、蘆田・品治二郡を合して蘆品郡とし、三次・三笠二郡を合して雙三郡とし、奴可・三上・惠蘇の三郡を合して比婆郡とし、以て今日の如くに九郡となる。大正五年七月、福山市が深安郡の中より獨立し、昭和十一年十一月には三原市が御調郡の内より獨立し、以て今日の形勢となる。

【備後灘】瀬戸内海の一部の稱。備後國の沖を指し、南は備後灘に續き、東は瀨戶諸島・三神を限り、西は藝豫島嶼群に至る。↓瀬戸内海

【備後赤坂】省線山陽本線の一驛(大正五年設置)。廣島縣沼隈郡赤坂村にあり。

【備後落合】省線庄原線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡美古登村にあり。

【備後熊野】省線庄原線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡美古登村にあり。

【備後西城】省線庄原線の一驛(昭和九年設置)。廣島縣比婆郡西城村にあり。

【備後庄原】省線庄原線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡庄原町にあり。

【備後十日市】省線庄原線の一驛(昭和五年設置)にして藝備鐵道の接續點。廣島縣雙三郡十日市町にあり。

【備後三川】省線福鹽線の一驛。廣島縣世羅郡三川村大字伊尾にあり。昭和十三年七月設置。

【備後三日市】省線庄原線の一驛(昭和五年設置)。廣島縣比婆郡山内東村三日市にあり。

【備後安田】省線福鹽北線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣雙三郡吉令町大字安田にあり。

【備後矢野】省線福鹽線の一驛。廣島縣甲奴郡矢野村大字矢多田にあり。昭和十三年七月設置。

【備後八幡】省線三津線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡八幡村にあり。

ヒンネシリ 敏音知 北海道北見國 枝幸郡中頓別村の大字。省線北見線の敏音知驛(大正五年設置)あり。

不許複製



昭和十三年十月十四日印刷
昭和十三年十月十八日初版發行
昭和十四年三月十五日改定第二版發行

〔定價十五圓〕

編輯者 澤田久雄
東京市目黒區中目黒三ノ二九〇

印刷者 君島潔
東京市小石川區久保町一〇八

發行所 日本書房
東京市目黒區中目黒三ノ二九〇
電話東京三一七一〇番
東京大橋一三四二番

印刷 共同印刷株式會社
東京市小石川區久保町一〇八

郵政 村田文泉閣
東京市豊島區目黒區八ノ五六五

日本地名大辭典
第五卷

終

